

# 沼 南 遺 跡

(主)前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

(本文編)

1999

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 沼 南 遺 跡

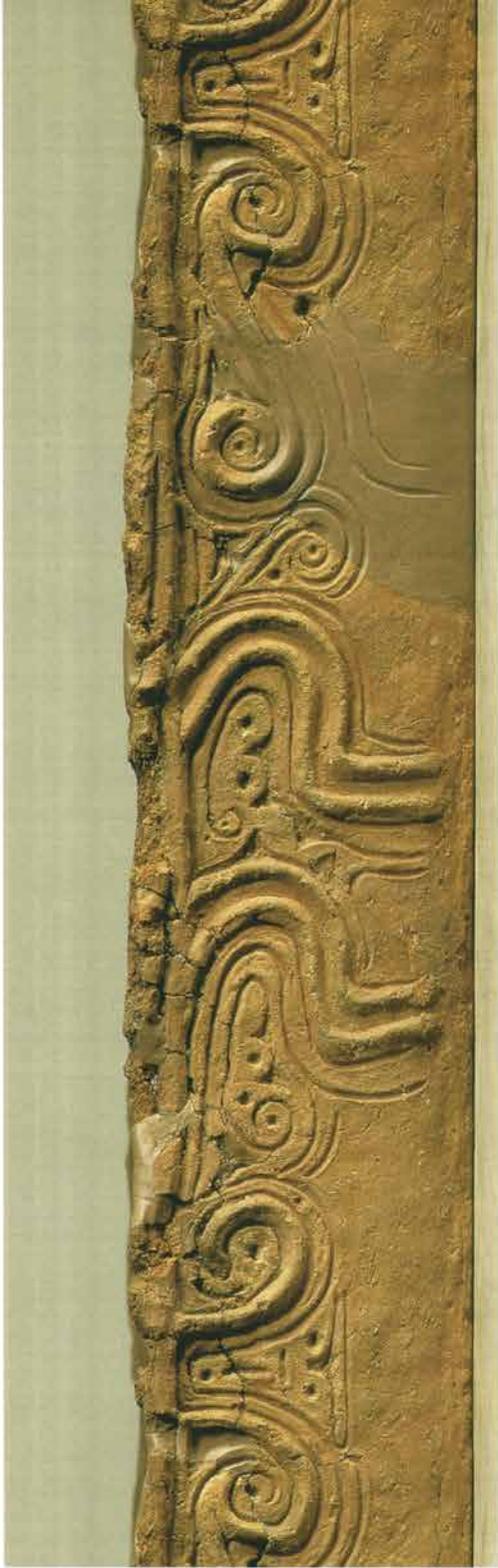
(主)前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

(本文編)

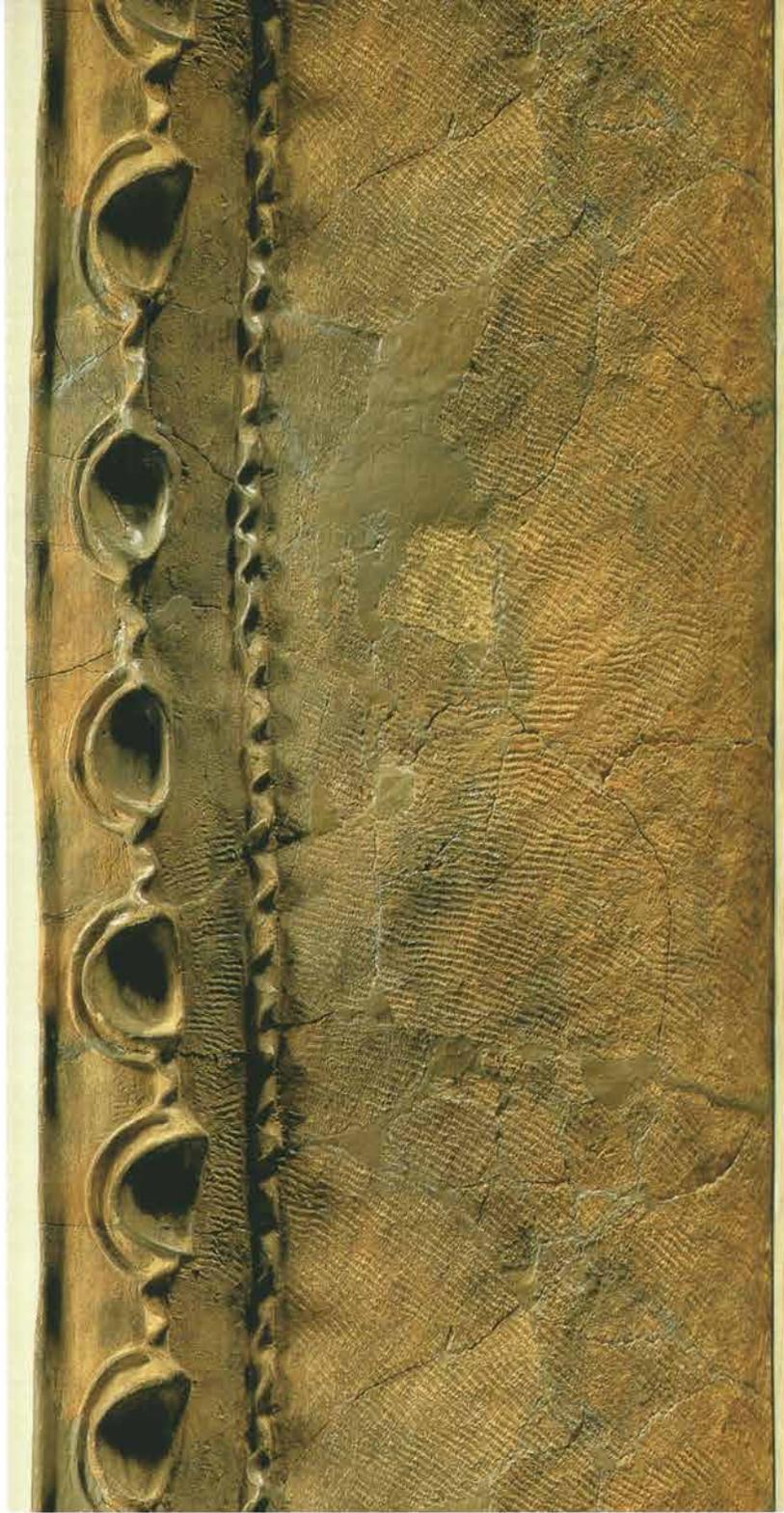
1999

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



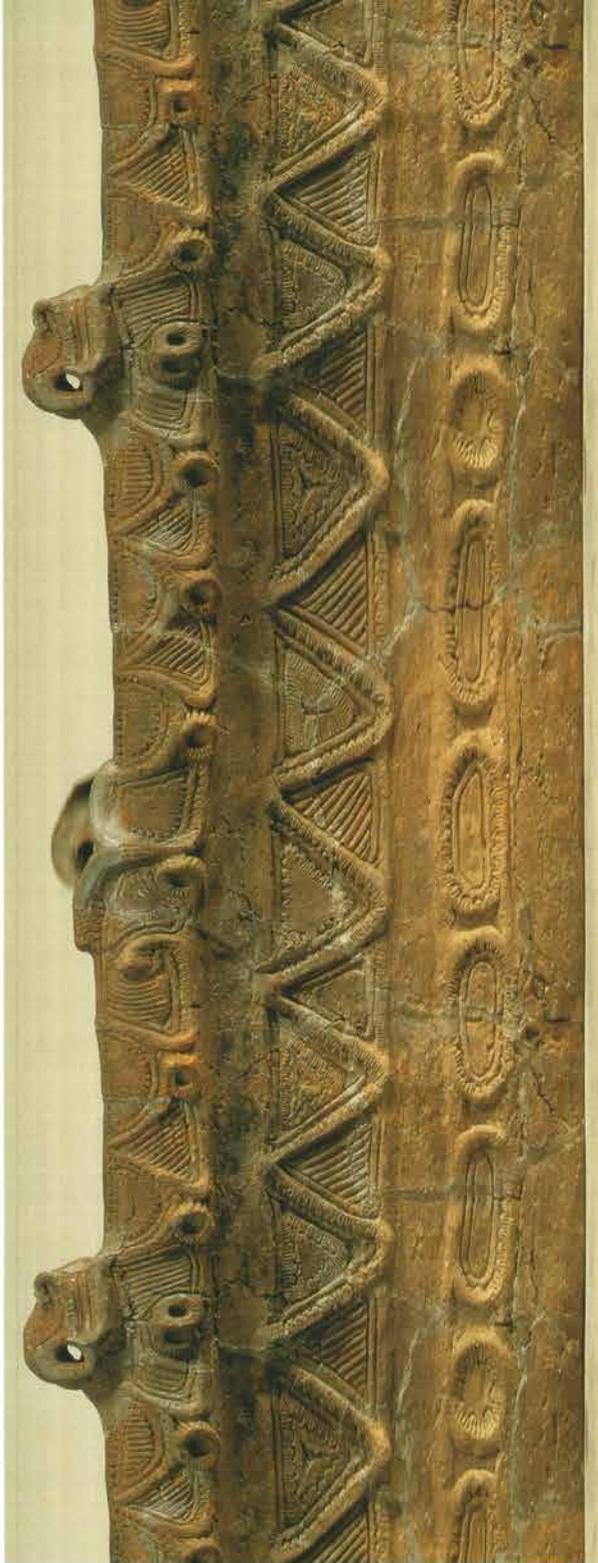


429土坑-1



129土坑-6





203 土坑-1



175 土坑-1





130住-1



280土坑-1



縄文中期土器集合写真

# 序

主要地方道前橋伊香保線道路改良工事は、前橋市高井町と北群馬郡吉岡町大字大久保間の工事が終了、平成11年3月共用開始となり、一般国道17号線の坂東橋の朝夕の交通渋滞の一部解消、沿線市町村の交通等に大いに益しています。

本道路改良工事により、何箇所かの埋蔵文化財の記録保存が対象となりました。その一つである吉岡町大字大久保に所在する沼南遺跡の発掘調査は、群馬県土木部より当事業団に調査の委託がなされ、当事業団では平成8年度に発掘調査を行いました。そして平成9年度より3年計画で報告書刊行のための整理業務を行い、この度それが終了しましたので、ここに「沼南遺跡」の発掘調査報告書を上梓することにしました。

本報告書には、縄文時代中期中葉を中心とした竪穴住居跡43軒、土坑500基とそれにともない出土した多量の土器、石器が報告されています。特に竪穴住居は環状集落となっており、この時期の集落を研究する上で貴重な資料になるものと思います。また10世紀から11世紀にかけての竪穴住居跡68軒も報告されています。

発掘調査から報告書刊行に至るまで群馬県土木部道路建設課、同渋川土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、吉岡町教育委員会、地元関係者等には種々御指導、御協力を賜りました。これら関係者の皆様に衷心より感謝申し上げます。

平成11年12月25日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 小野 宇三郎



## 例 言

1. 本書は、(主)前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書の第1集『沼南遺跡』である。
2. 沼南遺跡は、群馬県北群馬郡吉岡町大字大久保字沼地内に所在する。事業名称は「長久保大畑遺跡」であったが、午王頭川の左岸については吉岡町教育委員会分布調査報告書に基づき『沼南遺跡』に変更した。
3. 発掘調査は群馬県土木部道路建設課・渋川土木事務所の委託により、(勸)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 発掘調査及び整理を実施した年月日は次の通りである。  
発掘調査 平成8年4月1日～平成8年9月30日 整理事業 平成9年4月1日～平成11年12月25日
5. 調査組織は次の通りである。

事務担当	理事長	菅野 清 (平成10・11年度) 小野宇三郎 (平成11年度)
	常務理事	菅野 清 (平成8・9年度) 赤山容造 (平成10・11年度)
	事務局長	原田恒弘 (平成8・9年度) 赤山容造 (平成10・11年度)
	副事務局長	赤山容造 (平成9年度)
	管理部長	蜂巢 実 (平成8年度) 渡辺 健 (平成9・10年度) 住谷 進 (平成11年度)
	調査研究第1部長	赤山容造 (平成8・9・10年度) 神保侑史 (平成11年度)
	総務課長	小淵 淳 (平成8・9年度) 坂本敏夫 (平成10・11年度)
	総務課	笠原秀樹 (平成8～11年度)、國定 均 (平成8年度)、 井上 剛 (平成9年度)、小山建夫 (平成10・11年度)、 宮崎忠司 (平成8～10年度)、須田朋子・吉田有光・ 柳岡良宏 (平成8～11年度)、岡嶋伸昌 (平成9～11年度)、 片岡徳雄 (平成11年度)、大澤友治・吉田恵子 (平成8～11年度)、 菅原淑子・松井美智代・山口陽子 (平成8年度)、内山佳子・若田 誠 (平成8～11年度)、星野美智子・羽鳥京子・(平成8・9年度)、 佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子 (平成9～11年度)、 本地(安藤)友美(平成9・10年度)、松下次男・浅見宜記(平成8～11年度)、 山本正司 (平成8年度)、吉田 茂 (平成8～11年度)
調査担当	調査研究第6課長	右島和夫 (平成8年度)
	調査研究第6課	女屋和志雄 (勸群馬県埋蔵文化財調査事業団 専門員)

		松村和男	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	主任調査研究員)
		池田政志	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	主任調査研究員)
		横山千晶	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	調査研究員)
		内田敬久	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	調査研究員)
整理担当	調査研究第1課長	平野進一	(平成9・10年度)	
	調査研究第1課	松村和男	(平成9・10年度)	
	調査研究第3課長	小山友孝	(平成11年度)	
	調査研究第3課	田村公夫、松村和男	(平成11年度)	
整理嘱託員		坂庭常磐、牛込恵理子		
整理補助員		関 正江、笠井初子、星野春子、本多琴恵、藤井文江、南雲富子、伊東博子、新井千恵子、田子弘子、吉原清乃、小野寺仁子、渡辺八千代、今井サチ子、船津博子、小久保ヒロミ、中野和子、飯野睦美、成富陽子		

6. 本書作成の担当者及び関係者は次の通りである。

編 集	松村和男		
本文執筆	山口逸弘・松村和男		
遺物観察	縄文土器	山口逸弘・松村和男	
	縄文石器	松村和男	
	灰釉陶器	神谷佳明	
	平安時代土器等(灰釉陶器以外)	松村和男	
	平安時代石器・鉄製品	松村和男	
	瓦	木津博明	
遺構写真	女屋和志雄、松村和男、池田政志、横山千晶、内田敬久		
遺物写真	佐藤元彦		
図版作成	坂庭常磐、関 正江、本多琴恵、藤井文江、南雲富子、伊東博子、新井千恵子、中野和子、飯野睦美、成富陽子、長沼久美子、佐藤美代子、岩淵節子、光安文子、小菅優子、富沢スミ江、千代谷和子、株式会社 測研		
保存処理	関 邦一、土橋まり子、小材浩一、高橋初美		
石材同定	飯島静男(群馬地質研究会)		
胎土分析	建石 徹(東京芸術大学)		
地質調査	早田 勉(株式会社 古環境研究所)		

8. 本書の作成にあたり、下記の機関・諸氏より御助言、御協力を得た。記して感謝の意を表したい。

(敬称 略・五十音順)

群馬県(土木部道路建設課)、渋川土木事務所、吉岡町教育委員会、飯島静男、石井 寛、海老原郁雄、江原 英、大工原 豊、川津法伸、鈴木徳雄、早田 勉、瀧野 巧、塚本師也、角田真也、長谷川福次、山本典幸

9. 出土遺物・記録資料は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

10. なお調査にあたって、作業に従事し、また、多くの便宜を図っていただいた発掘作業員及び地元の方々に記して感謝いたします。

# 凡 例

1. 本書の挿図に入れた方位記号は座標北を表す。

2. 本書で使用した地形図は以下の通りである。

国土地理院 2.5万分の1「前橋」「渋川」「伊香保」「下室田」

吉岡町都市計画図 5,000分の1

3. 遺構の記述は、各時代・遺構毎に行った。遺構番号については、平成7年度からの継続番号である調査時の番号をそのまま使用した。

住居跡の記述 位 置 グリッド名で表している。

主軸方位 縄文時代の住居跡の主軸方位は長径方向と座標北との偏角で表した。平安時代のカマドを有するものについては、カマドを通り、両側の壁に平行な軸線を想定して、北または南からの偏角で表している。なお、カマド未検出の場合には北壁方向からの偏角で表している。

重 複 遺構の新旧関係を中心に述べている。

規 模 主軸方向を縦として、それに直交する方向を横として、上端から下端までの長さを1：20の実測図より計測した。深さは遺構確認面からの壁高である。

埋 没 土 主な混入物と、主な土層の色調、土質を中心に記述した。

掘 り 方 いわゆる床下の構造及び床面をつくるための充填土について記述した。

貯蔵穴・周溝・柱穴 それぞれの検出の有無、位置、規模などを中心に記述した。

遺物出土状態 遺物の集中部分や床面からどれくらい浮いているかなどを中心に記述した。

なお、平面図中の遺物番号は土器・石器の番号と一致しており、土器は数字のみで「1」のように、石器は数字の前にSを付けて「S1」、瓦は「瓦1」、鉄器は「鉄1」のように表示した。

炉跡・カマド 一つの遺構として捉え、住居と同じ項目をたてて記述した。

備 考 住居跡に伴うと考えられる遺物及び遺構の新旧関係や遺構の構造等から、総合的にその住居の廃棄年代を推定している。なお、この時の平安時代土器の年代決定は坂口 一氏の年代観(坂口1986)、綿貫邦男氏の年代観、桜岡正信氏の年代観を総合的に検討し、松村が判断した。

土坑・ピット・溝 基本的には住居跡に準ずる項目をたてて記述した。ただし、土坑ピットについては主要なもののみ本文中で取り上げ、それ以外は全体図及び一覧表の中で記述した。それらの主軸方位は長径方向と座標北との偏角で表した。

4. 遺物の記述については、遺物観察表にまとめた。観察基準及び各記号は以下の通りである。

1) 番号は挿図番号に一致する。観察表の番号は遺構毎に、遺物の種類毎に1から付し、平面図中の番号に一致する。

2) 観察表中の( )は現存部分もしくは推定復原の値を表す。

3) 土器観察表中の量目欄の「口・底・高」はそれぞれ口径、底径、器高を表す。石器計測中の「長さ・幅厚さ」はそれぞれの現存部の最大値を表す。なお、大きさの単位はcm、重さはgである。

- 4) 土器観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1991年版『新版標準土色帖』を用いて記載した。
- 5) 土器の焼成は縄文土器の場合にはその硬度を中心に記述し、特に硬質のものは(硬質)と表記した。平安時代の土器については硬度だけでなく、酸化か還元かを重点に記述している。
- 6) 土器に認められる変色部分については焼成時と考えられるものを黒斑・赤斑、その後の使用や塗彩に伴うと考えられるものを黒変・赤変とし、実測図及び模式図(実測図の1/2)にスクリーントーンを用いて表した。縄文時代の土器の断面のスクリーントーンは繊維を、●は赤色塗彩のあるものである。平安時代の須恵器の自然釉や灰釉陶器の灰釉についても実測図に同様に表した。
- 7) 平安時代の土器実測中の→印は砂粒の動いた方向である。石製品の→は工具の動いた方向を示す。
- 8) 石器については敲打範囲は┆┆印で表した。磨滅範囲は線状痕が認められるものについては線で、そうでないものについてはスクリーントーンを用いて示した。なお、使用による磨滅や微細剝離範囲については┆┆印で表した。計測表中の「石剣」は「短剣形石器」の略である。
5. 各図の縮尺については原則的に下記の通りであるが、一部縮尺の異なるものもあるので各図版中にスケールを貼付したので参照されたい。
- 1) 遺構図 住居跡 1:60 カマド・炉跡 1:30 土坑・ピット 主要なもの 1:30 それ以外 1:60  
溝 1:80
- 2) 遺物図 石鏃等小形石器及び鉄器 1:2  
縄文土器 完形品・大形破片等 1:4 同破片 1:3  
大形石器 1:4、1:6、1:8 小形・大形の石器以外 1:3  
甕・羽釜等の大形品 1:4 杯・碗・破片等小形品 1:3
6. テフラについては、記号を用いて記述した。その正式名称と略号及び噴出年代については下記の通りである。(なお、噴出年代については今後変わる可能性がある。)
- As-YP 浅間板鼻黄色軽石 1.3~1.4万年前 As-C 浅間C軽石 4世紀初頭~中頃  
As-B 浅間B軽石 1,108年(天仁元年) Hr-FA 榛名二ツ岳渋川火山灰 6世紀初頭
7. 遺物写真については、原則的には遺物図とほぼ同じ縮尺で掲載したが、石鏃等の小形品については原寸で載せた。

### 使用スクリーントーン例

縄文		平安	
遺構	遺物	遺構	遺物
 炭・灰・炭化物	 ● 赤色塗彩	 炭・灰・炭化物	 黒変
 焼土	 繊維	 粘土	 黒斑・内黒
	 スス・黒変		 灰釉
	 赤変		 緑釉
			 赤変
			 赤斑

# 目 次

## 本文編

序

例言

凡例

I	発掘調査の経過	1
1.	発掘調査に至る経緯	1
2.	発掘調査の方法と経過	1
3.	基本層序	4
4.	遺跡の立地と周辺の遺跡分布	5
II	検出された遺構と遺物	17
1.	縄文時代	17
(1)	遺 構	17
a	住居跡	22
b	土坑・ピット	66
	土層注記	113
(2)	遺 物	135
a	土 器	135
b	石 器	210
2.	弥生時代	291
(1)	遺 構	291
(2)	遺 物	291
3.	古墳時代	291
(1)	遺 構	291
(2)	遺 物	291
4.	平安時代	292
(1)	遺 構	292
a	住居跡	297
b	土坑・ピット	381
(2)	遺 物	388
a	土 器	388
b	瓦	408
c	鉄 器	411
d	石 器	413
5.	近 世	434
(1)	遺 構	434
a	溝	434

III	まとめと考察	437
1.	縄文土器の分布について	437
2.	沼南遺跡縄文時代中期中葉末の土器様相	442
3.	縄文時代の石器組成について	458
4.	縄文時代中期の石器分布について	467
5.	縄文時代の住居跡の平面形態の変遷について	475
6.	縄文時代の集落の変遷について	480
7.	縄文時代中期の集落構造について	498
8.	打製石斧について	535
9.	スクレイパー類と剥片について	553
10.	磨石・敲石・凹石について	560
11.	短剣形石器について	564
12.	石皿について	573
13.	焼石・集石土坑について	576
14.	縄文時代の土坑について	583
15.	土器に認められる変色部分について	586
16.	平安時代の集落変遷について	595
17.	平安時代の土坑について	611
18.	鉄器について	614
	引用参考文献	615
IV	自然科学分析	617
1.	沼南遺跡の地質調査	617
2.	沼南遺跡出土縄文土器の胎土分析	619

### 観察表編

縄文時代土坑一覧表	1
ピット一覧表	14
土器観察表	24
石器計測表	120
平安時代土坑一覧表	131
ピット一覧表	133
土器観察表	135
石器計測表	153
瓦観察表	154
鉄器観察表	155

### 写真図版編

# 挿図目次

第 1 図	調査区位置図	2	第 49 図	124号住居跡	57
第 2 図	トレンチ設定図	3	第 50 図	125号住居跡	58
第 3 図	基本層序	4	第 51 図	126号住居跡	59
第 4 図	関東地方の主たる山川と遺跡位置図	9	第 52 図	127号住居跡	60
第 5 図	群馬県内の主たる山川と遺跡位置図	9	第 53 図	128号住居跡	61
第 6 図	吉岡町とその周辺の地形図	9	第 54 図	129号住居跡	62
第 7 図	榛名山東南麓地形図	10	第 55 図	130号住居跡	63
第 8 図	榛名山東南麓遺跡分布図	11	第 56 図	131号住居跡	64
第 9 図	榛名山東南麓遺跡分布図(縄文時代)	12	第 57 図	132号住居跡	65
第 10 図	榛名山東南麓遺跡分布図(弥生時代)	13	第 58 図	縄文時代土坑分類模式図	67
第 11 図	榛名山東南麓遺跡分布図(古墳時代)	14	第 59 図	87・88・99・102号土坑	92
第 12 図	榛名山東南麓遺跡分布図(奈良・平安時代)	15	第 60 図	121・181・182・184・186号土坑	93
第 13 図	榛名山東南麓遺跡分布図(中・近世)	16	第 61 図	445・446号土坑	94
第 14 図	縄文時代遺構配置図	18	第 62 図	103・106・161・162・175・355号土坑	95
第 15 図	縄文時代遺構全体図(1)	19	第 63 図	280・296・319・374・375号土坑	96
第 16 図	縄文時代遺構全体図(2)	20	第 64 図	84・89~92・94~96・98・100・101・ 104・105・108・109・137~139号土坑	97
第 17 図	縄文時代遺構全体図(3)	21	第 65 図	110~114・116~120・122号土坑	98
第 18 図	90号住居跡 炉跡	22	第 66 図	115・124~130・135・176・177・299・ 334~336・341・342・413号土坑	99
第 19 図	91号住居跡	23	第 67 図	131~134・140~149・151・159号土坑	100
第 20 図	92号住居跡	24	第 68 図	150・152~158・160・163~171・274号土坑	101
第 21 図	93号住居跡	25	第 69 図	172~174・178~180・185・187~199号土坑	102
第 22 図	94号住居跡	26	第 70 図	200~216号土坑	103
第 23 図	95号住居跡	26	第 71 図	217~222・226~229・232・234・235・ 237・238・240・241・243~245・378号土坑	104
第 24 図	96号住居跡	27	第 72 図	107・246~258・260~269号土坑	105
第 25 図	97号住居跡	29	第 73 図	270~273・275~278・284・ 305~309・313・314・345号土坑	106
第 26 図	98号住居跡	30	第 74 図	279・281・282・285~291・293・294・ 297・298・300~304・310・433号土坑	107
第 27 図	99号住居跡	31	第 75 図	311・312・315~318・320~330・368号土坑	108
第 28 図	100号住居跡	32	第 76 図	331~333・337~339・344・346~348・350・ 351・354・356~360・366・367・420号土坑	109
第 29 図	101号住居跡	33	第 77 図	369・370・372・373・376・377・ 379~385・389・390・392・394・395・ 397・398・400・401号土坑	110
第 30 図	102号住居跡	34	第 78 図	402~404・406・408~410・412・416~419・ 421・424・425・428~432・444号土坑	111
第 31 図	103号住居跡	35	第 79 図	172・233号ピット	112
第 32 図	104号住居跡	37	第 80 図	92号住居跡出土土器	136
第 33 図	105号住居跡	39	第 81 図	92・94・95・99号住居跡出土土器	137
第 34 図	106・107号住居跡	40	第 82 図	104号住居跡出土土器	138
第 35 図	108号住居跡	42	第 83 図	105号住居跡出土土器(1)	139
第 36 図	109号住居跡	43	第 84 図	105号住居跡出土土器(2)	140
第 37 図	110号住居跡	45	第 85 図	107・108・109号住居跡出土土器	141
第 38 図	111号住居跡	46	第 86 図	109・111・116号住居跡出土土器	142
第 39 図	112号住居跡	47	第 87 図	121・122・129号住居跡出土土器	143
第 40 図	113号住居跡	48			
第 41 図	114号住居跡	49			
第 42 図	115・117号住居跡	50			
第 43 図	116号住居跡	51			
第 44 図	118号住居跡	52			
第 45 図	119号住居跡	53			
第 46 図	120・122号住居跡	55			
第 47 図	121号住居跡	56			
第 48 図	123号住居跡	56			

第88図	129号住居跡出土土器	144	第132図	281・282・283・284・285号土坑出土土器	187
第89図	130号住居跡出土土器	145	第133図	287～289・299～301・303・304号土坑出土土器	188
第90図	103号土坑出土土器	146	第134図	304・305・307・309・315～318・ 320・321・324・326号土坑出土土器	189
第91図	101・109・111・113・117・122・126・127・ 131・144号土坑出土土器	147	第135図	326・327・333・336・337・340・349・ 350・351・355・357～359・361・364・ 365・371号土坑出土土器	190
第92図	140・143号土坑出土土器	148	第136図	370・374・378・386・400・402・408・ 409号土坑出土土器	191
第93図	161号土坑出土土器	149	第137図	410・418～431・445号土坑出土土器	192
第94図	168・175・177・178・183・192・217号土坑 出土土器	150	第138図	ピット出土土器	193
第95図	201・237・266・272・281号土坑出土土器	151	第139図	撚糸文土器・土製円板	194
第96図	203号土坑出土土器	152	第140図	縄文前期グリッド出土土器(1)	195
第97図	280・296号土坑出土土器	153	第141図	縄文前期グリッド出土土器(2)	196
第98図	279・284・285・297・303・305号土坑出土土器	154	第142図	縄文前期グリッド出土土器(3)	197
第99図	319・320・326・340号土坑出土土器	155	第143図	縄文前期グリッド出土土器(4)	198
第100図	350・355・420号土坑出土土器	156	第144図	縄文前期グリッド出土土器(5)	199
第101図	374・425・429・446号土坑出土土器	157	第145図	縄文中期グリッド出土土器(1)	200
第102図	172・233号ピット出土土器	158	第146図	縄文中期グリッド出土土器(2)	201
第103図	233号ピット出土土器	159	第147図	縄文中期グリッド出土土器(3)	202
第104図	グリッド出土土器(1)	160	第148図	縄文中期グリッド出土土器(4)	203
第105図	グリッド出土土器(2)	161	第149図	縄文中期グリッド出土土器(5)	204
第106図	グリッド出土土器(3)	162	第150図	縄文中期グリッド出土土器(6)	205
第107図	グリッド出土土器(4)	163	第151図	縄文中期グリッド出土土器(7)	206
第108図	グリッド出土土器(5)	164	第152図	縄文後期・晩期グリッド出土土器	207
第109図	グリッド出土土器(6)	165	第153図	遺構外出土土器(1)	208
第110図	遺構外出土土器	165	第154図	遺構外出土土器(2)	209
第111図	90・91・92号住居跡出土土器	166	第155図	90・91号住居跡出土土器	210
第112図	92・93・94・95・96号住居跡出土土器	167	第156図	92号住居跡出土土器(1)	211
第113図	102・104号住居跡出土土器	168	第157図	92号住居跡出土土器(2)	212
第114図	104・105号住居跡出土土器	169	第158図	92号住居跡出土土器(3)	213
第115図	105・106号住居跡出土土器	170	第159図	92号住居跡出土土器(4)	214
第116図	106・107号住居跡出土土器	171	第160図	93号住居跡出土土器	215
第117図	107・108号住居跡出土土器	172	第161図	94・95・102・104号住居跡出土土器	216
第118図	108号住居跡出土土器(1)	173	第162図	104号住居跡出土土器(1)	217
第119図	108号住居跡出土土器(2)	174	第163図	104号住居跡出土土器(2)	218
第120図	109号住居跡出土土器	175	第164図	104号住居跡出土土器(3)	219
第121図	111・112・114号住居跡出土土器	176	第165図	104号住居跡出土土器(4)	220
第122図	116・119号住居跡出土土器	177	第166図	104・105号住居跡出土土器	221
第123図	120・121号住居跡出土土器	178	第167図	105号住居跡出土土器(1)	222
第124図	122・123・128・129号住居跡出土土器	179	第168図	105号住居跡出土土器(2)	223
第125図	129・130号住居跡出土土器	180	第169図	105号住居跡出土土器(3)	224
第126図	88・94・95・99～102・105・106号土坑出土土器	181	第170図	105・106号住居跡出土土器	225
第127図	108～111・113～115号土坑出土土器	182	第171図	106号住居跡出土土器(1)	226
第128図	116～118・120～122・124～126号土坑出土土器	183	第172図	106号住居跡出土土器(2)	227
第129図	129・131・135・140・151・158・159・ 161～163・165・166・168・175・177・ 178号土坑出土土器	184	第173図	107号住居跡出土土器	228
第130図	178・179・181・182・185・186・189・ 217・219・222・237・238・240・265・ 266号土坑出土土器	185	第174図	107・108号住居跡出土土器	229
第131図	265・267・268・270・272・276・277・ 279・281・296号土坑出土土器	186	第175図	108号住居跡出土土器(1)	230
			第176図	108号住居跡出土土器(2)	231
			第177図	108号住居跡出土土器(3)	232
			第178図	108・109号住居跡出土土器	233

第179図	109号住居跡出土石器(1) ……………	234	第229図	グリッド出土石器(4)……………	284
第180図	109号住居跡出土石器(2) ……………	235	第230図	グリッド出土石器(5)……………	285
第181図	109・110号住居跡出土石器……………	236	第231図	グリッド出土石器(6)……………	286
第182図	111・112号住居跡出土石器……………	237	第232図	グリッド出土石器(7)……………	287
第183図	113・114・115号住居跡出土石器 ……	238	第233図	グリッド出土石器(8)……………	288
第184図	116号住居跡出土石器 ……………	239	第234図	グリッド出土石器(9)……………	289
第185図	116・119・120号住居跡出土石器 ……	240	第235図	遺構外出土石器……………	290
第186図	120号住居跡出土石器 ……………	241	第236図	弥生時代磨製石鏃……………	291
第187図	121・122号住居跡出土石器……………	242	第237図	平安時代遺構配置図……………	293
第188図	122・128・129号住居跡出土石器 ……	243	第238図	平安時代遺構全体図(1)……………	294
第189図	129号住居跡出土石器 ……………	244	第239図	平安時代遺構全体図(2)……………	295
第190図	129・130号住居跡出土石器……………	245	第240図	平安時代遺構全体図(3)……………	296
第191図	131号住居跡内399号土坑出土石器……………	246	第241図	22号住居跡・カマド……………	330
第192図	87・89・94・100～102号土坑出土石器……………	247	第242図	23・24・75・85号住居跡・カマド……………	331
第193図	103・105号土坑出土石器……………	248	第243図	24・75・85号住居跡カマド……………	332
第194図	105・106・109・110号土坑出土石器……………	249	第244図	25・26号住居跡……………	333
第195図	110号土坑出土石器 ……………	250	第245図	27号住居跡・カマド……………	334
第196図	110・111・112・113号土坑出土石器……………	251	第246図	28・29号住居跡・カマド……………	335
第197図	113・114・115号土坑出土石器 ……	252	第247図	30・31号住居跡……………	336
第198図	115・116号土坑出土石器……………	253	第248図	31号住居跡カマド……………	337
第199図	116・117号土坑出土石器……………	254	第249図	32号住居跡・カマド……………	337
第200図	118・119・120・121号土坑出土石器……………	255	第250図	33・34号住居跡・カマド……………	338
第201図	122・124・126・129号土坑出土石器……………	256	第251図	34号住居跡カマド……………	339
第202図	131・135・139号土坑出土石器 ……	257	第252図	35・36号住居跡……………	339
第203図	140・141・143・144・146・153号土坑出土石器……………	258	第253図	37・38号住居跡・カマド……………	340
第204図	158・159・175号土坑出土石器 ……	259	第254図	39・40号住居跡……………	341
第205図	177・178・181・184・185号土坑出土石器 ……	260	第255図	39・40号住居跡カマド……………	342
第206図	186・187・188・189号土坑出土石器……………	261	第256図	41号住居跡……………	343
第207図	189・192・197・203・216号土坑出土石器 ……	262	第257図	42号住居跡……………	343
第208図	218・221・234・237号土坑出土石器……………	263	第258図	42号住居跡カマド……………	344
第209図	240・248・256・265号土坑出土石器……………	264	第259図	43号住居跡……………	344
第210図	267・270・271・272・296号土坑出土石器 ……	265	第260図	44号住居跡……………	345
第211図	296号土坑出土石器 ……………	266	第261図	45・46号住居跡……………	345
第212図	276・279・280・281・282号土坑出土石器 ……	267	第262図	45・46号住居跡カマド……………	346
第213図	283・284・288・292・298号土坑出土石器 ……	268	第263図	47号住居跡・カマド……………	347
第214図	299・301・302・304号土坑出土石器……………	269	第264図	48号住居跡・カマド……………	348
第215図	304・309号土坑出土石器……………	270	第265図	49号住居跡・カマド……………	349
第216図	311・315～319号土坑出土石器 ……	271	第266図	50号住居跡・カマド……………	350
第217図	323・324・326～328号土坑出土石器……………	272	第267図	51・52号住居跡……………	351
第218図	335～337・340・344号土坑出土石器……………	273	第268図	51・52号住居跡カマド……………	352
第219図	348・350・355号土坑出土石器 ……	274	第269図	53号住居跡・カマド……………	353
第220図	357・361・364～366・370・371号土坑出土石器……………	275	第270図	54号住居跡・カマド……………	354
第221図	373～375・378・382号土坑出土石器……………	276	第271図	55号住居跡……………	354
第222図	385～387・402・406・408号土坑出土石器 ……	277	第272図	55号住居跡カマド……………	355
第223図	409・418・419・421号土坑出土石器……………	278	第273図	56号住居跡・カマド……………	355
第224図	429・430・431・434・435号土坑・ ピット出土石器……………	279	第274図	57・58号住居跡……………	356
第225図	ピット出土石器……………	280	第275図	57・58号住居跡・カマド……………	357
第226図	グリッド出土石器(1)……………	281	第276図	57号住居跡カマド……………	358
第227図	グリッド出土石器(2)……………	282	第277図	59・60号住居跡……………	359
第228図	グリッド出土石器(3)……………	283	第278図	59号住居跡カマド……………	360
			第279図	61号住居跡・カマド……………	361

第280図	62号住居跡・カマド	362	第331図	74・77号住居跡出土土器	405
第281図	63号住居跡・カマド	363	第332図	78・79・80号住居跡出土土器	406
第282図	64号住居跡・カマド	364	第333図	82・84・85・87・88・89号住居跡出土土器	407
第283図	65号住居跡	365	第334図	39・41・65・70号土坑・石組み溝・表探出土土器	407
第284図	66号住居跡	365	第335図	22・34・46号住居跡出土瓦	408
第285図	66号住居跡カマド	366	第336図	47・53・80号住居跡出土瓦	409
第286図	67号住居跡・カマド	367	第337図	80号住居跡出土瓦	410
第287図	68号住居跡・カマド	368	第338図	23・28・30・32・35・40・42・47・ 51～53・55・56号住居跡出土鉄器	411
第288図	69号住居跡・カマド	369	第339図	57・58・62・64・67・68・80号住居跡・ グリッド出土鉄器	412
第289図	70号住居跡・カマド	370	第340図	22・25号住居跡出土土器	413
第290図	71・72号住居跡	370	第341図	25号住居跡出土土器(1)	414
第291図	71・72号住居跡掘り方	371	第342図	25号住居跡出土土器(2)	415
第292図	73号住居跡	371	第343図	26・32・34号住居跡出土土器	416
第293図	73号住居跡・カマド	372	第344図	42号住居跡出土土器	417
第294図	74号住居跡・カマド	373	第345図-1	47号住居跡出土土器	418
第295図	76号住居跡	374	第345図-2	47号住居跡出土土器	419
第296図	77号住居跡・カマド	375	第346図	48・49号住居跡出土土器	420
第297図	78号住居跡・カマド	375	第347図	52・57号住居跡出土土器	421
第298図	79号住居跡・カマド	375	第348図	57号住居跡出土土器	422
第299図	80号住居跡・カマド	376	第349図	59号住居跡出土土器(1)	423
第300図	81号住居跡・カマド	377	第350図	59号住居跡出土土器(2)	424
第301図	82号住居跡	377	第351図	59号住居跡出土土器(3)	425
第302図	82号住居跡カマド	378	第352図	61号住居跡出土土器(1)	426
第303図	83号住居跡	378	第353図	61号住居跡出土土器(2)	427
第304図	84号住居跡・カマド	378	第354図	61・62・66号住居跡出土土器	428
第305図	86号住居跡・カマド	379	第355図	69・72・74号住居跡出土土器	429
第306図	87号住居跡	380	第356図	74・77号住居跡出土土器	430
第307図	88号住居跡	380	第357図	80号住居跡出土土器	431
第308図	89号住居跡・カマド	380	第358図	80・87号住居跡出土土器	432
第309図	平安時代の土坑分類模式図	381	第359図	87号住居跡出土土器	433
第310図	35～38・40～47号土坑	384	第360図	石組み溝平面・掘り方	435
第311図	48・49・51～61・63・64号土坑	385	第361図	石組み溝断面・エレベーション図	436
第312図	62・65～77号土坑	386	第362図	縄文時代遺構配置図	439
第313図	78～83・85・86号土坑	387	第363図	縄文土器グリッド別分布図(前期)	439
第314図	22・24号住居跡出土土器	388	第364図	縄文土器グリッド別分布図(中期・後晩期)	440
第315図	25・26・27号住居跡出土土器	389	第365図	縄文土器グリッド別分布図(捺糸文・土製円板)	441
第316図	28・29・30・31号住居跡出土土器	390	第366図	沼南遺跡出土中期中葉末土器群(1) (上段第1段階 下段第2段階)	444
第317図	32・33・34号住居跡出土土器	317	第367図	沼南遺跡出土中期中葉末土器群(2) (第2段階)	446
第318図	35・37・38・39・40・41・42号住居跡出土土器	392	第368図	県内の中期中葉末土器組成(県中央部1)	448
第319図	43・44・45・46号住居跡出土土器	393	第369図	県内の中期中葉末土器組成(県中央部2)	449
第320図	46・47・48号住居跡出土土器	394	第370図	県内の中期中葉末土器組成(県中央部3)	450
第321図	49・50・51号住居跡出土土器	395	第371図	県内の中期中葉末土器組成(県東部)	451
第322図	51・52号住居跡出土土器	396	第372図	県内の中期中葉末土器組成(県北部)	452
第323図	53・54・55・56・57号住居跡出土土器	397	第373図	県内の中期中葉末土器組成(県西部)	454
第324図	57・58号住居跡出土土器	398	第374図	県内の中期中葉末土器組成(県南西部)	455
第325図	58・59号住居跡出土土器	399	第375図	住居跡出土土器器種別百分率(1)	463
第326図	60・61号住居跡出土土器	400	第376図	住居跡出土土器器種別百分率(2)	464
第327図	62・63・64号住居跡出土土器	401			
第328図	66・67号住居跡出土土器	402			
第329図	68・69・70号住居跡出土土器	403			
第330図	71・72・73号住居跡出土土器	404			

第377図	縄文中期遺跡出土石器器種別百分率 (剥片・石核含む) ……………	465	第424図	群馬県房谷戸遺跡全体図……………	522
第378図	縄文中期遺跡出土石器器種別百分率 (剥片・石核除く) ……………	465	第425図	群馬県国分僧寺・尼寺中間地域遺跡全体図……………	522
第379図	遺構別出土石器百分率……………	466	第426図	群馬県大平台遺跡全体図……………	523
第380図	縄文石器グリッド別分布図(全体) ……………	469	第427図	群馬県下海老遺跡全体図……………	523
第381図	縄文石器グリッド別分布図(打製石斧) ……………	469	第428図	群馬県道訓前遺跡全体図……………	524
第382図	縄文石器グリッド別分布図 (磨製石斧・スクレイパー類) ……………	470	第429図	群馬県砂押遺跡全体図……………	524
第383図	縄文石器グリッド別分布図(石鏃・石錐) ……………	471	第430図	福島県法正尻遺跡全体図……………	525
第384図	縄文時代グリッド別分布図 (磨石・敲石・凹石 石皿) ……………	472	第431図	三原田遺跡住居跡型式別分布図……………	526
第385図	縄文石器グリッド別分布図(短剣形石器・剥片) ……………	473	第432図	古井戸・将監塚遺跡Ⅰ・Ⅱ期の住居跡分布図……………	527
第386図	縄文石器グリッド別分布図(石核・その他) ……………	474	第433図	古井戸・将監塚遺跡Ⅲ期の住居跡分布図……………	528
第387図	縄文時代住居跡の模式図……………	477	第434図	古井戸・将監塚遺跡Ⅳ期の住居跡分布図……………	529
第388図	縄文時代住居跡法量相関図・数量図……………	478	第435図	古井戸・将監塚遺跡Ⅴ期の住居跡分布図……………	530
第389図	縄文時代住居跡時期別図……………	479	第436図	古井戸・将監塚遺跡Ⅵ・Ⅶ期の住居跡分布図……………	531
第390図	縄文時代遺構配置図……………	481	第437図	国分僧寺・尼寺中間地域遺跡遺構分布変遷図……………	532
第391図	縄文時代住居跡配置図……………	481	第438図	大平台遺跡時期別住居跡分布図(1)……………	533
第392図	縄文時代時期別住居跡配置図……………	482	第439図	大平台遺跡時期別住居跡分布図(2)……………	534
第393図	縄文前期土器出土位置図……………	483	第440図	打製石斧欠損部位方向百分率……………	542
第394図	縄文中期土器出土位置図……………	484	第441図	打製石斧法量・数量相関図……………	543
第395図	縄文時代遺構別組成図1(中期住居跡) ……………	485	第442図	打製石斧集成図(1)……………	544
第396図	縄文時代遺構別組成図2(中期住居跡) ……………	486	第443図	打製石斧集成図(2)……………	545
第397図	縄文時代遺構別組成図3(中期住居跡) ……………	487	第444図	打製石斧集成図(3)……………	546
第398図	縄文時代遺構別組成図4(中期住居跡) ……………	488	第445図	打製石斧集成図(4)……………	547
第399図	縄文時代遺構別組成図5(中期住居跡) ……………	489	第446図	打製石斧集成図(5)……………	548
第400図	縄文時代遺構別組成図6(中期住居跡) ……………	490	第447図	打製石斧集成図(6)……………	549
第401図	縄文時代遺構別組成図7(中期住居跡) ……………	491	第448図	打製石斧集成図(7)……………	550
第402図	縄文時代遺構別組成図8(中期住居跡) ……………	492	第449図	打製石斧集成図(8)……………	551
第403図	縄文時代遺構別組成図9(前期・後期) ……………	493	第450図	打製・磨製石斧集成図(9)……………	552
第404図	縄文時代遺構別組成図10(中期土坑) ……………	494	第451図	スクレイパー類法量グラフ(長さと数量) ……………	555
第405図	縄文時代遺構別組成図11(中期土坑) ……………	495	第452図	スクレイパー類法量グラフ(幅と数量) ……………	555
第406図	縄文時代遺構別組成図12(中期土坑) ……………	496	第453図	スクレイパー類長さ・幅・厚さ相関図……………	556
第407図	縄文時代遺構別組成図13(中期土坑) ……………	497	第454図	スクレイパー類法量グラフ(重さと数量) ……………	556
第408図	縄文時代集落構造模式図……………	511	第455図	スクレイパー類長さ・幅相関図……………	557
第409図	縄文時代遺構配置図……………	511	第456図	剥片法量グラフ(幅と数量) ……………	558
第410図	縄文時代住居跡柱穴及び入口方向推定図……………	511	第457図	剥片法量グラフ(重さと数量) ……………	558
第411図	縄文中期環状土坑群(1～3) ……………	512	第458図	剥片法量グラフ(長さ・数量) ……………	559
第412図	縄文中期環状土坑群(4～7) ……………	513	第459図	剥片幅と厚さ相関図……………	559
第413図	縄文中期環状土坑群(8・9) ……………	514	第460図	剥片長さ・厚さ相関図……………	559
第414図	縄文中期環状土坑群(9・10) ……………	515	第461図	剥片長さ・幅相関図……………	560
第415図	岩手県西田遺跡全体図……………	516	第462図	磨石・敲石・凹石法量グラフ(幅と数量) ……………	561
第416図	群馬県鼻毛石中山遺跡全体図……………	516	第463図	磨石・敲石・凹石法量グラフ (長さ・数量・重さと数量) ……………	562
第417図	群馬県三原田遺跡全体図……………	517	第464図	磨石・敲石・凹石法量相関図……………	563
第418図	埼玉県古井戸遺跡全体図……………	518	第465図	縄文中期短剣形石器出土例……………	567
第419図	埼玉県将監塚遺跡全体図……………	519	第466図	沼南遺跡出土短剣形石器等集成図(1)……………	568
第420図	埼玉県北塚屋遺跡全体図……………	520	第467図	沼南遺跡出土短剣形石器等集成図(2)……………	569
第421図	群馬県行幸田山遺跡全体図……………	520	第468図	沼南遺跡出土短剣形石器等集成図(3)……………	570
第422図	埼玉県台耕地遺跡全体図……………	521	第469図	短剣形石器数量・相関図……………	571
第423図	長野県川原田遺跡全体図……………	521	第470図	短剣形石器欠損部位方向百分率……………	572
			第471図	縄文石皿等実測図(1)……………	574
			第472図	縄文石皿等実測図(2)……………	575
			第473図	焼石・集石土坑分類……………	578

第474図	焼石・集石土坑の復元模式図(1)……………	579	第490図	平安時代住居跡時期別区分表 3 (10世紀後半) ……	601
第475図	焼石・集石土坑の復元模式図(2)……………	580	第491図	平安時代住居跡時期別区分表 4 (10世紀後半) ……	602
第476図	焼石・集石土坑の復元模式図(3)……………	581	第492図	平安時代住居跡時期別区分表 5 (10世紀後半) ……	603
第477図	焼石・集石土坑の復元模式図(4)……………	582	第493図	平安時代住居跡時期別区分表 6 (10世紀後半) ……	604
第478図	縄文土坑遺物出土位置・出土遺物組成パターン……………	585	第494図	平安時代住居跡時期別区分表 7 (10世紀後半) ……	605
第479図	平安時代の土器に認められる変色部分……………	591	第495図	平安時代住居跡時期別区分表 8 (10世紀後半) ……	606
第480図	甕の変色部分と使用復原例……………	592	第496図	平安時代住居跡時期別区分表 9 (11世紀代) ……	607
第481図	縄文土器に認められる変色部分……………	593	第497図	平安時代住居跡時期別区分表10 (11世紀代) ……	608
第482図	縄文土器の変色部分から復原した使用方法……………	593	第498図	平安時代住居跡時期別区分表11 (11世紀代) ……	609
第483図	縄文土器に認められる変色部分……………	594	第499図	平安時代住居跡時期別区分表12 (11世紀代) ……	610
第484図	平安時代遺構配置図……………	596	第500図	上野国の古代墓制変遷関係図……………	612
第485図	平安時代住居跡配置図……………	596	第501図	群馬県内平安時代土壌墓 1 ……	612
第486図	平安時代住居跡配置図……………	597	第502図	群馬県内平安時代土壌墓 2 ……	613
第487図	平安時代住居跡法量グラフ (長さ、幅、深さ、数量相関図) ……	598	第503図	沼南遺跡の地質柱状図……………	618
第488図	平安時代住居跡時期別区分表 1 (10世紀前半) ……	599	第504図	胎土分析資料(1)……………	620
第489図	平安時代住居跡時期別区分表 2 (10世紀後半) ……	600	第505図	胎土分析資料(2)……………	621
			第506図	沼南遺跡出土縄文土器胎土 Si-Fe 比 ……	623

# 写真図版目次

- PL1 遺跡遠景（南より）
- PL2 1. 調査区全景（北より）  
2. 調査区北側（西より）
- PL3 1. 91号住居跡南北セクション（東より）  
2. 91号住居跡炉跡全景（北西より）  
3. 90号住居跡炉跡全景（西より）  
4. 95号住居跡遺物出土状況（南東より）  
5. 93号住居跡全景（南より）  
6. 93号住居跡炉跡全景（西より）  
7. 94号住居跡全景（西より）  
8. 94号住居跡柱穴（西より）
- PL4 1. 92号住居跡遺物出土状況（北東より）  
2. 92号住居跡南北セクション（西より）  
3. 92号住居跡遺物出土状況（東より）  
4. 92号住居跡遺物出土状況近撮（南東より）  
5. 92号住居跡掘り方全景（北西より）
- PL5 1. 96号住居跡1・2号炉跡全景（北東より）  
2. 97号住居跡全景（北西より）  
3. 98号住居跡全景（北より）  
4. 99号住居跡全景（南より）  
5. 100号住居跡全景（南より）  
6. 101号住居跡全景（南より）  
7. 102号住居跡全景（南より）  
8. 110号住居跡全景（東より）
- PL6 1. 104号住居跡全景（西より）  
2. 104号住居跡遺物出土状況（西より）  
3. 104号住居跡遺物出土状況（南より）  
4. 104号住居跡遺物出土状況（東より）  
5. 104号住居跡炉跡全景（東より）
- PL7 1. 105号住居跡全景（北より）  
2. 105号住居跡遺物出土状況（北西より）  
3. 105号住居跡遺物出土状況（北より）  
4. 105号住居跡炉跡全景（北より）  
5. 105号住居跡炉跡掘り方全景（東より）
- PL8 1. 107号住居跡全景（東より）  
2. 107号住居跡遺物出土状況（東より）  
3. 107号住居跡遺物出土状況（東より）  
4. 107号住居跡遺物出土状況（南西より）  
5. 107号住居跡遺物出土状況（南西より）
- PL9 1. 108号住居跡全景（北より）  
2. 108号住居跡遺物出土状況（東より）  
3. 108号住居跡遺物出土状況（南より）  
4. 108号住居跡入口施設（北より）  
5. 108号住居跡炉跡全景（東より）
- PL10 1. 109号住居跡全景（南より）  
2. 109号住居跡南北セクション（西より）  
3. 109号住居跡東西セクション（南より）  
4. 109号住居跡炉跡全景（南より）  
5. 109号住居跡炉跡掘り方全景（東より）
- PL11 1. 103号住居跡全景（東より）  
2. 103号住居跡炉跡全景（東より）  
3. 106号住居跡遺物出土状況（北より）  
4. 106号住居跡掘り方全景（北より）  
5. 112号住居跡全景（東より）  
6. 113号住居跡全景（東より）
7. 114号住居跡全景（東より）  
8. 114号住居跡炉跡セクション（西より）
- PL12 1. 111号住居跡全景（東より）  
2. 111号住居跡遺物出土状況（東より）  
3. 111号住居跡P11（南より）  
4. 111号住居跡炉跡セクション（北西より）  
5. 111号住居跡炉跡掘り方全景（東より）
- PL13 1. 115号住居跡全景（南東より）  
2. 117号住居跡全景（南東より）  
3. 116号住居跡全景（東より）  
4. 116号住居跡遺物出土状況（南より）  
5. 116号住居跡遺物出土状況（北より）  
6. 118号住居跡全景（東より）  
7. 119号住居跡全景（北東より）  
8. 119号住居跡炉跡掘り方全景（北東より）
- PL14 1. 120号住居跡全景（東より）  
2. 121号住居跡全景（東より）  
3. 121号住居跡内土坑遺物出土状況1面（東より）  
4. 121号住居跡内土坑遺物出土状況2面（東より）  
5. 122号住居跡全景（東より）  
6. 123号住居跡全景（西より）  
7. 124号住居跡全景（北西より）  
8. 125号住居跡全景（北より）
- PL15 1. 129号住居跡全景（南より）  
2. 129号住居跡遺物出土状況（西より）  
3. 129号住居跡炉跡遺物出土状況（南東より）  
4. 129号住居跡遺物出土状況（南東より）  
5. 129号住居跡炉跡遺物出土状況（東より）
- PL16 1. 126号住居跡全景（東より）  
2. 127号住居跡全景（北より）  
3. 128号住居跡全景（南より）  
4. 128号住居跡炉跡全景（東より）  
5. 128号住居跡炉跡掘り方全景（東より）  
6. 130号住居跡全景（東より）  
7. 131号住居跡全景（西より）  
8. 132号住居跡全景（西より）
- PL17 1. 北側土坑群調査状況（北より）  
2. 6・7号環状土坑群（南東より）
- PL18 1. 北側土坑群（東より）  
2. 北側土坑群（西より）  
3. 107号住居跡付近の土坑（東より）  
4. 北側土坑群（西より）  
5. 調査区中央付近ピット群（南東より）
- PL19 1. 87号土坑（南東より）  
2. 88号土坑（南より）  
3. 99号土坑（西より）  
4. 102号土坑（南より）  
5. 121号土坑（北より）  
6. 181号土坑（南東より）  
7. 182号土坑（東より）  
8. 183号土坑（東より）
- PL20 1. 184号土坑（南西より）  
2. 186号土坑（東より）  
3. 445・446号土坑1面（北より）  
4. 445・446号土坑2面（南東より）

5. 103号土坑 (北より)  
6. 103号土坑遺物近撮 (西より)  
7. 175号土坑 (北より)  
8. 175号土坑遺物近撮 (西より)
- P L 21 1. 280号土坑 (南より)  
2. 280号土坑遺物近撮 (南より)  
3. 161・106・162号土坑 (東より)  
4. 296号土坑 (東より)  
5. 319号土坑 (北より)  
6. 319号土坑遺物近撮 (北より)  
7. 355号土坑 (南西より)  
8. 355号土坑 (北東より)
- P L 22 1. 374号土坑 (西より)  
2. 374号土坑遺物近撮 (東より)  
3. 375号土坑 (南より)  
4. 84号土坑 (西より)  
5. 89号土坑 (東より)  
6. 90・91・92号土坑 (南より)  
7. 95・96号土坑 (南東より)  
8. 98号土坑 (南東より)
- P L 23 1. 100号土坑 (東より)  
2. 101号土坑 (西より)  
3. 104号土坑 (西より)  
4. 105号土坑 (南より)  
5. 107号土坑 (東より)  
6. 109号土坑 (東より)  
7. 110号土坑 (西より)  
8. 111号土坑 (北より)
- P L 24 1. 112号土坑 (北より)  
2. 113・114号土坑 (北東より)  
3. 115号土坑 (北より)  
4. 116号土坑 (北より)  
5. 117号土坑 (北より)  
6. 118号土坑 (南より)  
7. 119号土坑 (北より)  
8. 120号土坑 (北より)
- P L 25 1. 122号土坑 (北より)  
2. 124号土坑 (北より)  
3. 125号土坑 (北より)  
4. 126・135・177号土坑 (北より)  
5. 128号土坑 (南より)  
6. 129号土坑 (西より)  
7. 130号土坑 (東より)  
8. 131号土坑 (南より)
- P L 26 1. 132号土坑 (南東より)  
2. 133・134号土坑 (西より)  
3. 140号土坑 (南より)  
4. 141号土坑 (東より)  
5. 142号土坑 (南より)  
6. 143号土坑 (南より)  
7. 144号土坑 (南より)  
8. 145・146号土坑 (北より)
- P L 27 1. 147・148号土坑 (北より)  
2. 149号土坑 (北より)  
3. 150号土坑 (北より)  
4. 151号土坑 (西より)  
5. 152号土坑 (西より)  
6. 153号土坑 (北より)  
7. 155号土坑 (西より)
8. 158号土坑 (南より)
- P L 28 1. 160号土坑 (北より)  
2. 163号土坑 (北より)  
3. 164号土坑 (北より)  
4. 166号土坑 (南より)  
5. 167号土坑 (南より)  
6. 168号土坑 (北より)  
7. 170・274号土坑 (東より)  
8. 171号土坑 (東より)
- P L 29 1. 172・173・174号土坑 (西より)  
2. 185号土坑 (北より)  
3. 187号土坑 (北より)  
4. 188号土坑 (北より)  
5. 189号土坑 (北より)  
6. 191・192号土坑 (東より)  
7. 193・194号土坑 (西より)  
8. 195・196号土坑 (東より)
- P L 30 1. 197号土坑 (南より)  
2. 198号土坑 (南より)  
3. 199・286号土坑 (南東より)  
4. 200・201号土坑 (南より)  
5. 202・203号土坑 (南より)  
6. 203号土坑遺物近撮 (南より)  
7. 204・205号土坑 (南より)  
8. 206号土坑 (西より)
- P L 31 1. 207号土坑 (南より)  
2. 208号土坑 (南より)  
3. 187・209・210号土坑 (北より)  
4. 211号土坑 (南より)  
5. 212号土坑 (南より)  
6. 213号土坑 (南より)  
7. 214号土坑 (南より)  
8. 215号土坑 (南より)
- P L 32 1. 216号土坑 (南より)  
2. 217号土坑 (北東より)  
3. 218・219・220号土坑 (南より)  
4. 221・222号土坑 (南より)  
5. 224号土坑 (南より)  
6. 225号土坑 (南より)  
7. 226・378号土坑 (西より)  
8. 227号土坑 (南より)
- P L 33 1. 228号土坑 (南より)  
2. 229号土坑 (北より)  
3. 232号土坑 (南より)  
4. 234号土坑 (南より)  
5. 237号土坑 (東より)  
6. 237号土坑遺物近撮 (西より)  
7. 235号土坑 (東より)  
8. 108・238号土坑 (南より)
- P L 34 1. 241号土坑 (北より)  
2. 243・244号土坑 (北東より)  
3. 245号土坑 (東より)  
4. 246・247号土坑 (東より)  
5. 248号土坑 (東より)  
6. 249・250・251号土坑 (東より)  
7. 252号土坑 (東より)  
8. 253号土坑 (南より)
- P L 35 1. 254号土坑 (北より)  
2. 255・256号土坑 (南より)

3. 257・258号土坑 (南より)  
4. 260号土坑 (南より)  
5. 264号土坑 (南より)  
6. 265・266号土坑 (南より)  
7. 267号土坑 (北より)  
8. 268号土坑 (北より)
- P L 36 1. 269号土坑 (南より)  
2. 270・271号土坑 (南より)  
3. 272号土坑 (南より)  
4. 273号土坑 (北より)  
5. 275号土坑 (東より)  
6. 276号土坑 (北より)  
7. 277号土坑 (北より)  
8. 279号土坑 (西より)
- P L 37 1. 282号土坑 (南西より)  
2. 283号土坑 (南より)  
3. 284号土坑 (北より)  
4. 285号土坑 (西より)  
5. 289・290号土坑 (東より)  
6. 293号土坑 (南より)  
7. 294号土坑 (北より)  
8. 296号土坑 (東より)
- P L 38 1. 297・298号土坑 (北東より)  
2. 301号土坑 (南より)  
3. 302号土坑 (西より)  
4. 303・304号土坑 (北より)  
5. 305号土坑 (北より)  
6. 309号土坑 (北より)  
7. 279・310・433号土坑 (東より)  
8. 311号土坑 (南東より)
- P L 39 1. 312号土坑 (南東より)  
2. 313号土坑 (東より)  
3. 315・330号土坑 (北より)  
4. 316号土坑 (北より)  
5. 318号土坑 (南より)  
6. 320号土坑 (西より)  
7. 321・390号土坑 (東より)  
8. 322号土坑 (北より)
- P L 40 1. 323号土坑 (南より)  
2. 324号土坑 (北より)  
3. 325号土坑 (北より)  
4. 326号土坑 (南より)  
5. 327号土坑 (南より)  
6. 328号土坑 (西より)  
7. 329号土坑 (東より)  
8. 331号土坑 (南より)
- P L 41 1. 332号土坑 (東より)  
2. 333号土坑 (東より)  
3. 334・335・336号土坑 (東より)  
4. 338号土坑 (北より)  
5. 339号土坑 (南より)  
6. 340号土坑 (北より)  
7. 345号土坑 (東より)  
8. 346号土坑 (東より)
- P L 42 1. 347・348号土坑 (北より)  
2. 349・350・351号土坑 (南より)  
3. 357号土坑 (北より)  
4. 358・420号土坑 (東より)  
5. 359号土坑 (東より)
6. 360号土坑 (北より)  
7. 369・370号土坑 (東より)  
8. 371号土坑 (北より)
- P L 43 1. 372号土坑 (東より)  
2. 373号土坑 (南より)  
3. 376号土坑 (東より)  
4. 377号土坑 (北より)  
5. 378号土坑 (西より)  
6. 379号土坑 (南より)  
7. 380号土坑 (南より)  
8. 381号土坑 (南より)
- P L 44 1. 382号土坑 (北東より)  
2. 383号土坑 (北より)  
3. 386・387号土坑 (東より)  
4. 389号土坑 (東より)  
5. 392号土坑 (南より)  
6. 395号土坑 (北より)  
7. 131号住居跡内399号土坑 (南より)  
8. 131号住居跡内399号土坑 (北より)
- P L 45 1. 396号土坑 (北より)  
2. 400号土坑 (南より)  
3. 401号土坑 (南より)  
4. 402号土坑 (東より)  
5. 403・404号土坑 (東より)  
6. 406号土坑 (北より)  
7. 408号土坑 (北より)  
8. 409号土坑 (東より)
- P L 46 1. 410号土坑 (北より)  
2. 411号土坑 (北より)  
3. 412号土坑 (東より)  
4. 418号土坑 (北より)  
5. 419号土坑 (東より)  
6. 420・358号土坑 (東より)  
7. 423号土坑 (北より)  
8. 424号土坑 (北より)
- P L 47 1. 425号土坑 (北西より)  
2. 426号土坑 (北西より)  
3. 427号土坑 (北より)  
4. 428号土坑 (東より)  
5. 429・430号土坑 (南西より)  
6. 431号土坑 (東より)  
7. 434号土坑 (東より)  
8. 435号土坑 (南東より)
- P L 48 1. 172号ピット (南より)  
2. 172号ピットセクション (南より)  
3. 233号ピット遺物出土状況 (南より)  
4. 233号ピットセクション (南より)  
5. 233号ピット遺物取り上げ状況
- P L 49 縄文時代の土器  
P L 50 縄文時代の土器  
P L 51 縄文時代の土器  
P L 52 縄文時代の土器  
P L 53 縄文時代の土器  
P L 54 縄文時代の土器  
P L 55 縄文時代の土器  
P L 56 縄文時代の土器  
P L 57 縄文時代の土器  
P L 58 縄文時代の土器  
P L 59 縄文時代の土器

P L 60	縄文時代の土器	P L 119	縄文時代の石器
P L 61	縄文時代の土器	P L 120	縄文時代の石器
P L 62	縄文時代の土器	P L 121	縄文時代の石器
P L 63	縄文時代の土器	P L 122	縄文時代の石器
P L 64	縄文時代の土器	P L 123	縄文時代の石器
P L 65	縄文時代の土器	P L 124	縄文時代の石器
P L 66	縄文時代の土器	P L 125	縄文時代の石器
P L 67	縄文時代の土器	P L 126	縄文時代の石器
P L 68	縄文時代の土器	P L 127	縄文時代の石器
P L 69	縄文時代の土器	P L 128	縄文時代の石器
P L 70	縄文時代の土器	P L 129	縄文時代の石器
P L 71	縄文時代の土器	P L 130	縄文時代の石器
P L 72	縄文時代の土器	P L 131	縄文時代の石器
P L 73	縄文時代の土器	P L 132	縄文時代の石器
P L 74	縄文時代の土器	P L 133	縄文時代の石器
P L 75	縄文時代の土器	P L 134	縄文時代の石器
P L 76	縄文時代の土器	P L 135	縄文時代の石器
P L 77	縄文時代の土器	P L 136	縄文時代の石器
P L 78	縄文時代の土器	P L 137	縄文時代の石器
P L 79	縄文時代の土器	P L 138	縄文時代の石器
P L 80	縄文時代の土器	P L 139	縄文時代の石器
P L 81	縄文時代の土器	P L 140	縄文時代の石器
P L 82	縄文時代の土器	P L 141	縄文時代の石器
P L 83	縄文時代の土器	P L 142	縄文・弥生時代の石器
P L 84	縄文時代の土器	P L 143	1. 調査区全景 (南より)
P L 85	縄文時代の土器		2. 調査区全景 (北より)
P L 86	縄文時代の土器		3. 調査区南側 (北東より)
P L 87	縄文時代の土器		4. 調査区道北 (東より)
P L 88	縄文時代の土器	P L 144	1. 22号住居跡全景 (西より)
P L 89	縄文時代の土器		2. 22号住居跡カマド遺物出土状況 (西より)
P L 90	縄文時代の土器		3. 23号住居跡全景 (西より)
P L 91	縄文時代の土器		4. 23号住居跡カマド全景 (西より)
P L 92	縄文時代の土器		5. 24号住居跡全景 (西より)
P L 93	縄文時代の土器		6. 24号住居跡カマド遺物出土状況 (西より)
P L 94	縄文時代の土器		7. 25号住居跡遺物出土状況全景 (西より)
P L 95	縄文時代の土器		8. 25・26号住居跡東壁セクション (西より)
P L 96	縄文時代の土器	P L 145	1. 25 (右)・26 (左)号住居跡掘り方全景 (西より)
P L 97	縄文時代の土器		2. 26号住居跡全景 (西より)
P L 98	縄文時代の土器		3. 27号住居跡全景 (西より)
P L 99	縄文時代の土器		4. 27号住居跡カマド出土状況 (西より)
P L 100	縄文時代の土器		5. 28号住居跡全景 (西より)
P L 101	縄文時代の土器		6. 29号住居跡全景 (西より)
P L 102	縄文時代の土器		7. 30号住居跡遺物出土状況 (北西より)
P L 103	縄文時代の土器		8. 30号住居跡西壁セクション (東より)
P L 104	縄文時代の土器	P L 146	1. 31号住居跡遺物出土状況 (西より)
P L 105	縄文時代の土器		2. 31号住居跡カマド全景 (西より)
P L 106	縄文時代の土器		3. 32号住居跡遺物出土状況 (西より)
P L 107	縄文時代の土器		4. 32号住居跡カマド全景 (西より)
P L 108	縄文時代の石器		5. 33号住居跡カマド全景 (西より)
P L 109	縄文時代の石器		6. 33号住居跡カマドセクション (南より)
P L 110	縄文時代の石器		7. 34号住居跡遺物出土状況 (北西より)
P L 111	縄文時代の石器		8. 34号住居跡カマド全景 (北西より)
P L 112	縄文時代の石器	P L 147	1. 35号住居跡遺物出土状況 (西より)
P L 113	縄文時代の石器		2. 36号住居跡遺物出土状況 (西より)
P L 114	縄文時代の石器		3. 37号住居跡遺物出土状況 (西より)
P L 115	縄文時代の石器		4. 37号住居跡カマド全景 (西より)
P L 116	縄文時代の石器		5. 38号住居跡全景 (西より)
P L 117	縄文時代の石器		6. 38号住居跡2号床下土坑 (西より)
P L 118	縄文時代の石器		7. 39号住居跡遺物出土状況 (西より)

8. 39号住居跡カマド全景 (西より)
- P L 148 1. 40号住居跡遺物出土状況 (西より)  
2. 40号住居跡カマド全景 (西より)  
3. 40号住居跡1号床下土坑全景 (西より)  
4. 41号住居跡全景 (西より)  
5. 42号住居跡全景 (西より)  
6. 42号住居跡カマドセクション (南より)  
7. 42号住居跡カマド全景 (西より)  
8. 43号住居跡全景 (西より)
- P L 149 1. 44号住居跡全景 (西より)  
2. 45号住居跡遺物出土状況 (西より)  
3. 45号住居跡カマド全景 (西より)  
4. 45号住居跡貯蔵穴 (西より)  
5. 46号住居跡遺物出土状況 (西より)  
6. 46号住居跡カマド全景 (西より)  
7. 47号住居跡遺物出土状況 (西より)  
8. 47号住居跡カマド全景 (西より)
- P L 150 1. 48号住居跡遺物出土状況 (西より)  
2. 48号住居跡カマド全景 (西より)  
3. 49号住居跡遺物出土状況 (西より)  
4. 49号住居跡カマド全景 (北西より)  
5. 50号住居跡遺物出土状況 (西より)  
6. 50号住居跡カマド全景 (北西より)  
7. 51号住居跡遺物出土状況 (西より)  
8. 51号住居跡カマド全景 (西より)
- P L 151 1. 52号住居跡遺物出土状況 (西より)  
2. 52号住居跡カマド掘り方全景 (西より)  
3. 53号住居跡遺物出土状況 (西より)  
4. 53号住居跡カマド全景 (西より)  
5. 54号住居跡全景 (西より)  
6. 54号住居跡カマド全景 (西より)  
7. 55号住居跡全景 (西より)  
8. 55号住居跡カマド全景 (西より)
- P L 152 1. 56号住居跡遺物出土状況 (西より)  
2. 56号住居跡カマド全景 (西より)  
3. 57号住居跡遺物出土状況 (西より)  
4. 57号住居跡カマド全景 (西より)  
5. 57号住居跡1・2号床下土坑セクション (西より)  
6. 57号住居跡2号床下土坑遺物出土状況 (南より)  
7. 58号住居跡遺物出土状況 (西より)  
8. 58号住居跡カマド全景 (西より)
- P L 153 1. 59・60号住居跡遺物出土状況 (西より)  
2. 59号住居跡カマド遺物出土状況 (西より)  
3. 60号住居跡カマド全景 (西より)  
4. 59号住居跡カマド全景 (西より)  
5. 61号住居跡遺物出土状況 (西より)  
6. 61号住居跡遺物出土状況 (南より)  
7. 61号住居跡カマド全景 (西より)  
8. 61号住居跡全景 (西より)
- P L 154 1. 62号住居跡遺物出土状況 (西より)  
2. 62号住居跡カマド全景 (西より)  
3. 63号住居跡遺物出土状況 (西より)  
4. 63号住居跡カマド全景 (西より)  
5. 64号住居跡遺物出土状況 (西より)  
6. 64号住居跡カマド全景 (西より)  
7. 65号住居跡遺物出土状況 (西より)  
8. 66号住居跡遺物出土状況 (西より)
- P L 155 1. 66号住居跡カマド全景 (西より)  
2. 66号住居跡カマド掘り方状況 (西より)
3. 67号住居跡遺物出土状況 (西より)  
4. 67号住居跡カマド全景 (西より)  
5. 68号住居跡遺物出土状況 (西より)  
6. 68号住居跡カマド全景 (西より)  
7. 69号住居跡遺物出土状況 (西より)  
8. 69号住居跡カマド全景 (西より)
- P L 156 1. 70号住居跡遺物出土状況 (西より)  
2. 70号住居跡カマド全景 (西より)  
3. 71・72号住居跡遺物出土状況 (西より)  
4. 71・72号住居跡カマド全景 (西より)  
5. 73号住居跡遺物出土状況 (西より)  
6. 73号住居跡カマド全景 (西より)  
7. 74号住居跡遺物出土状況 (西より)  
8. 74号住居跡カマド全景 (西より)
- P L 157 1. 75号住居跡カマド全景 (西より)  
2. 76号住居跡カマド全景 (西より)  
3. 77号住居跡遺物出土状況 (西より)  
4. 77号住居跡カマド全景 (西より)  
5. 78号住居跡全景 (西より)  
6. 79号住居跡カマド全景 (西より)  
7. 80号住居跡遺物出土状況 (北西より)  
8. 80号住居跡全景 (北東より)
- P L 158 1. 80号住居跡カマド全景 (西より)  
2. 80号住居跡鉄器出土状況 (北東より)  
3. 81号住居跡全景 (西より)  
4. 81号住居跡カマド掘り方全景 (西より)  
5. 82号住居跡全景 (西より)  
6. 82号住居跡カマド全景 (西より)  
7. 83号住居跡全景 (西より)  
8. 83号住居跡東壁セクション (西より)
- P L 159 1. 84号住居跡遺物出土状況 (西より)  
2. 86号住居跡全景 (西より)  
3. 85号住居跡全景 (西より)  
4. 85号住居跡カマド全景 (西より)  
5. 87号住居跡全景 (西より)  
6. 88号住居跡全景 (南より)  
7. 89号住居跡全景 (西より)  
8. 89号住居跡カマド全景 (西より)
- P L 160 1. 35号土坑 (南より)  
2. 36号土坑 (西より)  
3. 38号土坑 (北より)  
4. 40号土坑 (東より)  
5. 43号土坑 (西より)  
6. 44・45号土坑 (北より)  
7. 46・47号土坑 (南より)  
8. 48号土坑 (南より)
- P L 161 1. 49号土坑 (東より)  
2. 50号土坑 (南より)  
3. 51号土坑 (東より)  
4. 52号土坑 (東より)  
5. 53号土坑 (北東より)  
6. 54号土坑 (東より)  
7. 55号土坑 (南より)  
8. 56号土坑 (南より)
- P L 162 1. 57・58号土坑 (東より)  
2. 59・60号土坑 (東より)  
3. 61号土坑 (南より)  
4. 62号土坑 (南東より)  
5. 63号土坑 (西より)

6. 64号土坑 (南より)  
7. 65号土坑 (南より)  
8. 66号土坑 (北より)  
P L 163 1. 67号土坑 (東より)  
2. 68号土坑 (南西より)  
3. 69号土坑 (南より)  
4. 70号土坑 (西より)  
5. 71号土坑 (北より)  
6. 72号土坑 (東より)  
7. 73号土坑 (西より)  
8. 74・75号土坑 (北より)  
P L 164 1. 74・75・76・77号土坑 (北より)  
2. 78号土坑 (東より)  
3. 79号土坑 (西より)  
4. 80号土坑 (東より)  
5. 81号土坑 (南より)  
6. 82号土坑 (西より)  
7. 83号土坑 (北より)  
8. 85号土坑 (北より)  
P L 165 平安時代の土器  
P L 166 平安時代の土器  
P L 167 平安時代の土器  
P L 168 平安時代の土器  
P L 169 平安時代の土器  
P L 170 平安時代の土器  
P L 171 平安時代の土器  
P L 172 平安時代の土器  
P L 173 平安時代の土器  
P L 174 平安時代の土器  
P L 175 平安時代の土器  
P L 176 平安時代の土器  
P L 177 平安時代の土器  
P L 178 平安時代の土器  
P L 179 平安時代の土器  
P L 180 瓦  
P L 181 鉄器  
P L 182 平安時代の石器  
P L 183 平安時代の石器  
P L 184 平安時代の石器  
P L 185 平安時代の石器  
P L 186 平安時代の石器  
P L 187 平安時代の石器  
P L 188 平安時代の石器  
P L 189 平安時代の石器  
P L 190 平安時代の石器  
P L 191 1. D区石組み溝全景 (北より)  
2. D区石組み溝全景 (南より)  
3. D区石組み溝全景 (南東より)  
4. D区石組み溝掘り方全景 (北より)  
5. D区石組み溝鋤痕 (西より)  
6. D区石組み溝鋤痕近撮 (南西より)  
P L 192 縄文土器展開写真  
P L 193 縄文土器展開写真  
P L 194 縄文土器展開写真  
P L 195 縄文土器展開写真  
P L 196 縄文土器展開写真  
P L 197 縄文土器展開写真

## 発掘調査報告書抄録

フリガナ	ヌマミナマイセキ
書名	沼南遺跡
副書名	(主) 前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1集
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第259集
編著者名	松村和男
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年月日	西暦 1999年12月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ヌマ 沼	ミナミ 南 グンマケンキタグンマケン 群馬県北群馬郡 ヨシオカマチオアザオク 吉岡町大字大久 保	10345		36 25 34	139 01 36	19970401 } 19970930	4,125	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沼南	集落	縄文時代	竪穴住居跡 43軒 土坑 500基	縄文土器・石器	中期中葉の環状集落 前期諸磯 a 式期の資料
		平安時代	竪穴住居跡 68軒 土坑 100基	土師器・須恵器 灰釉陶器・鉄器	
		その他	近世	溝 1条	



# 沼 南 遺 跡



## 1. 発掘調査に至る経緯

平成7年8月 県文化財保護課現地確認。

平成7年度 午王頭川右岸低地部調査 事業団対応。

# I 発掘調査の経過

## 1. 発掘調査に至る経緯

(主) 前橋伊香保線は周辺の宅地化や通勤圏の拡大、車中心の流通経済の発展等により年々通行車両が増加し、慢性的な渋滞に悩まされていた。そうした中で渋滞の緩和及び都市周辺の道路整備のためバイパス工事計画が持ち上がり、昭和55年に現道の西に新路線が決定された。また、大渡橋と坂東橋の渋滞を解消するため、新しい橋の建設計画も浮上し、その関係から事業の早急な実施が必要となった。

工事に先立って路線内の埋蔵文化財について県道路建設課から県教育委員会文化財保護課に問い合わせがあり、吉岡町教育委員会立ち会いのもと県文化財保護課による確認調査や試掘調査が実施された。その結果、吉岡町大字大久保地内には多くの埋蔵文化財のあることが確認された。本道路建設に伴うその取り扱いについて、県道路建設課・県渋川土木事務所と県文化財保護課は協議を進め、埋蔵文化財については記録保存することとなった。その中で本事業団が担当したのは、吉岡町大字大久保地内の午王頭川左岸の台地部分から同右岸の低地部分の前橋市境までの間である。本事業団担当部分よりも北側は吉岡町教育委員会が調査を行った。

協議及び試掘経過については次のとおりである。  
平成元～平成6年度 県土木部から調査依頼、吉岡町教育委員会調査対応。

平成3年11月 県文化財保護課、県土木部、吉岡町教育委員会で対応、整理について協議。

平成4年9月 県文化財保護課、吉岡町教育委員会現地確認、対応協議。

平成5年11月 県文化財保護課 金竹西遺跡以南の高台立ち会い調査の結果、遺跡なし。

平成6年11月～平成7年3月 平成8年度調査部分の道北から午王頭川の右岸の低地部分試掘調査の結果、遺跡を確認、調査は事業団対応で調整。

## 2. 発掘調査の方法と経過

### 調査範囲とグリッドの設定

本遺跡の調査は、平成7年度に午王頭川右岸のF区からG区・H区北側・I区中央部・J区北側・K区を実施し、平成8年度に午王頭川左岸のE区を実施した。平成9年度ではH区からJ区までの7年度未調査部を実施し、平成10年度にL区・M区の調査を実施し、本事業の発掘調査を終了した。調査日誌については平成8年度調査分についてのみ記載する。

### 調査日誌抄 (平成8年度)

4月1～8日 事前準備・打ち合わせ

4月9～17日 伐採木の搬出・表土掘削

4月18～19日 平安時代遺構確認

4月20日 同全景写真

4月22～23日 平安時代遺構全体概念図作成

4月22日～7月14日 平安時代住居跡・土坑調査

7月15日～8月5日 縄文時代包含層遺物取り上げ・遺構確認

8月6日～7日 平安時代遺構全体図作成

8月7日～9月30日 縄文時代土坑・住居跡調査

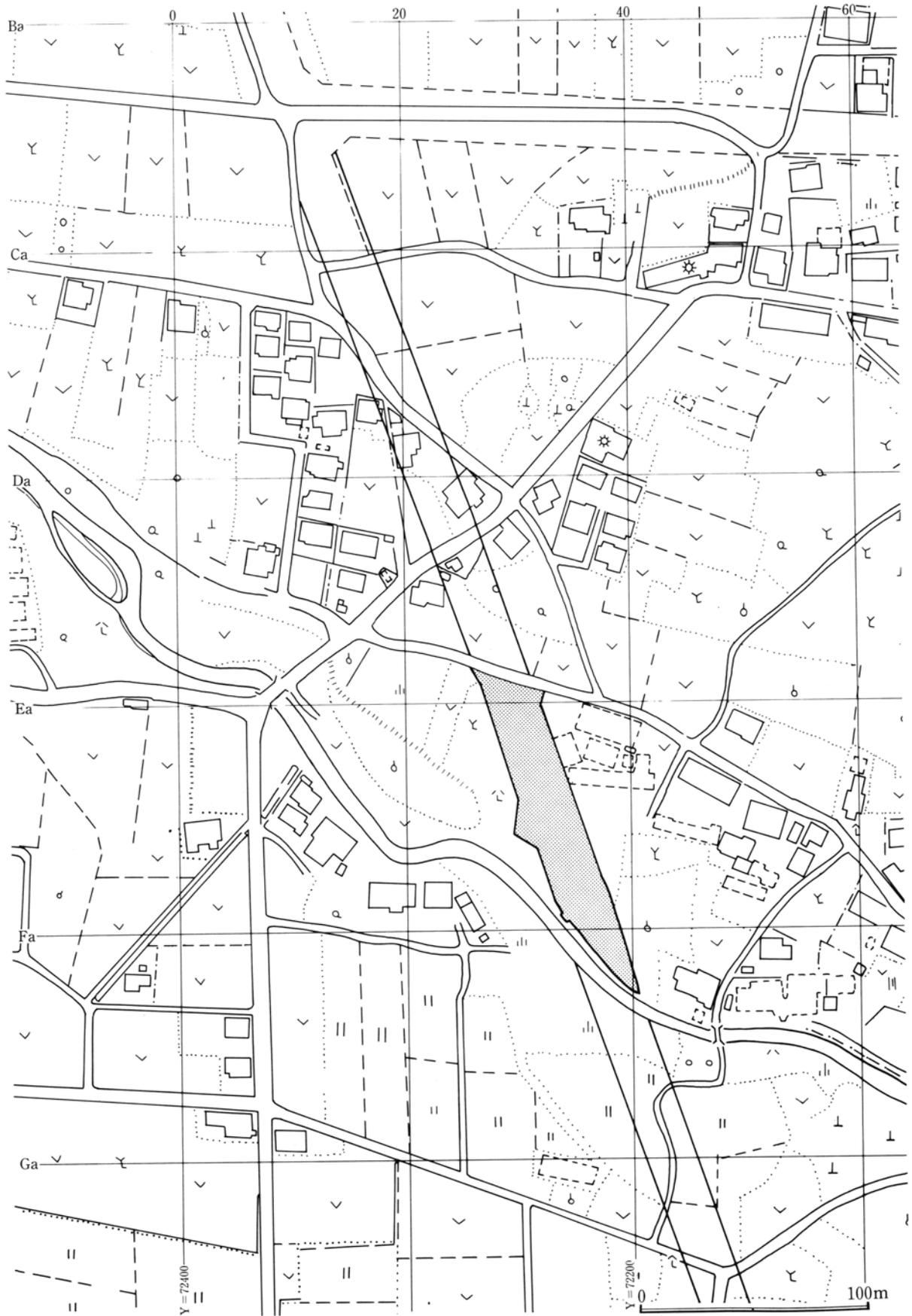
### 調査の方法

#### (グリッド設定)

遺構・遺物の記録方法として、グリッド設定による調査方法を基本とした。グリッドの設定は、吉岡町教育委員会により平成元年～平成3年に行われた同事業路線内の金竹西遺跡の調査方法に基づき設定した。金竹西遺跡2 A-10ポイントは、国家座標X=47,600、Y=-72,400であり、本調査区Aa-0ポイントとした。本調査区はAa-0ポイントから南に100mごとにB・C・D……、さらにその中を5mごとにa・b・c……とした。また東には5mごとに1・2・3……とした。グリッドの呼称は北西隅の番号をもって表した。

#### (調査手順)

I 発掘調査の経過



第1図 調査区位置図

## 2. 発掘調査の方法と経過

表土については重機による一括排土を行い、その下について精査を行い遺構確認、調査を進めた。

### (実測方法)

記録図面類は、1/20を基準とし、カマドやまとまった遺物の出土した遺構については1/10で記録化した。平面図は、主に平板測量を行ったが、カマドは簡易やり方実測を行った。断面図は水系レベルを標高で表すようにした。なお、図面の作成においては、一部業者委託を実施した。

### (遺物の取り上げ)

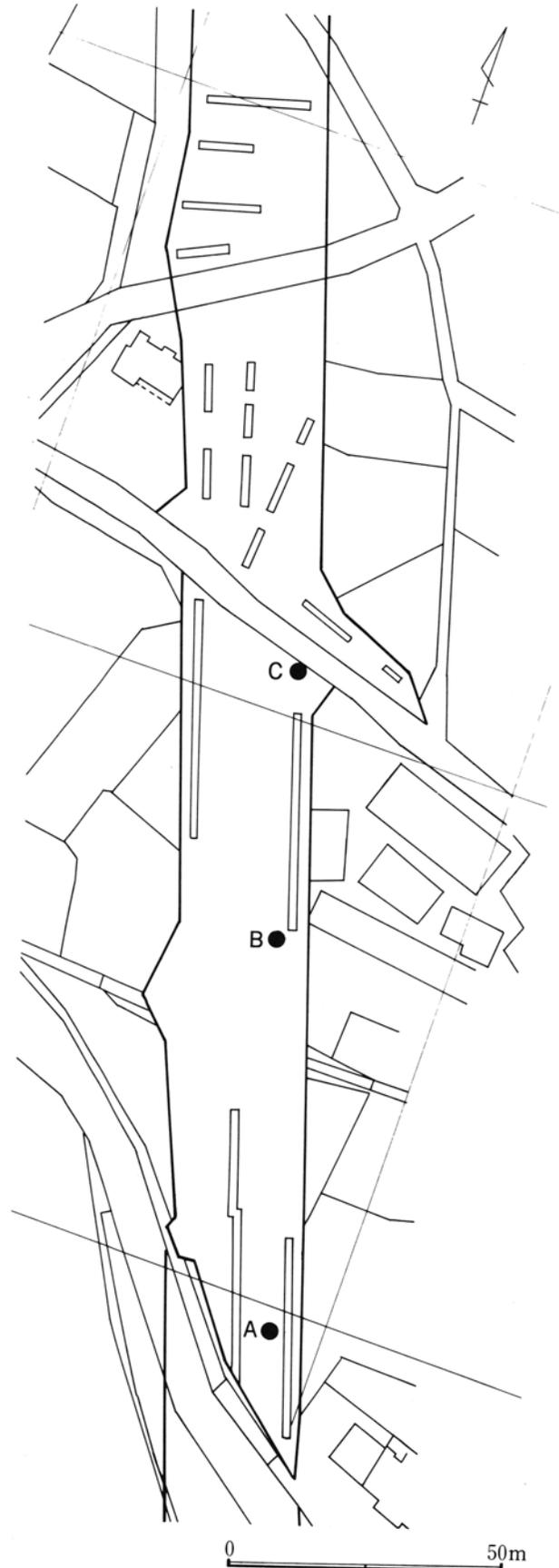
出土遺物は、全点の出土地点（レベル含む）の記録化を基準としたが、小破片は出土遺構・グリッドを明記し取り上げた。遺構を重視し遺構内で番号を付し、遺構外出土遺物はグリッドごとで番号を付した。なお、縄文時代の包含層の遺物については小グリッドごとにふるいを行い採集した。

### (写真撮影)

写真は、各遺構に対し担当職員により撮影した。住居跡は遺物出土状態、床面の状態、床下の状態等々々々撮影し、さらにカマドも燃焼面と掘り方、特徴的な遺物の出土状態や土層も接写を行った。住居等の撮影にはローリングタワーなどを用いて行った。また、必要に応じ業者による空中写真撮影や高所作業車による撮影も随時実施した。

### (安全対策)

調査区外周に丸太杭を打ち、安全ロープを複数段設定するとともに、道路に面する部分については安全柵を設置した。調査区内部の深い部分についても周りをロープやスズランテープで囲ったり、上を足場板やコンパネで蓋をするなど、内外に対する安全対策に務めた。また、埃がたつような場合には、近隣の住宅への防塵対策として散水車による水撒きや土捨て場へのシート掛けやロープ張り等を行った。現場事務所と調査区との安全な往復のため、平成7年度にH鋼を基礎にした簡易な橋をかけ、平成8年度も引き続いてその橋を利用した。また、近隣の道路についても必要に応じて環境整備を行い、作業員の通行の安全に配慮した。



第2図 トレンチ設定図

I 発掘調査の経過

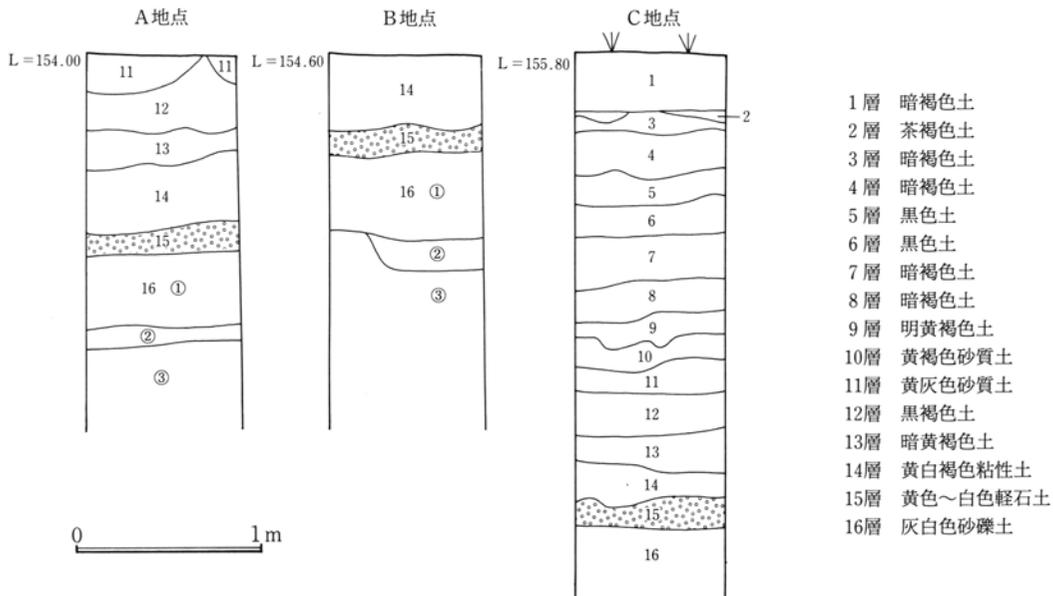
3. 基本層序

発掘調査終了時点で、調査区の北端の舗装道路南脇C地点と中央の道の北B地点と南端のA地点の計3地点に深掘りトレンチを設定して確認した(図2)。

図3はその基本層序である。

北端のA地点を全体の基準にして基本層序を作成した。

- |          |   |                         |  |
|----------|---|-------------------------|--|
| 1層 暗褐色土  | ロームブロックと小円礫を多量に含む。道路建設の際に路盤整備のために埋めたものと考えられる。                             | 10層 黄褐色砂質土              | 総社砂層に相当するものと考えられる。   |
| 2層 茶褐色土  | As-BP を多量に含み、砂質である。元の畑の耕作土と考えられる。   | 11層 黄灰色砂質土              | 総社砂層に相当するものと考えられる。   |
| 3層 暗褐色土  | As-BP を多量に含み、砂質である。   | 12層 黒褐色土                | 黄白色軽石を多量に含む。この軽石は、総社軽石に相当するものと考えられる。   |
| 4層 暗褐色土  | As-CP を多量に含む。奈良・平安時代の遺構の埋没土となっている。  | 13層 暗黄褐色土               | 12層から13層への漸移層であり、上層が下層に浸み込んだものと思われる。   |
| 5層 黒色土   | As-CP を多量に含む。古墳時代のピット等の埋没土となっている。   | 14層 黄白褐色粘性土             |  |
| 6層 黒色土   | 白色小粒子と黄褐色小粒子を多量に含む。縄文中期土器片を多量に含む。縄文時代の包含層の主体をなす土層であり、住居跡や土坑の中心的埋没土となっている。 | 15層 黄色～白色軽石 (As-YP の純層) | 地点によって色調が違い、より黄色味を帯びるところと色が抜けて白っぽいところがある。  |
| 7層 暗褐色土  | 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒を少量含む。縄文中期の土器片少量含む。縄文中期中葉の遺構周辺の埋没土となっている。                 | 16層 灰白色砂礫土              | 榛名山東南麓の山体崩落に起因する陣場岩屑なだれ堆積物に相当するものと考えられる。本遺跡の基盤層となっている。午王頭川の河岸断面で見ると厚いところでは数mはあるものと考えられる。<br>①鉄分を含み、粘性あり。<br>②灰紫色を呈し、砂質。<br>③灰色礫層 (基盤層) |
| 8層 暗褐色土  | 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、茶褐色土ブロックを少量含む。縄文前期土器片・燃糸文土器片を含む。中期の遺構の地山となっている。      |                         |  |
| 9層 明黄褐色土 | 黄白色砂質土ブロック少量含む。ここから下層は遺物の出土はない。   |                         |  |



第3図 基本層序

#### 4. 遺跡の立地と周辺の遺跡分布

#### 4. 遺跡の立地と周辺の遺跡分布

本遺跡のある群馬県吉岡町は、群馬県のほぼ中心部にあり、関東平野の西南に位置している。群馬県の中心部の西に榛名山、東には赤城山、その間に利根川が流れている。吉岡町内には、利根川の支流である滝沢川、吉岡川、駒寄川、午王頭川の四河川が、榛名山を水源として東南流している。地形的には、町北西の榛名山山体部分、町の中心である緩傾斜の台地部分及び利根川沿いの低地部分に三分される。町の東部と西部では約700mの比高差がある。台地と低地の境には利根川による河岸段丘が形成され、台地部分には吉岡町から榛東村・群馬町・高崎市にかけて特徴的に分布する今から約1.7万年程前の榛名山の山体崩落による「陣場岩屑なだれ」によってできた「流れ山」が随所に認められる。

大きく見ると本遺跡は利根川の右岸、榛名山の東南麓に位置し、午王頭川の左岸の先述の「流れ山」上に存在する。町全体はほぼ台地上に載ってくるが、その全域が榛名山の二ツ岳の火山噴出物に覆われているため、確認されている遺跡の多くは6世紀後半のもので、それ以前の遺跡については不明な点が多い。特に滝沢川と吉岡川に挟まれた地域は、火山噴出物に加え洪水による砂礫の堆積もあり、遺跡の存在は全く不明と言わざるを得ない。反対に言うところの地域は、榛東村の茅野遺跡や渋川市の中筋遺跡、子持村の黒井峯遺跡のように極めて保存の良い国・県の史跡級の遺跡が眠っている可能性の高い地域と言えることができるかもしれない。遺跡の約150m北側には吉岡町教育委員会により平成元年～3年に調査された(主)前橋伊香保線建設により調査された金竹西遺跡がある。また、もう少し広く見ると、東南約1kmの所には総社古墳群、蛇穴山古墳、宝塔山古墳、南約1.2kmに山王廃寺、南2kmには上野国分寺・尼寺跡などがある。この地域は古代群馬を代表する主要な遺跡群が存在し、早くから開発されてきたことが伺える。

本遺跡も先述の「流れ山」の上に位置し、直接そ

れを切り込んで遺構が構築されている部分もあるが、その上に浅間板鼻黄色軽石層(以後As-YP)が載る部分もあり、そこではさらに上に総社砂層が載っていることも確認されている。

以下、吉岡町を中心とする榛名山東南麓の渋川市、榛東村、前橋市、群馬町、箕郷町に至る地域について、大時期別に概観して行きたい。なお、先述したように市町村によっては榛名山の火山性堆積物に厚く覆われており、分布調査をただけでは地下に埋もれている遺跡の状況はわからないことが多い。そうした状況の中で、遺跡地図がまだ整備されていない市町村もあり、また、整備されているとしても遺跡全部が網羅されているわけではなく、今回載せたものはあくまでも途中経過的なもので、決して十分なものとは言えない。しかし、一応の目安にはなると考えられる。遺跡地図の無い市町村については群馬県遺跡地図等を参考にして作成した。

榛名山東南麓全体で見た場合には、群馬用水のやや山寄りの部分、標高で言うと350～300mから下の部分に山に降った水が湧いてくる湧水地点が現れ、低地もそれより下に出現し、水田も作られていることがわかる。標高260m程のところに群馬用水が引かれており、その影響も大きいと思われる。それよりも上はゴルフ場の溜池や川沿いの低地のみである。遺跡もほぼ同様であり、その部分よりも上は極く僅か、しかも点でしか確認されていない。標高250m前後から急激に面的に確認できる遺跡は多くなり、河川による氾濫原や浸食され残っていない部分を除きそのほとんどが遺跡と考えても良い状況となる。低地部分でも水田の確認されている部分もあり、そうしたところを入れるとさらに多くなる。これはある一面では榛名山から離れることにより遺跡の上を覆う堆積物も薄くなり、耕作等により遺構や遺物が発見され易いからと考えられる。しかし、人間の生活にはなくてはならない水が比較的容易に確保できる所であるということと関連が深いものと推定できる。利用し易い土地か否かということの第一条件に利用できる水が近くにあるか否かということが上げ

## I 発掘調査の経過

られる。それは今も昔も同じであり、集落の中もしくはその近くには水がなくてはならない。

### ●先土器時代

利根川の左岸の赤城山西麓地域では関越自動車道新潟線の調査により多くの遺跡が調査され、同南麓地域では岩宿遺跡をはじめとして戦後間もない時期から数多くの遺跡が調査されている。しかし、榛名山南麓地域では、北陸新幹線の建設によりいくつかの遺跡が調査されているが、東南麓地域では渋川市行幸田山遺跡で若干の遺物のあるもののみまとまった調査例はない。

### ●縄文時代

標高約250mラインの前後から下で縄文時代の遺跡は急速に増える。前橋市の遺跡地図の括弧が大きいので、遺跡はかなり広がるように見えるが、その全部が縄文時代のものでなく、その中に点々と同時代のものがあると考えたほうが良いと思われる。また、榛東村は点でしか遺跡地図は作っておらず、箕郷町は遺跡地図はなく、群馬町は遺跡地図はあるものの榛東村寄りの部分については榛名山からの堆積物が厚く、空白部分となっている。中には後晩期の耳飾りを多く出土した榛東村茅野遺跡や同下新井遺跡のように、まだ調査されていない部分にこの時期の良好な遺跡が多く埋もれていることが想定される。しかし、現状では標高約220mライン以上の場所での遺跡の確認は困難であると言わざるを得ない。

本遺跡周辺を見てみると、もっとも近いところでは北150m程の地点に位置する金竹西遺跡でも縄文時代前期の遺物は出土している。しかし、住居跡等は検出できなかった。本遺跡の南西部の関越自動車道寄りの土地改良事業で調査された清里・長久保遺跡では中期の住居跡も確認されており、本遺跡との関連性も考えられる。

### ●弥生時代

本時期になると遺跡数・面積とも急激に減る。吉

岡町内では下野田の杉下遺跡で樽式土器片が若干採集されている程度であり、あまりまとまった例はない。本遺跡でも弥生時代の磨製石鏃が1点出土しただけであり、土器片等は1片も検出されなかった。群馬町や前橋市分でも若干の出土はあるものの全体的な傾向はほぼ同様である。

### ●古墳時代

渋川市と吉岡町の境の前後に広がる有馬堂山古墳群がまとまった古墳群としては有名である。その北側の渋川市分には広大な水田遺跡が広がる。吉岡町東南半には多くの古墳時代の集落跡が存在する。これらの集落は平安時代まで継続するものが多く、その範囲は広大である。こうした集落跡の近くには古墳が多く存在しており、古墳は集落周辺の陣場岩屑なだれの流山の頂部に築かれている場合が多く、そのほとんどは古墳群を形成している。本遺跡の周辺にもそうした流れ山が多く存在するが、その頂部のほとんどすべてが古墳に利用されている。

### ●奈良・平安時代

奈良・平安時代になると標高250m前後のラインより下は河川の氾濫原や河川により削平された部分を除き、そのほとんど全てが何らかの遺跡となる。それよりも上の山寄りの部分にはこの時期の遺跡はほとんどない。山寄りの部分に遺跡がないのは、地下深くに埋もれていて発見されていないのか、元々遺跡がないのか、の両方の可能性が考えられるが、後者の可能性の方が高いのではなからうか。それは利用できる水の確保とその水を利用した水田の耕作と深く関わっているからと思われる。

平安時代でも終末期の10世紀後半から11世紀代の集落跡は以外に少なく、数件程度が散在するような状況が見受けられる。金竹西遺跡でも9世紀に隆盛を誇った集落も10世紀前半になると急速に衰退し、10世紀後半になるとほとんど住居跡はなくなる。この傾向は平安時代の集落跡の調査では一般的に見られる傾向であり、本遺跡のように70軒近くが同時に

#### 4. 遺跡の立地と周辺の遺跡分布

調査された例はほとんどない。本遺跡周辺を見まわしたときも同様であり、10世紀後半になると急速に住居跡の数は少なくなる遺跡が多い。

#### ●中・近世

この時期になると、また遺跡数と面積は増える。標高250mのラインあたりから遺跡が現れ始め、200mラインの下から遺跡数は多くなる。そして150mラインあたりからかなり広大な面積を持つ部分が出現

する。その地域には城跡や館跡なども作られており戦国時代における要害の地として重要な役割を担っていたことを伺わせる。近世になると街道沿いに集落が発達し、その町並みは現在の町並みと重なる部分が多いものと考えられる。本遺跡では中世と考えられる遺構や遺物はほとんど検出されなかったが、近世と思われる石組みを持つ溝が調査区の北端で1条確認され、若干の陶磁器片が出土した。

#### 周辺の遺跡

No.	遺跡名	時代	内容
1	行幸田山遺跡	縄文・古墳	古墳、縄文中期集落
2	城の上遺跡	縄文・中世	縄文包蔵地、中世城館
3	愛后塚遺跡	縄文・弥生	縄文・弥生集落跡
4	茅野遺跡	縄文	縄文後・晩期集落跡
5	平石遺跡群	縄文・古墳・平安	縄文包含層、古墳時代畠、平安土坑
6	町南遺跡	縄文	縄文中期包蔵地
7	舞台遺跡	縄文・平安	包蔵地
8	石合遺跡	縄文	包蔵地
9	東原田遺跡	縄文・平安	包蔵地
10	北発地岡遺跡	縄文	縄文前期・中期包蔵地
11	諏訪台遺跡	縄文・平安	包蔵地・寺院跡
12	畑中東遺跡	縄文・平安	包蔵地 縄文遺物少量、平安遺物多量
13	杉下遺跡	縄文・弥生	包蔵地 弥生遺物少量
14	大女遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地 縄文土器片多量
15	溝祭木戸遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地 古墳1基現存
16	久保平遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地 羽口片採集、かつて古墳存在
17	頭梨子遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地 遺物多量
18	十石塚遺跡	縄文・平安	包蔵地 平安遺物多量
19	茶ノ木遺跡	縄文・平安	包蔵地 西部に遺物集中
20	宮遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地、古墳～平安集落跡 昭和57～61年大久保A・B遺跡調査
21	中島遺跡	縄文	包蔵地 遺物散布少量
22	宮田遺跡	縄文・奈良・平安	包蔵地 遺物散布比較的少量
23	上ノ原遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地、集落跡 平成4・5年調査、古墳～平安集落、東に縄文多い。
24	瀬来遺跡	縄文・古墳・中世	包蔵地
25	本宿遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地、奈良・平安集落跡 本宿遺跡昭和62年調査、玉辺遺跡平成4年調査
26	田端遺跡	縄文・奈良・平安	包蔵地 奈良・平安遺物多量
27	川原不動北遺跡	縄文・古墳・平安	包蔵地 遺物散布少量
28	上町遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地 鉄道西でかつて多量の遺物出土
29	金竹西遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地、集落跡 平成元・2年調査、古墳～平安集落
30	片貝遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地
31	七日市遺跡	縄文・奈良・平安・中世	包蔵地、集落跡 昭和57・58年度調査、縄文前期住居、奈良・平安集落、女堀跡
32	沼遺跡	縄文・古墳・平安	包蔵地 古墳、円筒埴輪片散布
33	長久保・大畑遺跡	縄文・古墳・平安	包蔵地、古墳～平安集落跡、縄文配石・集石・土坑 昭和55年清里・長久保遺跡調査
34	長久保遺跡	縄文・平安	包蔵地 昭和55年清里・長久保遺跡調査
35	善徳遺跡	縄文・平安	包蔵地
36	大下遺跡	縄文・平安	包蔵地、集落跡 平成4年調査、平安集落、縄文土坑
37	新田入口遺跡	縄文・奈良・平安	包蔵地、集落跡 縄文土坑、奈良・平安集落
38	前原遺跡	縄文・平安	包蔵地 縄文晩期土器片散布
39	見柳東遺跡	縄文・奈良・平安	包蔵地 遺物散布少量
40	小蓋遺跡	縄文・平安	包蔵地 大規模な平安集落跡、縄文遺物少量散布
41	十日市遺跡	縄文・平安	包蔵地 縄文・平安遺物散布
42	大藪遺跡	縄文・古墳・中世	包蔵地 桃井城跡、円筒埴輪片散布
43	大林遺跡	縄文	包蔵地 縄文前期土器片散布

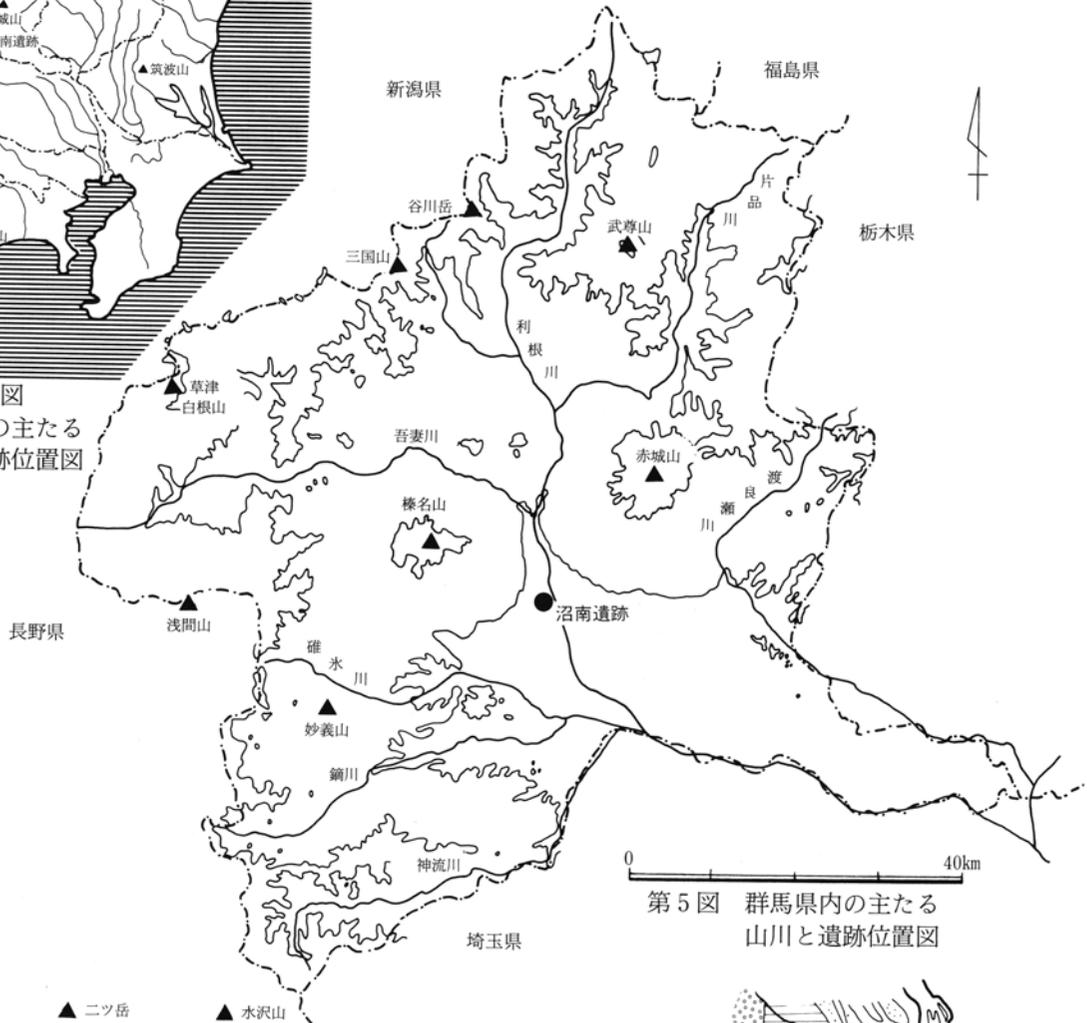
I 発掘調査の経過

No	遺 跡 名	時 代	内 容
44	高 繩 遺 跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地 遺物散布多量
45	宮 前 遺 跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地、古墳～平安集落跡 昭和57～61年大久保A遺跡調査
46	有馬条里遺跡	奈良・平安	水田跡 条里
47	有馬堂山古墳群	古墳	古墳群 後期群集墳
48	半 田 古 墳 群	古墳	古墳群
49	宮 西 遺 跡	古墳・奈良・平安	包蔵地
50	川 子 遺 跡	古墳・奈良・平安	包蔵地 遺物散布極多量
51	熊 野 遺 跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地、古墳～平安集落跡 平成4年熊野II遺跡調査
52	十 二 遺 跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地、古墳～平安集落跡、縄文土坑 平成3年熊野I遺跡調査
53	有馬赤貝戸遺跡	古墳	包蔵地
54	一 子 塚 遺 跡	古墳	古墳 消滅
55	有 馬 廃 寺	奈良	寺院跡
56	地 蔵 堂 遺 跡	平安	包蔵地 遺物散布少量
57	下野田蟹沢遺跡	平安	包蔵地 遺物散布少量
58	下野田藤塚遺跡	平安	包蔵地
59	上 新 田 遺 跡	平安	包蔵地 遺物散布少量
60	観 音 遺 跡	平安	包蔵地 遺物散布少量
61	山 王 遺 跡	平安	包蔵地 遺物散布少量
62	見 丈 遺 跡	平安	包蔵地 緑釉片出土
63	赤 岩 遺 跡	奈良・平安	包蔵地 範囲広大、遺物散布多量
64	並 木 遺 跡	古墳・平安	包蔵地
65	不 動 久 保 遺 跡	平安	包蔵地 かつて多量の土器出土
66	七 日 市 東 遺 跡	平安	包蔵地
67	新 保 分 遺 跡	奈良・平安	包蔵地
68	千 代 開 北 遺 跡	平安	包蔵地 遺物散布少量
69	千 代 開 南 遺 跡	平安	包蔵地 遺物散布少量
70	畑 中 ・ 住 遺 跡	平安	包蔵地 集落跡 平成4年畑中遺跡調査
71	北 下 東 原 遺 跡	奈良・平安	包蔵地
72	北 下 藤 塚 遺 跡	古墳・奈良・平安	包蔵地 かつて古墳有り
73	下 八 幡 I 遺 跡	奈良・平安・中世	包蔵地 桃井氏関連城館？
74	下 八 幡 II 遺 跡	奈良・平安・中世	包蔵地 桃井塚（中世五輪塔）跡有り
75	長 山 遺 跡	古墳・平安	包蔵地 埴輪片採集
76	下 八 幡 南 遺 跡	古墳・奈良・平安	包蔵地 集落跡 かつて古墳2基存在
77	中 御 所 遺 跡	平安	包蔵地 平安大集落跡 昭和54年清里・陣場遺跡調査
78	中 町 遺 跡	奈良・平安・近世	包蔵地 奈良～平安集落跡、近世屋敷跡 平成2年調査
79	大 泉 寺 東 遺 跡	奈良・平安	包蔵地
80	新 田 入 口 南 遺 跡	奈良・平安	包蔵地
81	智 明 坊 館	中世	館跡 土塁の一部現存
82	剣 城 城 跡	中世	城跡
83	野 田 ・ 内 出 遺 跡	中世	城跡
84	長 塩 屋 敷	中世	館跡 土塁・堀現存
85	漆 原 城	中世	城跡 河川の氾濫により多く消滅
86	道 城 遺 跡	奈良・平安	包蔵地 奈良・平安集落跡 平成4年調査
87	女 塚 遺 跡	奈良・平安	包蔵地 奈良・平安集落跡 昭和57～61年調査
88	久 保 田 遺 跡	古墳・奈良	包蔵地、集落跡、古墳 平成3年久保田古墳・久保田遺跡調査
89	南 下 木 戸 遺 跡	奈良・平安	包蔵地 遺物散布多量
90	半 田 ・ 中 原 遺 跡	縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地、集落跡、墳墓、牧？
91	有 馬 神 戸 遺 跡	縄文～歴史時代	包蔵地
92	乙 溝 祭 遺 跡	弥生	包蔵地 樽式土器片散布

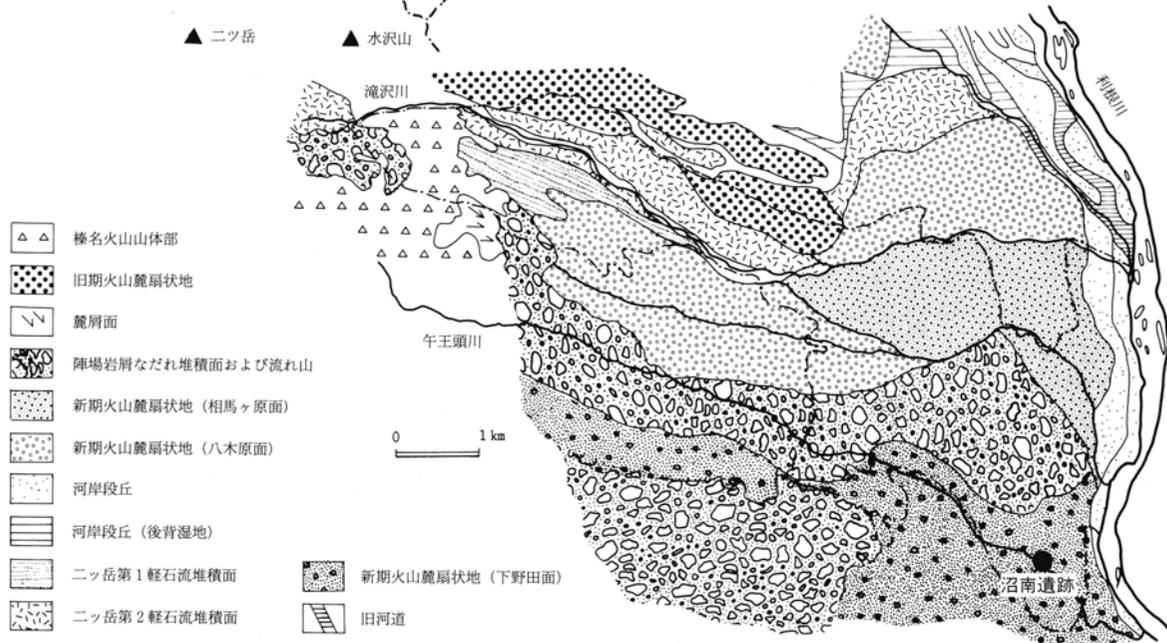
4. 遺跡の立地と周辺の遺跡分布



第4図 関東地方の主たる山川と遺跡位置図



第5図 群馬県内の主たる山川と遺跡位置図

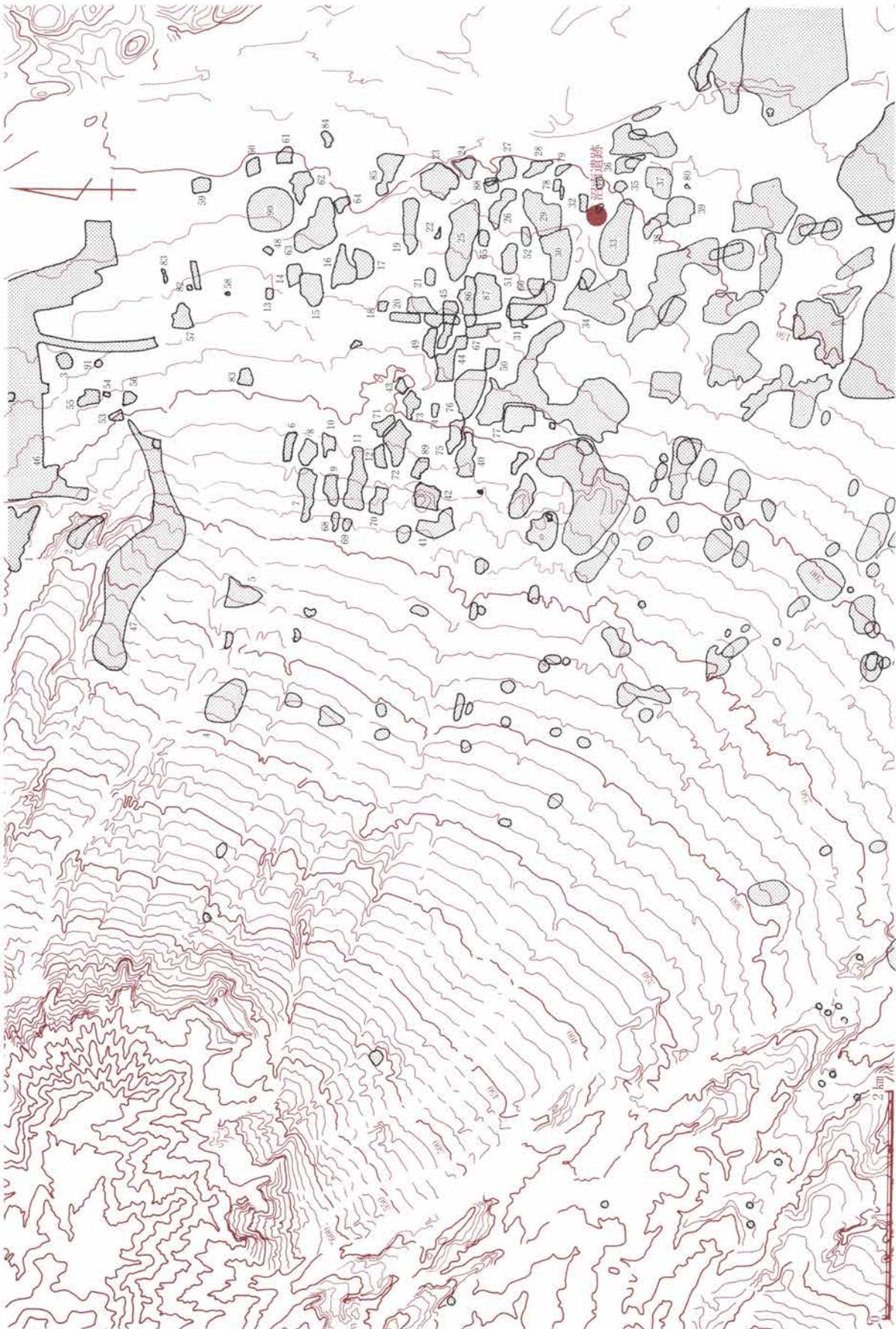


第6図 吉岡町とその周辺の地形図



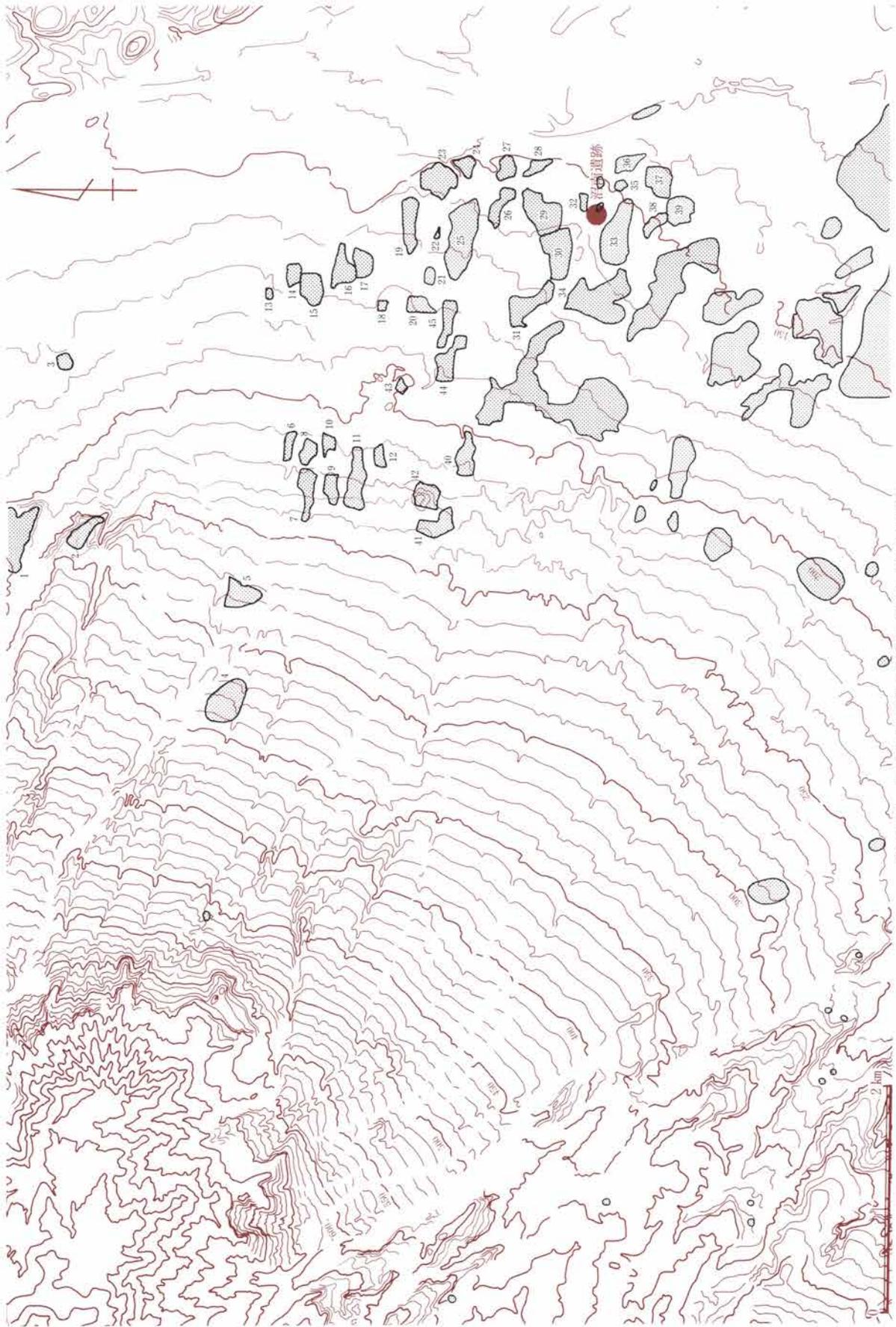
第7図 榛名山東南麓地形図

4. 遺跡の立地と周辺の遺跡分布



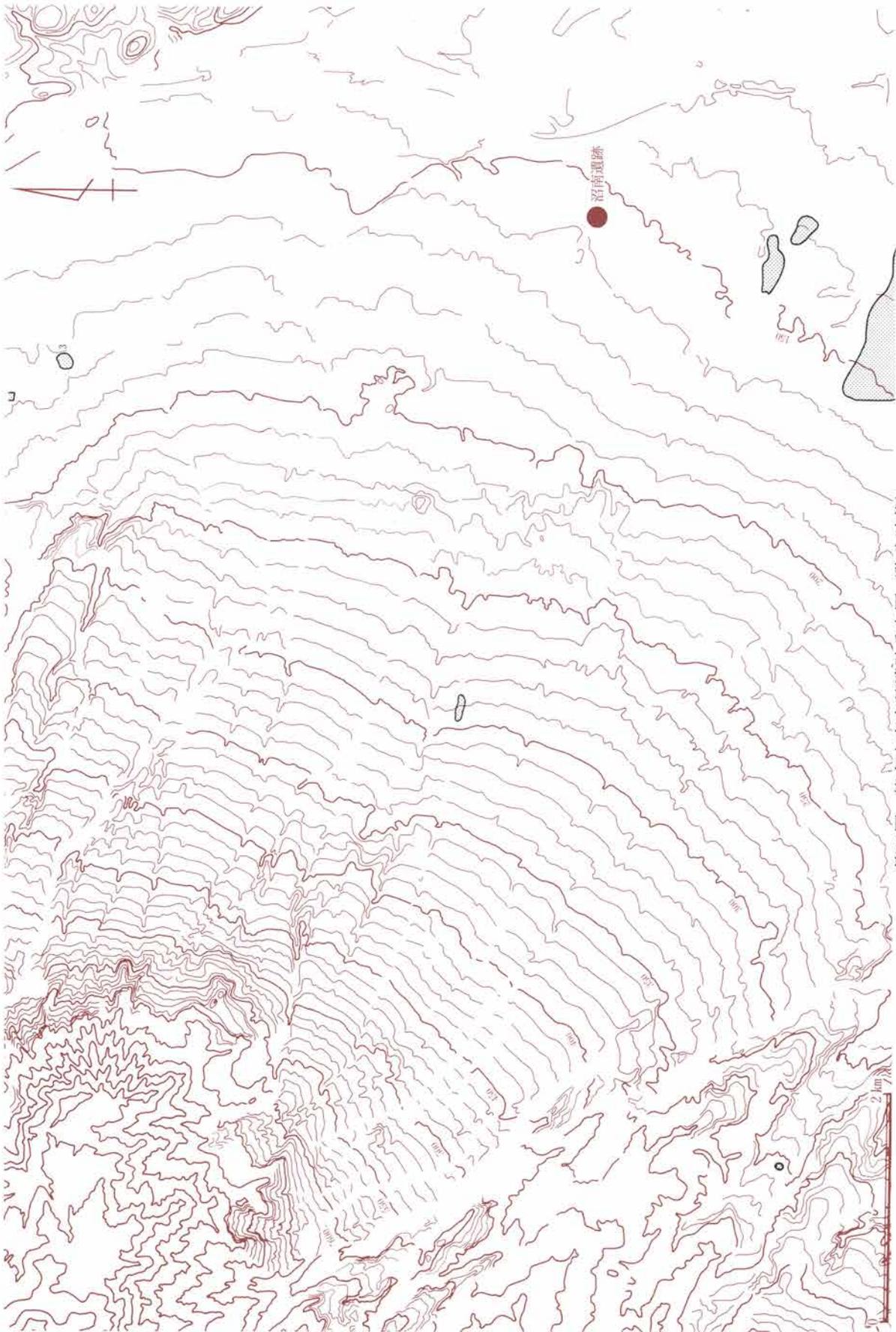
第8図 榛名山東南麓遺跡分布図

I 発掘調査の経過



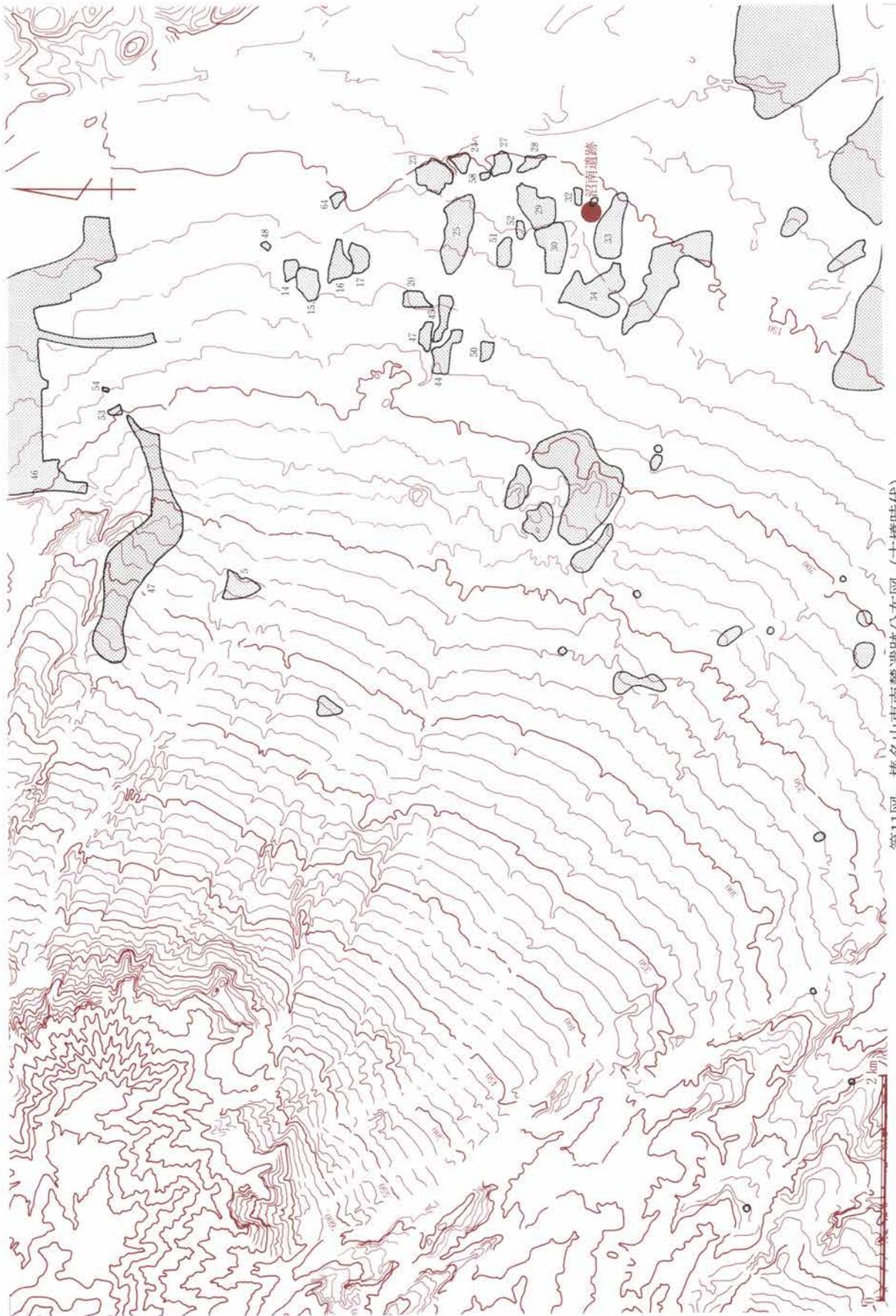
第9図 榛名山東南麓遺跡分布図（縄文時代）

4. 遺跡の立地と周辺の遺跡分布



第10図 榛名山東南麓遺跡分布図（弥生時代）

I 発掘調査の経過



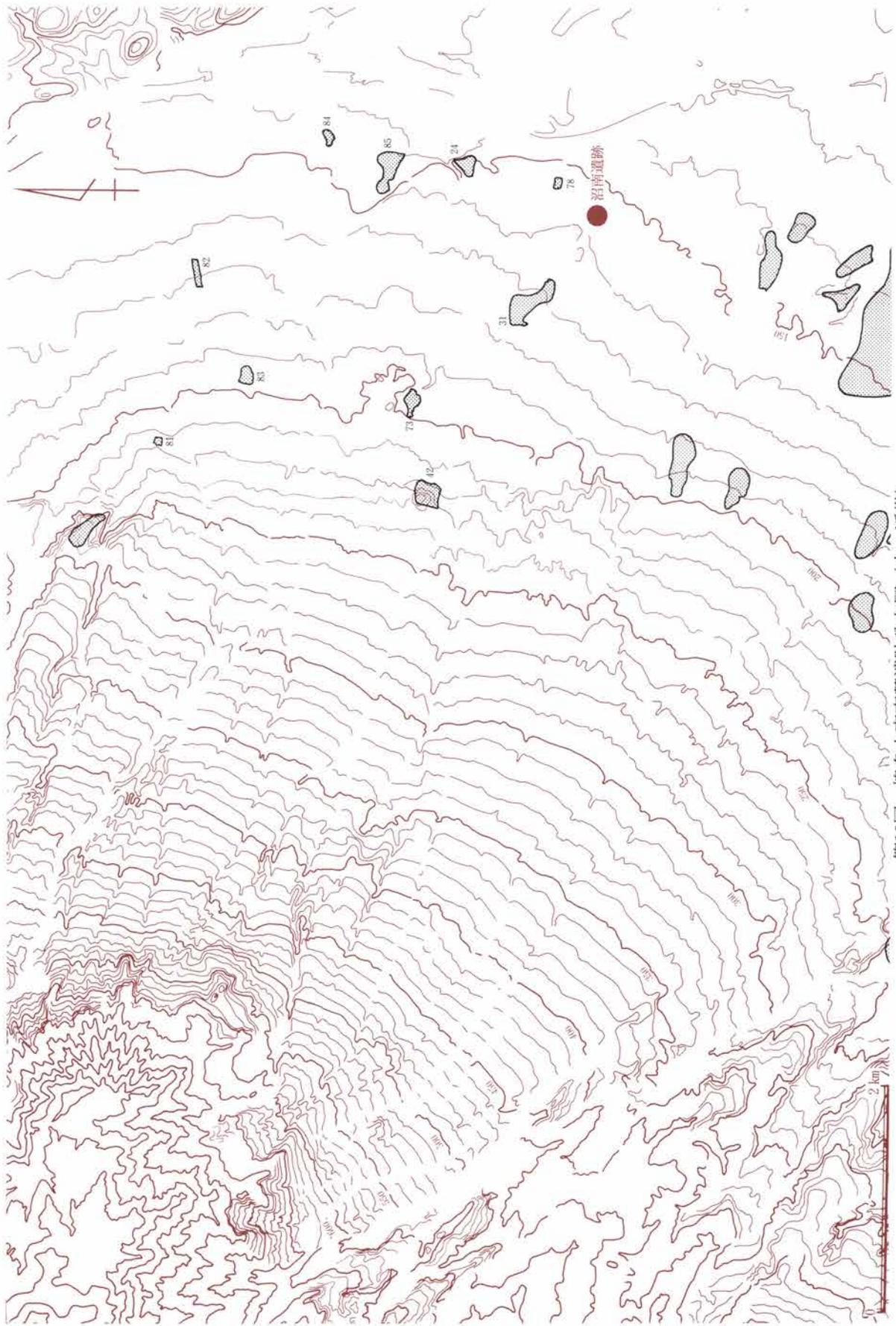
第11図 榛名山東麓遺跡分布図 (古墳時代)

4. 遺跡の立地と周辺の遺跡分布



第12図 榛名山東南麓遺跡分布図（奈良・平安時代）

I 発掘調査の経過



第13図 榛名山東南麓遺跡分布図(中・近世)

## II 検出された遺構と遺物

### 1. 縄文時代

#### (1) 遺 構

ここでは、住居跡、土坑の順に説明し、出土遺物は別にまとめた。説明順は基本的に調査時における遺構番号を重視した。土坑については遺物を主体的に出土したものや集石・焼石土坑について先行してまとめた。土坑の計測表については観察表にまとめたので参照していただきたい。

縄文時代と考えられる遺構は住居跡43軒（なお、90号住については炉跡のみの確認であり、住居でない可能性もあるが調査時のそのままの番号を使用した。）、土坑500（番号を付したものの361）基、ピット300（番号を付したものの277）基を検出した。そのうち、前期は住居跡2軒と土坑1基のみであり、大半が中期の所産と考えられる。そのあり方は調査区南端の午王頭川寄りの部分、中央西側の部分、北端西寄り部分を除く一段低い部分に集中していた。要するに遺跡のなかで高い部分を避けるように遺構は分布していたことになる。さらに極論すれば、住居跡・土坑群を一体のものとして見ると中央の高い部分を取り巻くように配置されているのが見て取れる。

住居跡と土坑の集中部は一部において重なるもののほとんどはずれるように検出された。住居跡は北部、中央部、南部と3つの地域に分けることができるが、北部住居群は土坑の集中部を取り巻くように配置される。中央部住居群は土坑群と重複しながら南北に並ぶように配置される。南部住居群は比較的まとまった範囲にかなり重複して存在する。これらの遺構配置を全体として見た場合には直径135m程の環状集落が想定できるのではなかろうかと考えた。94・108号住についてはそれぞれ後期と前期と時期が違うので排除して考えることにする。

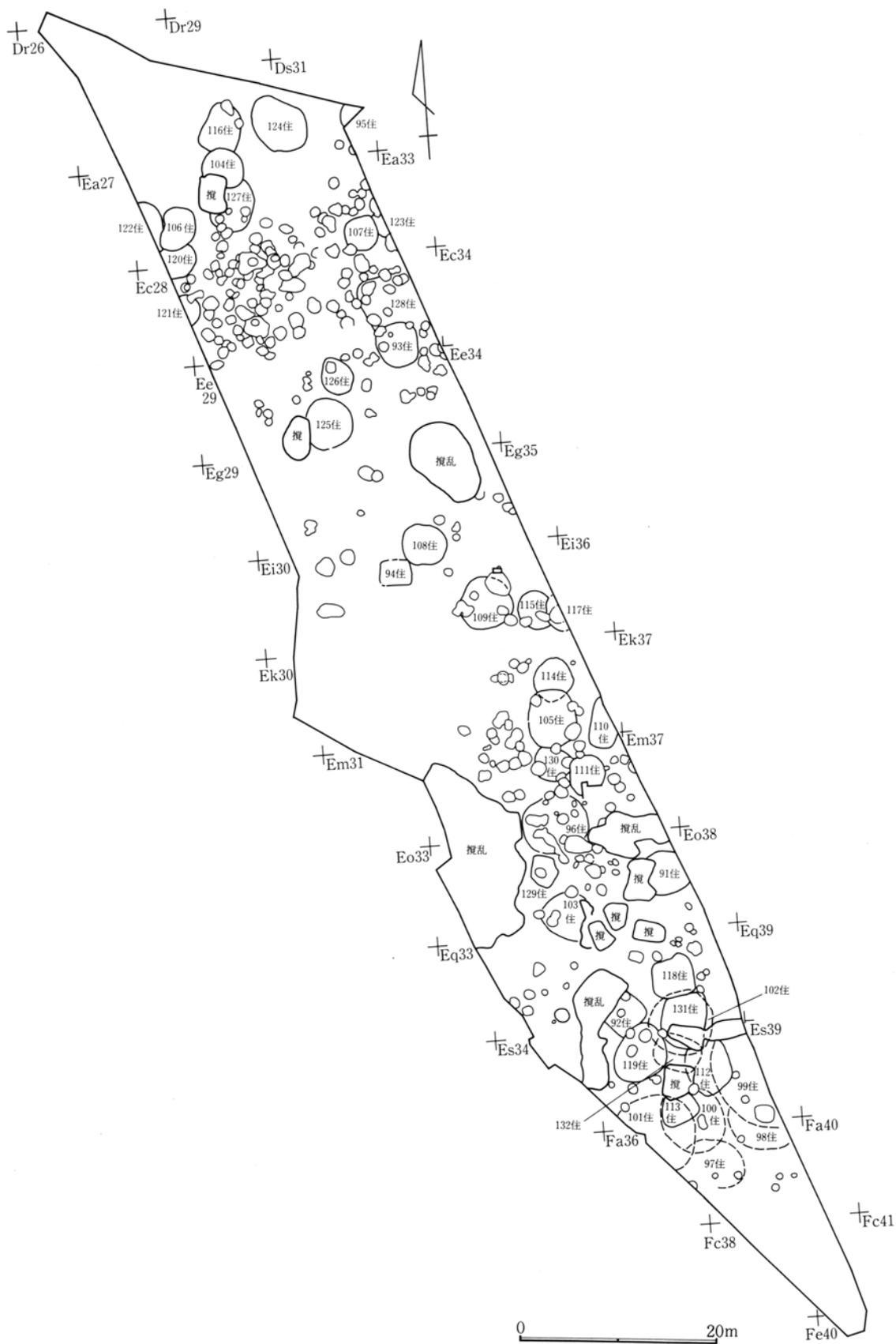
土坑も住居同様、全体としては北部、中央部、南部の3つの地域に分かれるが、南部のものは等間隔

で並ぶものは3基のみであり、それ以外は規則性は認められない。中央部土坑群は隣同士重複するものがあり、土器の型式や様相が変化しないくらいの比較的短い時間に掘られた可能性が高いものが円形もしくは楕円形に配置される状況も認められる。また、比較的直線的に配置されるものもある。土層断面を見ると柱痕はなく、木柱列や建物になる可能性は低いと考えられる。北側の集中ヶ所にほとんどの土坑が密集する。浅いもの、深いもの等様々であるが、一見するとそれらは雑然と集まっているようであるが、比較的数の少ない分かり易いところで分解すると、直径1m前後で深さ50cm前後の大形のものには径6～10mの範囲に円形もしくは楕円形に配置されるものが多いことがわかる。ここではそれを仮に環状土坑群と呼んでおきたい。こうした環状土坑群は今まであまり注目されることはなかった。しかし、そういう目で今まで報告されている縄文時代中期の遺跡を見てみるとむしろ一般的とも言える土坑のあり方のようなのである。土坑群全体としては環状にならない遺跡でもその集中ヶ所のなかをよく見てみると中央に空白部を持って環状に配置されたり、中央に空白部を持たず円形に配置されることが見て取れる例が多くある。

本遺跡では住居跡や土坑が直径135mの範囲環状に配置されることを想定したが、遺跡の西側から南側は午王頭川が流れており、また東側は現在住居や畑となっている。東側は今後開発があればこの遺跡の続きが出てくる可能性が高いが、西側はもともと現在の台地からもっと離れたところを流れていた午王頭川によってだんだん削られており想定される環状集落の全てが出てくる可能性はあまり高くない。しかし、北西側はまだ川までの距離は比較的残っているので期待はできるが。

なお、本遺跡の遺構配置については改めて「まとめと考察」のところでいくつかの縄文時代中期の遺跡と比較しながら検討してみたい。

II 検出された遺構と遺物



第14図 縄文時代遺構配置図

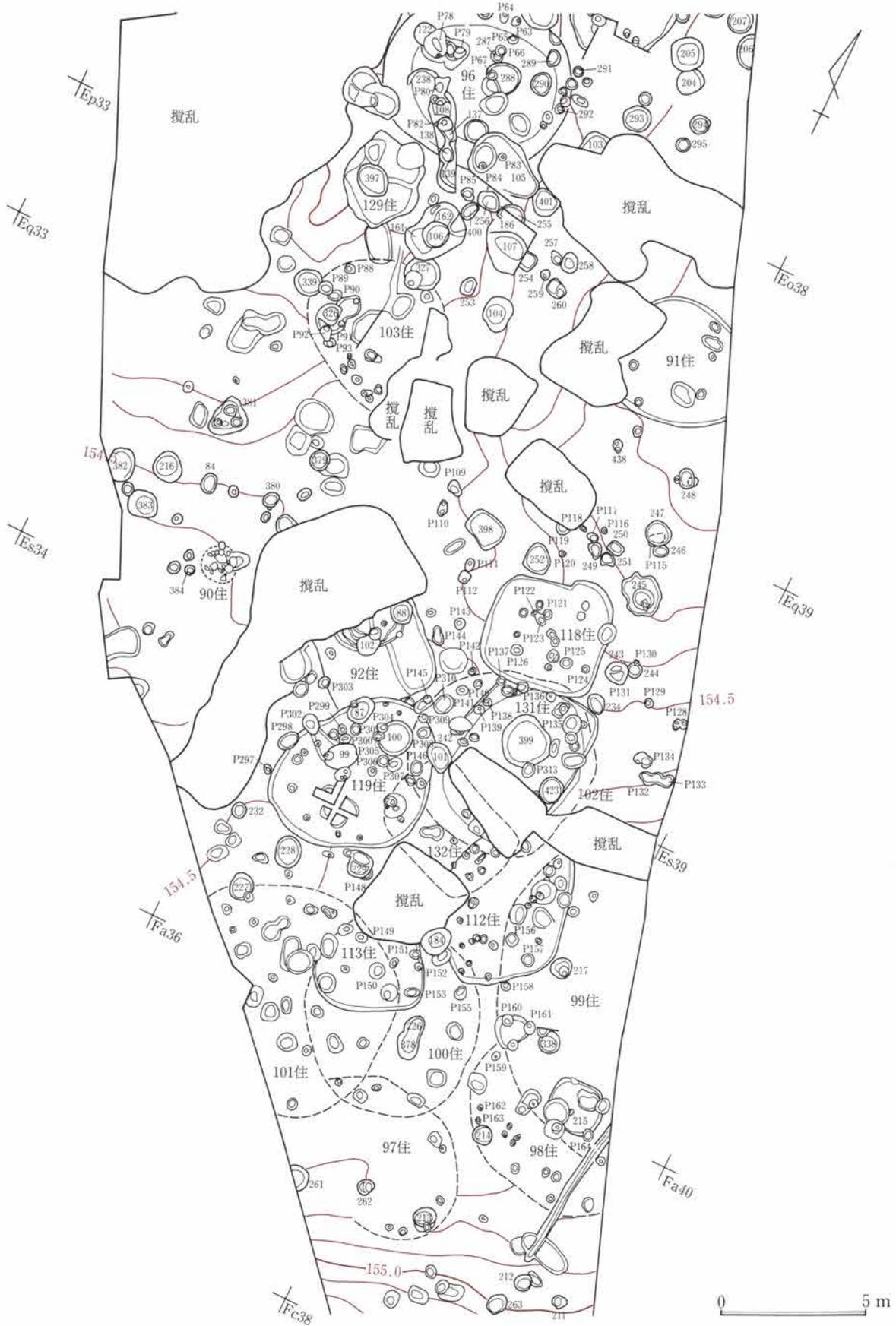


第15図 縄文時代遺構全体図(1)

II 検出された遺構と遺物

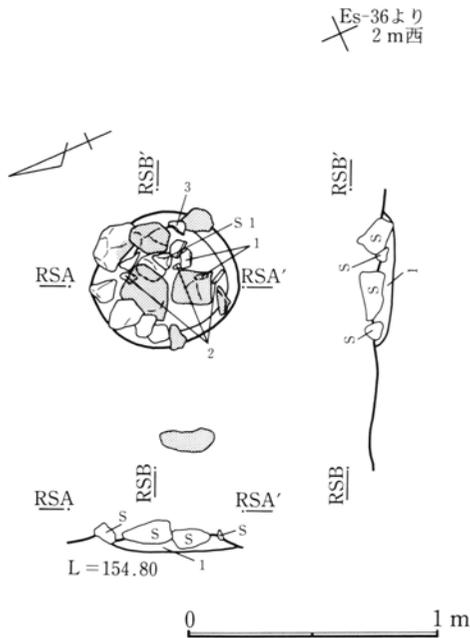


第16図 縄文時代遺構全体図(2)



第17図 縄文時代遺構全体図(3)

II 検出された遺構と遺物



第18図 90号住居跡 炉跡

a 住居跡

90号住居跡 (第18・111・155図、P L 3・49・64・108)

位置 E区 r-35 主軸方位 不明。

重複 90号住居→35号住居

規模 不明。

形状 不明。炉跡のみ確認した。周辺部について何度も丁寧に精査したが、明確な住居の掘り込みや柱穴等は確認できなかった。単独の焼石土坑の可能性も否定できない。

埋没土 不明。

掘り方 不明。

床面 不明。

周溝 不明。

柱穴 不明。

遺物出土状態 平安時代の35号住跡の掘り方調査時に検出されたものであり、本遺構の直上から平安時代の土器片等は出土したが、縄文土器等は若干しか検出されなかった。

炉跡 位置 不明。

規模 全長50cm 最大幅50cm 深さ6cm

形状 円形。

埋没土 黄褐色小粒子及び白色小粒子を多く、炭化物粒子少量含む暗褐色土である。

遺存状態 あまり良好ではなかった。大小の角礫が寄せ集められている感じであり、掘り込みもあまり明瞭ではなく浅いものであった。むしろ浅く窪めたところに焼け石を置いたようにも見える。

遺物出土状態 炉跡内部及びその周辺からは本遺構に伴うと考えられる土器片等は検出されなかった。構成されている礫は焼けており、黒変あるいは赤変していた。

備考 時期判定に使用できる遺物は多くはなかったが、他の遺構や層位等からも中期中葉と考えられる。

91号住居跡 (第19・111・155図、P L 3・64・108)

位置 E区 o・P-37・38 主軸方位 N76°E

重複 無し。

規模 縦(4.85)m×横4.40m×深さ0.30m

形状 楕円形

埋没土 黄褐色小粒子及び白色小粒子・炭化物を多く、黄褐色土ブロックを多く含む黒褐色～暗褐色土である。下部の方が茶褐色土を多く含む黄色味を帯びる。

床面 貼り床無し。やや凹凸を持つが、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

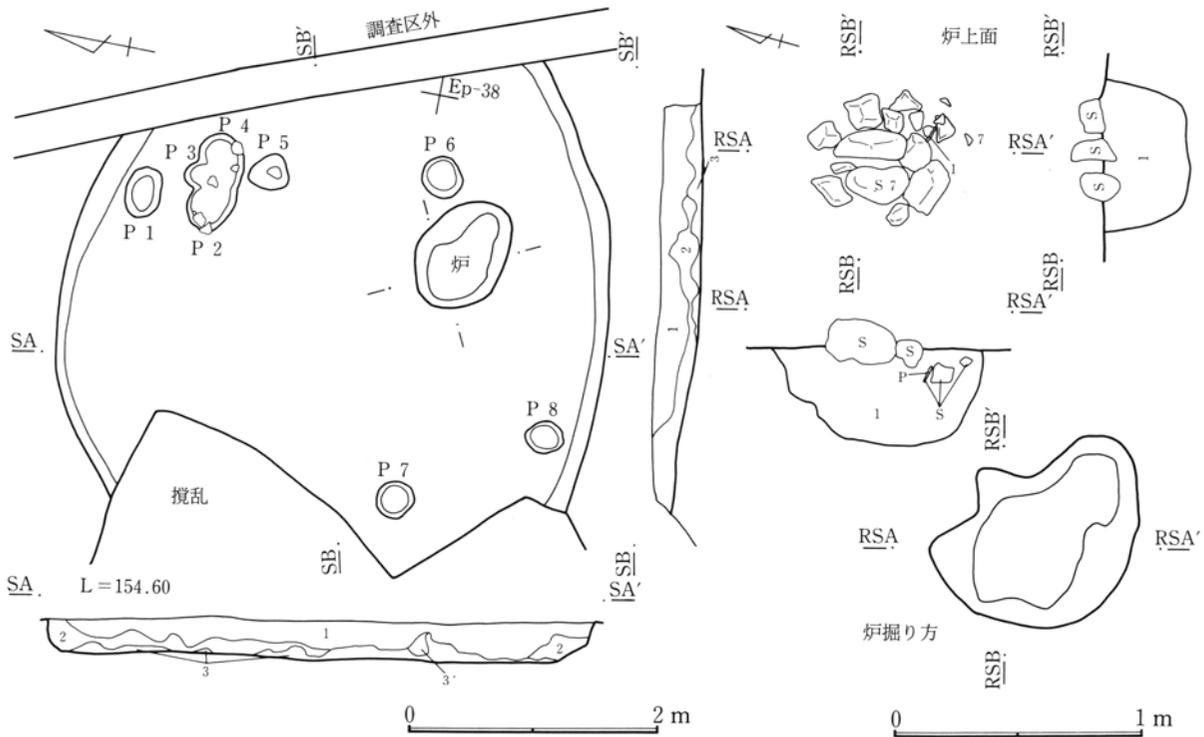
柱穴 壁周辺を廻ると言うよりも、数本程度の主柱穴と補助的な柱が建つものと考えられる。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
直径 cm	40	45	40	35	30	30	30	30
深さ cm	12	11	13	11	20	12	4	7

遺物出土状態 重複する柱穴のP 2側から土器片が、P 4側から石器が出土した。埋没土中からも若干の縄文中期土器片が出土している。

炉跡 位置 中央よりやや南寄り

規模 全長90cm 最大幅70cm 深さ40cm



第19図 91号住居跡

**形状** 不定形な楕円形

**埋没土** 黄褐色小粒子及び白色小粒子を多量に含む暗褐色土である。

**遺存状態** 比較的良好であった。90号住の炉跡とは違い、掘り方は深く断面で見ると礫は上面に寄せ集められたようであり、配置としては小さな角礫をまわりに置いて中心に大きな円礫を置いたようにも見える。壁が焼けていたり、焼土粒子や炭化物粒子等は明瞭には確認できなかった。

**遺物出土状態** 焼けた礫と礫の間から縄文中期土器片91住1が出土した。断面で見ると比較的下の方からも土器片は出土しているので、礫と一緒にそこに置かれた可能性が高い。

**備考** 縄文時代中期中葉頃と考えられる。

92号住居跡 (第20・80・81・111・112・156～159図、P L 4・49・64・65・108・109)

**位置** E区 r-36・37、s-36 **主軸方位** N39°E

**重複** 92号住居→102号集石土坑、87号集石土坑

**規模** 縦(3.10)m×横3.90m×深さ0.45m

**形状** 隅丸方形。中央部が窪む。

**埋没土** にぶい黄褐色土ブロックを少量含む暗褐色土である。

**掘り方** 黄褐色土ブロックをごく多量に含む暗褐色であり、比較的良くしまっていた。

**床面** 貼り床無し。床面はやや凹凸を持つが、比較的良くしまっていた。中央部及び北側が若干窪む。

**貯蔵穴** 位置 不明。

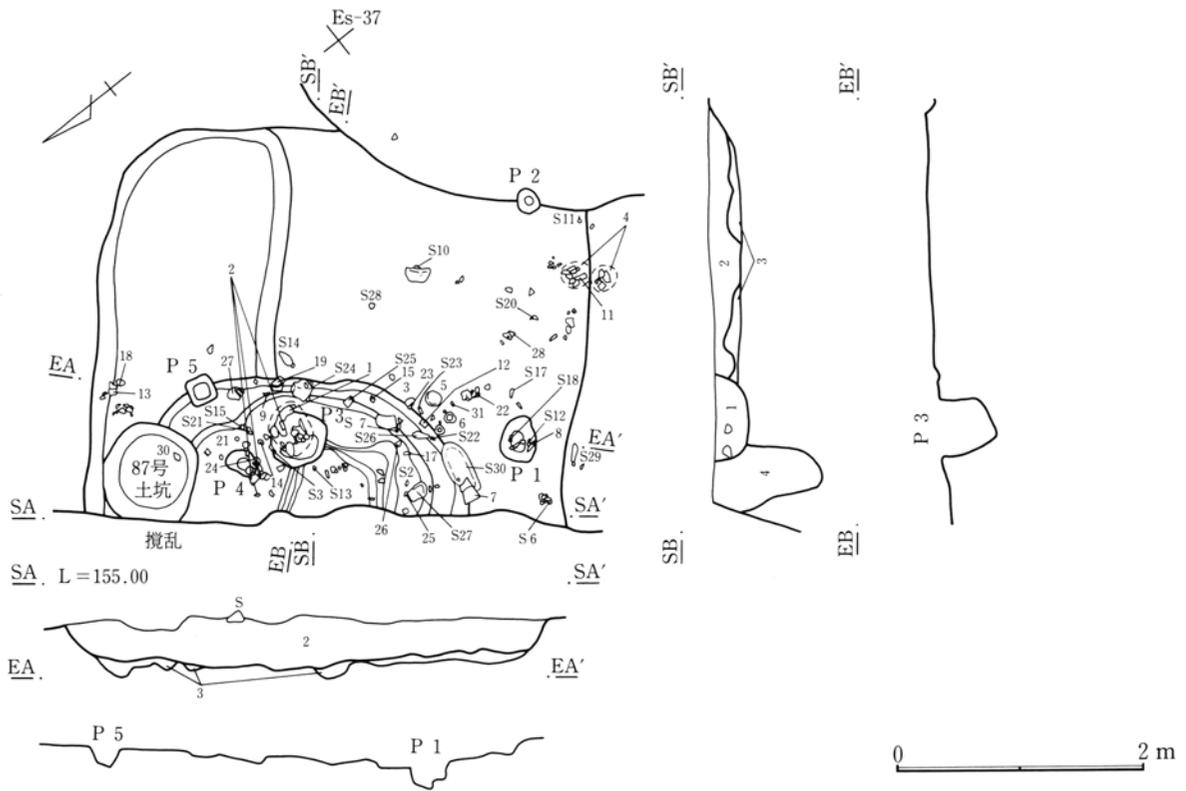
**周溝** 無し。

**柱穴** 柱穴と考えられるものはP1～P5まで5箇所あり、P5だけ方形を呈する。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
直径 cm	35	20	48	24	22
深さ cm	18	15	45	16	21
形状	楕円形	円形	楕円形	楕円形	方形

**遺物出土状態** 北東部を除き、ほぼ全体から出土した。南東部や中央部の窪み周辺に集中箇所が見られる。レベル的には床面に貼り付いたものよりもやや浮いたものの方が多かった。多量の縄文土器だけでなく、多くの石器や大形の円礫等も出土した。

II 検出された遺構と遺物



第20図 92号住居跡

**炉跡** 位置 不明。ほとんど残っていなかったが、中央部よりやや北寄りの102号土坑脇の可能性もある。しかし、明瞭な焼土等は確認できなかった。

**遺存状態** 良好ではなかった。

**遺物出土状態** 102号土坑北東から、焼町タイプの口縁部と底部を欠損した深鉢（92住1）が出土した。

**備考** 中期中葉のものと考えられる。

93号住居跡（第21・112・160図、P L 3・65・109）

**位置** E区 d・e-32・33 **主軸方位** N77°E

**重複** 132・142・376・377号土坑

**規模** 縦4.50m×横4.30m×深さ0.05m

**形状** 隅丸台形

**埋没土** 白色小粒子多量、黄褐色小粒子少量含む暗褐色土である。

**床面** 貼り床無し。若干の凹凸を持つが、比較的平坦であった。比較的良くしまっていた。

**貯蔵穴** 位置 不明。

**周溝** 無し。

**柱穴** 東壁側を除き、直径約30cm前後、深さ約10cm前後の浅い小ピットが配置される。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10
直径 cm	30	28	40	(25)	30	30	20	40	37	43
深さ cm	7	9	7	5	4	5	8	10	13	17

**遺物出土状態** P 8内から縄文土器片が若干出土したが、その他には炉跡を除き遺物は出土しなかった。

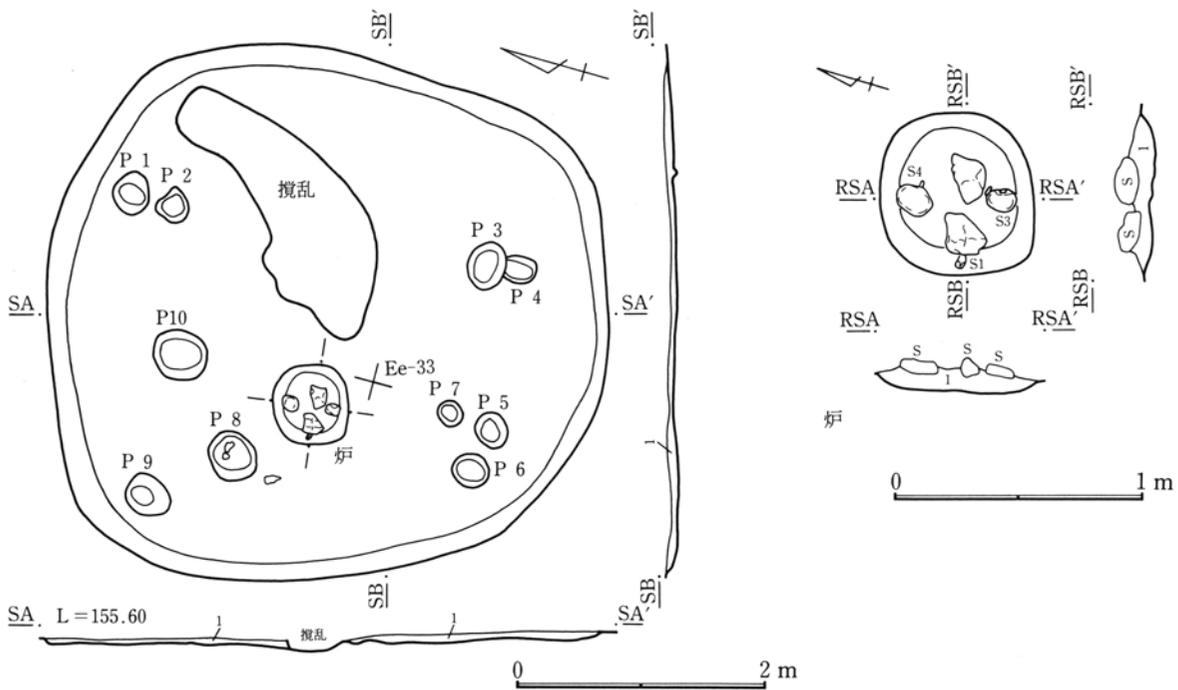
**炉跡** 位置 中央部よりやや西寄り

**規模** 全長65cm 最大幅60cm 深さ10cm

**形状** ほぼ円形、皿状に浅く窪む。

**埋没土** 黄褐色小粒子をやや多く、白色小粒子多く、焼土粒子微量含む暗褐色土であり炭化物片はほとんど含まない。

**遺存状態** やや良好。浅い皿状の窪みを持ちその東と西に角礫を、南北に93住4の磨石、93住3の敲石を各1点ずつ配置したような状態で検出された。角礫、石器ともに焼けて赤変していた。



第21図 93号住居跡

**遺物出土状態** 炉内の南北から1点ずつの磨石、敲石が出土した。掘り方から約5～6cm程浮いた状態であった。

**備考** 小破片のみで判然とはしない面もあるが、中期中葉と考えられる。

く全体として南側が開く台形となる。P 3の真中には角礫が入っていた。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4
直径 cm	30	30	40	20
深さ cm	14	14	23	4

**94号住居跡** (第22・81・112・161図、P L 3・49・65・109)

**位置** E区 i-32・33 **主軸方位** N90°E

**重複** 167号土坑

**規模** 縦3.20m×横2.70m×深さ0.15m

**形状** 長方形に近い台形、上部は削平されており浅かった。

**埋没土** 黄褐色小粒子及び白色小粒子を微量含む茶褐色土である。ローム漸移層に近い感じである。

**床面** 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、あまり硬くしてはいなかった。

**貯蔵穴** 位置 不明。

**周溝** 無し。

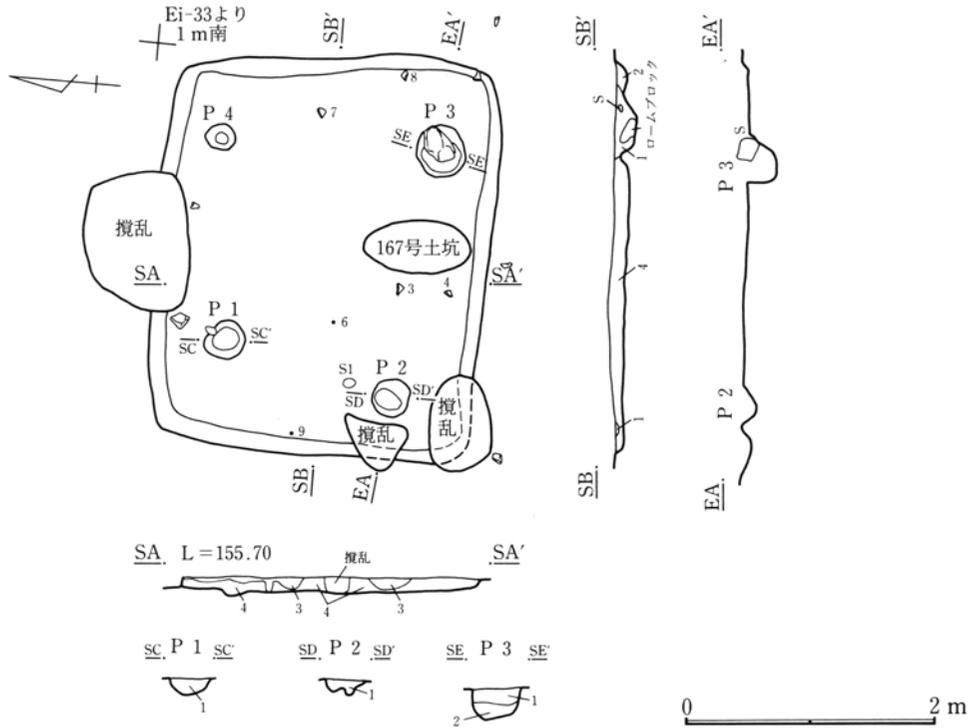
**柱穴** 北側の2本の間が狭く、南側の2本の間が広

**遺物出土状態** ほぼ全体から散在的に破片の状態で出土したが、量的には後期よりも中期の方が多かった。周辺からはグリッドで取り上げた後期破片も多く出土しており、本来は本住居跡にあったものが後世の攪乱により散乱したものと考えられる。

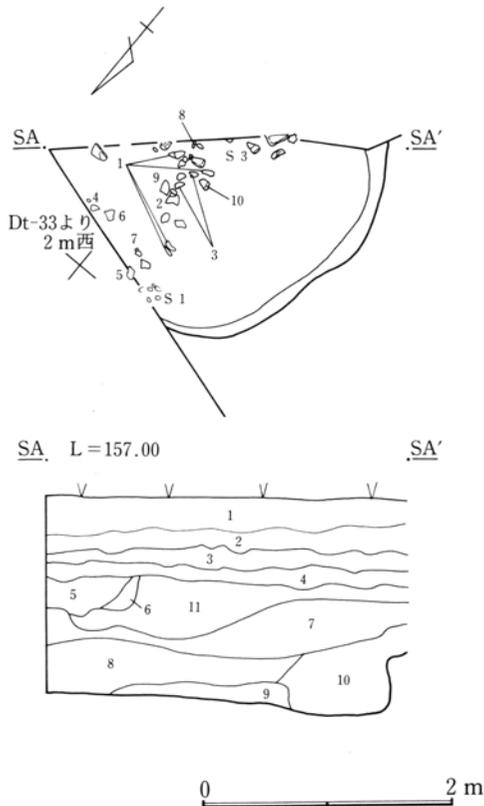
**炉跡** 位置 不明。床面を精査したが、焼土粒子や炭化物の集中する箇所は認められなかった。

**備考** 出土遺物は中期破片が多いが、後期と考えられる。

II 検出された遺構と遺物



第22図 94号住居跡



第23図 95号住居跡

95号住居跡 (第23・81・112・161図、P L 3・65・110)

位置 D区 t-32 主軸方位 N47°E

重複 無し。

規模 縦 (2.70) m×横 (1.60) m×深さ0.40m  
形状 楕円形か?一部のみの調査であり全体は不明。

埋没土 白色小粒子・黄褐色小粒子多量、総社砂層ブロックを含む茶褐色～暗褐色土である。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、特別に硬くしまってはなかった。

貯蔵穴 位置 不明。

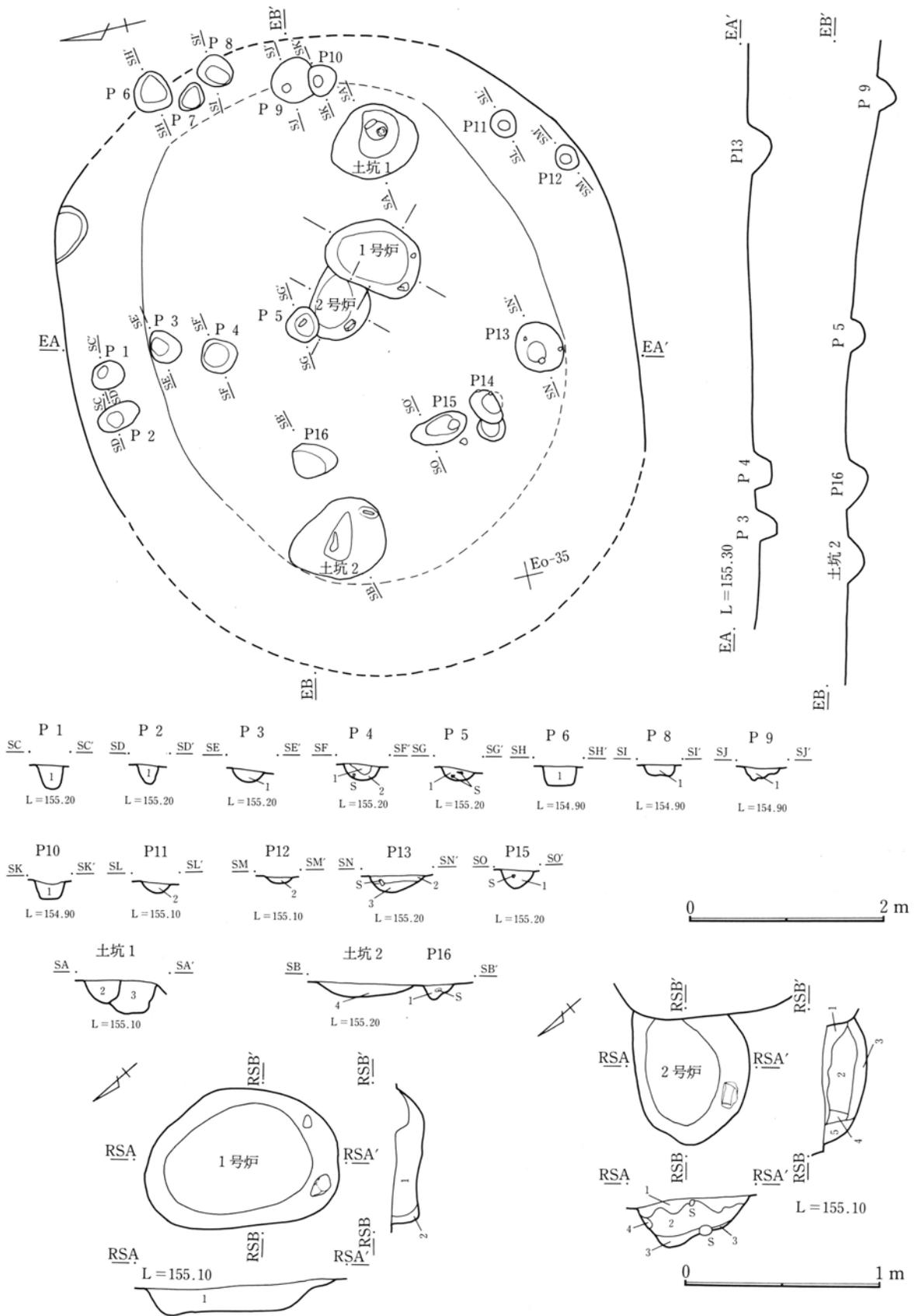
周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 調査部分の北東部、住居の中心に近い部分から多量の中期土器片及び石器が出土したが、住居の床面に貼り付いたものよりもやや浮いたものが多かった。周辺部の壁に付いたものは少なかった。

炉跡 位置 不明。

備考 中期中葉のものと考えられる。



第24图 96号住居跡

II 検出された遺構と遺物

96号住居跡（第24・112図、P L 5・65）

位置 E区 n・o-34・35・36 主軸方位 N95°W

重複 105・108・122・137・138・238・286・287・288・289・290・292・419・441号土坑

規模 縦6.70m×横6.00m×深さ0.15m

形状 楕円形。住居プランを確認した際には、炉跡を囲んでドーナツ状に黒い部分がありその中に小ピットも認められた。

埋没土 不明。

床面 貼り床無し。確認時点で床面まで出ているものと判断した。ほぼ平坦であるが、やや東側は下がる傾向にある。特に硬くしまつてはいなかった。

貯蔵穴 位置 不明。住居の東寄りに長径約90cm、短径約80cm、深さ約32cmの楕円形の土坑、西寄りに長径約100cm、短径約85cm、深さ約25cmの楕円形の土坑がある。これらはその可能性もある。

周溝 無し。

柱穴

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
直径 cm	35	45	30	35	33	40	28	35	40
深さ cm	15	27	28	25	16	21	17	21	17
柱穴 No.	P 10	P 11	P 12	P 13	P 14	P 15	P 16		
直径 cm	30	27	27	50	35	60	50		
深さ cm	20	14	8	18	30	27	22		

遺物出土状態 プラン確認時等に若干の縄文中期土器片が出土しているが、本住居跡に伴うものかどうかは難しいところである。

炉跡 位置 中央部やや東寄りに2基の炉跡を検出した。1号炉跡が2号炉跡よりも新しい。

1号炉

規模 全長100cm 最大幅70cm 深さ15cm

形状 楕円形

埋没土 焼土ブロック・粒子をやや多く、白色小粒子多く含む暗褐色土。しまりは弱い。

2号炉

規模 全長70cm 最大幅60cm 深さ23cm

形状 楕円形

埋没土 1号炉跡とほぼ同じだが、炭化物粒子少量

含む。

遺存状態 地面を掘り窪めた地床炉であり、石組の痕跡を示す小ピット等は検出されなかった。ほとんど焼土が残らない炉跡が多い中ではっきりと焼土が確認されたので比較的良好であると言える。

遺物出土状態 1号炉跡、2号炉跡とも少量の礫は出土したが土器片、石器等は出土しなかった。

備考 柱穴の配置や住居プランの形状から中期後半と考えられる。

97号住居跡（第25図、P L 5）

位置 F区 a・b-37・38 主軸方位 N55°W

重複 100・101号住居、213・262号土坑

規模 縦6.30m×横（4.50）m×深さ0.20m

形状 楕円形

埋没土 柱穴のみを確認しただけであり、埋没土は削平されており残っていなかった。

床面 不明。床面も削平されており、残っていなかった。確認面では西側に傾斜していた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 不明。

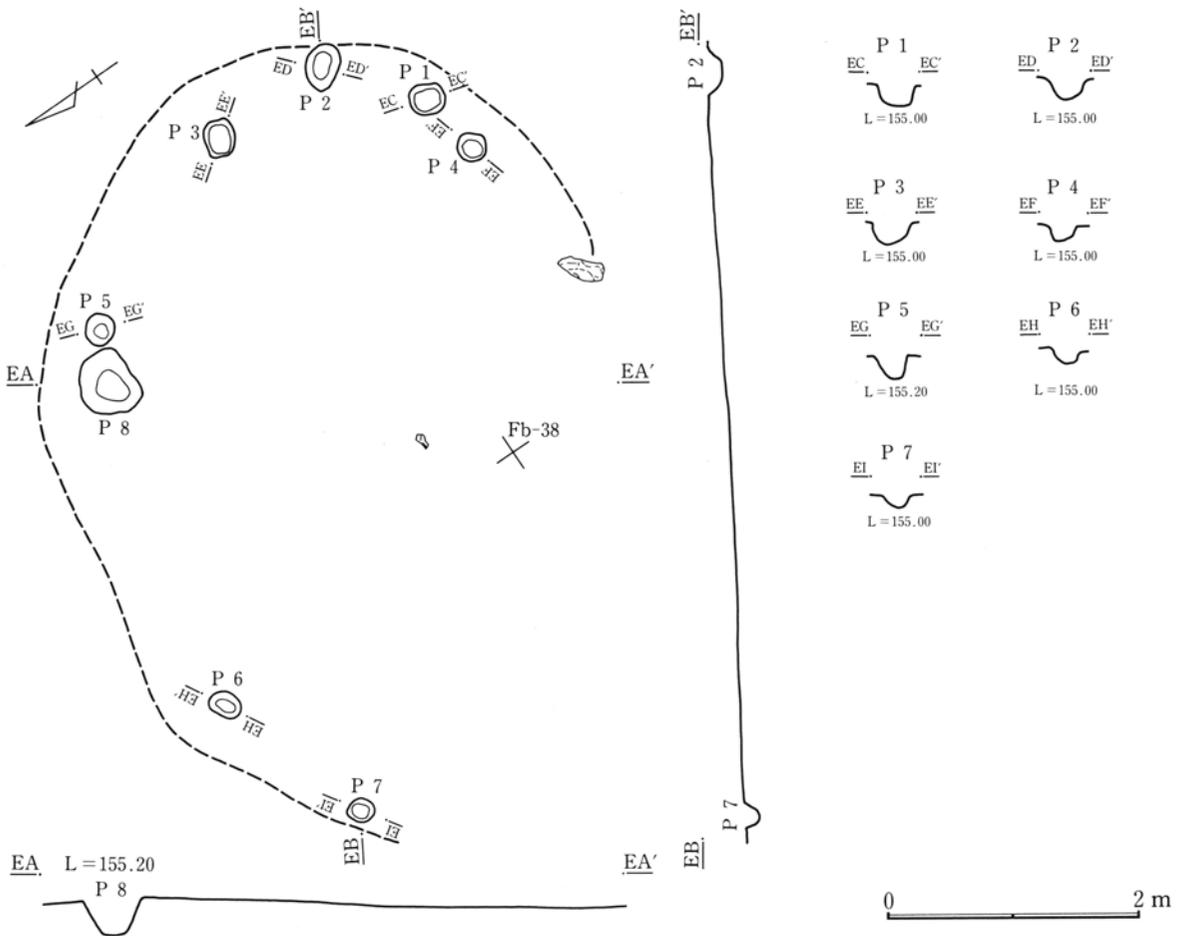
柱穴 壁そのものは確認できなかったが、壁周辺を廻るものと思われる。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
直径 cm	30	37	30	25	25	25	20	53
深さ cm	17	12	20	13	19	11	11	25

遺物出土状態 グリッドで取り上げた遺物は若干の小破片等があるものの、明らかに本住居跡に伴うものはなかった。

炉跡 位置 不明。焼土粒子がある場所や炭化物粒子が集中する箇所は確認できなかった。

備考 柱穴の配置等より中期後葉のものと同量される。



第25図 97号住居跡

98号住居跡 (第26図、P L 5)

位置 E区 t・f区 a-38・39 主軸方位 N67°W

重複 99号住居と214号土坑があるが新旧関係は不明である。

規模 縦 (6.60) m×横 (4.00) m×深さ0.01m

形状 楕円形。柱穴配置から推定した。

埋没土 不明。

床面 不明。床面は検出できなかったが、確認面では北側にやや傾斜していた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 不明。

柱穴 壁周辺を廻るものと考えられる。99号住と重複するものは、どちらに属するか判別が困難なものもあった。

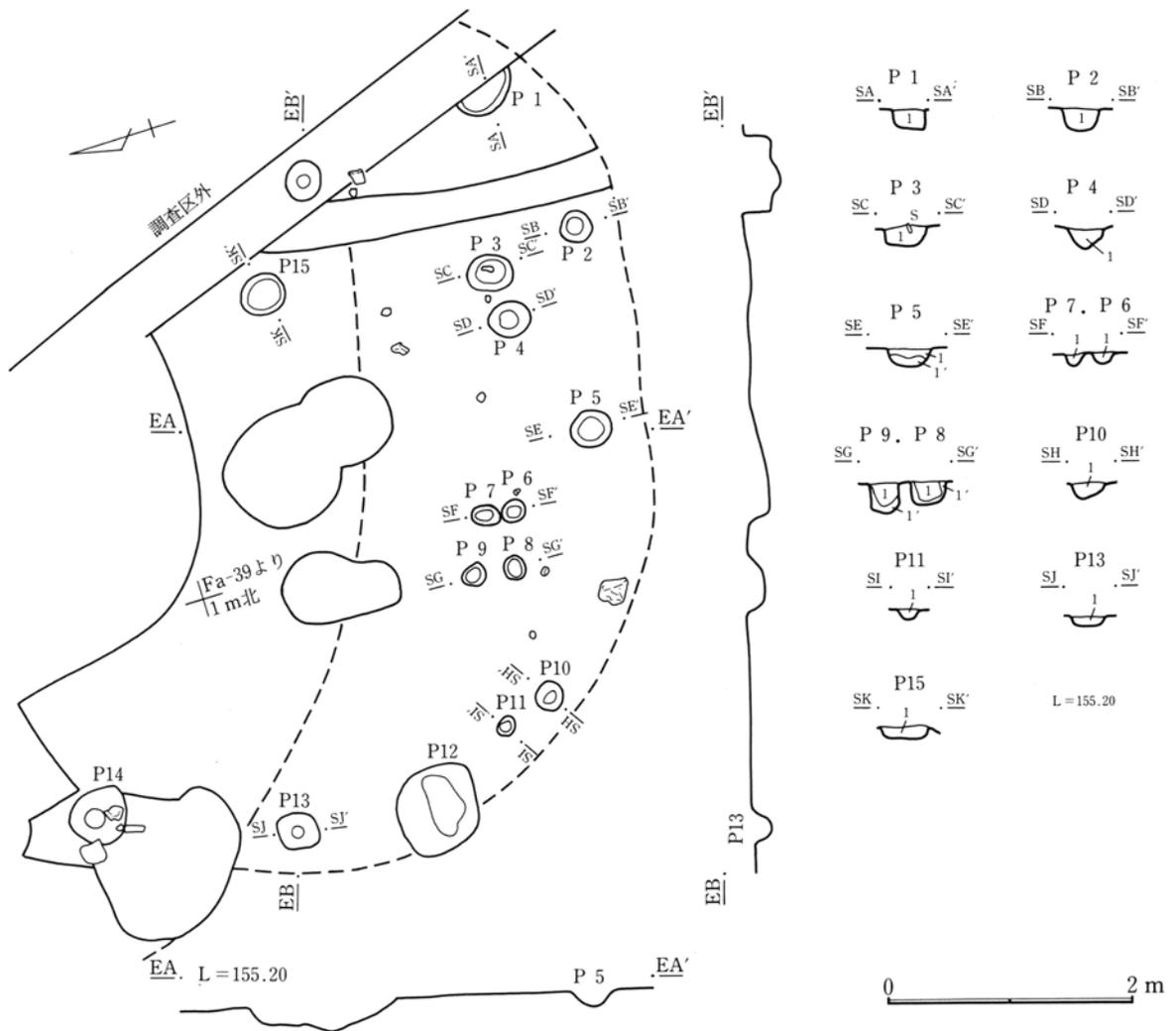
柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
直径 cm	48	25	35	30	30	20	25	20	20
深さ cm	21	17	17	18	12	9	12	19	26
柱穴 No.	P 10	P 11	P 12	P 13	P 14	P 15			
直径 cm	25	16	80	35	48	35			
深さ cm	18	8	22	16	37	9			

遺物出土状態 柱穴内より中期後葉の土器片が若干出土した。グリッドで取り上げた若干の土器片があったが、本住居跡に伴うものかどうかは判別できなかった。

炉跡 位置 不明。柱穴確認面で精査したが検出できなかった。

備考 柱穴内の遺物や柱穴の配置より中期後葉のものと推定した。

II 検出された遺構と遺物



第26図 98号住居跡

99号住居跡 (第27・81図、P L 5・49)

位置 E区t・F区a-38・39 主軸方位N18°W

重複 112号住居→99号住居→98号住居、215・217・338号土坑→25・26・27号住居

規模 縦(10.00)m×横4.70m×深さ0.01m

形状 楕円形。柱穴配置から推定した。推定が正しければ、本集落ではかなり大形の住居跡になる。

埋没土 不明。

床面 不明。床面は検出できなかったが、確認面では北側にやや傾斜していた。

貯蔵穴 位置 不明。次の2基の土坑がある。1号土坑は長径約70cm、短径約65cm、深さ約10cmの楕円形、2号土坑は径約90cm、深さ約12cmの円形を呈する。

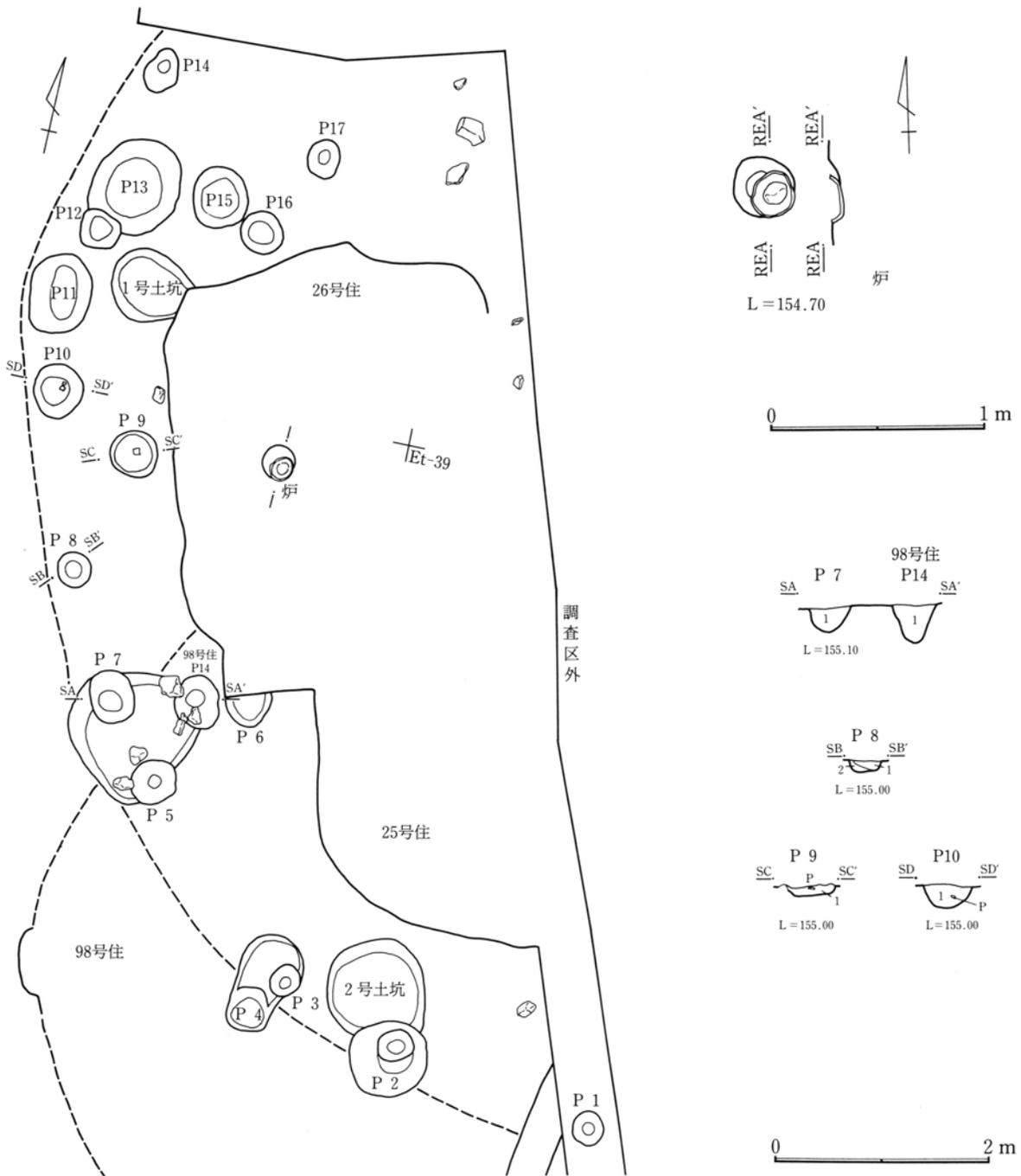
周溝 不明。

柱穴 壁の周辺を廻るものと考えられる。98号住と重複するものはどちらに属するか判別が困難なものもあった。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
直径 cm	30	30	30	40	45	45	45	30	44
深さ cm	6	27	19	21	33	15	25	11	10
柱穴 No.	P 10	P 11	P 12	P 13	P 14	P 15	P 16	P 17	
直径 cm	48	72	35	90	40	55	48	35	
深さ cm	23	40	35	39	42	24	23	22	

遺物出土状態 柱穴内から若干の中期後葉のものを主体とする土器片と石器類及び礫が出土した。

炉跡 位置 住居跡の中心よりやや西寄り。



第27図 99号住居跡

**規模** 全長30cm 最大幅30cm 深さ6cm

**形状** ほぼ円形、皿状に浅く窪む。

**埋没土** 焼土粒子、炭化物粒子を含む暗褐色土であった。

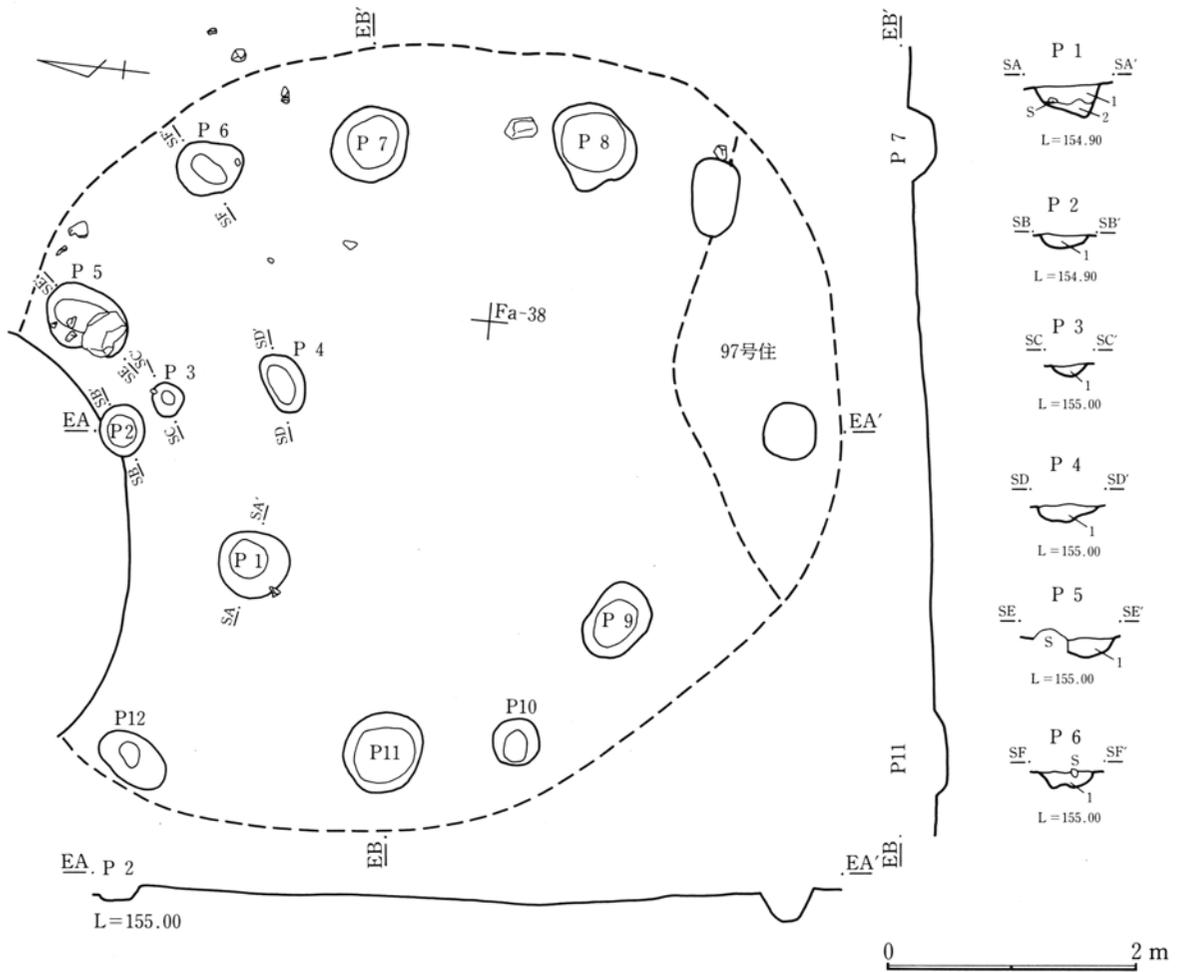
**遺存状態** あまり良好ではなかった。直上まで26号住で壊されていた。床面よりはさがっているものと

思われる。床面を若干掘り窪めて、そこに土器の下半部を据えた埋甕炉と考えられる。礫は使用されていなかった。

**遺物出土状態** 比較的大形で厚手の土器底部が中心よりもやや南寄りに据えられたように出土した。

**備考** 中期後葉のものと考えられる。

II 検出された遺構と遺物



第28図 100号住居跡

100号住居跡 (第28図、P L 5)

位置 E区 t・f区 a-37・38 主軸方位 N47°W

重複 112・113号住居→100号住居→184号土坑

97・101号住居、226・378号土坑との新旧関係は不明である。

規模 縦 (7.30) m×横6.10m×深さ0.20m

形状 楕円形。柱穴配置から推定した。

埋没土 不明。

床面 不明。床面は検出できなかったが、確認面では北側にやや傾斜していた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 不明。

柱穴 壁周辺を廻るものと考えられる。97号住と重複する部分にある柱穴はどちらに属するか判別は難

しいものであった。

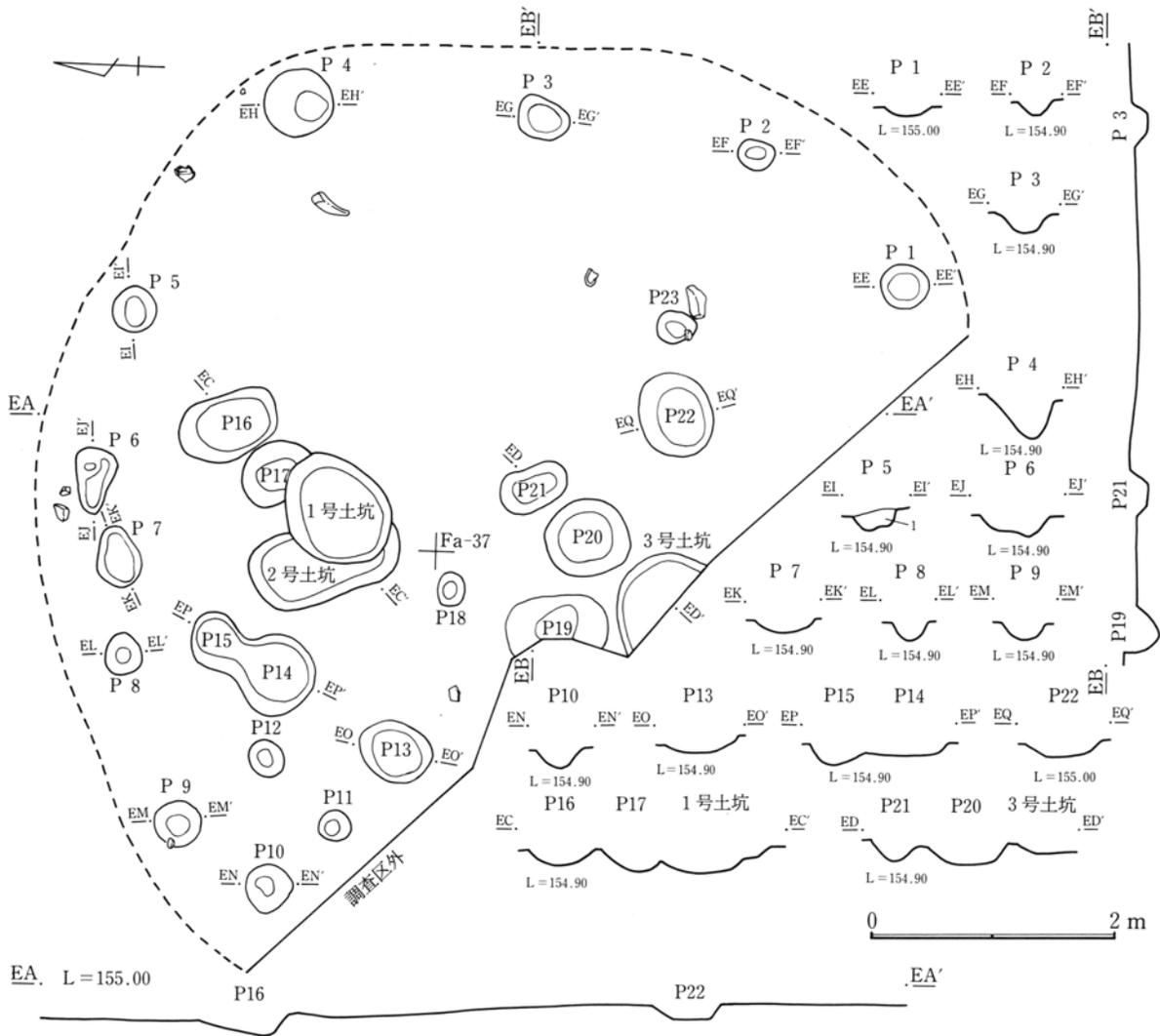
柱穴No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10	P 11	P 12
直径cm	55	38	28	47	70	50	65	70	65	40	65	55
深さcm	29	11	15	16	18	22	22	39	9	13	9	25

遺物出土状態 柱穴内から角礫や若干の土器片が出土している。その他にグリッドで取り上げた土器片や石器類がある。

炉跡 位置 不明。柱穴確認面で精査したが検出できなかった。

備考 柱穴内の遺物や柱の配置から中期後葉のものと推定した。

1. 縄文時代



第29図 101号住居跡

101号住居跡 (第29図、P L 5)

位置 E区 t・f区 a-36・37 主軸方位 N46°W

重複 113号住居→101号住居

97・100号住居、227号土坑との新旧関係は不明である。

規模 縦8.45m×横5.50m×深さ0.20m

形状 楕円形。柱穴配置から推定した。

埋没土 不明。

床面 不明。床面は検出できなかったが、確認面では北側にやや傾斜していた。

貯蔵穴 位置 不明。次の3基の土坑がある。1号土坑長径約95cm、短径約80cm、深さ約19cmの楕円形、2号土坑長径約120cm、短径約60cm、深さ約10cmの長方

形、3号土坑径約98cm、深さ約21cmの円形を呈する。周溝 不明。

柱穴 壁周辺を廻るものと考えられる。中のピットについては柱穴かどうかの判別は難しい。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
直径 cm	40	30	40	55	37	55	48	33	35
深さ cm	6	13	15	37	17	15	6	17	13
柱穴 cm	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18
直径 cm	37	25	30	60	60	45	80	60	27
深さ cm	17	10	10	11	11	15	14	18	8
柱穴 No.	P19	P20	P21	P22	P23				
直径 cm	80	65	55	70	30				
深さ cm	31	23	16	14	9				

II 検出された遺構と遺物

**遺物出土状態** 柱穴内からほとんど遺物は出土しなかったが、グリッドで取り上げた中に若干の土器片及び石器類がある。本住居跡に伴うものかどうかの判別はできなかった。

**炉跡** 位置 不明。柱穴確認面で精査したが、検出できなかった。

**備考** 柱穴の配置等から中期後葉のものとして推定した。

102号住居跡 (第30・113・161図、P L 5・66・110)

**位置** E区 r・s-37・38 **主軸方位** N15°E

**重複** 119号住居→131・132号住居・101・399号土坑  
→102号住居→423号土坑

**規模** 縦6.60m×横6.35m×深さ0.14m

**形状** 楕円形。地山よりやや暗い部分及び柱穴配置より推定した。

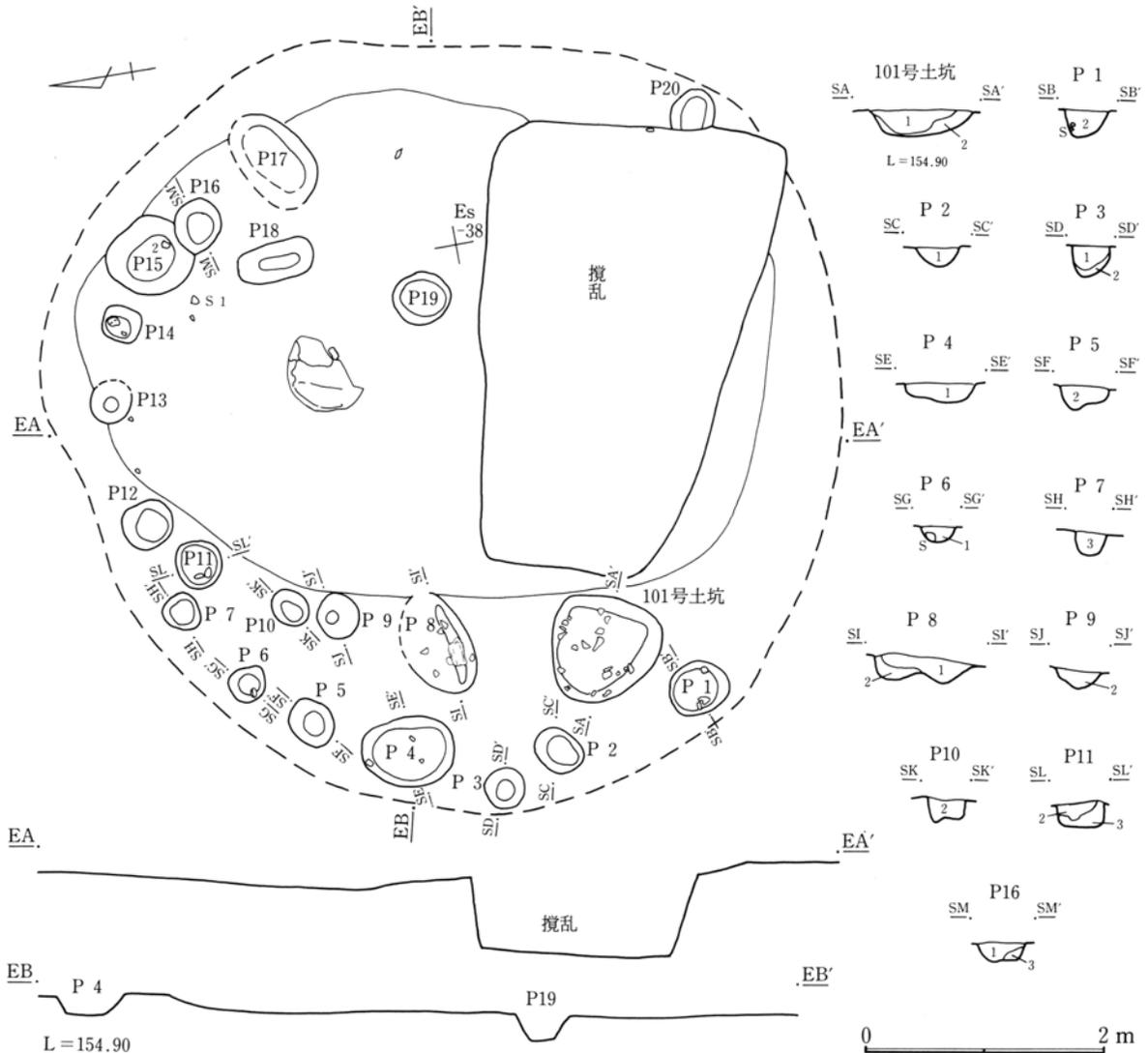
**埋没土** 不明。

**床面** 不明。床面は検出できなかったが、確認面が床面に近いものと思われる。確認面は北、東側に若干傾斜していた。

**貯蔵穴** 位置 不明。西部に長径約93cm、短径約90cm、深さ約25cmの楕円形を呈し、中期後葉の土器片を多く出土した101号土坑がある。

**周溝** 不明。

**柱穴** 壁の周辺を廻るものと考えられるが、西側では2重に検出されたが南東側ではほとんど確認できなかった。



第30図 102号住居跡

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10
直径 cm	53	43	34	75	40	30	32	80	35	40
深さ cm	28	27	29	15	22	16	20	20	26	24
柱穴 No.	P 11	P 12	P 13	P 14	P 15	P 16	P 17	P 18	P 19	P 20
直径 cm	40	40	34	30	60	40	85	60	50	35
深さ cm	17	11	7	14	16	19	15	23	21	19

**遺物出土状態** 破線の住居推定範囲内により小破片であるが、中期後葉の土器片を主体とする遺物が出土した。101号土坑や柱穴内からも同様の破片や石器類が検出された。中央の大形の石皿は本住居跡の時代も131号住の時から引き続いて使用されていた可能性が高い。

**炉跡** 位置 不明。中央の大形の石皿が焼けており、近くに炉があった可能性がある。

**備考** 中期後葉のものと考えられる。

103号住居跡 (第31図、P L 11)

**位置** E区P・q-35 **主軸方位** N68°W

**重複** 326・327・339号土坑と重複すると思われるが、新旧関係は不明である。

**規模** 縦(4.25)m×横4.55m×深さ0.15m

**形状** 楕円形。柱穴配置から推定した。東側は攪乱で壊されていた。

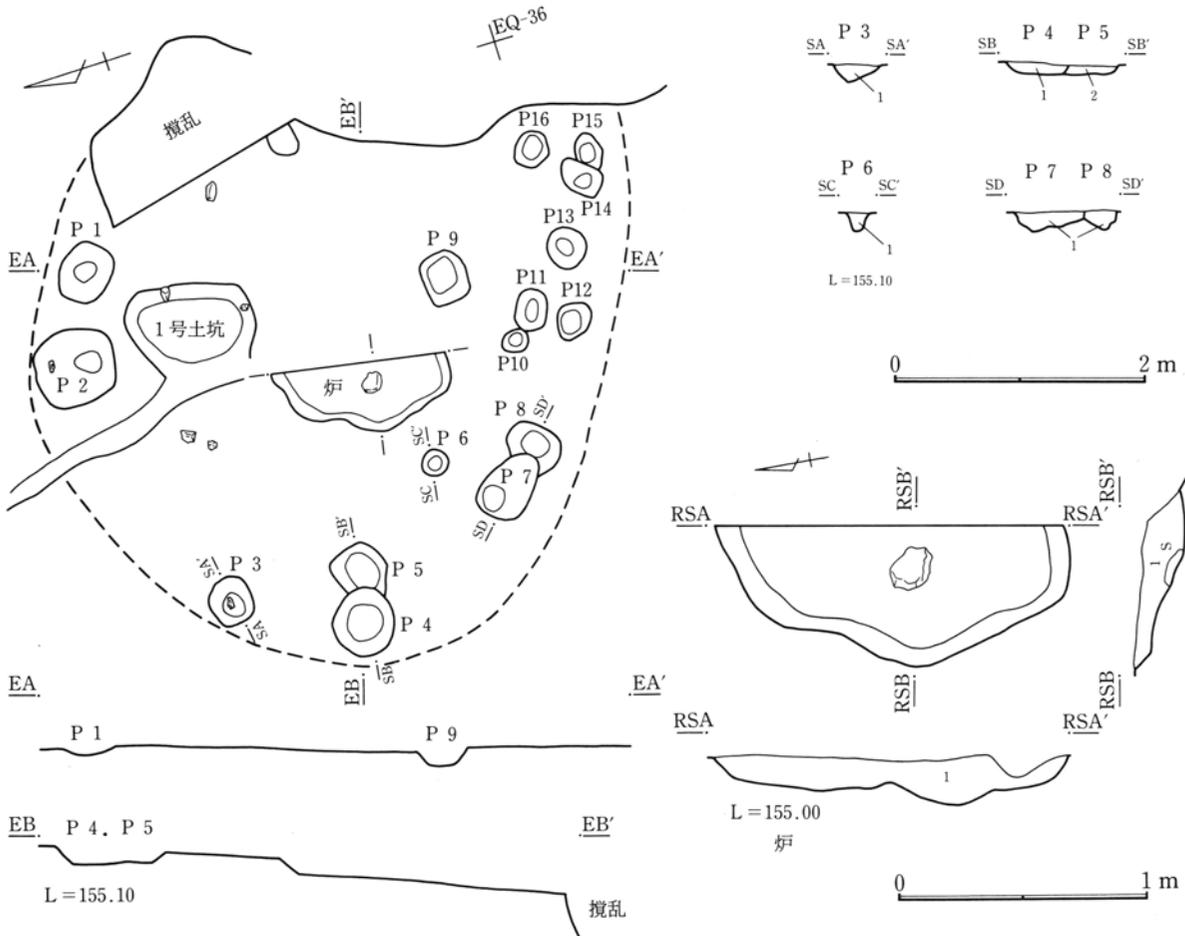
**埋没土** 不明。

**床面** 不明。床面は検出できなかったが、確認面では東側にかなり傾斜していた。

**貯蔵穴** 位置 不明。中央部よりやや北寄りに長径約103cm、短径約80cm、深さ約12cmの楕円形の1号土坑がある。

**周溝** 不明。

**柱穴** 壁周辺に廻るものと考えられる。



第31図 103号住居跡

## II 検出された遺構と遺物

柱穴 No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
直径 cm	48	65	40	45	45	20	55	45	40
深さ cm	9	23	16	14	8	17	26	16	18
柱穴 No	P10	P11	P12	P3	P14	P15	P16		
直径 cm	20	35	30	33	35	25	30		
深さ cm	9	15	27	30	18	14	13		

**遺物出土状態** 柱穴内より中期後葉と考えられる土器小破片や石器類が若干出土した。グリッドで取り上げた土器片や石器類も若干あったが、本住居跡に伴うかどうかは判別できなかった。

**炉跡 位置** ほぼ中央

**規模** 全長140cm 最大幅 (60) cm 深さ10cm

**形状** 楕円形、皿状

**埋没土** 焼土粒子・ブロックをやや多く、炭化物粒子少量含むしまりの弱い暗茶褐色土である。

**遺存状態** あまり良好ではなかった。東側は段になって降り下がり東半部は残っていなかった。確認面より約10cm程下がる。焼土粒子や焼土ブロックは認められたものの、底部および壁はあまり硬く焼けていなかった。

**遺物出土状態** 中央の底より角礫が出土したが、土器片等は検出されなかった。

**備考** 柱穴内の遺物や柱穴の配置から中期後葉のものと推定した。

**104号住居跡** (第32・82・113・114・161～166図、P L 6・49・50・66・67・110・111)

**位置** D区 t・E区 a-29・30 **主軸方位** N12°E

**重複** 127号住居→104号住居→116号住居

**規模** 縦4.30m×横 (2.75) m×深さ0.35m

**形状** 隅丸方形。北側に入り口施設を持つ。

**埋没土** 白色小粒子ごく多量、黄褐色小粒子多量、炭化物粒子を多く含むしまりの良い黒褐色～暗褐色土である。

**掘り方** 白色小粒子少量、黄褐色小粒子わずか、炭化物粒子少量含む暗茶褐色土である。床面で東側の若干高くなっていた部分は掘り方でも下がらず、そこから西側の部分だけ床面より約10cm程下がって

た。しかし、床下土坑、ピット等の特別な遺構は検出されなかった。

**床面** 貼り床あり。ほぼ平坦であるが、若干凹凸を持つ。東側はわずかに高くなっていた。

**貯蔵穴 位置** 不明。北東部に長径約140cm、短径約80cm、深さ約27cmの長方形の1号土坑がある。

**周溝** 無し。

**柱穴** 主柱穴は4本で、北側に入り口と施設と考えられる2本の小ピットを持つ。

柱穴 No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
直径 cm	30	35	55	30	26	20	25
深さ cm	43	43	18	31	15	15	6

**遺物出土状態** 極めて多量の土器、石器等の遺物が出土した。ほぼ全体から出土したが、中央部から東側にかけて集中が見られた。床面に貼り付いて出てきたものよりも床面から浮いた状態で検出されたものが多かった。104住1の深鉢についてはかなり高いレベルで正位の状態で、104住2の深鉢についても南東部の高い位置から破片の状態で出土した。グリッドで取り上げた遺物もかなり量は多かった。

**炉跡 位置** ほぼ中央

**規模** 全長41cm 最大幅41cm 深さ12cm

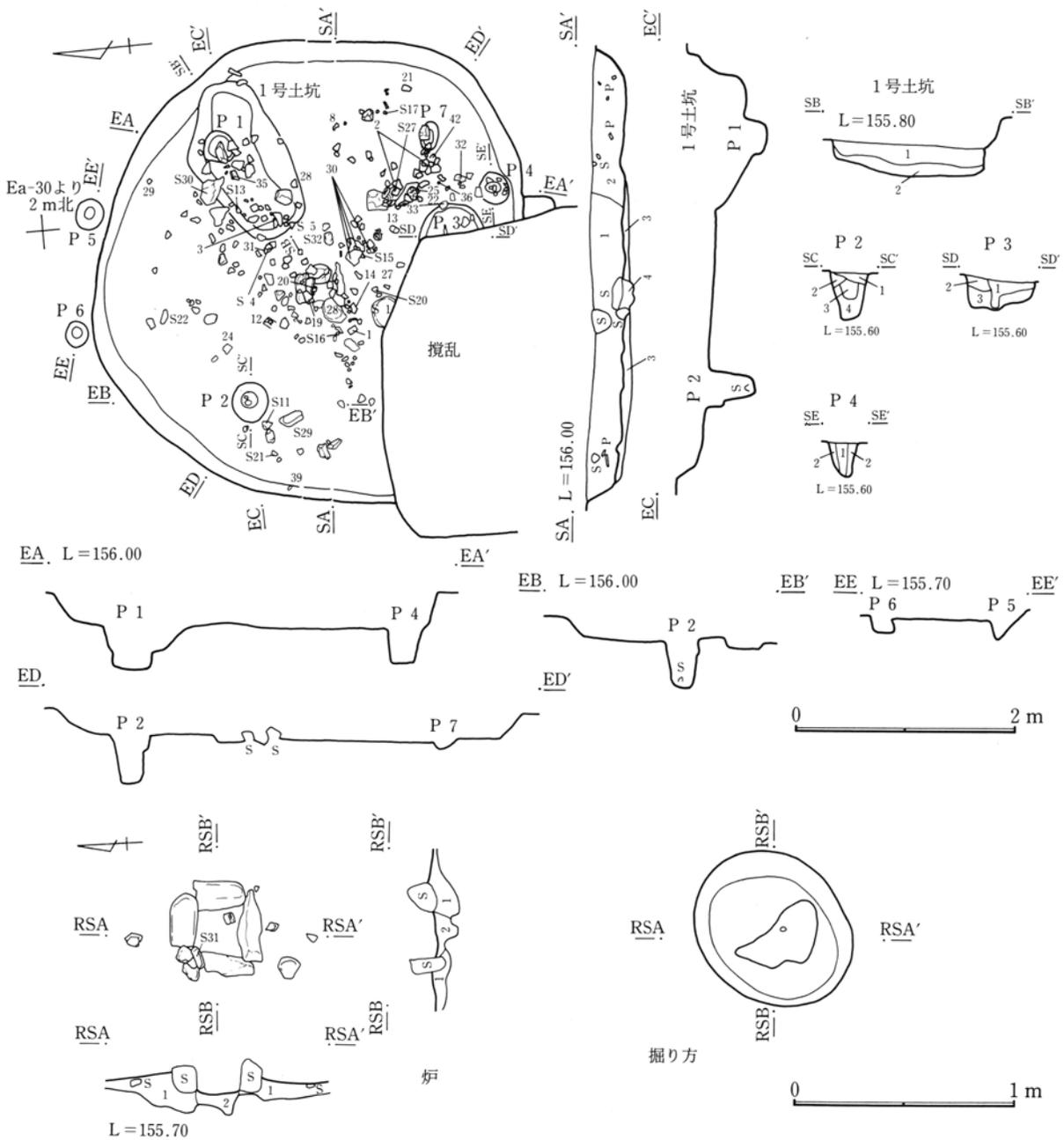
**形状** 正方形

**埋没土** 炭化物粒子多く、焼土粒子少量含む黒褐色土である。

**遺存状態** 非常に良く残っていた。細長い円礫や角礫を用いて正方形に組んであった。礫と礫との隙間には小さい円礫を詰めてあり、非常にきちんとした作りとなっていた。礫は若干焼けていたが、底面には焼土層は残っていなかった。掘り方は楕円形で皿状に窪む。使用面より深いところで約10cm程下がる。

**遺物出土状態** 住居埋没土中からは多量の土器片が出土したが、炉の埋没土中からは中期土器片が1点出土しただけであった。

**備考** 中期中葉のものと考えられる。



第32図 104号住居跡

105号住居跡 (第33・83・84・114・115・166~170図、  
P L 7・51・67・68・112・113)

位置 E区1・m-35・36 主軸方位 N 5°W

重複 114・130号住居→105号住居

240・241・296・297・426号土坑と重複するが、明確な新旧関係は不明である。

規模 縦5.70m×横4.90m×深さ0.40m

形状 楕円形

埋没土 ローム漸移層ブロックを多く、黄褐色小粒子及び白色小粒子をごく多量、炭化物粒子を多く含む暗褐色土である。周辺部はローム漸移層ブロックをほとんど含まず色調は明るい。

掘り方 特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、特別に硬くしてはいなかった。

貯蔵穴 位置 不明。南部に長径約125cm、短径約90

## II 検出された遺構と遺物

cm、深さ約13cmの楕円形の1号土坑が、長径約80cm、短径約60cm、深さ約25cmの楕円形の2号土坑がある。  
周溝 無し。

柱穴 壁周辺を廻るものと考えられる。支柱穴はP3、P4、P12、P14の4本と思われる。

柱穴 No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
直径 cm	25	20	35	40	35	28	30	30	22
深さ cm	40	33	11	60	10	10	18	12	32
柱穴 No.	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	
直径 cm	30	25	40	40	25	30	20	26	
深さ cm	28	32	21	22	22	22	8	32	

遺物出土状態 遺物はほぼ全体から出土したが、4本の支柱穴に囲まれる中央部分に大半が集中していた。特にほぼ全体が復元できた深鉢105住7や胴下半部が一周した深鉢105住4などはその周辺からの出土であった。105住1の深鉢については壁近くから出土しており、本住居跡に伴うものとは考えにくい。

炉跡 位置 中央よりやや北寄り

規模 全長62cm 最大幅60cm 深さ10cm

形状 ほぼ正方形

埋没土 白色小粒子ごく多量、黄褐色小粒子やや多く、炭化物粒子多量に含む黒褐色土である。焼土粒子等はほとんど検出されなかった。

遺存状態 良好であった。大形の角礫及び円礫でほぼ正方形に囲い、その中に小形の角礫を敷き詰めて底面を作り出している。掘り方は長径約73cm、短径約67cm、深さ約30cm程窪む。敷き詰められた礫の下から深鉢胴部が出土していることから、もともとは掘り窪めたところに土器を置いて使用していたがその後の改修で調査時のような形に組み直したのと考えられる。掘り方からは焼土粒子や灰も検出された。

遺物出土状態 掘り方中央部の礫の下から小形の深鉢105住3が検出された。その他は埋没土中から若干の小破片が出土しているが、構築材としての可能性は低い。

備考 中期後葉のものと考えられる。

106号住居跡 (第34・115・116・170～172図、P L11・68・69・114・115)

位置 E区 a・b-28・29 主軸方位 N45°E

重複 120・122号住居→106号住居

規模 縦4.70m×横3.20m×深さ0.30m

形状 楕円形。南西部は張り出す。

埋没土 白色小粒子及び黄褐色小粒子を多量に含む黒色土である。南西部の張り出し部分の方が白色小粒子及び黄褐色小粒子の量が多くロームブロックも含まれる。

掘り方 特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、北側にやや傾斜する。全体としては中央部が浅い皿状に窪む。比較的良くしまっていたが、特別に硬質な部分はない。

貯蔵穴 位置 不明。南西部に長径約108cm、短径約90cm、深さ約17cmの楕円形の1号土坑が、中央部北寄りに径約95cm、深さ約37cmの円形の2号土坑がある。

周溝 無し。

柱穴 他のものに比べて圧倒的に深い東西のP1とP3が支柱穴と考えられる。

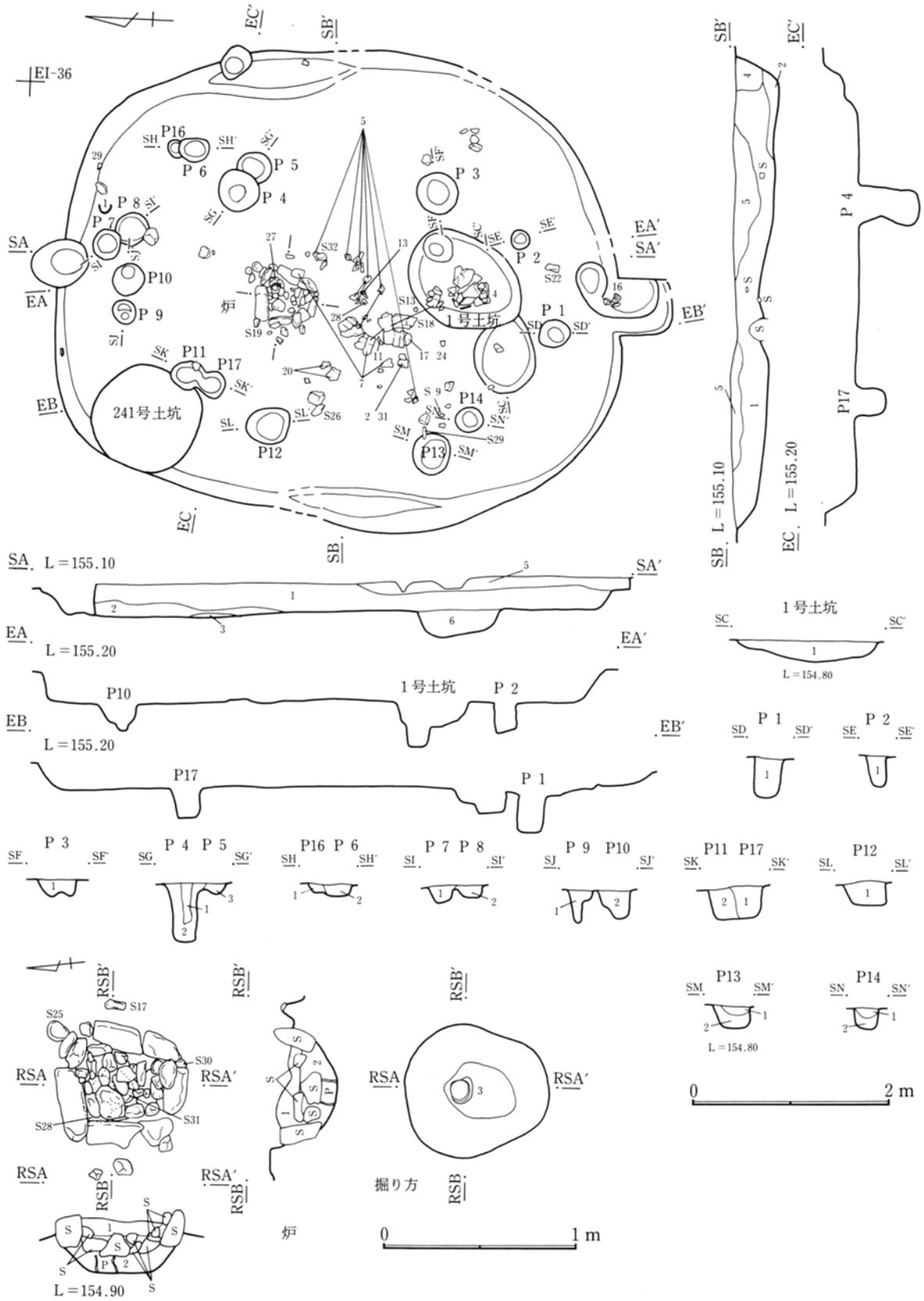
柱穴 No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
直径 cm	55	45	40	25	24	23	20	18
深さ cm	56	28	65	13	17	9	6	8

遺物出土状態 ほぼ全体から多量の土器片や石器類が出土したが、2本の支柱穴の間の周辺に集中が見られた。遺物は床面に貼り付いているものよりもやや浮いたものが多かった。また、完形になるようなまとまった土器は無く、多くの破片が埋没土中より出土した。プラン確認前の段階でも多量の遺物が出土しており、それらはグリッドで取り上げたが本住居跡に伴うものが多いと考えられる。

炉跡 位置 不明。床面を精査したが、焼土粒子の集中する箇所等は検出されなかった。

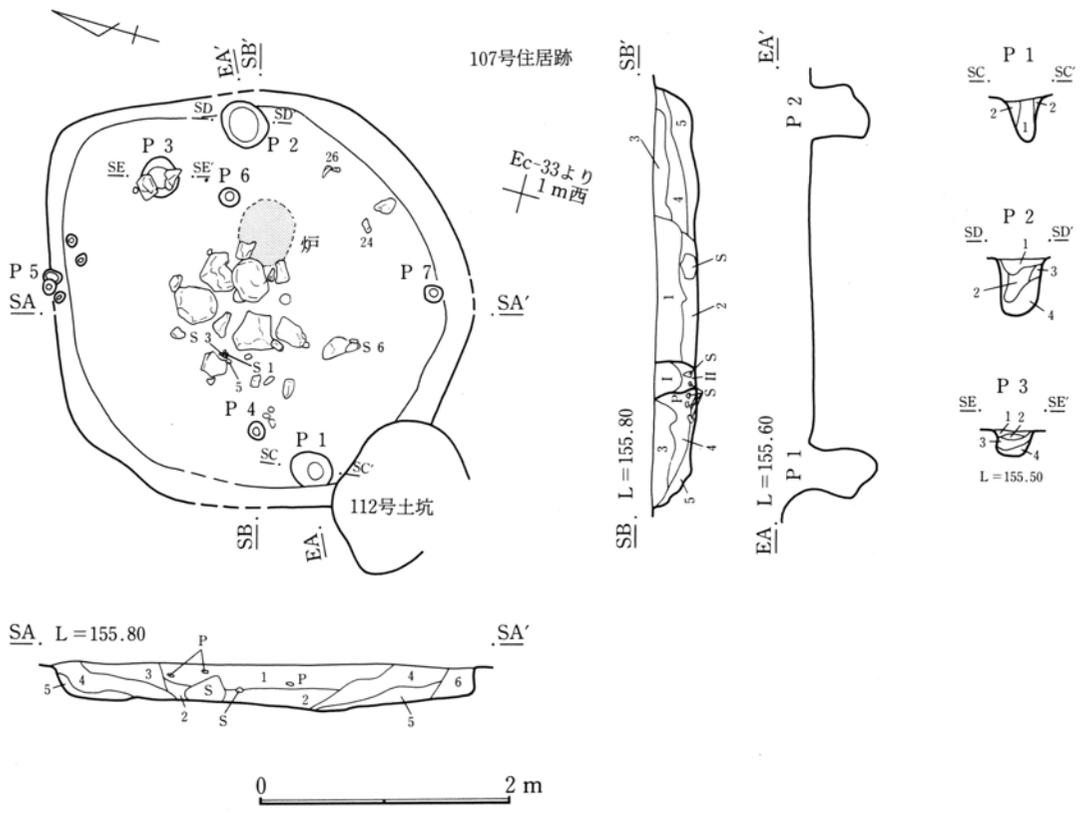
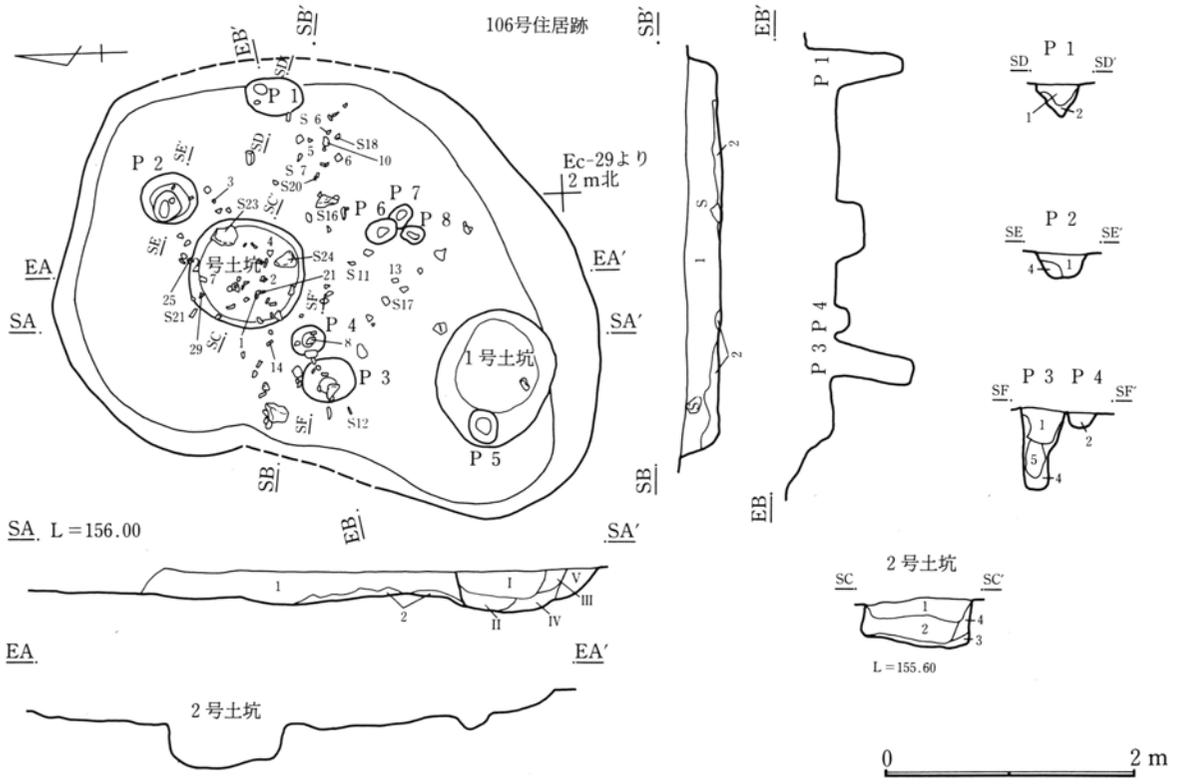
備考 中期中葉のものと考えられる。

1. 縄文時代



第33図 105号住居跡

II 検出された遺構と遺物



第34図 106・107号住居跡

1. 縄文時代

107号住居跡 (第34・85・116・117・173・174図、P L 8・51・69・70・115)

位置 E区b-32 主軸方位 N63°E

重複 123号住居→107号住居

112号土坑の方が先に確認されたが、新旧関係は不明である。

規模 縦3.35m×横3.30m×深さ0.35m

形状 楕円形。北側に入り口を持つ。

埋没土 中心は白色小粒子及び黄褐色小粒子をごく多量、炭化物粒子多量、ロームブロック少量含む黒色～黒褐色土である。周辺部はロームブロックやローム漸移層ブロックを含む暗褐色～明褐色土である。

掘り方 特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。中央部がやや深く、全体として浅い皿状に緩やかに窪む。

貯蔵穴 位置 不明。該当するような土坑は検出されなかった。

周溝 無し。

柱穴 他のものよりも圧倒的に深いP1とP2が主柱穴になるものと考えられる。北側の径約10cm以下で深さも約15cm以下の小ピットは入り口施設の一部の可能性もある。

柱穴 No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
直径 cm	33	35	30	14	15	16	14
深さ cm	39	47	20	25	14	20	13

遺物出土状態 中央部から角礫や小円礫がまとまって出土した。礫と礫の間や周辺部から土器破片が検出された。ほとんどの遺物が床面に貼り付いたものは少なく、やや浮いた感じのものが多かった。

炉跡 位置 中央部よりやや東側。床面を精査して、焼土及び焼けている部分を検出して推定した。

規模 全長(80)cm 最大幅(40)cm 深さ2cm

形状 楕円形。ごくわずかに浅い皿状に窪む。

埋没土 ごく浅いものであり、埋没土は残っていないかった。

遺存状態 不良。地床炉であるが、ほとんど残っていないかった。床面を精査して、わずかに焼土及び焼

けている部分を検出した。中央部には火熱を受けたと考えられる角礫はあったが、いずれも浮いているものであり炉跡に使用されていたものかどうかは不明である。また、礫を据えたような掘り方も検出できなかった。

遺物出土状態 住居の埋没土中からは若干の遺物は出土したが、炉跡に伴うものは確認できなかった。

備考 中期中葉のものと考えられる。

108号住居跡 (第35・85・117～119・174～178図、P L 9・50・70～72・115～117)

位置 E区h・i-32・33 主軸方位 N78°W

重複 108号住居→94号住居

規模 縦4.60m×横4.00m×深さ0.40m

形状 楕円形。北側の張り出し部分は階段状になり、小ピットも検出された。入り口施設と考えられる。

埋没土 白色小粒子及び黄褐色小粒子を多量に含む黒褐色～暗褐色土である。上部は特に多量の遺物を含み、下部は茶褐色土ブロックの溶混を多く含み明るい。

掘り方 炉跡部分を除くと特別な掘り方は検出できなかった。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、炉の周りだけ若干高くなっていた。北側の階段状施設部分はかなり硬くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。北側階段脇に長径約106cm、短径約95cm、深さ約24cmの円形の1号土坑があり、炉の西側には長径約85cm、短径約27cm、深さ約6cmの長方形の浅い土坑がある。

周溝 北壁階段部分から東壁にかけてと南西隅付近に部分的に認められた。

柱穴 他のものに比べて圧倒的に深いP1とP3が主柱穴と考えられる。P5～P7は入り口施設に関係するものと推定できる。

柱穴 No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
直径 cm	42	48	33	40	20	20	17	27
深さ cm	49	23	50	9	32	31	7	9

遺物出土状態 ほぼ全体から出土したが、北側の階段東半部と中央部に特に集中が見られた。北側の集

II 検出された遺構と遺物

中部のものは比較的壁に付いたような感じで出土したが、中央部のものは床面から浮いた状態で検出された。108住5のように底を除き、ほぼ一周廻るような深鉢も出方は同様であった。S25、26の石皿は割られて投げ込まれたような状態で出土した。

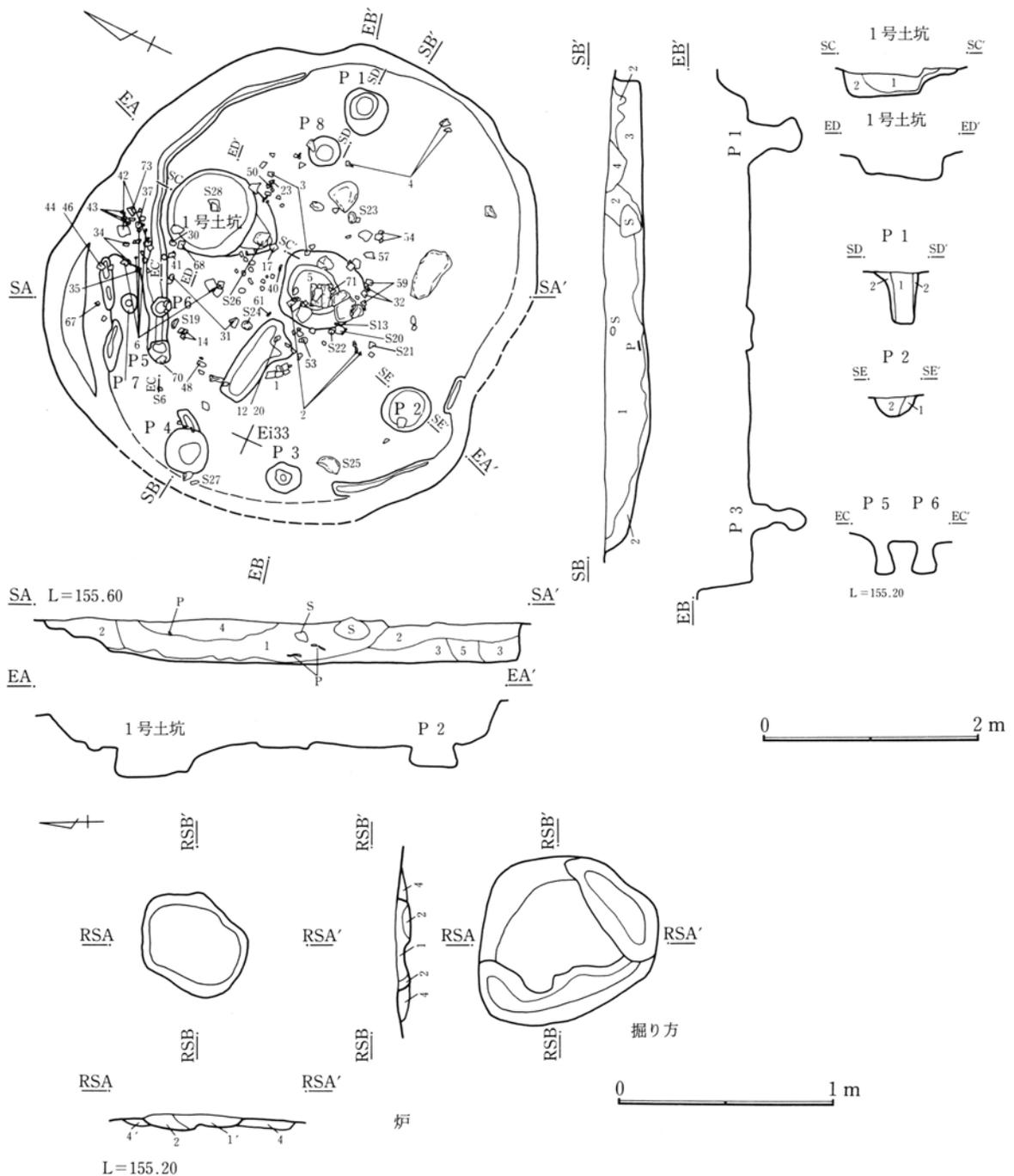
炉跡 位置 ほぼ中央

規模 全長53cm 最大幅43cm 深さ6cm

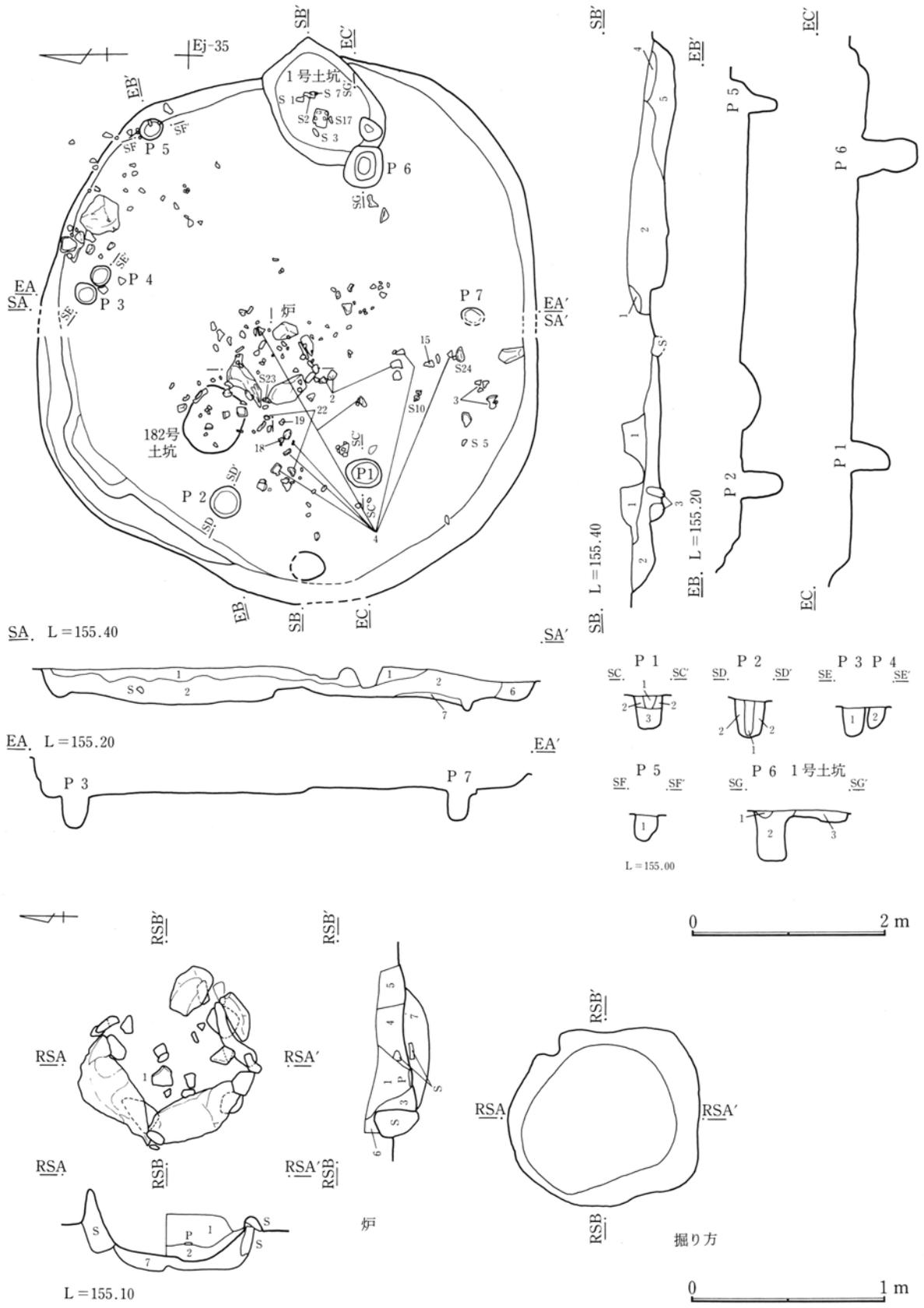
形状 楕円形

埋没土 白色小粒子少量、炭化物粒子少量を含むやや赤味を帯びる暗褐色～暗黄褐色土である。

遺存状態 あまり良好とは言えない。火熱を受け若干赤変していたが、床面を精査しなければ見逃してしまいそうなほどのものであった。作り方としては地面を若干掘り窪め、そこに粘性のあるロームを貼っ



第35図 108号住居跡



第36図 109号住居跡

## II 検出された遺構と遺物

たものであり石組みはなかったものと思われる。

**遺物出土状態** 使用面からかなり浮いた状態では多くの土器片や石器類が出土したが、底面に貼り付くような状態で出土したものはなかった。

**備考** 前期後葉のもの（諸a）と考えられる。

109号住居跡（第36・85・86・120・178～181図、P L 10・50・73・117・118）

位置 E区 i・j-33・34 **主軸方位** N30°E

**重複** 109号住居→91・92・93・94・181・182・237号土坑

**規模** 縦5.55m×横5.25m×深さ0.40m

**形状** 楕円形。北西部は段状になり、特に硬く良くしまっていた。入り口施設と考えられる。

**埋没土** 黄褐色小粒子多く、ローム漸移層ブロック多量、白色小粒子多量に含む暗褐色土である。下部の方がローム漸移層ブロックが多く、炭化物粒子も多量に含む。

**掘り方** 炉の部分を除き、特別な掘り方はない。

**床面** 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、南側にやや高くなる部分がある。

**貯蔵穴** **位置** 不明。東部に長径約130cm、短径約100cm、深さ約13cmの楕円形の1号土坑がある。

炭化物粒子を多く含む黒色土により埋没していた。

**周溝** 無し。

**柱穴** 壁よりもやや内側を廻る。P2とP6が他のものよりもやや深い。P2とP3の間が広いのは入り口と関係が深いと考えられる。

柱穴 No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
直径cm	35	30	23	20	22	43	20
深さcm	31	37	27	21	25	62	33

**遺物出土状態** ほぼ全体から出土したが、P1～P7までの柱穴に囲まれる範囲内からまとまって出土した。中でもP3～P5の柱穴付近と炉跡～P1、P2、P7周辺の2箇所集中箇所は分けられる。小破片に壊れた状態のものも多く、そのままで完形になるようなものはほとんどなかった。また、床面に貼り付いたものは少なく、やや浮いたものが多

かった。グリッドで取り上げた本住居跡の遺物も数多くあるが、やはり小破片が多かった。

**炉跡** **位置** ほぼ中央やや西寄り

**規模** 全長95cm 最大幅90cm 深さ25cm

**形状** 内径約50cm×50cmの正方形

**埋没土** 白色小粒子多量、炭化物粒子及び焼土粒子少量含む黒色土である。

**遺存状態** 比較的良好であった。三方については角礫を用いて組んであったが、北東方向だけは礫は使用されておらず開いていた。焚き口の可能性も考えられる。使用面は約20cm程の深さを持ち、底面には土器片や薄い角礫が敷いてあった。掘り方は深いところで使用面より約10cm程下がり、平面的には楕円形で皿状を呈する。

**遺物出土状態** 埋没土の上の方から出土した土器片もあるが、使用面の底面に敷いたように検出された109住1の深鉢もある。

**備考** 中期後葉のものと考えられる。

110号住居跡（第37・181図、P L 5・118）

位置 E区 l・m-36 **主軸方位** N15°E

**重複** 無し。

**規模** 縦(4.90)m×横2.80m×深さ0.15m

**形状** 楕円形

**埋没土** 白色小粒子及び黄褐色小粒子を多量に含む暗褐色土である。

**掘り方** 特に無し。

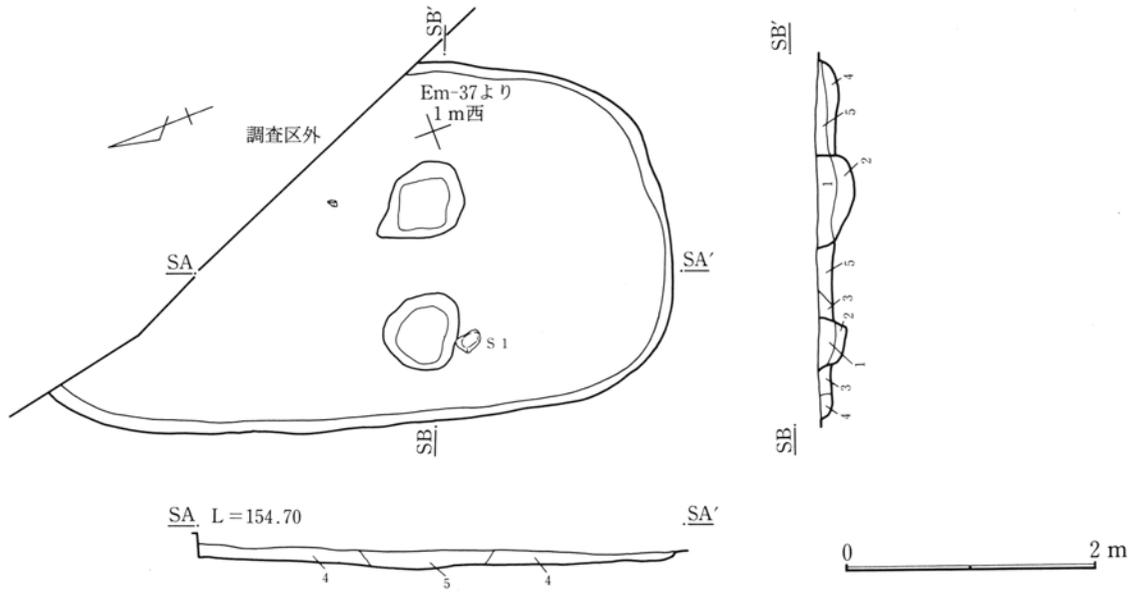
**床面** 貼り床無し。ほぼ平坦であり、ごくわずかに中央部が窪む。特に硬くしまった部分は検出できなかった。

**貯蔵穴** **位置** 不明。

**周溝** 無し。

**柱穴** 不明。中央部に径約60cm、深さ約12cmの方形、長径約60cm、短径約58cm、深さ約9cmの楕円形のピットがあるが、断面で見ると本住居跡より新しいものと思われる。

**遺物出土状態** グリッドで取り上げた遺物はあるが、埋没土中からは遺物はほとんど出土しなかった。



第37図 110号住居跡

**炉跡** 位置 不明。精査したが、それらしい部分は検出できなかった。

**備考** 確実に本住居跡に伴う遺物は検出されなかったが、前期後葉～中期中葉のものと考えられる。

111号住居跡 (第38・86・121・182図、P L12・52・74・118)

**位置** E区m・n-35・36 **主軸方位** N 6°E

**重複** 130号住居→394号土坑→111号住居→202号土坑

**規模** 縦3.80m×横3.50m×深さ0.15m

**形状** 隅丸方形

**埋没土** 白色小粒子及び黄褐色小粒子多量、焼土粒子及び炭化物粒子少量、黄褐色ローム小ブロックや総社砂層小ブロック及び粒子を含む黒褐色～暗褐色土である。

**掘り方** P 7と重複する部分が床面よりやや下がるが、特に他に掘り方はない。

**床面** 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。しかし、入り口を想定させるような特に硬質な部分は認められなかった。

**貯蔵穴** 位置 不明。

**周溝** 無し。

**柱穴** 主柱穴はP 3・P 4・P 5・P 7の4本と考えられる。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
直径 cm	26	38	25	30	35	28	35
深さ cm	25	31	40	42	53	20	49

**遺物出土状態** ほぼ全体から散在的に出土したが、全体に遺物量は少なかった。P 7の部分とP 3北側に集中部分が見られた。全体的にしっかり床に貼り付いているものよりやや浮いているものが多かった。

**炉跡** 位置 ほぼ中央よりやや北寄り

**規模** 全長60cm 最大幅60cm 深さ5cm

**形状** ほぼ円形

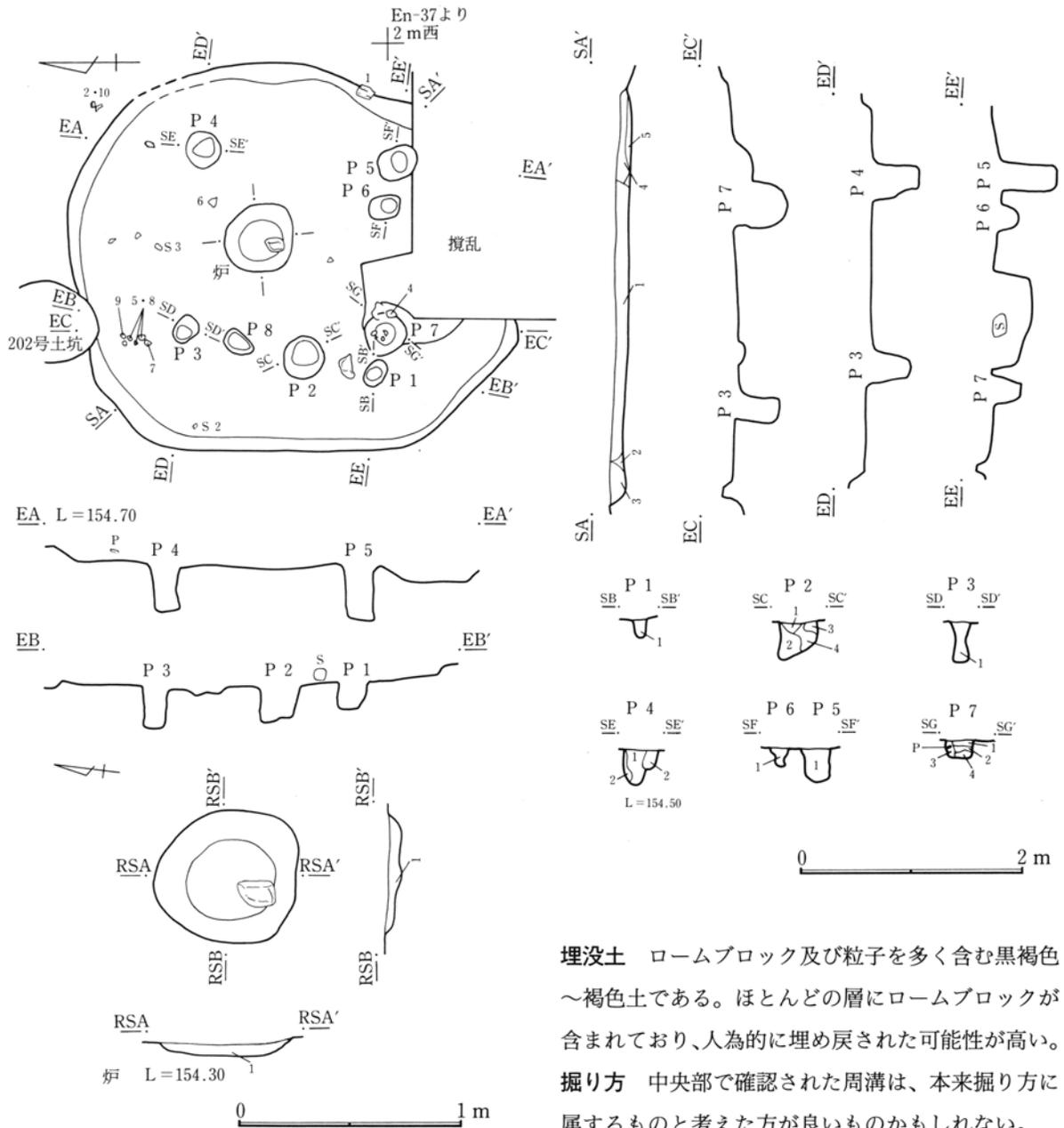
**埋没土** 白色小粒子及び黄褐色小粒子を少量、黄褐色ロームブロック、焼土ブロックを含む茶褐色土である。

**遺存状態** あまり良好ではなかった。床面をわずかに皿状に掘り窪めた地床炉であり、赤く変色した部分も少なく、床面を精査して検出した。石組みにするのはこの後の時期と考えられる。

**遺物出土状態** 土器片は出土しなかったが、敲石凹石が1点出土した。

**備考** 中期中葉のものと考えられる。

II 検出された遺構と遺物



第38図 111号住居跡

112号住居跡 (第39・121・182図、P L11・74・118・119)

位置 E区 s・t-37・38 主軸方位 N7°E

重複 132号住居→112号住居→99号住居→26号住居  
112号住居→184号土坑

規模 縦(5.80)m×横4.50m×深さ0.20m

形状 隅丸方形で南側が突出する。南側が入り口と推定される。

**埋没土** ロームブロック及び粒子を多く含む黒褐色～褐色土である。ほとんどの層にロームブロックが含まれており、人為的に埋め戻された可能性が高い。

**掘り方** 中央部で確認された周溝は、本来掘り方に属するものと考えた方が良いものかもしれない。

**床面** 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。

**貯蔵穴** 位置 不明。南西部に径約105cm、深さ約52cmの1号土坑があるが、本住居跡に伴うものかどうかは判別できなかった。

**周溝** 壁周溝はないが、中央部を囲うように幅約15～20cm、深さ約5～10cmの浅い溝が廻る。

**柱穴** 主柱穴はP1・P9・P15・P18の4本と考えられるが、南側にP4・P5・P7・P8等の小ピットがあり、入り口と推定される。

1. 縄文時代

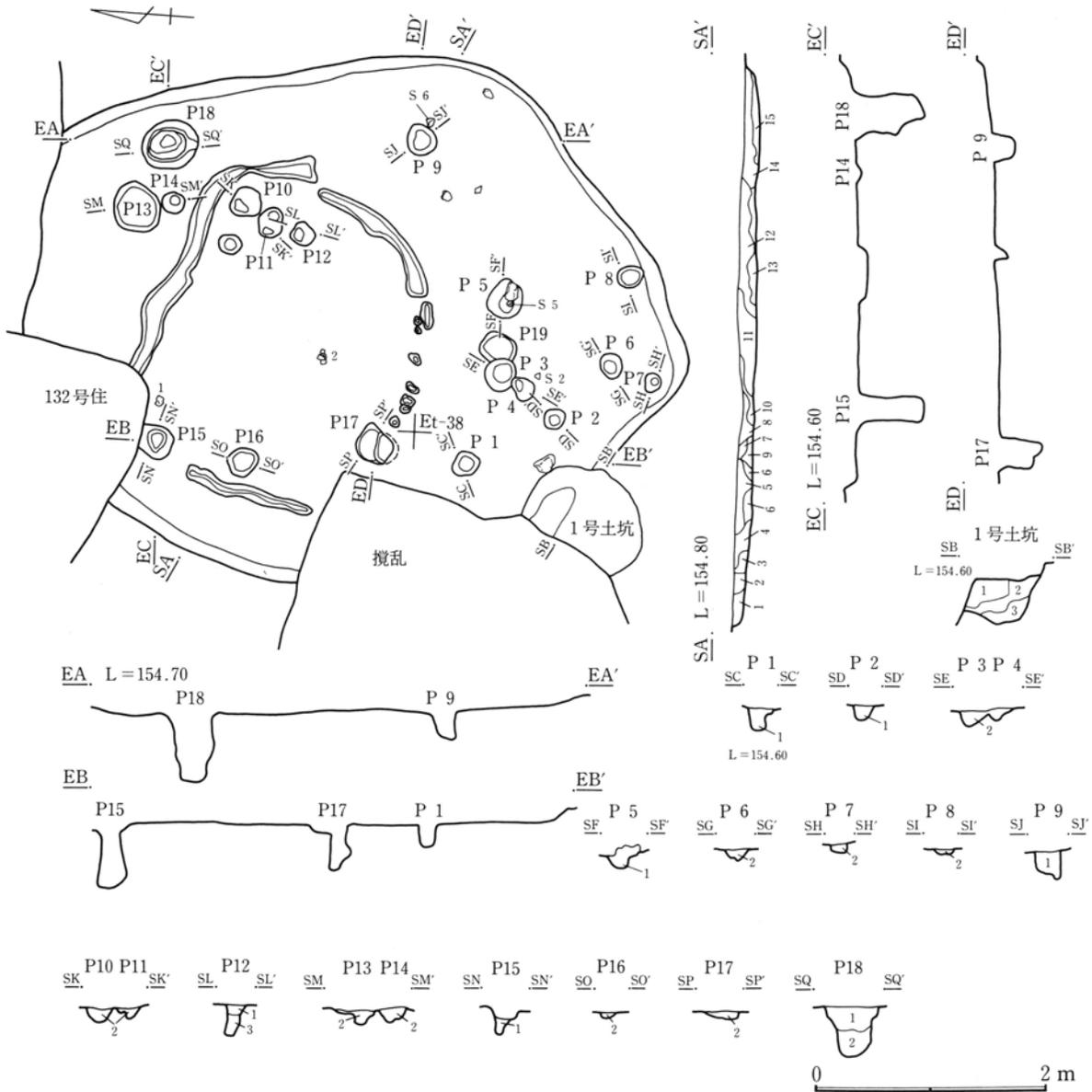
柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10
直径 cm	22	20	25	22	28	20	16	24	25	25
深さ cm	26	14	11	15	14	12	8	11	22	15
柱穴 No.	P 11	P 12	P 13	P 14	P 15	P 16	P 17	P 18	P 19	
直径 cm	30	18	43	18	38	35	31	50	33	
深さ cm	17	49	14	15	58	12	39	61	16	

**遺物出土状態** ほぼ全体から少量の遺物が破片の状態  
で出土した。床面に貼り付いたものは少なく、や

や浮いたものが多かった。グリッドで取り上げた遺物  
はあるが、本住居跡に伴うかどうかは判別は難し  
いものであった。

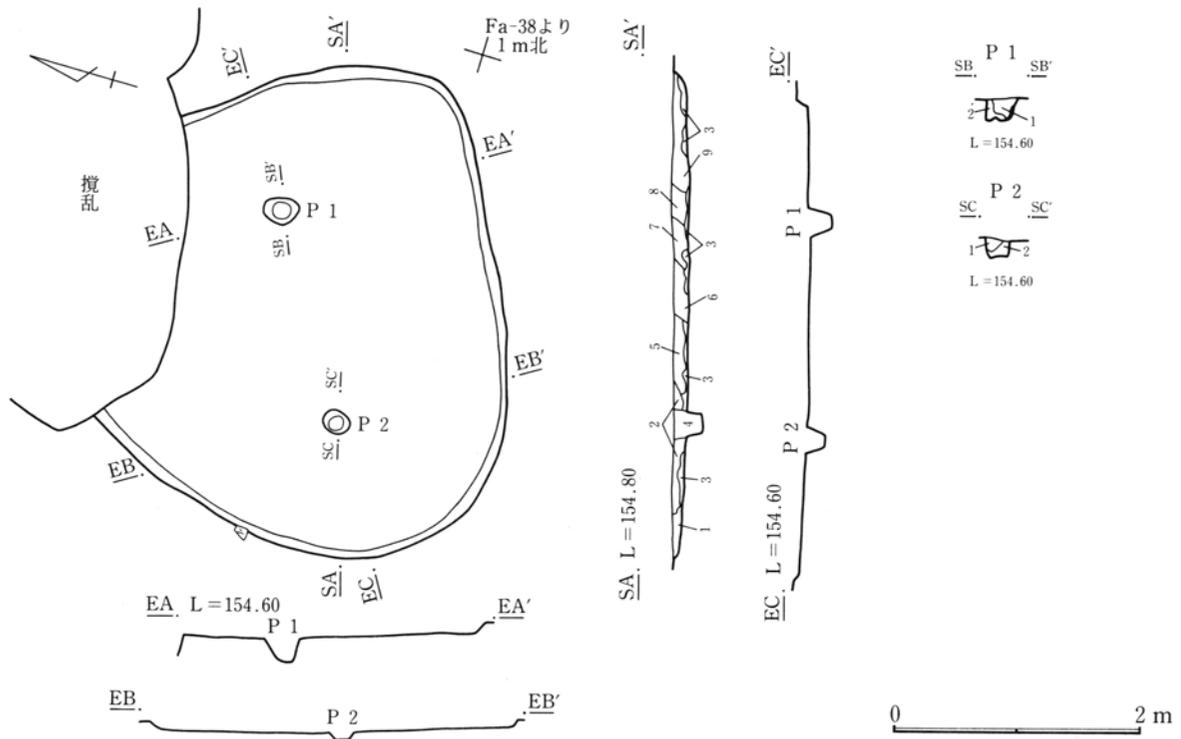
**炉跡 位置** 不明。床面を丁寧に精査したが、焼土  
粒子や炭化物粒子が集中する場所や地面が赤変して  
いる場所は確認できなかった。

**備考** 中期中葉のものと考えられる。



第39図 112号住居跡

II 検出された遺構と遺物



第40図 113号住居跡

113号住居跡 (第40・183図、P L11)

位置 E区 t-37 主軸方位 N60°E

重複 113号住居→100・101号住居

規模 縦3.90m×横(2.60)m×深さ0.15m

形状 楕円形。北側がやや張り出す。

埋没土 ロームブロックを多く含む褐色～黒褐色土である。

掘り方 特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、浅い皿状に窪む。比較的良くしまっていたが、入り口を推定させるような硬質な部分は検出できなかった。

貯蔵穴 位置 無し。

周溝 無し。

柱穴 東西に2本の主柱穴を持つ。それ以外の補助的な柱穴は検出できなかった。

柱穴 No.	P 1	P 2
直径 cm	27	20
深さ cm	18	15

遺物出土状態 グリッドで取り上げた若干の遺物は

あるが、埋没土中からはまったくと言っていいほど時期判定に使用できるような遺物は出土しなかった。  
炉跡 位置 不明。床面を丁寧に精査したが、焼土粒子や炭化物が集中する箇所や焼けた部分は確認できなかった。

備考 他の住居の類例から中期中葉と推量される。

114号住居跡 (第41・121・183図、P L11・74・119)

位置 E区 k・1-35・36 主軸方位 N20°E

重複 114号住居→105号住居

規模 縦4.40m×横4.10m×深さ0.40m

形状 楕円形。北側にやや張り出す。

埋没土 白色小粒子少量、焼土粒子少量、ロームブロックを含む暗褐色土である。

掘り方 特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
直径 cm	35	20	22	20	30	54	38	20	70
深さ cm	9	9	9	9	30	17	13	11	9
柱穴 No.	P10	P11	P12	P13	P14	P15			
直径 cm	32	53	30	20	25	25			
深さ cm	3	4	13	5	6	48			

**遺物出土状態** ほぼ全体から土器小破片が散在的に出土した。埋没土中からのものが多く、床面に貼り付いたものは少なかった。土器片は中期が主体であるが、前期のものも若干含まれていた。

**炉跡 位置** 中央よりやや南寄り

**規模** 全長60cm 最大幅50cm 深さ14cm

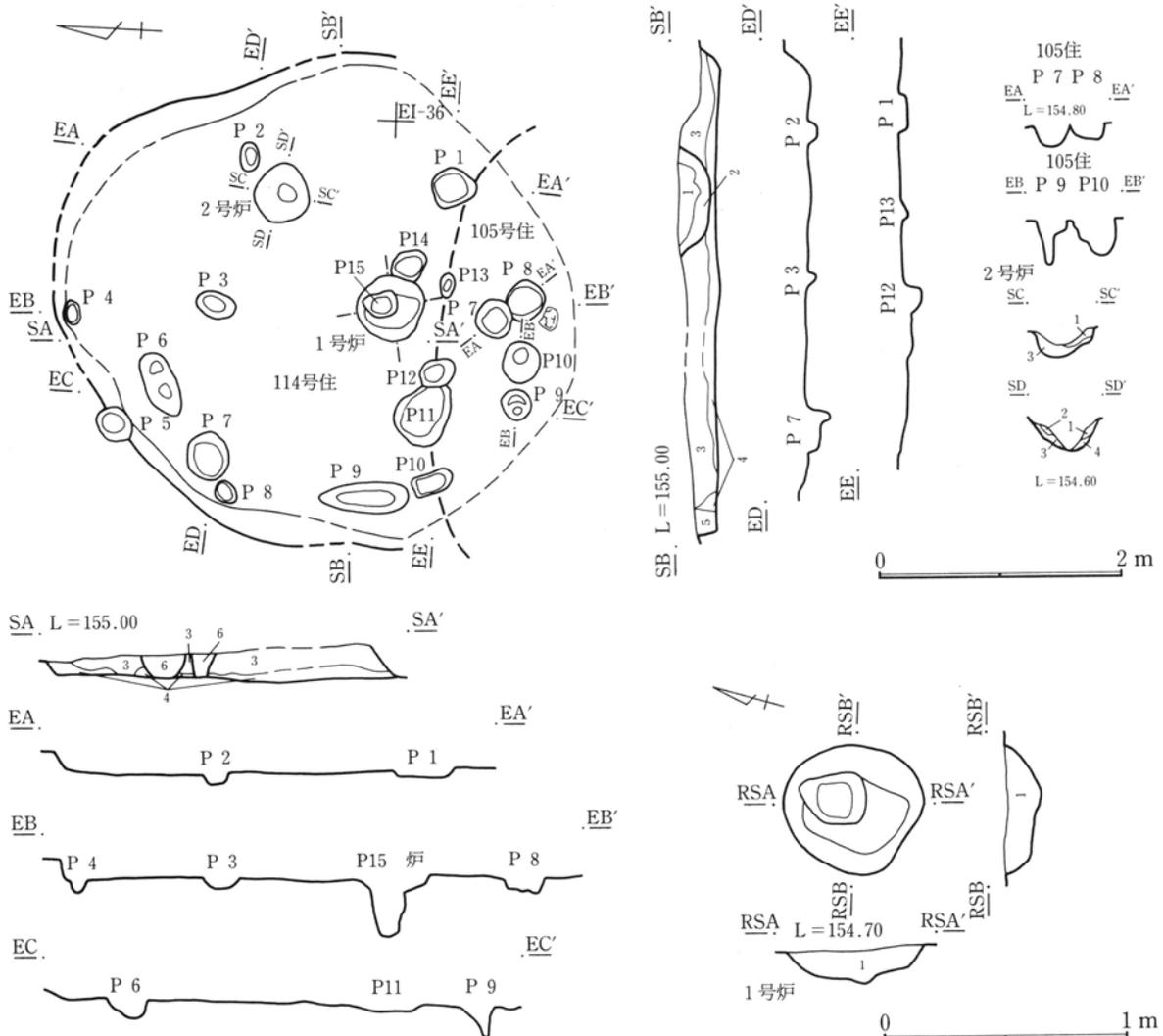
**形状** 楕円形

**埋没土** 白色小粒子をやや多く、焼土粒子少量含む茶褐色土である。

**遺存状態** あまり良好ではなかった。床面を掘り窺めただけの地床炉であり、壁や底面は特別に硬く焼けてはいなかった。底面より下から深さ約50cm近いピットが検出された。明らかに炉跡の方が新しいものである。

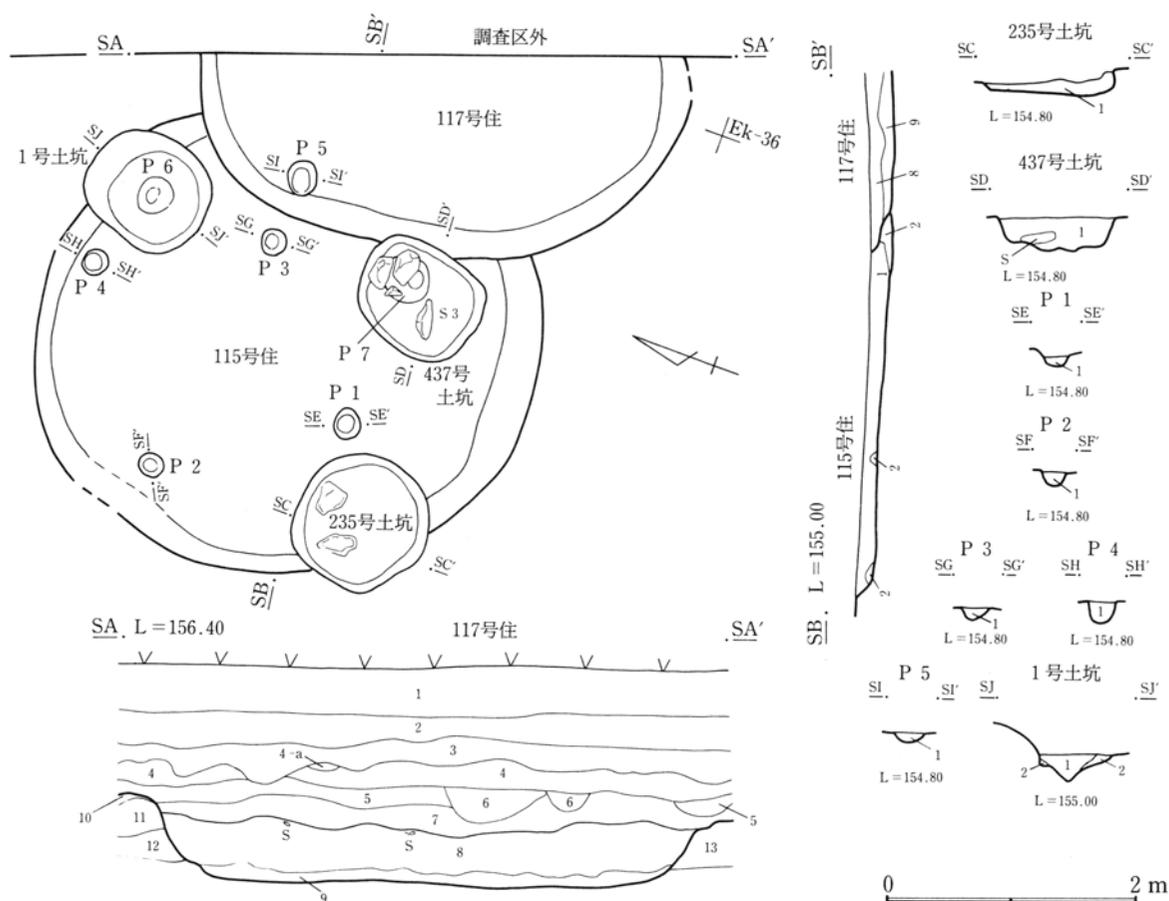
**遺物出土状態** 炉跡内から遺物は出土しなかった。

**備考** 中期中葉のものと考えられる。



第41図 114号住居跡

II 検出された遺構と遺物



第42図 115・117号住居跡

115号住居跡 (第42・183図、P L13・119)

位置 E区 j-35 主軸方位 N39°W

重複 115号住居→117号住居・95号土坑

235・437号土坑については住居調査過程で検出されたものであるが、新旧関係は不明である。

規模 縦(4.10)m×横3.90m×深さ0.15m

形状 ほぼ円形

埋没土 白色小粒子及び黄褐色粗粒子を多く含む暗褐色土である。

掘り方 特別な掘り方はなかった。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり比較的良くしまっていたが、入り口を想定させるような硬質な面はなかった。

貯蔵穴 位置 不明。北東部に長径約95cm、短径約80cm、深さ約24cmの楕円形の1号土坑があるが、ほぼ同規模の437号土坑が南東部に、南西部には235号

土坑がある。

周溝 無し。

柱穴 径約20cm強で、深さ約10~20cm程の小ピットがほぼ円形に配置される。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
直径 cm	25	20	20	22	27	27	35
深さ cm	9	12	10	17	8	15	20

遺物出土状態 埋没土中より若干の小破片が出土したが、床面からはほとんど出土しなかった。437号土坑と235号土坑の中からは角礫が出土した。検出された土器片は中期と前期がある。

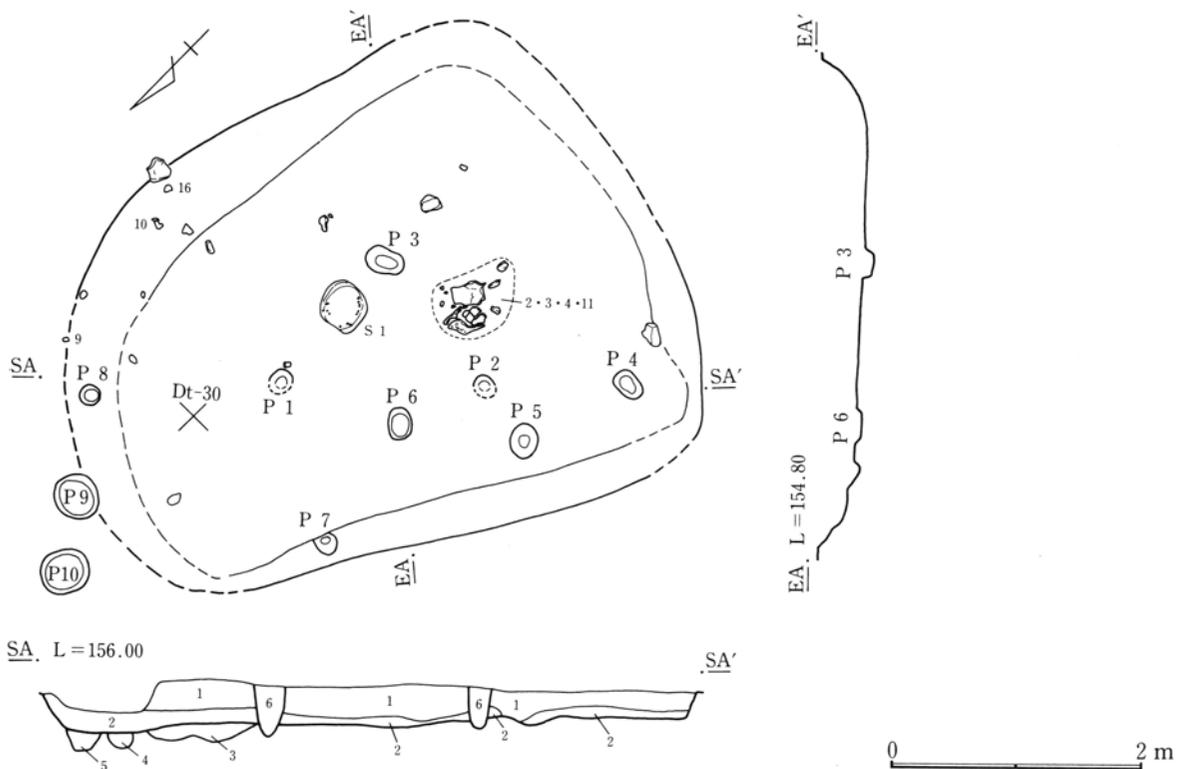
炉跡 位置 不明。床面を精査したが、焼土粒子や炭化物粒子の集中箇所等は検出できなかった。

備考 中期中葉のものと考えられる。

117号住居跡 (第42図、P L13)

位置 E区 j-35・36 主軸方位 N18°W  
 重複 117号住居→115号住居→95号土坑→96号土坑  
 規模 縦3.90m×横(1.60)m×深さ0.15m  
 形状 楕円形  
 埋没土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量、ローム漸移層ブロックを斑状に含む茶褐色～暗褐色土である。焼土粒子も含まれる。底面にはローム粒子をわずかに含むしりの良い茶褐色土が堆積していた。  
 掘り方 特別な掘り方は持たない。  
 床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。  
 周溝 無し。  
 柱穴 不明。床面を精査したが、115住P5以外のピットは検出できなかった。  
 遺物出土状態 グリッドで取り上げた遺物の中には中期の土器片もあったが、埋没土中からほとんど出土しなかった。  
 炉跡 位置 不明。床面を精査したが、焼土粒子や炭化物粒子の集中する箇所は検出できなかった。  
 備考 中期中葉以前と推量される。



第43図 116号住居跡

116号住居跡 (第43・86・122・184・185図、P L13・52・75・119)

位置 D区 s・t-29・30 主軸方位 N15°W  
 重複 121・412号土坑、104号住居→116号住居  
 規模 縦5.00m×横3.80m×深さ0.35m  
 形状 北側に張り出しを持つ隅丸方形  
 埋没土 白色小粒子ごく多量、黄褐色小粒子多量、

炭化物片を多く含む黒色土である。下部は白色小粒子多く、黄褐色小粒子少量、焼土粒子少量、As-Y Pわずかに、炭化物粒子少量含む黒褐色土である。  
 掘り方 明確な土坑、ピット等は検出できなかったが、北側は若干凹凸を持つ。  
 床面 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、北側にやや傾斜する。

II 検出された遺構と遺物

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

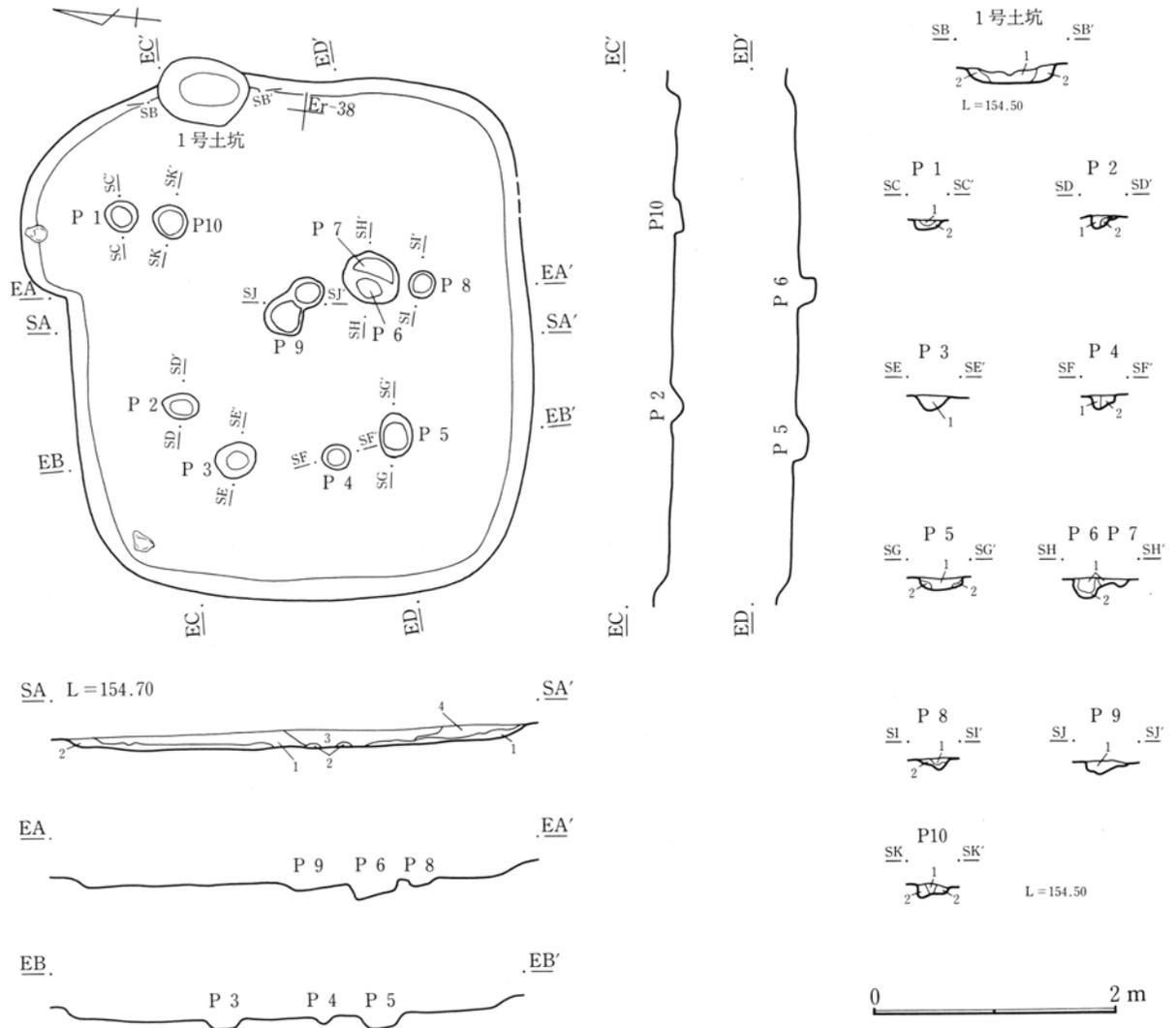
柱穴 P1とP2については確認面より上からの掘り込みであり、P9とP10については規模や位置的に本住居跡に伴うものではない可能性がある。

柱穴 No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
直径 cm	20	20	30	24	26	25	18	16	35	37
深さ cm	5	6	9	6	11	5	3	6	6	7

遺物出土状態 埋没土中より多くの遺物が出土したが、東側から出土したものは前期のものが多かった。本住居跡とは重複しないが、東側には前期と考えら

れる124号住居がある。それ以外は中期のものが多かった。ほぼ中央より大形で偏平な石皿S1の完形品が正位で、深鉢2点(116住2・3)が潰れた状態で検出された。深鉢については底部は欠失していた。いずれの遺物も大形品は床面からかなり浮いた状態にあり、床面に貼り付いていたものは少なかった。

備考 中期中葉のものと考えられる。



第44図 118号住居跡

1. 縄文時代

118号住居跡 (第44図、P L13)

位置 E区q・r-37・38 主軸方位 N82°W

重複 131号住居→118号住居→102号住居

規模 縦4.30m×横3.80m×深さ0.15m

形状 隅丸方形。北東部が突出する。

埋没土 白色小粒子、黄褐色小粒子を多く含む暗褐色土である。周辺部はロームブロックを含むが、中心部は周辺よりも赤味を持つ。

掘り方 特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。北東部の張り出し部分も他の面とあまり差は認められなかった。

貯蔵穴 位置 東壁。1号土坑がその可能性がある。

規模 長径約75cm×短径約53cm×深さ約22cm

形状 楕円形

周溝 無し。

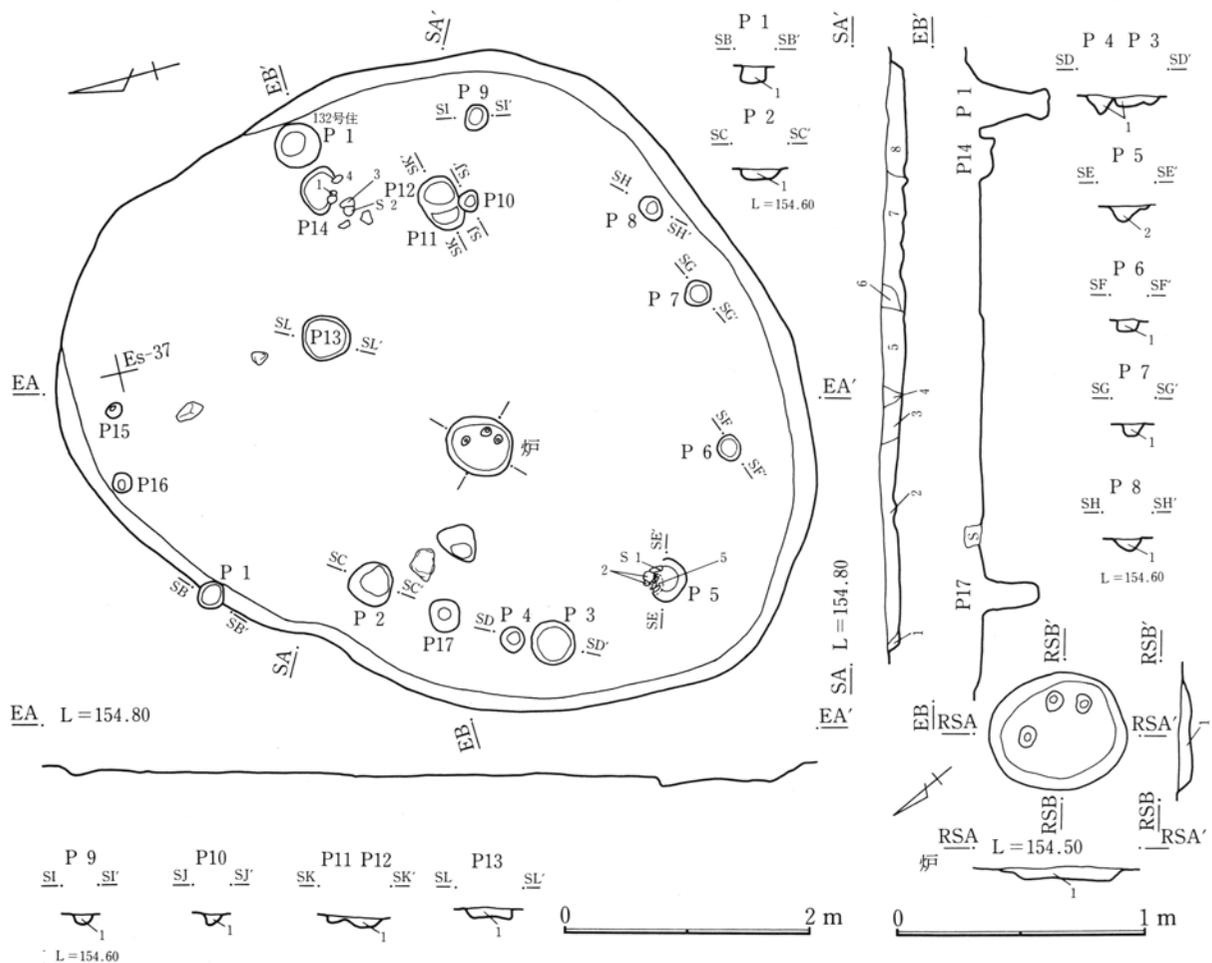
柱穴 いずれの柱穴も浅く配置もきちっと並ばないのではっきりとはしないが、住居プランからすると4本の可能性がある。

柱穴 No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10
直径 cm	25	32	33	22	33	26	40	23	34	28
深さ cm	8	10	12	7	14	6	16	5	5	8

遺物出土状態 グリッドで取り上げた遺物はあったが、確認された壁の深さが浅かったせいか埋没土からはほとんど検出されなかった。

炉跡 位置 不明。床面を精査したが、焼土粒子や炭化物の集中箇所等は検出できなかった。

備考 時期判定できるような遺物は検出できなかったが、切り合い関係や住居プランから中期中葉と推量される。



第45図 119号住居跡

## II 検出された遺構と遺物

119号住居跡 (第45・122・185図、P L13・75・120)

位置 E区 r・s-36・37、t-36 主軸方位 N33°E

重複 92・132号住居→119号住居→102号住居→87・99・100・101号土坑

規模 縦6.20m×横5.00m×深さ0.20m

形状 東西に長い楕円形。北側に張り出しを持つ入り口と考えられる。

埋没土 ロームブロック及び粒子を多く含む暗褐色～黒褐色土である。

掘り方 特別な掘り方を持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。北側に小ピットを有し張り出しを持つが、特別に硬質な部分は検出されなかった。

貯蔵穴 位置 不明。柱穴として取り上げたP13やP14がその可能性がある。

周溝 無し。

柱穴 主柱穴は当初、132住P1とP17の2本と想定して調査を進めたが、浅いピットもくまなく調査した結果、楕円形を呈することが判明した。北側の小ピットは入り口施設の可能性がある。当初の想定した2本は別の遺構のものという結論に達した。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
直径 cm	22	35	35	20	30	20	22	20	28
深さ cm	14	18	6	15	13	10	10	10	8
柱穴 No.	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	
直径 cm	15	28	30	37	35	13	15	25	
深さ cm	9	6	8	6	12	4	10	45	

遺物出土状態 ほぼ全体から小破片の状態で出土したが、P5とP14の柱穴周辺からまとまって発見された。しかし、床面近くに貼り付いたものよりも浮いたものが多かった。グリッドでは本住居跡の上から多量の中期を主体とする土器等を取り上げた。

炉跡 位置 ほぼ中央

規模 全長55cm 最大幅50cm 深さ5cm

形状 楕円形

埋没土 暗褐色土を斑状に、白色小粒子を多く含むにぶい黄褐色土である。

遺存状態 あまり良好ではなかった。床面を丁寧に

精査した結果、わずかに赤変している部分を検出した。特に炭化物粒子や焼土粒子、ブロックの集中は認められなかった。

遺物出土状態 遺物はまったく出土しなかった。

備考 中期中葉と考えられる。

120号住居跡 (第46・123・185・186図、P L14・76)

位置 E区 b・c-28・29 主軸方位 N70°E

重複 120号住居→106・122号住居

その他の土坑、小ピットに切られていた。

規模 縦(3.10)m×横3.85m×深さ0.70m

形状 ほぼ円形か? 西側は調査区外のため未確認であった。

埋没土 総社砂層ブロック・黄褐色小粒子及び白色小粒子を多く含む黒色～暗褐色土である。

掘り方 特に無し。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、中央部は周辺に比べてやや高くなっていた。122号住の床面とほぼ同じレベルであるがごくわずかに高くなっていた。

貯蔵穴 位置 不明。住居調査時に1～4号までの土坑が検出されたが、住居とまったく同時のものか前後関係があるのかは判別がつかなかった。大きさがほぼ同じであるので順次作り変えた可能性もある。

周溝 無し。

柱穴 主柱穴はP3とP5の2本と考えられる。他のものは補助的なものと思われる。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
直径 cm	50	22	30	30	30
深さ cm	30	13	27	26	21

遺物出土状態 埋没土中からは土器小破片及び石器が出土したが、レベル的には床面からやや浮いたものが多く、床に貼り付いたものはほとんどなかった。グリッドで取り上げた遺物も多くあるが、本住居跡に切り込む土坑、ピットも多く本当に伴うものかどうかは判別が難しいものが多かった。埋没土中からは中期の他に前期土器破片も検出された。

炉跡 位置 不明。2号土坑埋没土中からは炭化物粒子を多量に、4号土坑からは焼土粒子が少量確認

1. 縄文時代

されたが、いずれも炉跡には該当しないものと考えられる。それ以外、床面の空白部分に炉跡は検出できなかった。

備考 中期中葉のものと考えられる。

122号住居跡 (第46・87・124・187・188図、P L14・52・77・121)

位置 E区 a・b・c-28 主軸方位 N20°W

重複 120号住居→122号住居→106号住居

規模 縦5.45m×横(1.60)m×深さ0.85m

形状 楕円形か?

埋没土 上部は茶褐色土ブロックを少量含む黒褐色

土であるが、同時に多量の土器、石器も含まれる。中～下部は白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子少量含む黒褐色～暗褐色土である。下部には茶褐色土ブロックや総社砂層ブロックが含まれており、人為的に埋め戻された可能性もある。

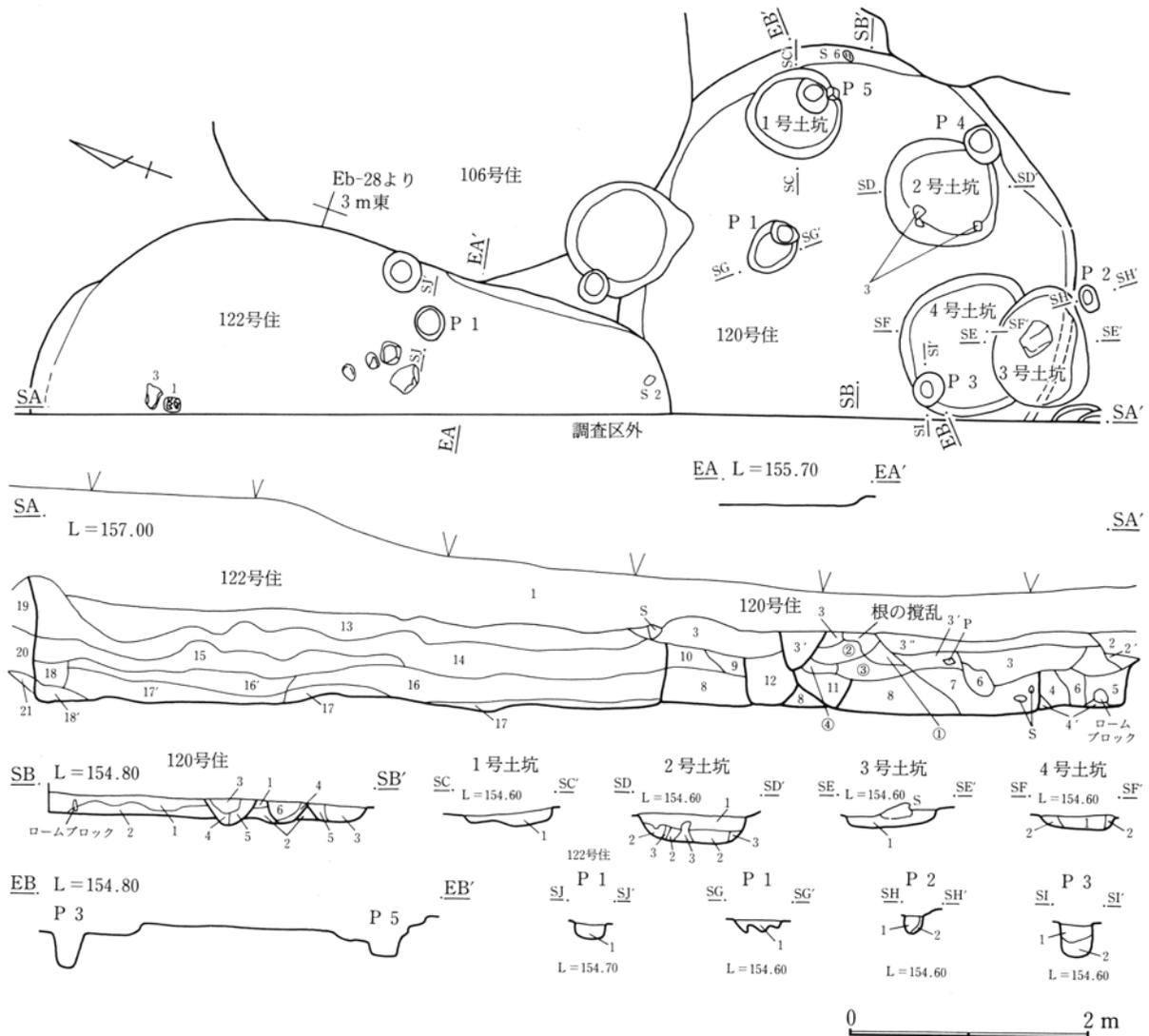
掘り方 特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。調査区内からは該当するような土坑は検出できなかった。

周溝 無し。

柱穴 住居プラン内から2基の小ピットを検出した



第46図 120・122号住居跡

## II 検出された遺構と遺物

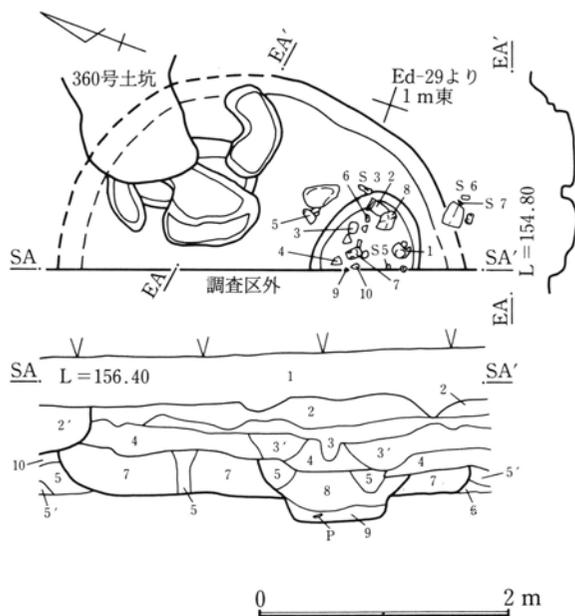
が、106号住に関連する施設の可能性もある。

柱穴 No.	P 1	P 2
直径 cm	26	33
深さ cm	11	8

**遺物出土状態** 多くの土器、石器が出土したが、いずれも住居跡の窪みに捨てられたようなものが多く、床面よりかなり浮いた状態であった。住居北寄りから122住1の勝坂期の底部が出土したが、これも床面からはかなり高い位置であった。

**炉跡** 位置 不明。床面を精査したが、調査区内からは焼けた箇所等は検出できなかった。

**備考** 中期中葉と考えられる。



第47図 121号居跡

121号住居跡 (第47・87・123・187図、P L14・52・76・120)

位置 E区c・d-28・29 主軸方位 N18°W

重複 121号住居→360・420・434号土坑

規模 縦3.25m×横1.55m×深さ0.50m

形状 ほぼ円形か?

埋没土 黄褐色小粒子多量、総社砂層ブロック及び黄褐色粘性土ブロックを多く含む暗褐色土である。

**掘り方** 特別な掘り方は持たない。北東部の不規則な凹凸は別な土坑との重複のためと考えられる。

**床面** 貼り床無し。

**貯蔵穴** 位置 不明。南部の径約85cm、深さ約40cmの楕円形、丸平底の土坑は断面で見ると本住居跡よりも新しいものと考えられる。

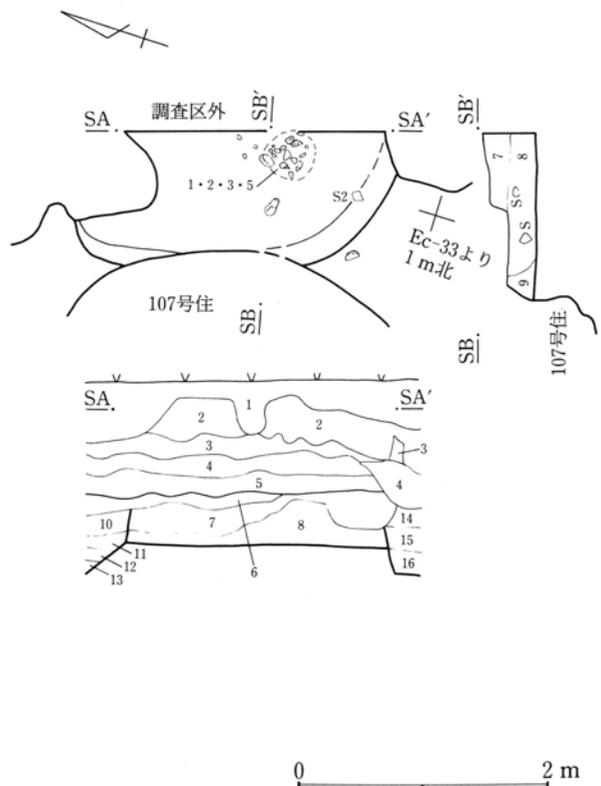
**周溝** 無し。

**柱穴** 不明。重複部分が多く、平坦部分からは柱穴は検出できなかった。

**遺物出土状態** 住居南部の土坑内及びその周辺からまとめて出土したが、それ以外の部分からはほとんど検出できなかった。これらの遺物は比較的底面に近い部分からのものが多く、より土坑との同時性は高いものと考えられる。

**炉跡** 位置 不明。埋没土中では土坑の北側で、若干の焼土粒子は見受けられたが炉にはならなかった。そのすぐ西側の調査区外にある可能性が高い。

**備考** 中期中葉と考えられる。



第48図 123号住居跡

123号住居跡 (第48・124図、P L14・77)

位置 E区b-32・33 主軸方位 N17°W

重複 123号住居→107号住居、179・421号土坑

規模 縦2.10m×横1.05m×深さ0.40m

形状 円形か？

埋没土 総社砂層小ブロック・白色小粒子及び黄褐色小粒子を少量含む暗褐色土である。

掘り方 特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。107号住の床面よりやや深い。

貯蔵穴 位置 不明。調査区内では該当するような土坑は検出できなかった。

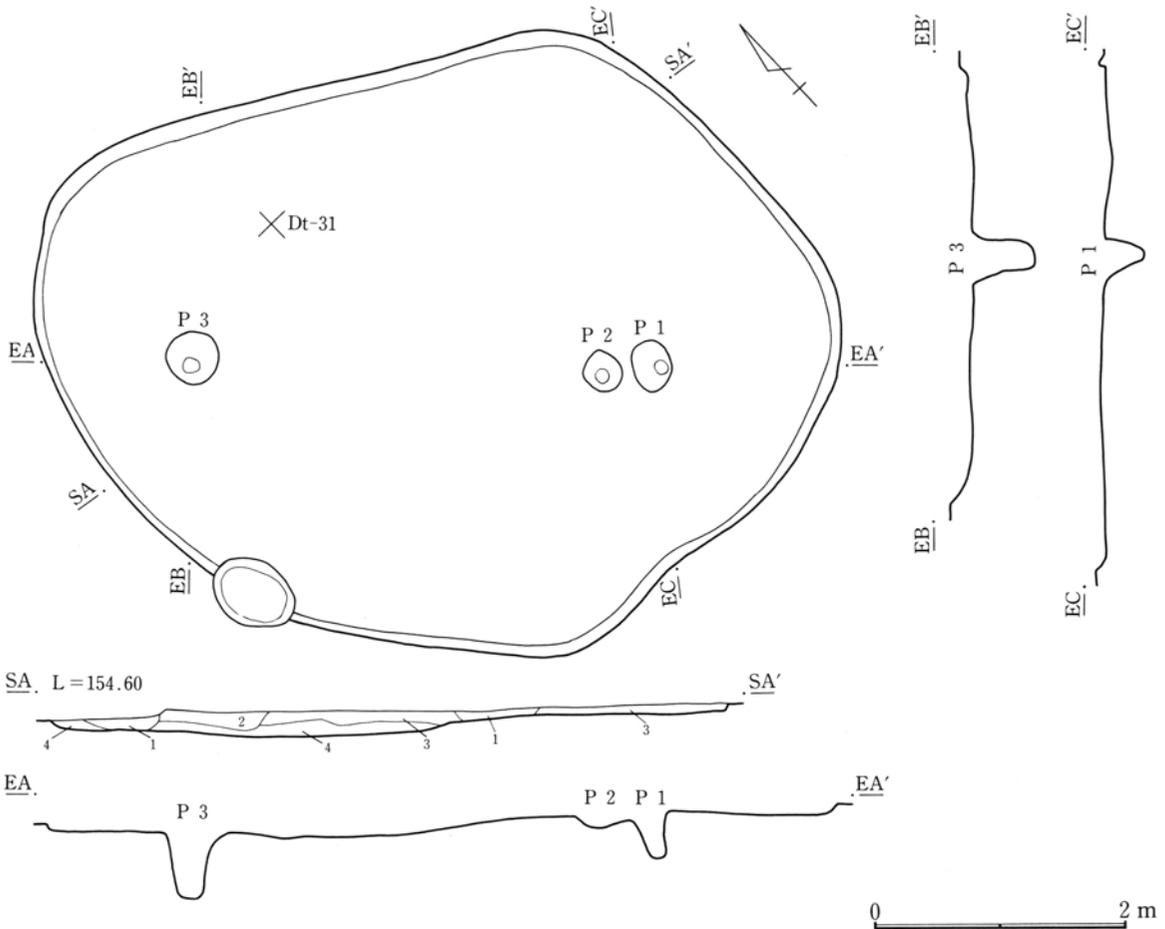
周溝 無し。

柱穴 不明。床面を精査したが、該当するようなピットは検出できなかった。

遺物出土状態 東壁寄りから比較的まとまって土器小破片が出土したが、床面からはかなり浮いた状態であった。グリッドで取り上げた遺物は多いが、本住居跡に伴うものかどうかは判断の難しいものが多かった。

炉跡 位置 不明。床面を精査したが、火熱を受け赤変した部分は確認できなかった。

備考 中期中葉と考えられる。



第49図 124号住居跡

II 検出された遺構と遺物

124号住居跡 (第49図、P L14)

位置 D区 s・t-30・31 主軸方位 N45°W

重複 無し。

規模 縦6.45m×横4.95m×深さ0.16m

形状 楕円形。壁の立ち上がりも浅く、グリッドで遺物を取り上げた後に確認した。

埋没土 ロームブロック及び粒子を含む暗褐色土である。全体が浸み状に地山よりも暗い感じであった。

掘り方 特別な土坑、ピット等はなかった。西半部はやや下がる。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、西半部はやや下がり若干の凹凸を持つ。入り口を想定させるような硬質な面は確認できなかった。

貯蔵穴 位置 不明。西部に長径約68cm、短径約52cm、深さ約12cmの楕円形の土坑がある。

周溝 無し。

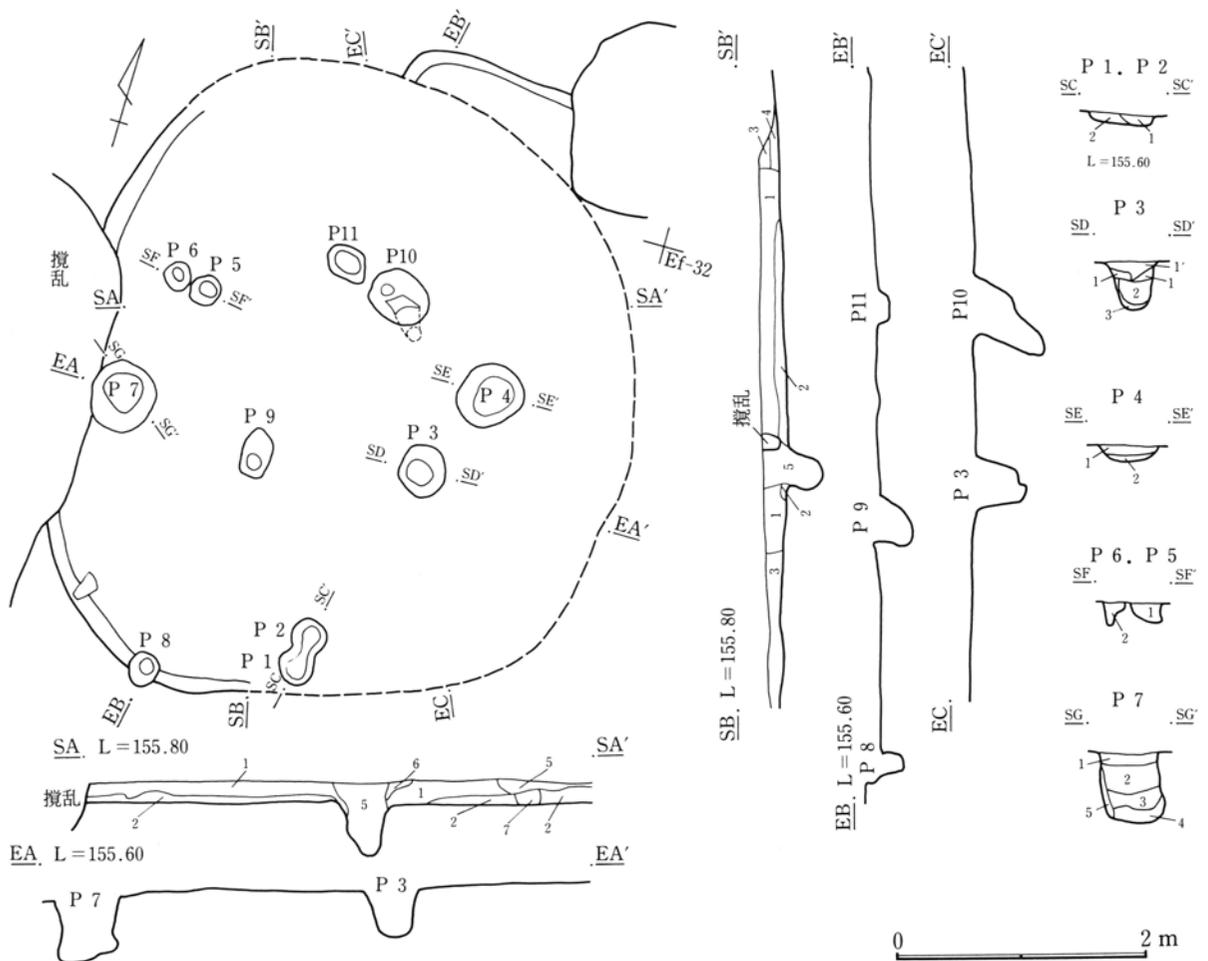
柱穴 支柱穴はP 1とP 2の2本柱と考えられる。

柱穴 No	P 1	P 2	P 3
直径 cm	38	34	42
深さ cm	30	13	52

遺物出土状態 グリッドでは多量の土器片や石器類を取り上げたが、住居の埋没土中からはほとんど出土しなかった。周辺グリッドで取り上げた遺物には中期の土器破片もあったが、前期後葉のものが多かった。確認面がもっと上であれば他の住居跡同様に浮いた状態で検出されたものと思われる。

炉跡 位置 不明。床面を精査したが、焼土粒子や炭化物粒子の集中箇所や赤変した箇所は検出できなかった。

備考 前期後葉のものと推量される。



第50図 125号住居跡

125号住居跡 (第50図、P L14)

位置 E区 e-31、f-31・32 主軸方位 N76°E

重複 特に無し。

規模 縦5.05m×横4.20m×深さ0.20m

形状 楕円形。北側と南側が若干張り出す。住居壁は浅く立ち上がり確認できたのは、ごくわずかな部分であり破線は推定ラインである。

埋没土 白色小粒子多量、黄褐色小粒子多く、茶褐色土ブロックを少量含む黒褐色土である。下部の方が茶褐色土ブロックがやや多く、焼土粒子を少量含む色調も明るい。

掘り方 特に無し。

床面 貼り床無し。全くと言っていいほど平坦であり、比較的良くしまっていた。北側のやや張り出す部分は特に良く硬化していた。

貯蔵穴 位置 不明。住居プラン内には該当するような土坑、ピットは確認できなかった。

周溝 無し。

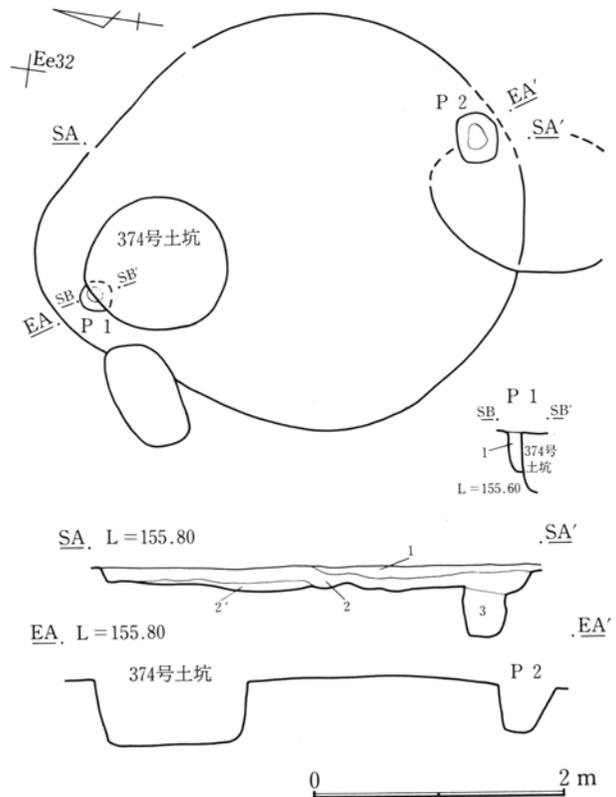
柱穴 主柱穴については東西のP 3とP 7の2本と考えられる。北側のように特別に硬化していたわけではないが、南側のP 1・P 2・P 8については入り口施設の可能性も考えられる。

柱穴No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10	P 11
直径cm	28	27	40	53	25	22	56	26	38	50	34
深さcm	7	11	41	8	15	19	49	30	31	59	7

遺物出土状態 住居埋没土中からは遺物はほとんど出土しなかった。グリッドで取り上げた遺物も調査区の北側部分に比べるとやや少なかった。主に中期中葉を中心とするものが多かった。他の住居同様、住居壁が深く残っていても床面に貼り付いたものは少なく、浮いているものが多かった。

炉跡 位置 不明。埋没土下層部分には若干焼土粒子が含まれる部分もあったが、明確な赤変している箇所等は確認できなかった。

備考 確実に伴うと考えられる遺物は少ないが、他の住居との比較から中期中葉と推量される。



第51図 126号住居跡

126号住居跡 (第51図、P L16)

位置 E区 e-31・32 主軸方位 N29°W

重複 126号住居→374号土坑

規模 縦4.10m×横3.35m×深さ0.45m

形状 楕円形。住居プランは硬化面の範囲である。

埋没土 茶褐色土ブロック多量、白色小粒子多く、黄褐色小粒子少量、しまりの悪い暗褐色土である。

掘り方 特に無し。2層及び2'層の下がやや他の地山より暗い感じであったが、自然の地形的な落ち込みと考えた。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、若干の凹凸が見られた。極めてしまりは良くかなり硬質であった。

貯蔵穴 位置 不明。住居内には374号土坑があるが、本住居跡の柱穴と重複しており伴うものとは考えられない。

周溝 無し。

## II 検出された遺構と遺物

**柱穴** 主柱穴はP 1とP 2の2本と考えられる。他のものは検出できなかった。

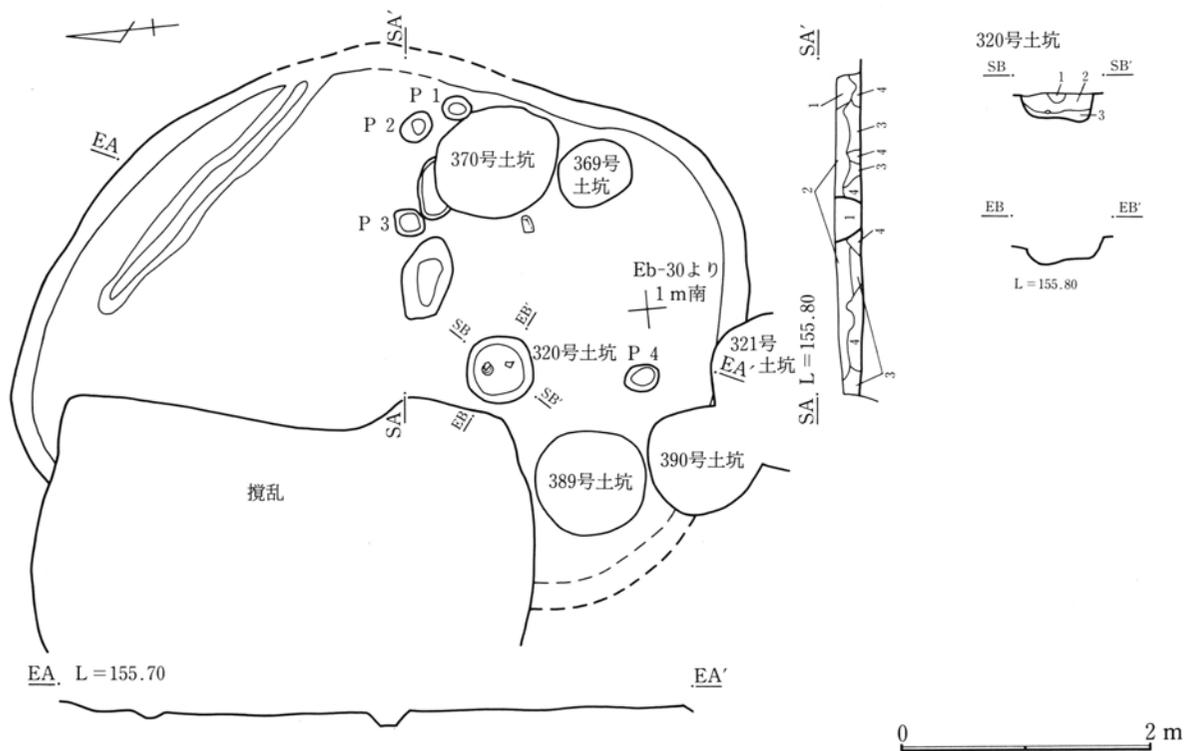
柱穴 No.	P 1	P 2
直径 cm	25	38
深さ cm	38	38

**遺物出土状態** 374号土坑内からは多量の小角礫と土器片が出土したが、住居埋没土中からはほとんど

遺物は出土しなかった。グリッドで取り上げた遺物には中期中葉のものが多い。

**炉跡** 位置 不明。床面を精査したが、焼土粒子や炭化物粒子の集中箇所等は検出できなかった。

**備考** 明らかに本住居に伴う遺物は検出できなかったが、切り合いや他の住居の状況から中期中葉と考えられる。



第52図 127号住居跡

127号住居跡 (第52図、P L16)

**位置** E区 a・b-29・30 **主軸方位** N10°W

**重複** 127号住居→104号住居

320・321・369・370・389・390号土坑、いずれの土坑も住居より新しいものと考えられる。

**規模** 縦6.00m×横(4.25)m×深さ0.20m

**形状** 楕円形。北半の張り出し部分に入り口があった可能性もある。

**埋没土** 黄褐色小粒子やや多く、白色小粒子微量含む黒褐色土である。下部には総社砂層小ブロック及

び粒子を多く含む。

**掘り方** 特に無し。

**床面** 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。104号住の床面よりやや低い。

**貯蔵穴** 位置 不明。中央より東寄りに径約50cm、深さ約10cmと、長径約55cm、短径約37cm、深さ約11cmの楕円形ピットがある。

**周溝** 幅約25~30cm、深さ約3~5cmで北東部の一部だけに認められた。

1. 縄文時代

柱穴 南半部にはあるが、北半部には柱穴に相当するようなピットは検出できなかった。特定の並び方は見られなかった。

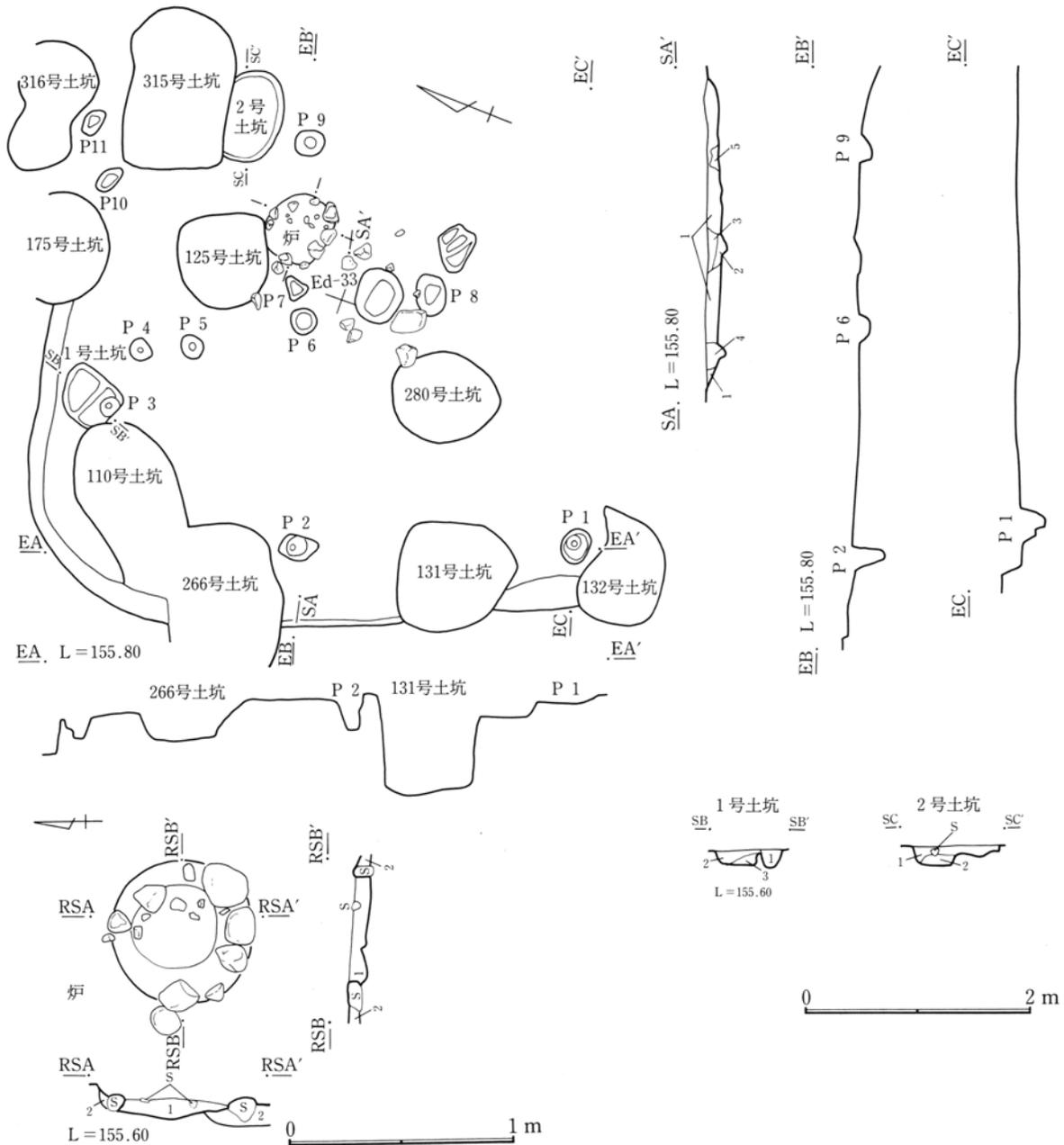
柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4
直径 cm	23	26	25	28
深さ cm	10	12	8	11

遺物出土状態 重複する土坑内からは多くの遺物が

出土したが、埋没土からはほとんど遺物は出土しなかった。グリッドで取り上げた遺物には前期土器破片もあったが、中期破片も多かった。床面に貼り付いたような遺物もほとんどなかった。

炉跡 位置 不明。床面を精査したが、焼土粒子や炭化物粒子の集中箇所は認められなかった。

備考 中期中葉以前のものと考えられる。



第53図 128号住居跡

II 検出された遺構と遺物

128号住居跡 (第53・124・188図、P L16・77・121)

位置 E区c・d-32・33 主軸方位 N17°W

重複 128号住居→93号住居

110・125・131・132・175・266・280・315・316号土坑、土坑調査後に住居プランを確認したため、土坑との前後関係は不明である。

規模 縦 (5.00) m×横 (5.00) m×深さ0.15m

形状 隅丸方形か? 南東部が自然の営力により削られていたので、はっきりとしないが北東部に入り口があった可能性もある。

埋没土 総社砂層ブロック及び白色小粒子を多く、小礫を多量含む明褐色土である。

掘り方 特に無し。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、南東側に若干傾斜していた。比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。炉跡の南側に長径約45cm、短径約40cm、深さ約21cmの楕円形、長径約40cm、短径約25cm、深さ約19cmの有段で楕円形のピットがある。

周溝 無し。

柱穴 支柱穴は4本ないしは、6本と考えられる。

柱穴No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11
直径 cm	28	33	15	20	20	25	20	32	25	26	26
深さ cm	22	31	19	8	9	11	11	22	12	9	13

遺物出土状態 重複している土坑を除き、住居埋没土中からはほとんど遺物は出土しなかった。グリッドでは取り上げた遺物も多いが、本住居跡に伴うものかどうか判別のつかないものが多かった。他の住居跡同様、床面に貼り付いたものはほとんどなかった。

炉跡 位置 中央よりやや東寄り

規模 全長60cm 最大幅60cm 深さ7cm

形状 楕円形

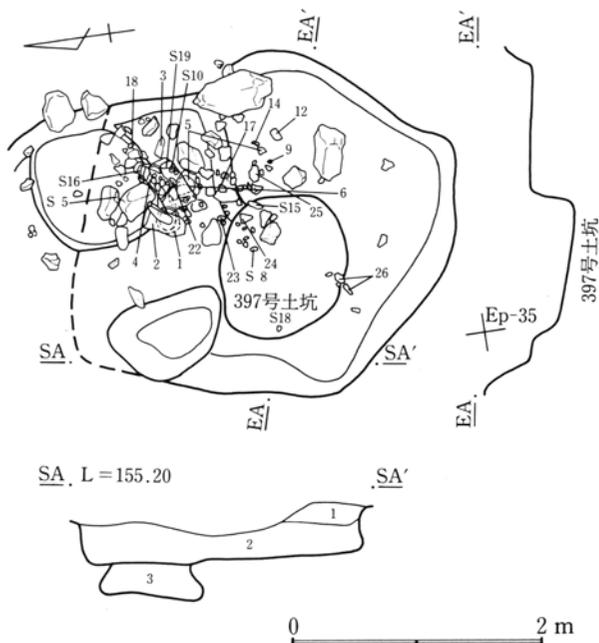
埋没土 黄灰褐色砂質土ブロック及び白色小粒子を多く、小礫を含む暗褐色土である。

遺存状態 あまり良好ではなかった。西側は125号土坑があり壊されていたのではっきりとはしないが、東西に長く西側に焚き口があった可能性がある。床面を楕円形に掘り窪めまわりに亜角礫を配置し、炉

を組み上げている。礫はごくわずかに火熱を受けた痕跡はあったが、焼土や炭化物はほとんど残っていなかった。

遺物出土状態 角礫は出土したが、土器片等は検出されなかった。炉の周辺には角礫や亜角礫が多く認められた。

備考 中期中葉と推量される。



第54図 129号住居跡

129号住居跡 (第54・87・88・124・125・188~190図、P L15・52・53・77・78・121)

位置 E区o-34・35 主軸方位 N50°W

重複 397号土坑→129号住居

規模 縦 (3.40) m×横2.70m×深さ0.60m

形状 楕円形

埋没土 砂礫を多量に含む暗黄褐色～黄褐色土である。西半部は地山は陣場泥流層の砂礫層のため埋没土中にも多量の砂礫が含まれていた。

掘り方 397号土坑や西壁の土坑は明らかに住居の床下から検出されたものであるが、397号土坑については住居の中心に位置しておりそれよりも古いものと考えた。

床面 貼り床有り。土坑の上の部分だけに確認され

た。床面は北側が一段下がり、南側はベット状にやや高くなる。

**貯蔵穴** 位置 不明。397号土坑の西側の長径約90cm、短径約65cm、深さ約52cmの楕円形の土坑がその可能性がある。

**周溝** 無し。

**柱穴** 不明。床面を精査したが、柱穴に該当するようなピットは検出できなかった。

**遺物出土状態** 中央部よりやや東側から極めて多量の土器が出土した。当初この土器集中部が平面で確認した際には周りよりも黒く見えたので土坑と考えたが、調査を進めた結果レンズ状堆積の中心部であろうと言う結論に達した。多量の土器破片を取り除いた結果、底面からほぼ完形の深鉢2個体(129住2、6)と口縁部のみの個体(129住4)、胴部のみの個体(129住1)が検出された。その他に多量の石器類

も出土した。

**炉跡** 位置 中央部よりやや東側と推定される。

**規模** 全長30cm 最大幅30cm 深さ3cm

**形状** ほぼ円形

**埋没土** 焼土粒子を含む暗黄褐色土である。

**遺存状態** 同期の他の住居の炉跡に比べるとやや良好であった。浅く皿状に窪んだ中心に129住5が据えられており、それを取り上げた下からは焼土粒子や淡く赤変した部分も検出された。当初大きくて深い土坑と考えたが、これにより住居跡に変更した。

**遺物出土状態** 周りよりやや掘り窪められた中心に据えられたように出土した。

**備考** 中期中葉と考えられる。

130号住居跡(第55・89・125・190図、P L 16・53・122)

**位置** E区m-35 主軸方位 N64°W

**重複** 111号住居→130号住居→198・240・354・394号土坑→105号住居

**規模** 縦3.90m×横3.25m×深さ0.50m

**形状** 楕円形

**埋没土** 白色小粒子やや多く、黄褐色小粒子少量、総社砂層粗粒子を多く含む黒褐色～暗褐色土である。白色小粒子と黄褐色小粒子の量が他のものに比べて少ないのが特徴である。

**掘り方** 特別な掘り方は持たない。

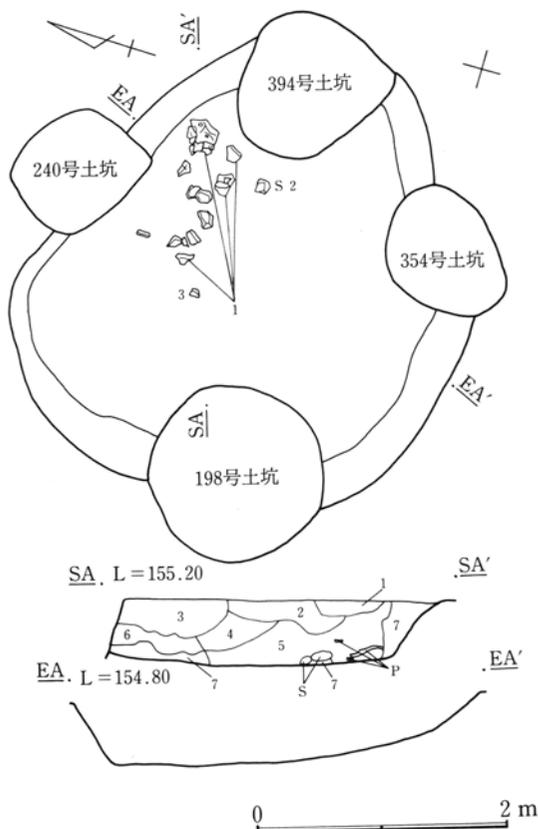
**床面** 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。

**貯蔵穴** 位置 不明。四方の土坑の方がはっきり見えたので、先に調査したので確実な新旧関係は不明であるが、貯蔵穴になる可能性も完全には否定できない。

**周溝** 無し。

**柱穴** 不明。床面を精査したが、柱穴に該当するようなピットは検出されなかった。

**遺物出土状態** 北東部から集中して同一個体の深鉢(130住1)及び角礫S2が出土した。床面より若干浮いていたものもあったが、大半は貼り付いたような状態で検出された。それ以外の場所からはほとん



第55図 130号住居跡

II 検出された遺構と遺物

ど遺物は出土しなかった。

**炉跡** 位置 不明。床面を精査したが、焼土粒子や炭化物の集中箇所は検出されなかった。

**備考** 中期中葉のもの(阿玉台後半)と考えられる。

131号住居跡(第56・191図、P L16・122)

**位置** E区 r・s-37・38 **主軸方位** N16°E

**重複** 131号住、399号土→102・118号住→423号土

**規模** 縦4.35m×横(3.50)m×深さ0.25m

**形状** 隅丸方形

**埋没土** 黄褐色土ブロック及び黄白色砂質土ブロッ

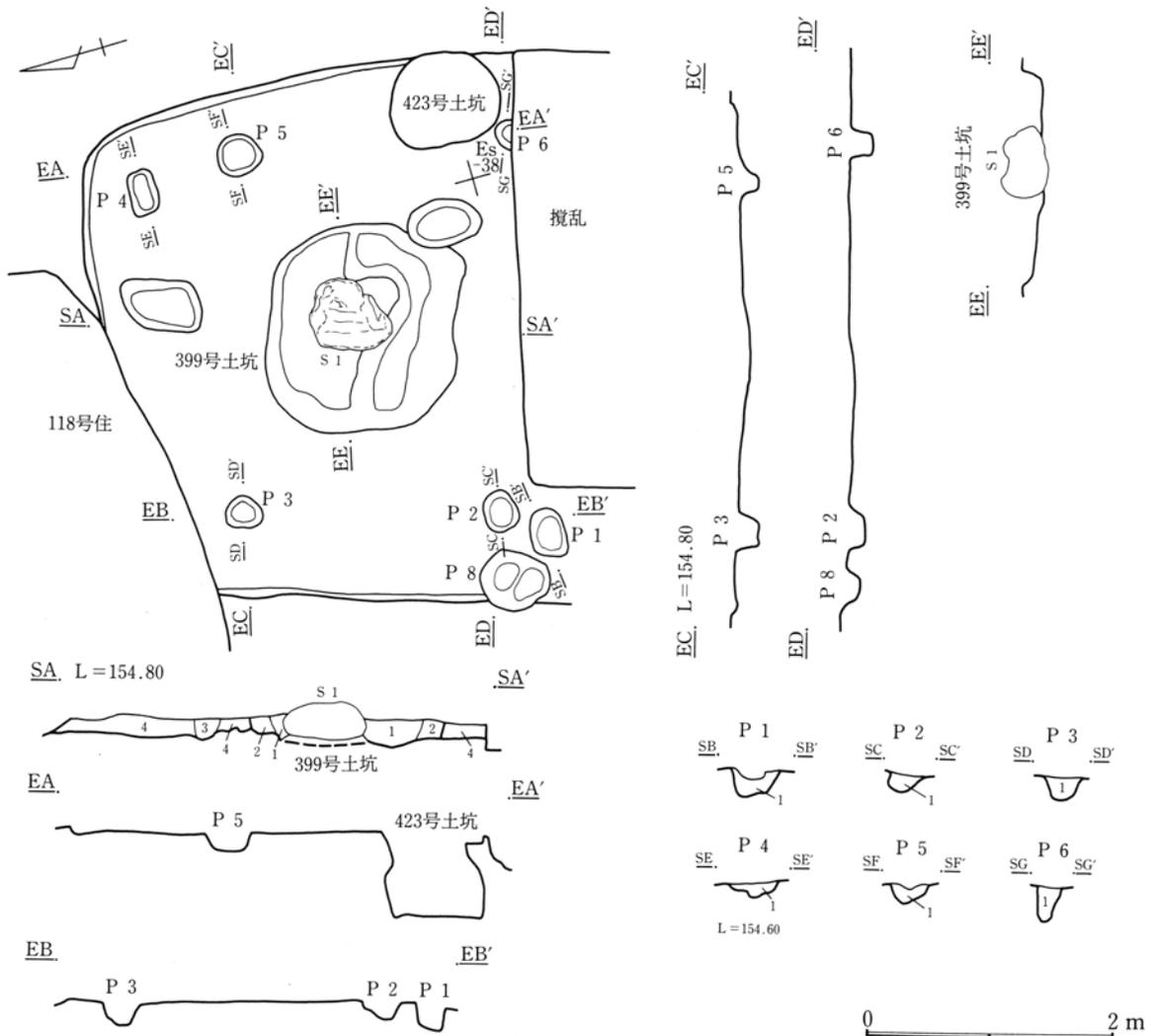
クを含む黒褐色～暗褐色土である。ブロックを多く含むのは人為的に埋め戻されたためと考えられる。

**掘り方** 中央部の石皿周辺は凹凸を持ち、緩やかに皿状に窪む。

**床面** 貼り床無し。多少の凹凸はあるもののほぼ平坦であった。比較的良くしまっていた。入り口を想定させるような特に硬質な面は確認できなかった。

**貯蔵穴** 位置 不明。北壁寄りに長径約60cm、短径約40cm、深さ約12cmの楕円形、399号土坑東に長径約60cm、短径約38cm、深さ約7cmの楕円形ピットがある。

**周溝** 無し。



第56図 131号住居跡

1. 縄文時代

**柱穴** 主柱穴はP 2・P 3・P 5・P 6の4本と考えられる。それ以外のものは補助もしくは建て替えと思われる。

柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
直径 cm	40	32	30	37	35	24
深さ cm	16	15	19	11	16	30

**遺物出土状態** この上には102号住がありその柱穴内からは多くの遺物が出土したが、本住居跡の埋没土中からは遺物はまったく出土しなかった。399号土坑の中心には重さ100kg近い大形の礫を用いた石皿S 1があり、あたかもこれを囲むように住居が建て

られているような柱穴配置であり住居プランとなっている。

**炉跡** 位置 不明。399号土坑中心の石皿は火熱を受け、焼けた痕跡が残っていた。その近くで火を使った可能性はある。

**備考** 確実に本住居跡に伴う時期判定できる遺物は検出できなかったが、切り合いや住居プランから中期中葉と推量される。

132号住居跡 (第57図、P L16)

**位置** E区 s-37・38 **主軸方位** N71°W

**重複** 132号住居→119号住居→102号住居

132号住居→112号住居→102号住居

**規模** 縦4.80m×横(2.20)m×深さ0.15m

**形状** 隅丸長方形か？

**埋没土** 総社砂層土多量、黄褐色小粒子及び白色小粒子を多量に含む暗褐色土である。人為的に埋め戻されている可能性もある。

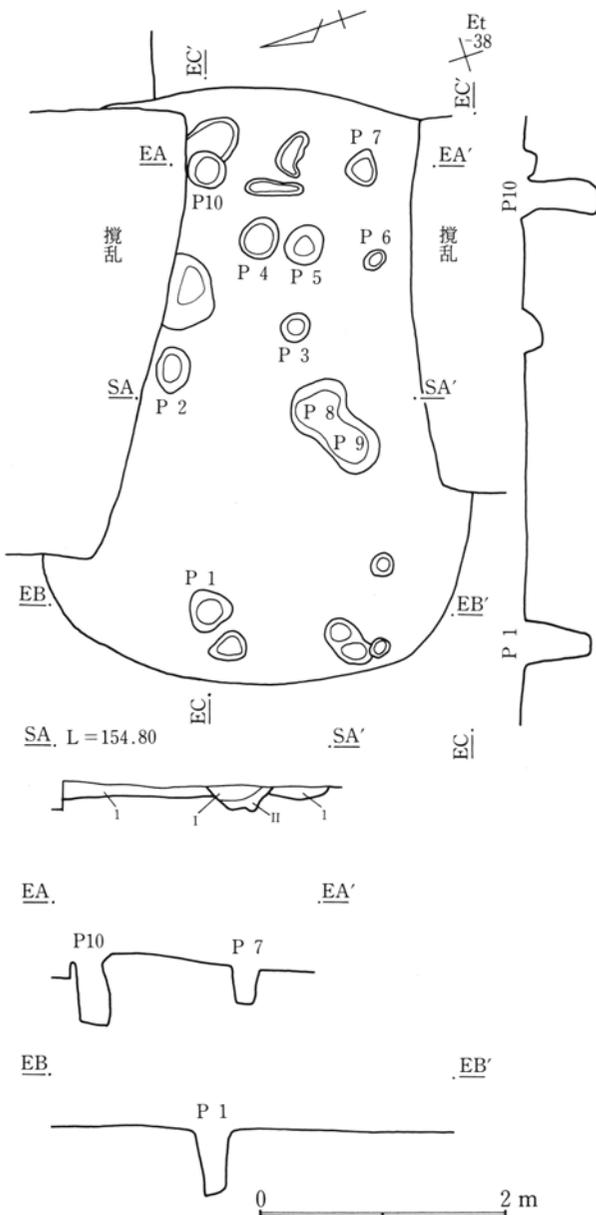
**掘り方** 特に無し。

**床面** 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。しかし、入り口を想定させるような特に硬質な面は検出されなかった。

**貯蔵穴** 位置 不明。東半部に長径約45cm、短径約35cm、深さ約12cmの楕円形、径約60cm、深さ約15cmの円形のピットがある。

**周溝** 無し。

**柱穴** 東半部に多くが集中するようにも見えるが、主柱穴はP 1とP 5の2本の可能性がある。



柱穴 No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10
直径 cm	30	35	24	30	30	18	28	50	37	30
深さ cm	49	13	16	14	49	7	29	11	9	60

**遺物出土状態** 埋没土中からはほとんど遺物は出土しなかった。グリッドで取り上げた遺物もあるが、さほど多くはない。

**炉跡** 位置 不明。床面を丁寧に精査したが、焼土粒子や炭化物の集中箇所は検出できなかった。

**備考** 住居形態や切り合いから中期中葉と考えられる。

第57図 132号住居跡

## II 検出された遺構と遺物

### b 土坑・ピット

本遺跡では500基の土坑及び300基のピットを検出し、多くの遺物が出土した。その分布は先にも述べたとおり、縄文時代中期の集落形態に一般的にあるように、環状集落とその内側に占地する土坑・ピット群という構造が見て取れる。主に遺跡の北側と中央に集中部が認められた。

縄文時代中期中葉の遺跡では、土器などの主体的遺物は住居跡からの出土以外に、土坑からのものが多い。しかし、栃木県槻木沢遺跡などに見られる袋状土坑からの多数型式土器の共伴といった編年研究や袋状土坑の機能を考える研究などに多大な影響を与えるものは現在のところ本県では未発見であり、普通完形品やそれに近い土器は土坑内に単独であったり、2個体での出土が多い。数個以上のものがまとまって出てくることはほとんどない。今後もこの傾向は続くものと思われる。埼玉県内ではこの時期の袋状土坑そのものもほとんど見られない。こうした傾向はそれぞれの県での地域性かもしれない。

本遺跡における1,000基を越えるであろう土坑・ピット群のうち、当時の人間の行動と有機的な繋がりをもつものは土坑361基・ピット277基以上と考えられ、その形態や遺物出土状態はいくつかに分けることができる。ここでは、それらの土坑群をその平面形態と断面形態の組み合わせにより大まかに分類し、その上で遺物の出土状態などについても見ていきたいと思う。

#### 土坑分類基準

##### 1 平面形態

方 形 隅丸方形や隅丸長方形を呈するもの

円 形 ほぼ円形を呈するもの

楕円形 やや細長く楕円形を呈するもの

##### 2 断面形態

平底形 掘り方は深くしっかりしており、底が平坦で両壁もほぼ直立するもの

フラスコ形 掘り方は深くしっかりしており、底が平坦で両壁は脇に一端拡がってか

ら立ち上がるもの(袋状のものも含む)

丸平底形 掘り方は浅く、底は平坦であるが、両壁の立ち上がりは丸みをもつもの

丸底形 掘り方は浅く、底から滑らかに壁に立ち上がってしまうもの。いわゆる鍋底状を呈するもの。

尖底形 掘り方は浅く、底はやや不定形で、中央部が深く下がるもの

例えば、平面形態が円形で断面形態が丸底形のもので遺物の出土したものは土坑観察表の備考欄に「円形、丸底、深鉢、磨製石斧」という具合に主だった遺物も含めて記載した。

調査において、焼石土坑や完形土器を出土した特徴的な土坑は極力1/10もしくは1/20の図面を作成した。本書でもこの図面を使用し、極力1/30図として掲載するよう努め、他の土坑は1/60図を原則とした。しかし、紙数やレイアウトの都合上1/60図の土坑の中にも遺物を出土した土坑や大形の石器を出土したものもあり、均等性に欠ける点もあるが、それに関しては写真と文章で補っていききたいと思う。

ピットに関しては無遺物もしくはほとんど遺物が出土しないものが多く、遺物は小さい破片も取り上げたが、遺構に関してはまとまった遺物が出土したもののみ、本文中で取り上げた。また、調査時に振った番号を極力そのまま用いたので、本来はその規模から土坑に分類すべきものも若干含まれていることもあらかじめお断りしておきたい。

土坑の掲載順序は、焼石・集石土坑(1/30)遺物を主体的に出土した土坑(1/30)、その他の土坑(1/60)の順に行う。

なお、文中ではグリッド位置、規模等は特に明示しなかった。土坑一覧表を参照していただきたい。

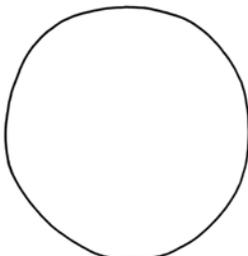
1 平面形態



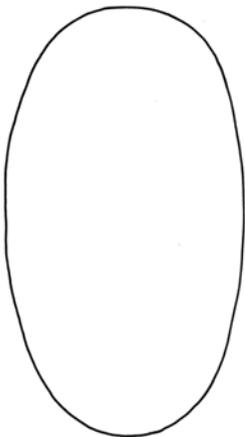
隅丸方形



隅丸長方形



円形



楕円形

2 断面形態



平底形



フラスコ形



丸平底形



丸底形



尖底形

第58図 縄文時代土坑分類模式図

## II 検出された遺構と遺物

### 1 焼石・集石土坑

#### 87号土坑 (第59・192図、P L 19・122)

ほぼ円形を呈するもので、底は若干の凹凸のあるもののほぼ平坦である。比較的掘り方は浅く、壁はやや開きながら立ち上がる。集石は比較的大形の亜角礫を主体にしており、若干焼けた痕跡を持つ。地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いており、そのあり方は土坑の南寄りにまとまっており、北側はやや隙間があき、断面で見ると底面近くまで入っているのがわかる。102号土坑のように間層があって掘り方の上に礫が載るのとは対照的である。

#### 88号土坑 (第59・126図、P L 19・79)

ほぼ円形を呈するもので、底は若干の凹凸があるもののほぼ平坦である。壁はやや緩やかに開きながら立ち上がる。集石は中形の亜角礫を主体にしており、焼けた痕跡を持つ。地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いており、そのあり方はほぼ土坑全面にあり、断面を見ると底面近くまで入っているのがわかる。その点では87号土坑に類似する。また、下に大形の礫を配し、上の方にやや小さい礫を入れているようである。

#### 99号土坑 (第59・126図、P L 19・79)

隅丸方形に近い円形を呈するもので、底はほぼ平坦である。壁はやや開きながら緩やかに立ち上がる。集石は大形・中形の亜角礫を主体にしており、焼けた痕跡を持つ。地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いており、そのあり方はほぼ土坑中心に集中しており、断面を見ると88号土坑よりも若干厚い間層があるもののどちらかという底面近くまで入っているのがわかる。その点では102号土坑よりも87号土坑に類似する。また、下に小さい礫を配し、その上に大きい礫を入れている様子も伺える。

#### 102号土坑 (第59・126・192図、P L 19・79・122)

やや不整形な円形を呈するもので、底は凹凸を持

つがやや丸い。壁はやや開きながら緩やかに立ち上がる。集石は比較的大形の亜角礫を主体にしており、焼けた痕跡を持つ。地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いており、そのあり方はほぼ土坑中心に集中しており、断面を見ると掘り方底面からかなり間層をおいて並んでいるように見える。確認面からであるのではっきりしない点もあるが、ほぼ土坑を埋めてから石を置いた可能性が高い。大形の礫の中には凹石も含まれる。

#### 181号土坑 (第60・130・205図、P L 19・83・128)

ほぼ円形を呈するもので、底は若干の凹凸のあるもののほぼ平坦である。壁は緩やかに開きながら立ち上がる。集石は大形の亜角礫を主体にしており、焼けた痕跡を持つ。地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いている。最初の調査時点ではプランを確認するよりも先に礫が出てしまっていた。その途中で立ち割って確認したところかろうじて浅い掘り方が確認された。礫のあり方はほぼ土坑全面にあり、断面を見ると底面との間に間層はなくぴったりと底面に付いているのがわかる。その点では87号土坑に類似するものの、やや違うタイプということもできる。本来は88号土坑のように下に大形の礫を配し、その上に小形の礫が載っていたものかもしれない。

#### 184号土坑 (第60・205図、P L 19・128)

西半分が失われていたため不明な点もあるが、残っていた礫の分布からするとやや不整形な円形を呈し、底は若干の凹凸のあるもののほぼ平坦なものと考えられる。壁は緩やかに開きながら立ち上がる。集石はやや大形の亜角礫を主体にしており、焼けた痕跡を持つ。地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いている。礫のあり方はほぼ土坑の中央に集中しており、地山から突き出している礫も図示されているのでやや紛らわしい点もあるが、断面を見ると底面との間に間層はなくぴったりと底面に付いているのがわかる。その点では181号土坑に類似する

## 1. 縄文時代

ものということができる。

### 182号土坑 (第60・130図、P L19・83)

ほぼ円形を呈し、底は中央から緩やかに立ち上がる中華鍋底状となっている。集石はやや大形と小形の垂角礫を主体にしており、焼けた痕跡を持つ。地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いている。礫のあり方は、ほぼ土坑の掘り方一杯に配されており、その中には縄文土器の破片や凹石も混じっていた。断面を見ると底面との間にわずかに間層はあるもののほぼ底面に付いているのがわかる。また、下にやや小形の礫を配しその上に大形の礫が載っていることもわかる。その点では99号土坑に類似するものということができる。

### 121号土坑 (第60・128・200図、P L19・81・126)

やや不整形な楕円形を呈するもので、底は北寄りのやや幅広の部分は真平に近いが、南寄りのやや狭い部分は凹凸を持つ。北寄りには浅い皿状に立ち上がり、南寄りには緩やかに開きながら立ち上がる。断面図からすると相前後する2基の土坑の切り合いとも考えられる。集石は大形・中形の垂角礫を主体にしているが、小形の円礫も含まれる。焼けた痕跡を持つものが多い。ほとんどが地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いている。礫のあり方はほぼ土坑の掘り方全体に配されているが、南端には一番大きな石が置かれ、集中部は中心に見られる。周辺部は散在的である。断面を見ると北寄り部分では底面に付いているものがあるのに対して、南寄りの部分では南端の大きな礫を除き底面との間に間層があるのがわかる。しかし、この土坑が2基の土坑の切り合いの結果だとしても、北寄り部分の底部の土層と南寄りの部分の下部の土層との間にはほとんど差がなく、大きい時間差は考えられない。

### 186号土坑 (第60・130・206図、P L20・83・128)

北側の一部を除き掘り方のほとんどが失われていたため不明な点が多く、121号土坑のように周辺に散

在する礫も含めて一つの土坑としてとらえるのか、182号土坑のように集中部だけで一つのものとして考えるのかは難しいところであるが、南北のエレベーションからすると北側の集中部周辺で掘り方は立ち上がっていたものと思われる。そうするとほぼ円形を呈するものと考えられる。壁はやや直線的ではあるが、開きながら立ち上がる。集石は中形・小形の垂角礫を主体にしており、焼けた痕跡を持つ。地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いている。エレベーション図を見るとやや浮いているものもあるが、底面との間に間層はなくぴったりと底面に付いているのがわかる。その点では181・184号土坑に類似するものということができる。

### 445・446号土坑 (第61・101・137図、P L20・59・90)

445号土坑はやや不整形な円形を呈するもので、底はわずかに窪む程度の浅い皿状となる。446号土坑はやや不整形な楕円形を呈するもので、445号土坑よりも掘り方は若干深い、やはり皿状となる。平面図及び断面図からすると2基同時というよりは446号土坑が445号土坑を切り込んでいると考えた方がよいと思われる。集石はやや大形・小形の垂角礫を主体にしている。焼けた痕跡を持つものが多い。ほとんどが地山の陣場岩屑なだれの粗粒輝石安山岩礫を用いている。礫のあり方は445号土坑は掘り方周辺に大形礫を配し、その範囲を決め、中央に小形礫を入れているように見えるが、446号土坑も基本的には同様な配置になっていたものと思われるが、掘り方の外側にもそれを取り囲むように小形の礫が散っており、掘り方一杯ではなくやや隙間があく。また、断面を見ると445号土坑では底面にぴったり付いているものがほとんどであるのに対して、446号土坑では南端のやや大きな礫を除き、底面との間に若干の間層があるのがわかる。こうした状況から、445号土坑については礫が置けるだけ地面をわずかに掘り窪めたものであり、446号土坑についても基本的には同様であるが、こちらは穴を掘ってから底を均した後に

## II 検出された遺構と遺物

礫を配したものと思われる。しかし、この2基の間の土層にはほとんど差がなく、それ程大きい時間差はないと考えられる。この2基は121号土坑の北寄り部分と南寄り部分の關係に類似するように思われる。

### 2 遺物等を出土した特徴的な土坑

**103号土坑** (第62・90・193図、P L 20・54・122・123)

南側が攪乱により壊されていたが、全体の形はほぼ円形で底は緩やかに窪むが比較的平坦であり、壁は外に抉れてからすぼまりながら立ち上がるフラスコ形となる。土坑の途中までが埋められたもしくは埋まった段階のほぼ同一のレベルで中期中葉の深鉢形土器の胴下から底部3個体と石器が出土している。1個体は攪乱によって底部が失われていた。石器と土器はセットになっているようにも見える。なお、土層下半にみえる小石は混じり込んだものと思われる。

**175号土坑** (第62・94・129・204図、P L 20・55・82・127・128)

平面形はほぼ円形であるが、段を持ち、北東部が一番深くなる。底部は比較的平坦である。遺物は北西部から出土した。主だった遺物は底部を欠いた中期中葉の深鉢形土器であり、その土器を押さえるように両脇と周りに小礫が分布していた。

**106・161・162号土坑** (第62・93・126・129・194図、P L 21・55・79・82・123)

3基の土坑の重複であるが、その新旧關係は明瞭ではない。しかし、難しい土層の中で106号土坑が最初に確認され、調査したのも最初であったことを考えるとこの土坑が一番新しい可能性が高い。

106号土坑は平面形は円形を呈するものであり、底部は平坦であり、下半は袋状に広がる。遺物は地山の垂角礫を主体とするものであり、時期判定に使用

できるような土器等の遺物はほとんど出土していない。

161号土坑は平面形は楕円形を呈するものであり、掘り方は比較的浅い。底面はほぼ平坦であり、壁はやや開きながら直線的に立ち上がる。遺物は中期中葉の口縁部を欠く深鉢形土器や礫が出土した。

162号土坑は平面形はほぼ円形を呈するものであり、底面は平坦であり、壁は丸みを持って立ち上がる。中期中葉の深鉢形土器の口縁部破片と礫が出土した。

これらのうち106号土坑のみ他の2基とは深さや断面形が違い性格も違うものと思われる。

**355号土坑** (第62・100・135・219図、P L 21・58・88・135)

108号住居跡近くから検出された。平面形はやや不整形な円形を呈する。底面は平坦であり、両壁はほぼ直線的に立ち上がる。遺物は前期後葉の諸磯a式土器と石皿などが出土した。復原できなかったものも含めると土器は2個体以上があったものと思われる。石皿はよくあるような平坦な礫の真ん中が若干窪むようなものではなく、半分のみ欠損品であったが、きちんと角を作って全体の形を整えているものであった。

**280号土坑** (第63・97・212図、P L 21・56・131)

平面形はほぼ円形で底面は平坦で、やや袋状に開いてからすぼまって立ち上がる。北側が浅い段状になる。遺物は中間よりやや底面に近い部分から土器片がまとまって出土した。復原したところ同一個体の中期中葉の深鉢形土器であることがわかった。

**296号土坑** (第63・97・131・210・211図、P L 21・37・56・84・130・131)

平面形はほぼ楕円形を呈するものであり、北側から東側にかけては浅い段状となる。底部は平坦であり、両壁は開きながら直線的に立ち上がる。遺物は大形の礫や小形の礫の間から多くの中期の土器片が

出土した。それらの出土状況から、意識的に配置したものというよりは、廃棄されたものと考えられる。

### 319号土坑 (第63・99・216図、P L 21・57・133)

平面形はやや西側に張り出す楕円形を呈するものであり、底部は比較的平坦ではあるが、鍋底状にやや丸くなる。遺物は鶏頭冠の付く深鉢形土器の大形破片と体部に縄文の施文される浅鉢の完形品と打製石斧や敲き石等が出土した。浅鉢は逆位で底部中央が欠けた状態で検出された。その中の土から2点の底部小破片が検出され接合することができた。そのことから底部はどこか他の場所で欠いた後にそこに持ち込まれたものではなく、伏せた後に意識的に欠いたか、土圧で欠けたものと考えられる。後に土圧で欠けたものであるとするともう少し口縁部の方が広がって割れていてもいいような気がするが、原形はきちんと保たれていた。そこに置いた者が意識的に欠いた可能性の方がやや高いかとも思われる。

### 374号土坑 (第63・101・136・221図、P L 22・58・89・135)

平面形は円形を呈し、底部はやや丸みを持ち、両壁は僅かにオーバーハングするが、ほぼ直線的に立ち上がる。遺物は土層の中央よりもやや下のところに比較的小形の焼け礫が集中する面が認められ、土器破片はその上に載るように検出されたものが多い。本土坑は検出された土器破片から中期中葉のものと考えられる。ある程度土坑を埋めた、もしくは埋まった段階で貯蔵穴を転用し、焼け礫等を廃棄したものである。

### 375号土坑 (第63・221図、P L 22・135)

平面形は隅丸長方形に近い楕円形であり、底部は平坦であり、両壁はほぼ直角に近い状態で直線的に立ち上がる。土層の中央よりもやや下のところに小形の焼け礫が集中する面があり、壁も焼けていないことから廃棄されたと考えられる。北側底面には大きな礫も認められた。時期判定に使用できるような

遺物は出土しなかったが、周辺の土坑と同様中期のものと思われる。

## 3 その他の土坑

### 84号土坑 (第64図、P L 22)

平面形は楕円形で、底面は平坦である。両壁はやや丸みを持って立ち上がる。

### 89号土坑 (第64・192図、P L 22・122)

南側は確認出来なかったが、平面形は楕円形を呈する。底面は平坦で、両壁は開きながらやや直線的に立ち上がる。覆土中より小形の垂角が礫出土した。

### 90・91・92号土坑 (第64図、P L 22)

90・91号土坑を92号土坑が切り込む形で掘り込まれている。

90号土坑は北東側が92号土坑の壁で確認できなかったが、平面形はほぼ隅丸長方形を呈するものと思われる。底面はほぼ平坦であり、壁はやや丸みを持って開いて立ち上がる。

91号土坑は平面形は楕円形であり、底面は平坦で開いて立ち上がる。2基とも掘り方は浅い。

92号土坑は中程がやや外側に膨らむ隅丸長方形であり、中心が深くなる。中心部とその周りで土層に差はない。

### 94号土坑 (第64・126・192図、P L 79・122)

平面形は不整形な楕円形を呈し、底面は平坦であり、両壁は開いて立ち上がる。北西部から2点の角礫が検出された。南側の小ピットを切り込んでいる。

### 95・96号土坑 (第64・126図、P L 22・79)

それぞれの上場がぎりぎりかかるか否かというところで、明確な重複関係は不明である。

95号土坑は平面形は楕円形を呈し、底部は平坦で、両壁は直線的に開いて立ち上がる。

96号土坑は東側半分が確認できなかったので、全

## II 検出された遺構と遺物

体の形状は不明であるが、ほぼ円形もしくは楕円形を呈するものと思われる。底面は平坦で、浅い皿状に開いて立ち上がる。

### 98号土坑 (第64図、P L 22)

平面形は楕円形で、南側が一段深くなる。南側から小角礫が出土した。

### 100号土坑 (第64・126・192図、P L 23・79・122)

平面形は円形で、底面は平坦であり、両壁は直線的に開いて立ち上がる。西側には小ピット2基が重複する。

### 101号土坑 (第64・91・126・192図、P L 23・54・79・122)

平面形は楕円形で、底面はやや丸みを持ち、両壁は開いて立ち上がる。

### 104号土坑 (第64図、P L 23)

平面形は円形で、底面は比較的平坦であるが、両壁は丸みを持ち開いて立ち上がる。断面形は鍋底状を呈する。

### 105号土坑 (第64・126・193・194図、P L 23・79・123)

平面形は楕円形であり、掘り方は西側が一段深くなる。断面の観察結果からすると西側の深い部分は別の土坑Aが切り込んだ結果生じたものと考えられる。深い部分の底面は平坦であり、両壁も直線的に立ち上がる。

### 108・137・138・139号土坑 (第64・127・202図、P L 33・80・126・127)

断面の観察から南東→北西側にかけて重複して作り替えられていることがわかる。これらの土坑は形状や底面の状態はやや違うものの規模的にほぼ同じことがわかる。

108号土坑は平面形は隅丸方形に近い楕円形であ

り、底面は凹凸を持ち、南側が深くなる。東西壁はほぼ直角に立ち上がる。

137号土坑は平面形は隅丸方形に近い円形であり、やはり底面は凹凸を持ち、南東側が深くなる。138号土坑も平面形は隅丸方形に近い円形であり、やはり底面は比較的平坦であるが、南西側が深くなる。

139号土坑は平面形はほぼ円形であり、底面は平坦で両壁は開いて直線的に立ち上がる。

### 109号土坑 (第64・91・127・194図、P L 23・54・80・123)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は中心が最も窪む。両壁はやや袋状に立ち上がった後、途中から外側に開く。北側には浅い土坑が切り込む。

### 110号土坑 (第65・127・194～196図、P L 23・80・123・124)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、両壁はやや直線的に立ち上がる。掘り方は比較的深くしっかりしている。遺物は土層の途中から底面に近い部分まで幅広く、中期土器片や打製石斧・剥片石器等が出土している。

### 111号土坑 (第65・91・127・196図、P L 23・54・80・124)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、両壁はフラスコ状に立ち上がり中程から外側に大きく開き、幅広くなる。遺物は土層の中程を中心にして中期土器破片等が出土した。

### 112号土坑 (第65・196図、P L 24・124)

平面形はほぼ円形を呈するもので、底面は若干凹凸を持つもののほぼ平坦である。両壁は袋状に立ち上がり中程が最も狭く、上側が開く。

### 113・114号土坑 (第65・91・127・196・197図、P L 24・54・80・124・125)

2基の重複であり、113号土坑を114号土坑が切り

込む。土層の堆積は良く類似しており、それほど大きい時期差があるものではないと考えられる。

113号土坑はほぼ隅丸方形に近い円形を呈するものと思われ、底面は平坦で、壁はフラスコ状にオーバーハングしながら立ち上がる。

114号土坑は平面形は楕円形であり、底面は平坦であり、やはりオーバーハングしながら立ち上がる。遺物は113号土坑から若干の土器片や剥片等が出土した。

**116号土坑** (第65・128・198・199図、P L 24・81・125)

平面形は不整形な楕円形を呈する。いくつかの土坑が重複しているものと思われるが、その関係は不明である。最深部は中心から東側であり、遺物もその周辺からの出土が最も多い。遺物は中期土器片と打製石斧・敲石等の石器類が出土した。

**117号土坑** (第65・91・128・199図、P L 24・54・81・125)

平面形は楕円形を呈するが、中心の深い部分だけで見るとほぼ円形となる。底部は平坦であり、両壁は袋状に立ち上がる。南側の張り出し部分は土層の観察結果からすると別の浅い土坑と考えられる。

**118号土坑** (第65・128・200図、P L 24・81・125)

平面形は不整形な円形であり、底部はやや丸くなり鍋底状に立ち上がる。若干の小礫が出土した。

**119号土坑** (第65・200図、P L 24・126)

平面形はほぼ円形であり、底部は平坦であり、両壁は僅かにオーバーハングしながら途中から外側に開いて立ち上がる。土層中から垂角礫が出土したのみである。

**120号土坑** (第65・128・200図、P L 24・81・126)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で両壁は袋状に広がってから立ち上がる。土層の中間から礫が

いくつかまとまって出土した。

**122号土坑** (第65・91・128・201図、P L 25・54・81・126)

平面形はほぼ隅丸方形を呈する。底面は平坦であり、北から東壁は直角に立ち上がるが、西壁はオーバーハングして立ち上がる。東側はやや浅い別の土坑と考えられる。

**115・299・334~336・341・342・413号土坑** (第66・127・133・214・218・197・198図、P L 24・41・80・86・88・125・132・134)

南北に重複して東側に張り出す弧状に並ぶ。北側から順次説明する。

413号土坑は重複関係は不明である。平面形は隅丸方形であり、底面はほぼ平坦であるが、中心が一番深くなる。両壁はやや開きながら直線的に立ち上がる。中心の土層の中程から礫が数点まとまって出土した。

341号土坑は115号土坑を切り込む。平面形は北側が突出する隅丸方形を呈する。底面はやや平坦で、西側は一部オーバーハングして立ち上がる。

115号土坑は299号土坑と341号土坑に切られる。最も古いものと思われるが、新旧関係は不明である。平面形はほぼ円形を呈し、底面はほぼ平坦である。両壁はややオーバーハングして立ち上がっていたものと思われる。両脇の土坑よりも深い。

299号土坑はほぼ楕円形を呈するものと考えられるが、断面図からすると底面は比較的平坦で両壁は若干開きながら直線的に立ち上がるものと思われる。

342号土坑は299・336号土坑に切り込まれている。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平坦で両壁はほぼ直角に立ち上がるものと思われる。

336号土坑は342・335号土坑を切り込む。平面形は隅丸方形もしくは不整形な円形を呈するものと思われる。底面は平坦であり、壁は北西側が一部オーバーハングするが、他はほぼ直角に立ち上がる。335号土

## II 検出された遺構と遺物

坑との境で比較的高い位置から打製石斧が出土した。

335号土坑は336号土坑に切られる。掘り方は深くしっかりしており、平面形はやや不整形な円形を呈し、底面はやや丸く中心が窪む。掘り方は比較的浅いので不明瞭な点がある。両壁はやや開いて立ち上がるものと思われる。

334号土坑は335号土坑の南に位置するが、その北側の土坑群との間に重複関係はない。平面形は東側が突き出す楕円形であり、底面は中心が窪む尖底形となる。掘り方は浅い。

### 124号土坑 (第66・128・201図、P L 25・81・126)

東側には本土坑よりも浅い皿状の別の土坑がある。本土坑の平面形はほぼ円形であり、底面は平坦で両脇は抉れながら断面袋状に立ち上がる。中程よりやや下の層位で大形の亜角礫を利用した石器と欠損した石皿が出土した。

### 125号土坑 (第66・128図、P L 25・81)

平面形はほぼ円形で、底面は平坦で脇は僅かに抉れる部分もあるが、両壁はほぼ直角に立ち上がる。遺物は若干の石器等が出土したが、底面東側から大形の礫が検出された。

### 126・127・135・176・177号土坑 (第66・91・128・129・201・202・205図、P L 25・54・55・81・82・126・128)

これら一連の土坑はお互いを意識するように上場ではぎりぎり重複しないように作られているようにも見える。

126号土坑は上場平面では135号土坑と重複していなかったが、下場はつながっていた。平面形は北東側が張り出す不整形な隅丸方形もしくは円形である。底面は平坦で両脇は抉れて立ち上がりフラスコ状を呈する。

127号土坑は東半は区域外で西半だけしか調査できなかったので、全体の形状は不明であるが、平面

形は円形もしくは隅丸方形を呈し、両壁はやや直線的に立ち上がるものと思われる。

135号土坑は126・127号土坑と上場は重複しないが、下場ではオーバーハングしているので僅かに重複する。しかし、その前後関係は不明である。平面形はやや不整形な円形もしくは隅丸方形を呈し、底面はほぼ平坦で両脇はオーバーハングして立ち上がる。

176号土坑は177号土坑と僅かに重複するが、その前後関係は不明である。平面形はほぼ円形を呈し、底面は西寄りが深くなり、両壁は僅かに外側に膨らみながら立ち上がる。

177号土坑は135号土坑とは重複しないが、かろうじて重なり合わない位置に存在する。平面形は楕円形を呈する。底面はほぼ平坦であるが、北東部がやや深くなる。両脇が抉れ断面は袋状を呈する。遺物は中心からやや南寄りに土器片や石器等の集中部が検出された。

### 128号土坑 (第66図、P L 25)

東側の浅い皿状の土坑を切り込む。平面形はほぼ円形を呈し、底部は平坦で南側を除き壁はやや抉れ、断面はフラスコ状に立ち上がる。

### 129号土坑 (第66・129・201図、P L 25・82・126)

平面形は楕円形であり、底面は比較的平坦であるが、やや東寄りが深くなる。両壁は開きながら立ち上がる。掘り方は浅い。

### 130号土坑 (第66図、P L 25)

平面形は円形であり、底面は平坦で両壁はやや丸みを持って開きながら立ち上がる。

### 131号土坑 (第67・91・129・202図、P L 25・54・82・126)

平面形はほぼ円形で、底面は平坦で両壁は開きながら立ち上がる。北側は有段となる。

**132号土坑** (第67図、P L 26)

平面形はほぼ円形で、断面は丸底となる。

**133・134号土坑** (第67図、P L 26)

この2基の土坑の新旧関係は不明である。

133号土坑は平面形はほぼ円形で、底面は平坦で両壁はほぼ直角に近い状態で立ち上がる。

134号土坑は平面形はやや不整形な円形を呈し、東西エレベーションでは133号土坑に類似するが、南北断面では丸底に近い状態となる。

**140号土坑** (第67・92・129・203図、P L 26・54・82・127)

平面形はほぼ円形を呈し、底部は平坦で両脇は挟まれて袋状に立ち上がる。底面に付いた状態や底面近くから礫や土器片が出土した。遺物出方としては本遺跡の土坑では比較的珍しいものである。

**141・159号土坑** (第67・129・203・204図、P L 26・82・127)

141号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で両壁はやや丸みを持って立ち上がるが、北から西側にかけては段を持つ。

159号土坑は平面形はほぼ楕円形を呈し、底面は東側がやや深く、東壁は丸みを持ちほぼ直角に立ち上がる。その南には平面形が円形で、底面が平坦で両壁はやや開きながら立ち上がる別の土坑がある。東寄りの比較的高い部分で垂角礫が出土した。

これら3基の土坑の新旧関係は不明である。しかし、埋没土の状況等からするとあまり大きな時間差はないものと考えられる。

**142号土坑** (第67図、P L 26)

平面形は円形で、底面は僅かに中央が窪むもののほぼ平坦であり、両壁もあまり開かず直線的に立ち上がる。

**143号土坑** (第67・92・203図、P L 26・55・127)

2基の土坑の重複であり、東側の土坑(A)が西側の土坑(B)を切り込む。掘り方はAの方が深い。Aは平面形は円形で、底面は平坦で、壁はあまり開かず直線的に立ち上がる。遺物は中期土器片がまとまって出土した。Bは平面形は円形で、底面は平坦で、壁はやや丸みを持って開きぎみに立ち上がる。

**144号土坑** (第67・91・203図、P L 26・54・127)

平面形は楕円形で、底面はやや丸くなる。壁は丸みを持って開いて立ち上がる。遺物は中期土器片が若干出土している。

**145・146号土坑** (第67・203図、P L 26・127)

146号土坑が145号土坑を切り込む。

145号土坑は平面形は大形の楕円形であり、掘り方は浅い。底面は比較的平坦であるが、南西部にピットがあく。

146号土坑は平面形はほぼ円形であり、底面は比較的平坦であるが、両脇が挟れてからすぼまって袋状に立ち上がる。

**147・148号土坑** (第67図、P L 27)

この2基の土坑の新旧関係は不明である。

147号土坑は平面形はほぼ円形を呈するものと思われる。底面は比較的平坦であるが、1ヶ所だけ斜めに杭でも入っていたように深くなる。両壁はやや直角気味に立ち上がる。

148号土坑は平面形は楕円形であり、底面は平坦であり、片側が深くなり、壁はやや開いて直線的に立ち上がり有段となる。

**149号土坑** (第67図、P L 27)

平面形は大形の不整形な楕円形で、底面は比較的平坦であるが、東側が深くなる。壁は丸みを持ち、やや直角気味に立ち上がる。

**151号土坑** (第67・129図、P L 27・82)

平面形は円形で、底面は比較的平坦であるが、両

## II 検出された遺構と遺物

壁は開いて立ち上がる。ピットとした方がいいものと思われる小形のものである。遺物は若干の中期土器小破片が出土した。

### 150号土坑 (第68図、P L 27)

平面形は隅丸方形に近い円形であり、底面は平坦で両壁は直線的に開いて立ち上がる。

### 152号土坑 (第68図、P L 27)

Aは北側の浅い土坑Bを切り込む。Aの平面形はほぼ円形で、底面は平坦で、両壁はやや丸みを持ち開いて立ち上がる。Bの平面形は楕円形を呈し、掘り方は浅く、丸底となる。

### 153号土坑 (第68・203図、P L 27・127)

平面形はほぼ円形で、底面は平坦で、両壁はやや丸みを持ちあまり開かず直線的に立ち上がる。

### 154・155・157号土坑 (第68図、P L 27)

これら3基の土坑はお互いを意識しているようにかろうじて重複しない位置に存在する。

154号土坑は155号土坑の北隣で、157号土坑の南隣に位置する。平面形はほぼ円形で、底面は比較的平坦で、両壁はやや丸みを持ちあまり開かず直線的に立ち上がる。

155号土坑は154号土坑の南隣に位置する。平面形はほぼ円形で、底面はやや丸くなり、両壁はわずかに丸みを持ちやや開いて立ち上がる。

157号土坑は154号土坑の西隣に位置する。平面形はやや不整形な楕円形で、底面は凹凸があり、西側に最深部が位置する。

### 156号土坑 (第68図)

平面形は小形でほぼ円形を呈し、底面は平坦で、両壁は直線気味にやや開いて立ち上がる。

### 158号土坑 (第68・129・204図、P L 27・82・127)

平面形は上の浅い部分で見ると楕円形を呈するが、中心の深い部分のみで見るとほぼ円形を呈する。底面は平坦で、両壁はやや丸みを持ち直角気味に立ち上がり、有段となる。土層の中間か小礫が出土した。

### 160号土坑 (第68図、P L 28)

平面形は円形で底面はやや平坦で中程がわずかに深くなる。両壁はやや丸みを持って立ち上がる。掘り方は浅い。

### 163号土坑 (第68・129図、P L 28・82)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや平坦で、壁は外側に抉れてから直線的に立ち上がる。

### 164号土坑 (第68図、P L 28)

平面形は西側に張り出しを持つ楕円形であり、底面は平坦で両壁は開いて立ち上がる。掘り方は浅い。

### 165号土坑 (第68・129図、P L 82)

平面形は円形で底面はやや平坦で中程がわずかに深くなる。両壁はやや丸みを持って立ち上がる。掘り方は浅い。

### 166号土坑 (第68・129図、P L 28・82)

平面形は小形の楕円形で、底部は平坦で、北側は僅かに抉れてから直線的に立ち上がる。

### 167号土坑 (第68図、P L 28)

平面形はほぼ円形で、底面の中心は丸みを持って窪む。北側は段状となる。

### 168号土坑 (第68・94・129図、P L 28・55・82)

平面形は大形の不整形な楕円形で、西側がやや幅広く東側がやや幅狭くなる。底面は平坦であり、両壁は直角気味に立ち上がる。遺物は若干の土器片と礫が出土している。

**169号土坑 (第68図)**

平面形は不整形な円形で、底面は比較的平坦であるが、東側に小ピットが開く。掘り方は浅い。

**170・274号土坑 (第68図、P L 28)**

この2基の土坑は上場では重ならないが断面を見ると170号土坑が切り込んでいるようにも見える。確実な新旧関係は不明である。

170号土坑は平面形は円形で、底面は平坦で、両壁は一端挟れてからすぼまって立ち上がる。断面フラスコ状となる。土層の中間から礫が出土した。

274号土坑は平面形は不整形な楕円形で、底面はやや凹凸があり、西側に最深部が位置する。掘り方は浅い。

**171号土坑 (第68図、P L 28)**

平面形はほぼ円形で、底面は平坦で両壁は丸みを持って立ち上がる。

**172・173・174号土坑 (第69図、P L 29)**

これら3基の土坑の明確な重複関係は不明である。時期的にはそう大きい差はないと思われる。

172号土坑は173号土坑の西側に位置する。平面形はほぼ隅丸長方形で、底面は比較的平坦で両壁はやや丸みを持って外側に開いて立ち上がる。

173号土坑は172号土坑の東側で174号土坑の北側に位置する。東側が調査区外のため、全体の形は不明であるが、平面形はほぼ円形もしくは楕円形を呈するものと思われる。底面は比較的平坦で両壁はやや丸みを持つが直角に近い状態で立ち上がる。

174号土坑は173号土坑の南側に位置する。平面形は東側が調査区外のため不明であるが、ほぼ円形を呈するものと思われる。底面は比較的平坦で、壁も直角に近い状態で立ち上がり途中から外側に開く。

**178・179号土坑 (第69・94・129・130・205図、P L 55・82・83・128)**

この2基の土坑の新旧関係は不明である。あまり

大きい時期差は考えられない。

178号土坑は平面形は隅丸長方形であり、底部は平坦で、壁はほぼ直角に近い状態で立ち上がるが、南側は僅かに挟れる部分もある。遺物は比較的まとまって中期土器片が出土し、深鉢形土器が復原できた。

179号土坑は平面形は楕円形を呈するものと思われる。底面は比較的平坦であるが、若干中心が丸く窪み、南壁はほぼ直線的に開いて立ち上がる。

**180号土坑 (第69図)**

平面形はほぼ円形で、底面は平坦で、壁はほぼ直角に近い状態で立ち上がり、途中から外側に開き、段状になる。東側は僅かに挟れる部分もある。

**185号土坑 (第69・205図、P L 29・83・128)**

平面形は楕円形で、底面は中心が深くなり、尖底状となる。遺物は中期土器片等がまとまって出土した。

**187号土坑 (第69・206図、P L 29・31・128)**

平面形は円形で、底面は平坦で、両壁は開いて立ち上がる。掘り方は浅い。

**188号土坑 (第69・206図、P L 29・128)**

189号土坑の南側に位置する。上場はぎりぎりでも重複するかどうかというところで、新旧関係は明瞭ではない。平面形は円形で、底面は平坦で、両壁は開いて立ち上がる。掘り方は浅い。

**189号土坑 (第69・130・206・207図、P L 29・83・129)**

2基の土坑の重複であり、西側の土坑(A)を東側の土坑(B)が切り込む。深さはAよりもBの方が若干深い。Aは平面形は円形で、底面は平坦で両壁もやや丸みを持って開き気味に立ち上がる。Bは楕円形で、底面は平坦で壁は内湾気味に立ち上がる。

## II 検出された遺構と遺物

### 190号土坑 (第69図)

平面形は楕円形であり、底面は比較的平坦で、掘り方も浅い。

### 191・192号土坑 (第69・94・207図、P L 29・55・129)

192号土坑が191号土坑を切り込む。

191号土坑は平面形は楕円形で、底面は平坦で掘り方は浅い。

192号土坑は平面形は円形で、底部は平坦で、壁はあまり開かず、ほぼ直線的に立ち上がる。遺物は中期土器破片及び底部が出土したが、底部は直立した状態で検出された。

### 193号土坑 (第69図、P L 29)

平面形はほぼ円形を呈し、底部はやや凹凸のあるものの比較的平坦であり、壁は僅かに開いて立ち上がる。南東部から垂角礫が出土した。

### 194号土坑 (第69図、P L 29)

平面形はほぼ円形で、底部は平坦で、掘り方は浅い。

### 195・196号土坑 (第69図、P L 29)

195号土坑を196号土坑が切り込む。

195号土坑はほぼ円形を呈するものと思われ、底部はやや凹凸を持ち、両壁は開いて立ち上がる。

196号土坑は平面形は隅丸方形であり、底部は方形で平坦となる。両壁は開いて立ち上がる。

### 197号土坑 (第69・207図、P L 30・129)

平面形は不整形な円形を呈し、底部はやや丸みを持ち、壁は内湾気味に立ち上がる。若干の垂角礫等が出土した。

### 198号土坑 (第69図、P L 30)

平面形は円形で、底部は平坦で、やや内湾して直角に近い状態で立ち上がる。

### 199号土坑 (第69図、P L 30)

平面形は楕円形で、底部は平坦で、壁は直角気味に立ち上がる。土坑の中心の土層中程から垂角礫が出土した。

### 200・201号土坑 (第70・95図、P L 30・55)

断面を見ると201号土坑が200号土坑を切り込んでいるのがわかる。

200号土坑は平面形は不整形な円形で、西側がやや幅広くなる。底部は比較的平坦であるがやや丸みを持つ。壁はやや内湾して開き気味に立ち上がる。

201号土坑は平面形は円形で、底面は平坦であるが、西側が最深部となる。掘り方は浅い。遺物は底面の西の深い部分から中期土器片が出土した。

### 202・203号土坑 (第70・96・207図、P L 30・56・129)

この2基の土坑は上場がぎりぎり重なり合わないように作られていた。

202号土坑は南側が別の土坑によって壊されていたため全体の形は確認出来なかったが、平面形は楕円形を呈するものと思われる。底面はやや凹凸を持つものの比較的平坦である。壁は直角に近い状態で立ち上がる。

203号土坑は平面形は楕円形で、底面はやや凹凸を持つ。壁はやや開いて立ち上がる。掘り方は比較的浅い。遺物はかなり使い込まれて刃部が磨滅した磨製石斧と底部中央が欠けた中期の完形土器が出土した。石斧は比較的高い位置から検出された。土坑をある程度埋めた後に置いたものかもしれない。土器は土坑西側壁に寄りかかるような状態で検出されたが、土圧により押し潰され、突起部分は表裏とも風化して土と同化し部分的に失われていた。底部については内部から小破片数点が出土した。土圧により押し潰された時に失われた可能性もあるが、意識的に欠いた可能性も否定できない。欠いたものだとすればその場所に持ってきてから行ったものということになる。319号土坑の逆位の浅鉢や175号土坑の底

部のない深鉢形土器等との関わりが気にかかるところである。

**204・205号土坑** (第70図、P L 30)

204号土坑が205号土坑を僅かに切り込む。お互いを意識して作られているように考えられる。

204号土坑は平面形はほぼ円形で、底部は平坦で、脇が抉れてからやや開き気味の直線的に立ち上がる。205号土坑よりもかなり深い。

205号土坑は平面形はほぼ円形で、底部は平坦で、やや丸みを持ち、開き気味に立ち上がる。204号土坑よりも浅い。

**206号土坑** (第70図、P L 30)

東半が調査区外で全体は確認できなかったが、平面形は隅丸方形もしくは円形を呈するものと思われる。底部は比較的平坦であるが、やや丸みを持ち、両壁は開いて立ち上がる。

**207号土坑** (第70図、P L 31)

平面形はほぼ円形で、底部はやや凹凸を持ち、南部に方形の小ピットが開く。両壁は開いて立ち上がる。掘り方は浅い。

**208号土坑** (第70図、P L 31)

平面形はほぼ円形で、底部はやや凹凸を持ち、小ピットが二つ開く。両壁は開いて立ち上がる。掘り方は浅い。

**209・210号土坑** (第70図、P L 31)

209号土坑を210号土坑が切り込む。2基ともそれほど深くはない。

209号土坑は平面形はほぼ円形で、底部は比較的平坦で、東側に小ピットが開く。両壁は開いて直線的に立ち上がる。掘り方は比較的浅い。

210号土坑は平面形はほぼ円形で、底部は比較的平坦で、両壁はやや丸みを持って開いて立ち上がる。掘り方は比較的浅い。

**211号土坑** (第70図、P L 31)

平面形は小形の円形であり、底部中心は西寄りとなり、先はやや尖る。本来はピットと分類すべきものと思われる。

**212号土坑** (第70図、P L 31)

平面形はやや不整形な円形であり、底面は凹凸を持つ。掘り方は浅い。

**213号土坑** (第70図、P L 31)

平面形はほぼ円形で、底面は平坦で、やや開き気味に直線的に立ち上がる。最深部は北西部に偏る。

**214号土坑** (第70図、P L 31)

平面形は隅丸方形に近い円形で、底面は比較的平坦で、壁はやや開いて立ち上がる。

**215号土坑** (第70図、P L 31)

平面形は不整形な円形でいくつかのピットが開く。規模は約2mあり、土坑に分類した中でもかなり大形のものである。内部に焼けた部分等は確認できなかったが、住居跡になる可能性も考えられる。

**216号土坑** (第70・207図、P L 32・129)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は丸くなり、壁は開いて立ち上がる。埋没土中からは剥片石器と小礫が数点出土した。

**217号土坑** (第71・94・130図、P L 32・55・83)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は北東側が深くなり、北壁は直角に近い状態で立ち上がるが、南壁は緩やかに立ち上がる。遺物は深鉢形土器の胴部と数点の土器片及び石皿破片が出土した。

**218・219・220号土坑** (第71・130・208図、P L 32・83・129)

これらの土坑は3連の団子状に218→219→220の順に新しくなる。

## II 検出された遺構と遺物

218号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で壁はやや開いて直線的に立ち上がる。

219号土坑は平面形はほぼ楕円形を呈し、底面は平坦で壁は開いて直線的に立ち上がる。中央から礫が出土した。

220号土坑は平面形はほぼ円形で、底面は東側が深くなり、東壁はあまり開かず立ち上がるが、西側は緩やかに開いてやや直線的に立ち上がる。

**221・222号土坑** (第71・130・208図、P L 32・83・129)

221号土坑は222号土坑に切り込まれる。掘り方は221号土坑は浅く、222号土坑は深い。

221号土坑は平面形はほぼ円形で、底面は平坦であり、壁はやや開き気味に立ち上がる。土坑中央部の底面からやや浮いた位置から礫が数点まとまって出土した。

222号土坑は平面形はほぼ円形で、底面は比較的平坦であるが、南部が一段深くなり、有段となる。壁はあまり開かず、直角気味に立ち上がる。

**226・378号土坑** (第71・136・221図、P L 32・89・135)

この2基の新旧関係は不明である。両者ともそれほど深くはない。

226号土坑は平面形は不整形な楕円形で、底面は丸みを持ち壁は緩やかに立ち上がる。

378号土坑は平面形は楕円形を呈し、底面は丸みを持ち、両壁はやや直角気味に立ち上がる。遺物は数点の中期土器片が出土した。

**227号土坑** (第71図)

平面形はほぼ円形で、底面は比較的平坦であるが、やや凹凸を持つ。掘り方は浅い。

**228号土坑** (第71図、P L 33)

平面形はほぼ円形で、底面は凹凸を持ち、南部が一段深くなる。掘り方は浅い。

**229号土坑** (第71図、P L 33)

平面形は不定形な隅丸方形で、底面は凹凸を持ち、各所に小ピットが開く。北側の方がやや深い。

**232号土坑** (第71図、P L 33)

平面形はほぼ円形で、底面は比較的平坦であるが、やや丸みを持つ。小形で掘り方も浅い。

**234号土坑** (第71・208図、P L 33・129)

平面形はやや不整形な円形で、底面はほぼ平坦で、壁は南側はやや直線的に立ち上がるが、北側は緩やかに上がる。

**235号土坑** (第71図、P L 33)

平面形は円形で、底面は平坦で、壁はやや直角気味に立ち上がる。

**237号土坑** (第71・95・130・208図、P L 33・55・83・129・130)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや丸みを持つ。壁は緩やかに開いて立ち上がる。遺物は土坑の中心部の底面からはやや浮いた位置から打製石斧や大形の剥片石器や中期土器片等が出土した。大形の剥片石器はあたかも墓に入れられたように3枚が重なるようにまとまって出土した。

**238号土坑** (第71・130図、P L 33・83)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、脇は一旦やや抉れてからあまり開かず直線的に立ち上がる。壁際や底面近くから小礫が出土した。

**240号土坑** (第71・130・209図、P L 83・130)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はほぼ平坦であり、壁はやや直角気味に立ち上がってから開く。遺物は若干の土器片と小礫等が出土した。

**241号土坑** (第71図、P L 34)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦で、

やや脇は挟れてから立ち上がる。底部に付いた状態で比較的大形の礫がまとまって出土した。

**243・244号土坑** (第71図、P L34)

この2基の土坑は上場はかろうじて重複し、244号土坑が243号土坑を切り込む。

243号土坑は平面形はほぼ円形で、底面は凹凸を持ち、壁は開いて立ち上がる。

244号土坑はほぼ円形で、底部は中心が深くなる尖底形となる。

**245号土坑** (第71図、P L34)

平面形はやや不整形な円形で、底面は平坦であるが、東寄りにピットが開く。壁は開いて立ち上がる。比較的大形の土坑である。

**246号土坑** (第72図、P L34)

平面形はやや不整形な円形で、底面は平坦であるが、やや凹凸を持つ。壁は開いて立ち上がる。掘り方は浅い。

**247号土坑** (第72図、P L34)

平面形はほぼ円形で、底面は平坦であるが、やや凹凸を持つ。壁は東側は直角に近い状態で立ち上がるが、西側は緩やかに上がる。

**248号土坑** (第72・209図、P L34・130)

平面形は楕円形であり、底面はやや凹凸を持つ。掘り方は浅い。

**249号土坑** (第72図、P L34)

平面形は不整形な円形であり、底面はやや凹凸を持つ。掘り方は比較的浅い。

**250号土坑** (第72図、P L34)

平面形は隅丸方形に近い円形であり、底面はやや凹凸を持ち、中心部が深くなる。掘り方は比較的浅い。

**251号土坑** (第72図、P L34)

平面形はやや不整形な円形であり、底面はやや凹凸を持ち、中心部が深くなる。掘り方は比較的浅い。

**252号土坑** (第72図、P L34)

平面形は南側がやや幅広の楕円形であり、底面はやや凹凸を持ち、中心部が深くなる。掘り方は比較的浅い。

**253号土坑** (第72図、P L34)

平面形はやや不整形な楕円形であり、底面はやや凹凸を持ち、中心部が深くなる。掘り方は比較的浅い。

**107・254号土坑** (第72図、P L35)

107号土坑の平面形は大形のやや不整形な楕円形であり、東側がやや幅広であり、底面は比較的平坦である。掘り方は比較的浅い。

254号土坑は楕円形を呈するものと思われ、底面は中央が凹み、断面形は浅い皿状を呈する。

**255号土坑** (第72図、P L35)

平面形は円形であり、底面は比較的平坦であり、壁はやや直角に近い状態で立ち上がる。

**256号土坑** (第72・209図、P L35・130)

平面形は隅丸方形に近い円形であり、底面は東側が深く、西側は緩やかに立ち上がる。

**257・258号土坑** (第72図、P L35)

2基の重複と考えられるが、土層断面の観察では全く同じ土が堆積しており、同時期のものと考えた方がいいかもしれない。

257号土坑は平面形は楕円形であり、底面はやや凹凸を持つものの比較的平坦である。

258号土坑は平面形は南側はやや幅広の楕円形であり、底面はやや丸みを持つ。

## II 検出された遺構と遺物

### 260号土坑 (第72図、P L 35)

平面形はほぼ円形であり、底面は東側に最深部が位置する。西側は浅い。

### 261号土坑 (第72図)

平面形はほぼ楕円形を呈するものと思われ、底面は比較的平坦で、両壁は開いて立ち上がる。

### 262号土坑 (第72図)

平面形はほぼ円形を呈し、東側に最深部が位置し、西側は段になる。

### 263号土坑 (第72図)

平面形はほぼ円形であり、底面はやや丸みを持つものの比較的平坦である。大形の亜角礫が出土した。

### 264号土坑 (第72図、P L 35)

東側に小ピットがあるが、新旧関係は不明である。平面形はほぼ円形であり、底面はやや丸みを持ち、南壁はあまり開かず直線的に立ち上がる。

### 265・266号土坑 (第72・95・130・131・209図、P L 35・56・83・84・130)

266号土坑を265号土坑が切り込む。265号土坑の方が若干規模が大きく、深さもやや深い。両者ともほぼ似たような規模で、共に比較的大形の土器片と大形の石器もしくは礫が出土している点は類似する。

265号土坑は平面形はほぼ円形で、底面はほぼ平坦であり、壁は一端外側にやや傾いてから、僅かに開いて立ち上がる。遺物は北部の底面から円礫、大形の土器片、その上に大形の口縁部突起の順に重なるように出土した。

266号土坑は平面形はほぼ円形で、底面はほぼ平坦であり、壁はあまり開かずほぼ直線的に立ち上がる。遺物は北部のやや高い位置で大形の棒状円礫や半欠の棒状礫や亜角礫や大形の土器片などがまとまって出土した。大形の棒状礫は、もしかしたらもともと

そこに立ててあったものが中に落ち込んだものかもしれない。

### 267号土坑 (第72・131・210図、P L 35・84・130・131)

東側に小ピットがあるが、新旧関係は不明である。平面形はほぼ円形を呈し、両壁はやや外側に傾いてからやや開いて立ち上がる。断面袋状となる。遺物は北側の壁に近い比較的高い位置から中期土器片が若干出土した。

### 268号土坑 (第72・131図、P L 35・84)

平面形は不整形な円形で、底面は凹凸を持ち、3ヶ所の小ピットが開く。

### 269号土坑 (第72図、P L 36)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、壁は直角に近い状態であまり開かず直線的に立ち上がる。

### 270号土坑 (第73・131・210図、P L 36・84・131)

平面形はほぼ円形を呈するものと思われる。底面は平坦であり、壁はやや丸みを持ち、開いて立ち上がる。遺物は若干の中期土器片等が出土した。

### 271号土坑 (第73・210図、P L 36・130)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦であるが、西側に最深部が位置する。遺物は完形品の打製石斧等が出土した。

### 272号土坑 (第73・95・131・210図、P L 36・55・84・130)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦であるが、西寄り部分に小ピットが開く。遺物は小破片に砕けた中期土器片が東側のやや底から浮いた位置から出土した。

### 273号土坑 (第73図、P L 36)

平面形は楕円形を呈し、底面はやや凹凸を持ち、中程よりやや北寄りに小ピットが開く。

#### 275・313号土坑 (第73図、P L 36・39)

この2基はお互いを意識して避けるように上場がぎりぎり重複しないように作られている可能性があり、新旧関係は不明である。

275号土坑の上場の平面形は楕円形であるが、中心の深い部分のみで見るとほぼ円形である。底面は平坦で壁はあまり開かずほぼ直角に近い状況で立ち上がる。上1/3程のところできく開く。西側と南側に小ピットが開く。

313号土坑の平面形はほぼ円形で、底面は比較的平坦であるが、西部に最深部が位置する。両壁はやや丸みを持って立ち上がり、上部は開く。

#### 276・305・306・314号土坑 (第73・98・131・134・212図、P L 36・38・57・84・87・131)

これら4基の土坑の明確な新旧関係は不明である。306号土坑を除き、形状規模等は比較的類似する。

276号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面はほぼ平坦で、脇はやや抉れてからすぼまり上部で外側に開いて立ち上がる。

305号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面はほぼ平坦で、脇は僅かに抉れ気味に直角に近い状況で立ち上がる。

306号土坑は平面形は不整形な楕円形を呈し、底面は凹凸を持ち、小ピットが3基開く。壁は開いて立ち上がる。

314号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦であるが、北側に最深部が位置する。276号土坑との境目から亜角礫が出土した。壁は西側はやや直立気味であるが、東側から南側にかけては開いて立ち上がる。

#### 277号土坑 (第73・131図、P L 36)

平面形は円形を呈し、底面はやや丸みを持ち、壁

は丸みを持って立ち上がる。

#### 278号土坑 (第73図)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は丸みを持つ。南部底面に礫が横たわっていた。

#### 284・308・309・345号土坑 (第73・98・132・134・213・215図、P L 37・38・41・57・85・87・131～133)

284号土坑は307号土坑と308号土坑を切り込む。308号土坑と309号土坑は上場ではぎりぎり重複しない。308号土坑と345号土坑は重複するが、新旧関係は不明である。284号土坑と345号土坑は上場ではぎりぎり重複しない。これらのことから284・309・345号土坑はお互いを意識して作られており、同時存在の可能性も考えられる。また、307・308号土坑も前3基とは別の時期に同時存在した可能性が考えられる。

284号土坑の平面形は円形に近い楕円形で、底面は平坦であり、脇はやや抉れてからすぼまり気味に立ち上がる。遺物は南側高い位置から打製石斧の完形品、やや東寄りの土層中位から中期土器片等が出土している。方向性や規模的には309号土坑に類似する。

308号土坑は284・345号土坑と重複しており、全体形は不明であるが、残っている部分からすると平面形はほぼ円形を呈するものと思われる。底面は平坦であるが、西側に最深部が位置する。壁はほぼ直立気味に立ち上がる。

309号土坑は平面形は円形に近い楕円形で、底面は平坦であり、脇に僅かに抉れてから直立気味に立ち上がる。遺物は土層中位から若干の土器片や礫等が出土した。

345号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、上場に比べてかなり広がっている。壁は内傾して直線的に立ち上がり、断面形はフラスコ状を呈する。その他の3基の土坑に比べやや大形である。

## II 検出された遺構と遺物

### 279号土坑 (第74・98・131・212図、P L 36・38・56・84・131)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、壁は僅かに抉れ気味に立ち上がり、断面は寸胴鍋底状となる。遺物は底面の中心から大形の角礫が、北部からまとまって中期土器片や剥片石器等が出土した。

### 281号土坑 (第74・95・131・132・212図、P L 56・84・85・131)

平面形は全体で見ると大形の隅丸方形であるが、南西隅の最深部のみで見るとほぼ円形を呈する。底面は比較的平坦である。壁は西側は緩やかに、東側は直立気味に立ち上がる。遺物は南西隅と北東隅から若干の中期土器片が出土した。

### 282号土坑 (第74・132・212図、P L 37・85・131・132)

平面形はやや不整形な楕円形を呈し、底面は比較的平坦である。遺物は北壁に立てかけるように大形の棒状石器が、その手前から浅鉢・深鉢形土器の破片がまとまって出土した。

### 285号土坑 (第74・98・132図、P L 37・57・85)

平面形は東半が調査できなかったが、ほぼ円形を呈するものと思われる。底面は比較的平坦であり、脇は外側に抉れてからすばまり上部で外側に大きく開く。遺物は土層の中位から周りを大形の亜角礫と土器破片で固定するようにした中期の深鉢形土器が直立して出土した。175号土坑の場合は底部がなく、こちらは口縁部が欠失していた点は違うが、土器の周りに礫を置き固定するという点では175号土坑の例と類似する。

### 286号土坑 (第74図、P L 30)

平面形は楕円形であり、底面はやや凹凸を持ち、北西部に最深部が位置する。小形で比較的浅い。

### 287号土坑 (第74・133図、P L 86)

288号土坑の北西部に位置し、上場がぎりぎり重複するが、新旧関係は不明である。平面形は円形で、底面は南側が深くなる。小形で、掘り方も浅く小ピットとすべきものと考えられる。

### 288号土坑 (第74・133・213図、P L 86・132)

287号土坑の南東部に位置する。平面形はほぼ円形で、底面は平坦で、脇は抉れ内傾し直線的に立ち上がる。土層の中位から亜角礫や大形の中期深鉢形土器の口縁部破片等が、上位から大形の亜角礫が出土した。

### 289号土坑 (第74・133図、P L 37・86)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや凹凸を持つ。遺物は北側から土器片が出土した。

### 290号土坑 (第74図、P L 37)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は比較的平坦であり、壁はやや開き気味に立ち上がる。底面から亜角礫が2点出土した。

### 291号土坑 (第74図)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は平坦で壁は開いて立ち上がる。

### 293号土坑 (第74図、P L 37)

平面形はほぼ隅丸方形を呈し、底面は平坦で、壁はやや丸みを持ち開いて立ち上がる。

### 294号土坑 (第74図、P L 37)

平面形は不整形な円形を呈し、底面は比較的平坦であるが、やや凹凸を持つ。

### 297・298号土坑 (第74・98・213図、P L 38・56・132)

この2基の土坑は上場ぎりぎりで重複するものと思われるが、その新旧関係は不明である。

297号土坑はほぼ円形を呈し、底面は若干凹凸を持

つ。北壁はやや直角気味に立ち上がるが、南側はやや開いて立ち上がる。遺物は西部から中期土器片が出土した。

298号土坑はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、壁はやや丸みを持ち内傾気味に立ち上がる。297号土坑よりもやや浅い。底面から垂角礫や石器等が出土した。

### 300号土坑 (第74・133図、P L 86)

平面形は不整形な楕円形を呈する。底面は比較的平坦であるが、やや凹凸を持つ。

### 301号土坑 (第74・133・214図、P L 38・86・132)

平面形は東側がやや直線的な不整形な楕円形を呈する。底面は比較的平坦であるが、壁は僅かに抉れ気味に立ち上がる。東側の土層の途中から礫が出土した。

### 302号土坑 (第74・214図、P L 38・132)

平面形はほぼ円形で、底面は平坦であるが、壁は丸みを持ち西から北側にかけてやや直立ぎみに立ち上がる。西側は弱い段状になる。

### 303号土坑 (第74・98・133図、P L 38・57・86)

平面形はほぼ円形に近い楕円形で、底面はやや丸みを持つ。壁はやや抉れるが、直立気味に立ち上がる。遺物は埋没土中から底部破片が出土した。

### 304号土坑 (第74・133・134・214・215図、P L 38・86・87・132・133)

平面形は不整形な円形を呈し、底面はほぼ平坦で、壁は一旦直立して中位から外側に開いて立ち上がる。遺物は土層の中位から土器破片等が出土した。

東側の一段浅い部分は別の時期のものと考えられるが、埋没土に大きな差はない。少なくとも両者の上部は同時期に埋没したものと考えられる。遺物は土器片や剥片石器の他に、ほぼ中心のやや高い位置から大形の垂角礫が出土した。

### 310・433号土坑 (第74図、P L 38)

この2基の土坑は重複するが、その前後関係は不明である。西側にも極く浅い窪みがあるが、それとの前後関係も明確ではないが、その方が新しい可能性はある。

310号土坑は北側に433号土坑があり、全体の形状は不明であるが、平面形は不整形な円形を呈するものと思われる。底面はやや平坦で脇は大きく抉れてからすぼまって立ち上がる。断面形は袋状もしくはフラスコ状を呈する。

433号土坑は南辺がやや直線的な不整形な楕円形を呈するもので、底面は比較的平坦であるが、やや丸みを持つ。壁は脇に大きく抉れてから内傾して立ち上がる。断面形は袋状もしくはフラスコ状を呈する。遺物は上部から大形の円礫が出土した。

### 311号土坑 (第75・216図、P L 38・133)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、脇は僅かに抉れるものの壁はほぼ直立して立ち上がる。遺物は打製石斧が土坑の中程の土層中位の位置から出土した。それ以外に礫が検出された。

### 312号土坑 (第75図、P L 39)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は平坦で脇はやや抉れて一端外側に広がってからすぼまって立ち上がる。

### 315・330号土坑 (第75・134・216図、P L 39・87・133)

315号土坑は330号土坑を切り込む。315号土坑の方が深い。

315号土坑土坑は平面形はほぼ円形で、底面は平坦で、壁は僅かに開き気味に直線的に立ち上がる。遺物は南部から土器片や礫等が出土した。

330号土坑土坑は隅丸方形に近い円形で、底面は平坦で、壁は僅かに開き気味に直線的に立ち上がる。遺物は中央部から大形礫が2点出土した。

## II 検出された遺構と遺物

### 316号土坑 (第75・134・216図、P L 39・87・133)

西側に重複するほぼ円形を呈する浅い土坑を切り込む。平面形は円形で、底面は平坦で、壁はやや開くが直立気味に立ち上がる。遺物は土坑の北寄りで土層の中位から凹石や中期土器片等が出土した。

### 320号土坑 (第75・99・134図、P L 39・57・87)

平面形は円形を呈し、底面は比較的平坦で、壁はやや開くが直立気味に立ち上がる。遺物は土坑の北寄りで土層の上位から中期深鉢形土器の上に浅鉢形土器片が載るような状態で出土した。

### 317・318・368号土坑 (第75・134・216図、P L 39・87・133)

317号土坑が318・368号土坑を切り込む。

317号土坑は楕円形で、底面は比較的平坦で、南側はやや丸みを持ち開き気味に立ち上がるが、北側は緩やかに立ち上がる。南東部が一番深くなる。

318号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、東側に段を有する。底部はほぼ平坦で、西壁はやや抉れてから中程から上部は外側に開いて立ち上がる。遺物は大型礫や打製石斧の完形品や剝片石器・土器片等が出土した。大型礫は底面に付いたものとかかなり底面から浮いた状態で検出されたものがある。

368号土坑は隅丸方形に近い楕円形を呈し、北東隅がやや突出する。最深部は南側に位置する。壁はやや開きながら立ち上がる。北部の壁寄りから土器片等が出土した。

### 321号土坑 (第75・134図、P L 39・87)

平面形は東側が突出する不整形な円形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁は丸みを持って立ち上がる。西側がやや深くなる。

### 322号土坑 (第75図、P L 39)

平面形は不整形な円形を呈し、中心部には隅丸方形の小ピットが開く。

### 323号土坑 (第75・217図、P L 40・133)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はほぼ平坦で、壁は僅かに開き気味に直立して、中位から上は外側に開いて立ち上がる。遺物は土層の中位から大型の亜角礫や石皿等が出土した。

### 325号土坑 (第75図、P L 40)

平面形は西側が一部突出するがやや隅丸長方形に近い楕円形で、底面は平坦であり、壁は開いて立ち上がる。底面から2点の礫が出土した。

### 324号土坑 (第75・134・217図、P L 40・87・133)

平面形は不整形な円形で、底面は比較的平坦であり、壁は外側に開いて立ち上がる。遺物はほぼ中央の土層の上位から礫や石器等が出土した。

### 326号土坑 (第75・99・134・135・217図、P L 40・58・87・88・134)

Aの平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦である。西側に最深部が位置する。北壁から西壁にかけてはやや直立気味に立ち上がる。遺物は西壁よりで土層中位から中期土器片がまとまって出土した。

北側の二子の張り出し部分Bの平面形は不整形な円形を呈し、底面は比較的平坦であり、東壁に小ピットが開く。326号土坑よりも浅い。

### 327号土坑 (第75・135・217図、P L 40・88・134)

平面形は楕円形で、底面は比較的平坦であり、壁はやや外側に開くが直立気味に立ち上がる。南西部の底に近い層位から礫3点が出土した。

### 328号土坑 (第75・217図、P L 40・134)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底部は比較的平坦あり、土坑は焼けており、土層中程には焼土が多く見られた。

### 329号土坑 (第75図、P L 40)

平面形はほぼ隅丸方形を呈するもので、確認面からの掘り方は浅かった。底面はやや凹凸を持つが比較的平坦で、東壁は直立気味に立ち上がる。

**331号土坑** (第76図、P L 40)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面はやや丸みを持ち、壁は開いて立ち上がる。最深部はやや東寄りとなる。

**332号土坑** (第76図、P L 41)

平面形は不整形な楕円形を呈し、底面はやや丸みを持ち、壁はやや開くが北東部の方が直立気味に立ち上がる。

**333・337号土坑** (第76・135・218図、P L 41・88・134)

この2基の土坑の明確な新旧関係は不明であるが、333号土坑の方が先に確認できたので、新しい可能性が高い。337号土坑の南西側には小ピットが開くが、新旧関係は不明である。

333号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立し、上部でやや開く。底面南寄りから亜角礫が出土した。

337号土坑は東側は333号土坑と重複するので全体の形は不明であるが、平面形はほぼ円形を呈するものと思われる。底面は平坦で、壁はやや開き気味に立ち上がる。北寄りから小礫が出土した。

**338号土坑** (第76図、P L 41)

平面形は円形を呈し、底面は平坦で、脇は一端僅かに抉れるが、ほぼ直立して立ち上がる。

**339号土坑** (第76図、P L 41)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや凹凸を持つが、比較的平坦である。壁はあまり開かずに直立する。

**344・366・367号土坑** (第76・218・220図、P L

134・135)

これら3基の土坑の新旧関係は344→367→366の順に新しくなる。

344号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、壁は内傾し直線的に立ち上がり、断面形はフラスコ状となる。

366号土坑は平面形はほぼ楕円形を呈するものと思われ、底面はやや丸みを持ち、壁はやや直立気味に立ち上がる。

367号土坑は平面形は西側が幅広の楕円形を呈し、底面はやや凹凸を持つ。壁は開いて立ち上がる。礫が3点程出土した。

**346号土坑** (第76図、P L 41)

平面形は楕円形で、底面は比較的平坦であるが、やや凹凸を持つ。掘り方は浅い。

**347・348号土坑** (第76・219図、P L 42・134)

この2基の土坑の新旧関係は明瞭ではないが、348号土坑の方が先に確認出来たので新しい可能性が高い。

347号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面はほぼ平坦であり、壁はやや開いて比較的直線的に立ち上がる。東側の底面近くから角礫が出土した。

348号土坑はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦であり、壁はやや開いて直線的に立ち上がる。底面に付いた状態で4点の亜角礫が出土した。

**350・351号土坑** (第76・100・135・219図、P L 42・58・88・134)

351号土坑は350号土坑を切り込む。351号土坑の方がやや浅い。

350号土坑は平面形はやや東西に長い楕円形を呈し、底面は平坦で、壁は外側に抉れてから内傾して立ち上がる。上場よりも下場の方がかなり広がっている。遺物は南側の底面に近い位置から円礫や土器片等がまとまって出土した。

351号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦

## II 検出された遺構と遺物

で壁はやや開き気味に直線的に立ち上がる。北側はやや段状になる。

### 354号土坑 (第76図)

平面形は不整形な円形を呈し、底面は丸みを持ち、壁も開いて立ち上がる。

### 356号土坑 (第76図)

平面形はほぼ隅丸長方形を呈し、底面はやや凹凸を持ち、北西壁に小ピットが開く。壁はほぼ直立して立ち上がる。

### 357号土坑 (第76・135・220図、P L 42・88・135)

平面形はほぼ楕円形を呈し、底面はほぼ平坦であり、脇は抉れてから立ち上がり、断面形はフラスコ状もしくは袋状を呈する。ほぼ中程の底面近くから垂角礫が出土した。

### 358号土坑 (第76・135図、P L 42・88)

359号土坑の南西に位置し、420号土坑を切り込む。平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、脇はやや抉れ気味になり、内傾して立ち上がる。断面形はフラスコもしくは袋状になる。大形の垂角礫と棒状の角礫が土坑の掘り方一杯に出土した。

### 359号土坑 (第76・135図、P L 42・88)

358号土坑の北東に位置する。平面形は不整形な円形を呈し、底面はほぼ平坦で、壁はやや開いて直線的に立ち上がる。土坑中央部の底面からやや浮いた位置から角礫が1点出土した。

### 360号土坑 (第76図、P L 42)

平面形は二子状となり、2基の土坑の重複と考えられるが、その新旧関係は不明である。

東側Aの平面形はやや不整形な円形を呈し、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立気味に立ち上がるが、上部では外側に開く。

西側Bも平面形はやや不整形な円形を呈し、底面

はやや丸みを持ち、壁は僅かに抉れて立ち上がる。

### 369号土坑 (第77図、P L 42)

370号土坑とはかろうじて重複しない。平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は比較的平坦であるが、やや凹凸を持つ。壁は比較的直立気味に立ち上がるものと思われるが、掘り方は浅い。

### 370号土坑 (第77・136・220図、P L 42・89・135)

北の浅い土坑との新旧関係は不明である。平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は平坦であり、壁は底面近くで僅かに抉れるが、比較的直立気味に立ち上がる。369号土坑よりも掘り方は深くしっかりしている。

### 372号土坑 (第77図、P L 43)

西側のほぼ円形を呈する浅い土坑により切られていた。平面形は楕円形を呈し、底部は比較的平坦であるが、やや凹凸を持つ。壁は僅かに抉れる部分もあるが、ほぼ直立して立ち上がる。上部では段が付いてやや外側に広がる。

### 373号土坑 (第77・221図、P L 43・135)

平面形はほぼ円形を呈し、底部は比較的平坦であり、壁はやや抉れ内傾気味に立ち上がる。

### 376号土坑 (第77図、P L 43)

平面形はほぼ円形を呈し、底部はやや丸くなり、壁は開いて立ち上がる。小形のものであり、小ピットと分類されるべきものと考えられる。

### 377号土坑 (第77図、P L 43)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、壁はやや開いて立ち上がる。

### 379号土坑 (第77図、P L 43)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、壁はやや開いて立ち上がる。

**380号土坑** (第77図、P L 43)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや凹凸を持つが平坦であり、壁はやや開いて立ち上がる。

**381号土坑** (第77図、P L 43)

平面形は隅丸三角形を呈するが、底面には凹凸があり、三方に小ピットが開く。同一の土層により埋没しており、時期差があるとは考えにくい。

**382号土坑** (第77・221図、P L 44・136)

西側が確認できなかったので全体の形状は不明であるが、ほぼ不整形な円形を呈するものと思われる。底部は平坦であり、壁は北西部の突出部を除きやや直立気味に立ち上がる。

**383号土坑** (第77図、P L 44)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は丸くなる。遺物は北部の土層中位から石皿の破片等が出土した。

**384号土坑** (第77図)

平面形は円形で、底部は平坦であり、壁はやや直立気味に立ち上がる。小形のものであり、小ピットとすべきものと考えられる。

**385号土坑** (第77・222図、P L 135・136)

平面形は団子状となり、2基以上の土坑の重複と考えられるが、北側部分Bとの新旧関係は不明である。Aの底面は比較的平坦であり、両壁はやや開いて立ち上がる。遺物は北側の土坑の中央部で土層のかなり高い位置から凹石と完形品の打製石斧が出土した。

**389号土坑** (第77図、P L 44)

390号土坑とはかろうじて重複しない。平面形は円形であり、底面はやや凹凸を持ち、中程がやや深くなる。

**390号土坑** (第77図、P L 39)

平面形は円形であり、底面はやや凹凸を持ち、中程がやや深くなる。規模的には389号土坑に良く類似するが、やや浅い。

**392号土坑** (第77図、P L 44)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は凹凸を持ち、2ヶ所の小ピットが開く。

**394号土坑** (第77図)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は平坦であり、南西壁側はやや直線的となる。壁は北西側を除きほぼ直立する。底面に付いた状態で大形の角礫が出土した。

**395号土坑** (第77図、P L 44)

平面形は円形を呈し、底部も比較的平坦であり、壁はやや開いて立ち上がる。掘り方は比較的浅い。

**397号土坑** (第77図)

平面形は不整形な楕円形を呈し、底面はやや凹凸を持つものの比較的平坦である。確認面からの掘り方は浅い。

**398号土坑** (第77図)

平面形は東側がやや幅広い隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、掘り方は浅い。

**400号土坑** (第77・136図、P L 45・89)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦であり、壁はほぼ直立する。底面から浮いた確認面に近い部分から中期土器片や礫がまとまって出土した。

**401号土坑** (第77図、P L 45)

平面形は不整形な円形を呈し、底面は比較的平坦である。北壁は直角に近く、それ以外はやや開いて立ち上がる。

**402号土坑** (第78・136・222図、P L 45・89・136)

## II 検出された遺構と遺物

平面形はやや不整形な円形であるが、底面はほぼ平坦であり、壁はあまり開かず直線的に立ち上がる。

### 403号土坑 (第78図、P L 45)

平面形は不整形な瓢箪形となり、2基の土坑の重複の可能性も考えられるが、土層の違いは認識できなかった。底面の深さにもほとんど差はなく、若干の凹凸を持つ。小形のものであり、本来は小ピットとして分類すべきものと考えられる。

### 404号土坑 (第78図、P L 45)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや丸みを持つ。壁は開いて立ち上がる。403号土坑と同様本来は小ピットとして分類すべきものと考えられる。

### 406号土坑 (第78・222図、P L 45・136)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、壁はほぼ直角に近い状況で直線的に立ち上がる。あまり目立った遺物はなかったが、上面に突き出る形で扁平な角礫の破片が直立して検出された。

### 408号土坑 (第78・136・222図、P L 45・89・136)

平面形はほぼ楕円形を呈し、底面は比較的平坦であり、壁は開いて立ち上がる。比較的大形の土坑である。遺物は土器片の集中と磨石敲石と大形の亜角礫が検出された。

### 409号土坑 (第78・136・223図、P L 45・89・136)

平面形はほぼ楕円形を呈し、底面は南側は平坦であるが、北側が深くなる。南側から大形亜角礫が集中して出土した。

### 410号土坑 (第78・137図、P L 46・90)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや凹凸を持つが、比較的平坦である。壁はやや直立気味に立ち上がる。

### 412号土坑 (第78図、P L 46)

平面形はやや短い楕円形を呈し、底面は北側がやや深くなる。掘り方は浅い。

### 416号土坑 (第78図)

平面形は楕円形を呈し、底面は凹凸を持つ。壁はやや直立気味に立ち上がる。掘り方は比較的浅い。

### 417号土坑 (第78図)

平面形はほぼ円形を呈し、北側に張り出し部があるが、別の浅い土坑の可能性が高い。あまり目立った遺物はないが、土坑の中心の比較的高い位置から大形の亜角礫が検出された。

### 418号土坑 (第78・137・223図、P L 46・90・136)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや丸みを持ち、壁はあまり開かずに立ち上がる。

### 419号土坑 (第78・137・223図、P L 46・58・90・136)

平面形はほぼ楕円形を呈し、底面は平坦であり、確認面からの掘り方は浅かった。遺物は棒状の敲石と打製石斧の完形品と中期土器口縁部破片や亜角礫等がまとまって出土した。

### 421号土坑 (第78・137・223図、P L 90・136)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、壁はやや開いて立ち上がる。その南には421号土坑に切られる平面形は大形の楕円形を呈するであろう土坑がある。底面は平坦で壁は直角に立ち上がる土層の上部と底面に近い位置から亜角礫が出土した。

### 424号土坑 (第78・137図、P L 46・90)

平面形は隅丸方形を呈し、底面は平坦で脇はやや抉れてからすぼまって、断面形ややプラスチック状になる。

### 425号土坑 (第78・101・137図、P L 47・58・90)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は西側が深くなる。

比較的小形で掘り方も比較的浅いが、遺物は2個体以上の土器片がまとまって出土した。

#### 428号土坑 (第78・137図、P L 47・90)

北西側のやや浅い土坑によって切り込まれる。

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、壁は一部やや抉れるが、ほぼ直立して立ち上がる。遺物は若干の中期土器片や石器、やや大形の角礫等が出土した。

#### 429・430号土坑 (第78・101・137・223図、P L 47・58・90・137)

429号土坑が430号土坑を切り込む。大きさ・深さ等の規模を比較した場合には類似する。

429号土坑は平面形はやや不整形な円形で、底面は若干凹凸を持つが、比較的平坦である。壁は丸みを持ち、僅かに開いて立ち上がる。遺物は土坑一杯に大形の垂角礫が、他に中期の深鉢形土器底部と若干の土器片が出土した。

430号土坑は平面形はやや不整形な円形で、底面は若干凹凸を持つが、比較的平坦である。壁は丸みを持ち、僅かに開いて立ち上がる。これと言って目立った遺物はないが、垂角礫数点が出土した。壁や底面にも垂角礫が顔を出していた。掘り方は429号土坑よりもやや深い。

#### 431号土坑 (第78・137・224図、P L 47・90・137)

平面形はほぼ楕円形を呈し、底面はやや凹凸を持ち、最深部は東側に位置する。掘り方は浅い。南西部には小ピットが開くが、新旧関係は不明である。

#### 432号土坑 (第78図)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は一部に窪みもあるが、比較的平坦である。壁は開いて立ち上がる。掘り方は深くしっかりしている。

#### 444号土坑 (第78図)

平面形は円形を呈し、壁は僅かに外側に抉れてか

らすぼまり気味に立ち上がる。

#### 172号ピット (第79・102図、P L 48・59)

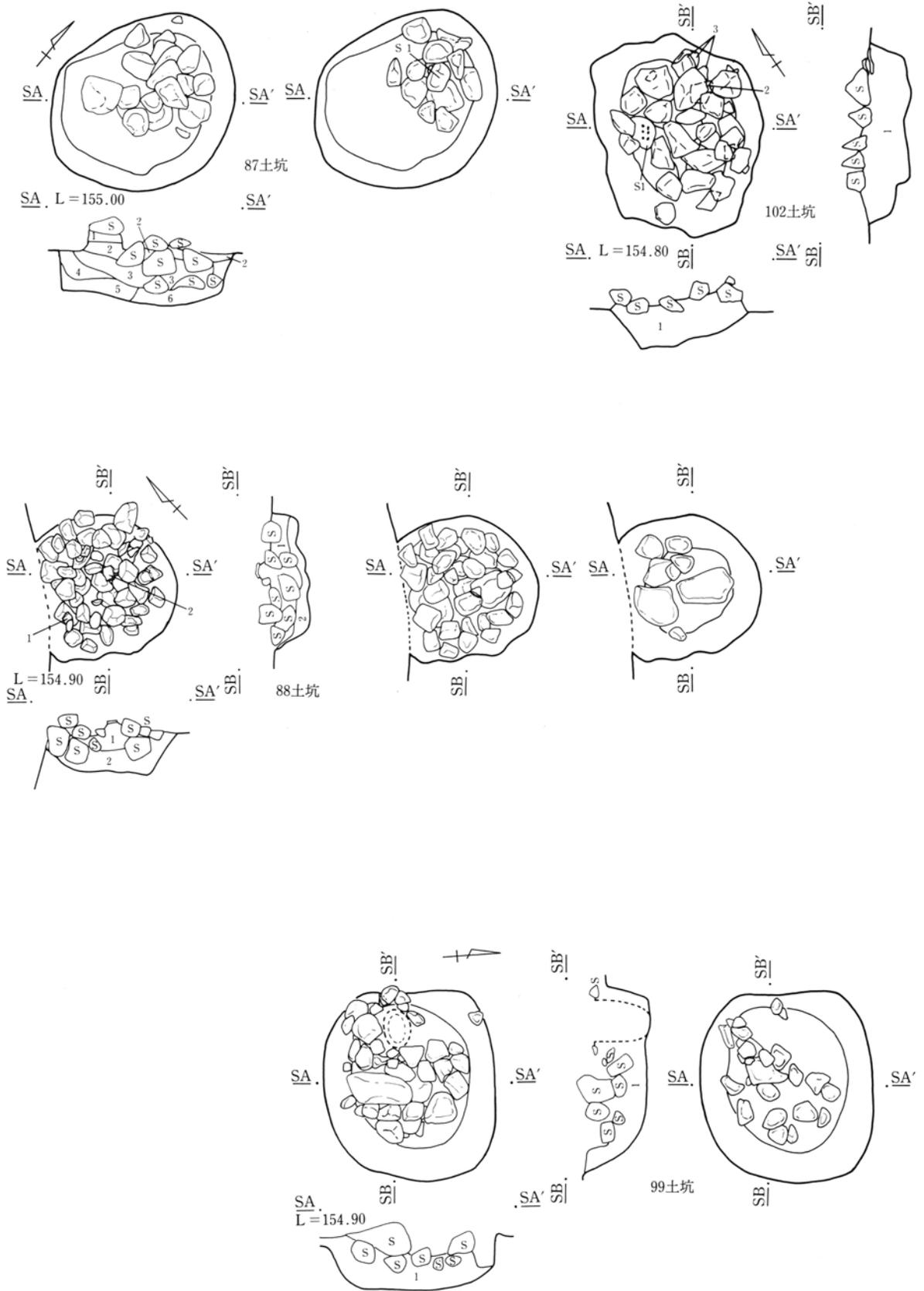
平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、壁は直線的に外側に開いて立ち上がる。全体に赤色塗彩した中期深鉢形土器1個体が打ち割られ詰められたような状態で出土した。

#### 233号ピット (第79・102・103・225図、P L 48・59・137)

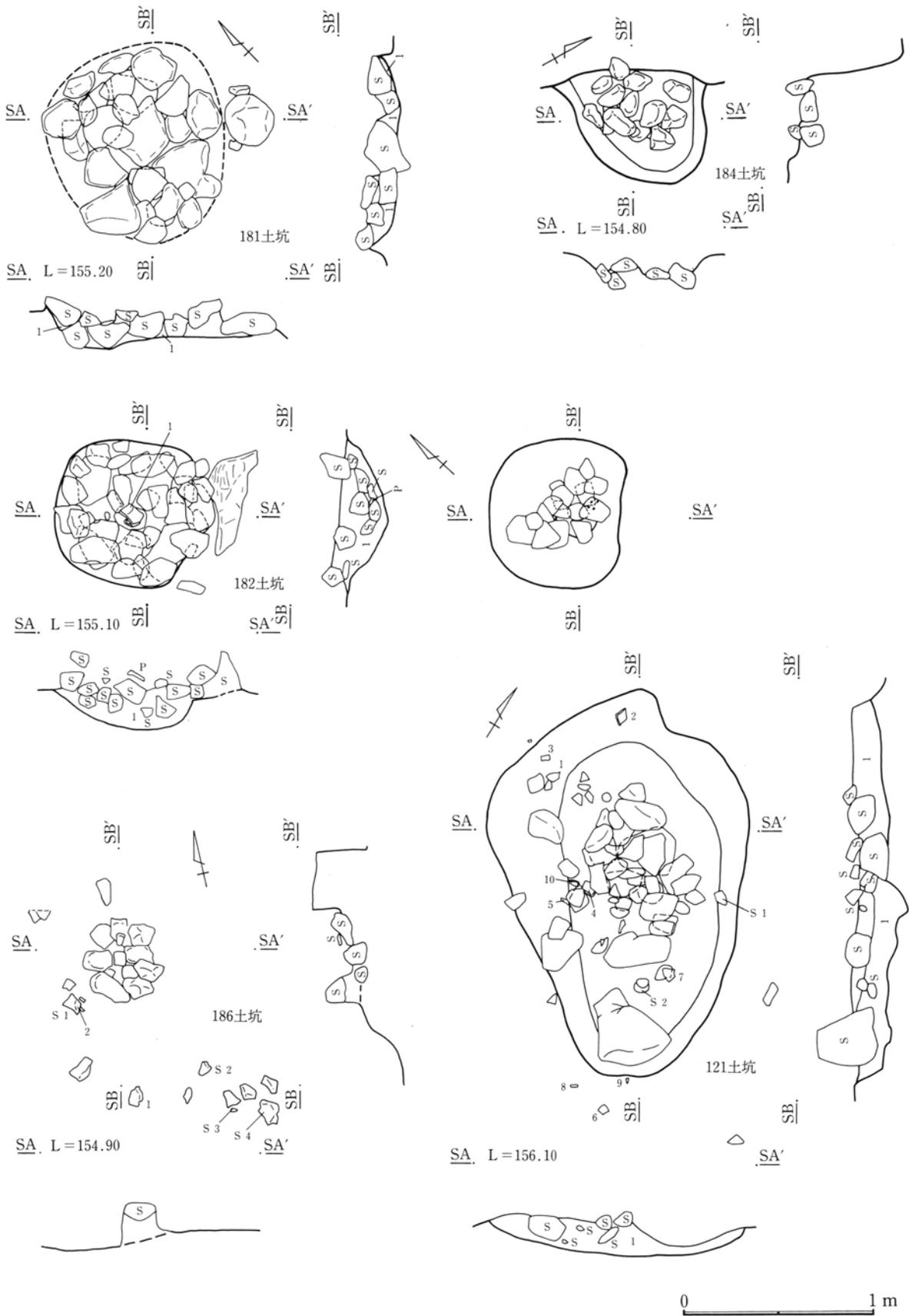
平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦であり、壁はやや開き気味で直線的に立ち上がる。遺物は土圧により花卉が開くように押し潰された中期深鉢形土器の完形品と無文底部及び剥片石器等が出土した。当初調査時点では小さいプランが確認され、掘り進めたところ周りから土器が出始め最終的には大きいプランとなった経緯があり、そのままの番号を用いたが、本来は土坑と分類すべきものと思われる。

なお、この土器はあまりに脆弱で、一つひとつが小破片に割れ、尚且つその中に1cm程のひび割れが入っていたので、当事業団の保存処理室の関邦一氏により発泡ウレタンにより固めて取り上げた。そして事業団内部に運び、整理時にその中を慎重に発掘した。しかし、取り上げの際原形を留めないものもあり、完全な復原には至らなかった。調査時点では1個体と思われたが、掘り出して復原してみるとその他に別の土器の底部が入っていることがわかった。

II 検出された遺構と遺物

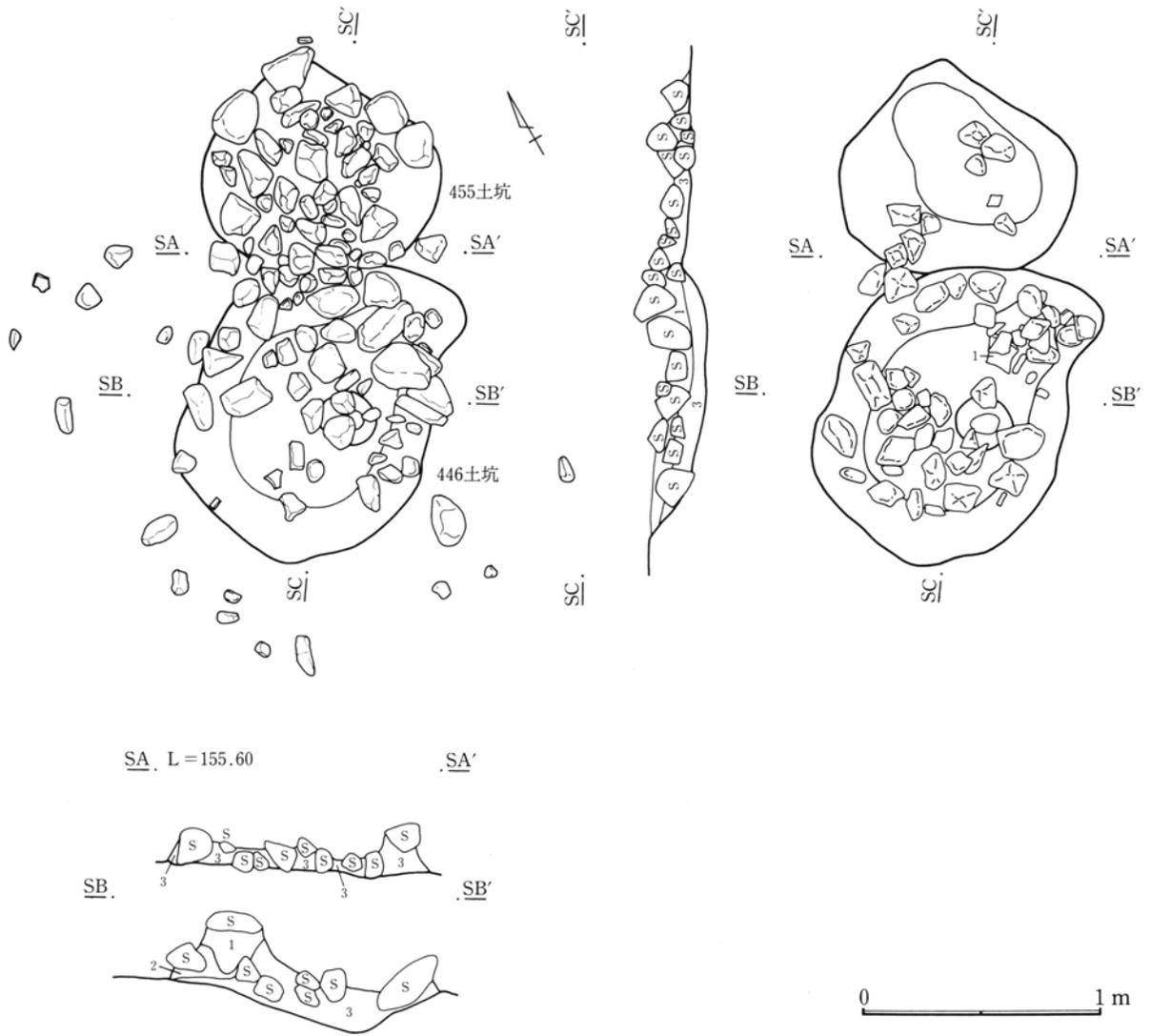


第59図 87・88・99・102号土坑



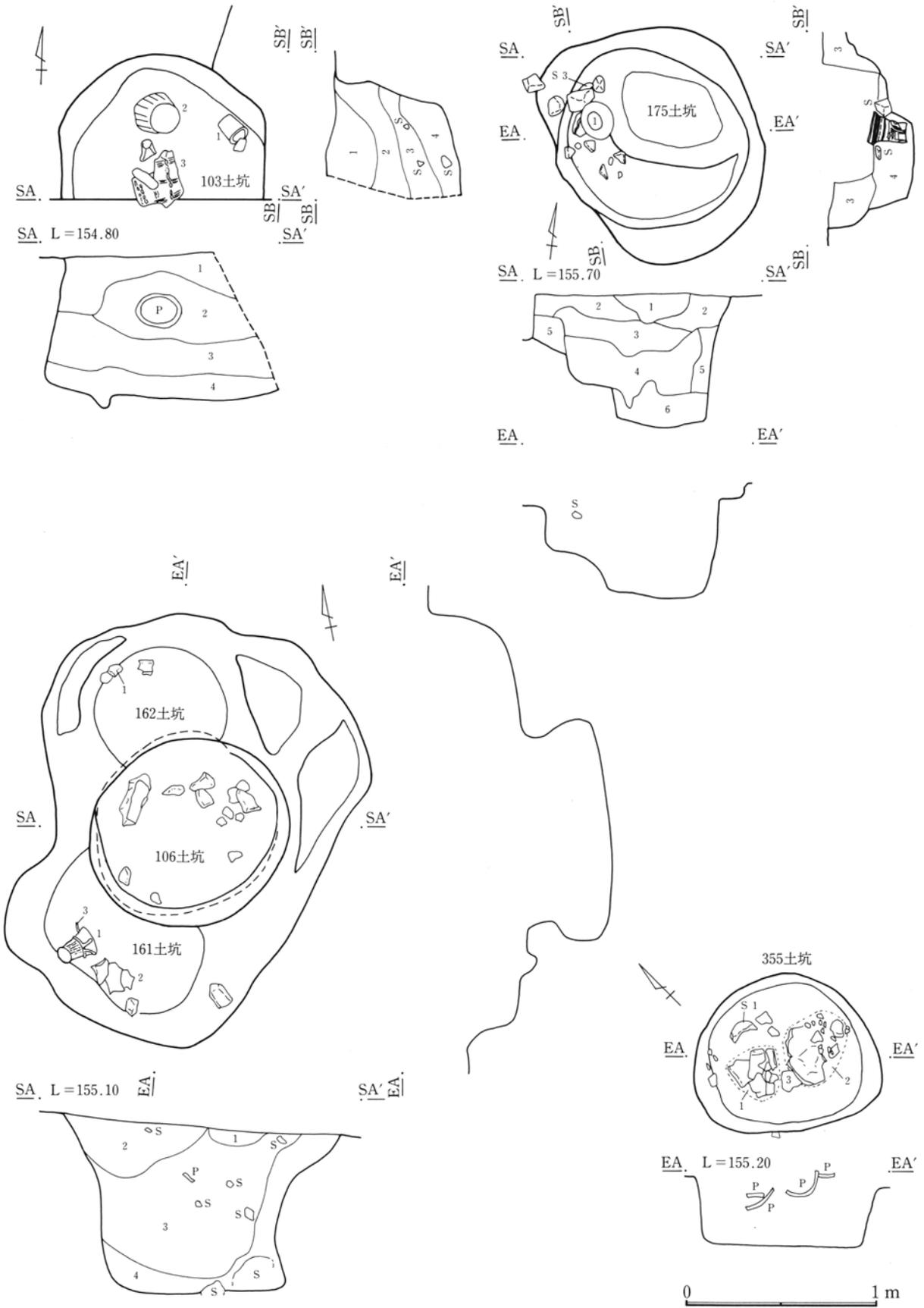
第60図 121・181・182・184・186号土坑

II 検出された遺構と遺物



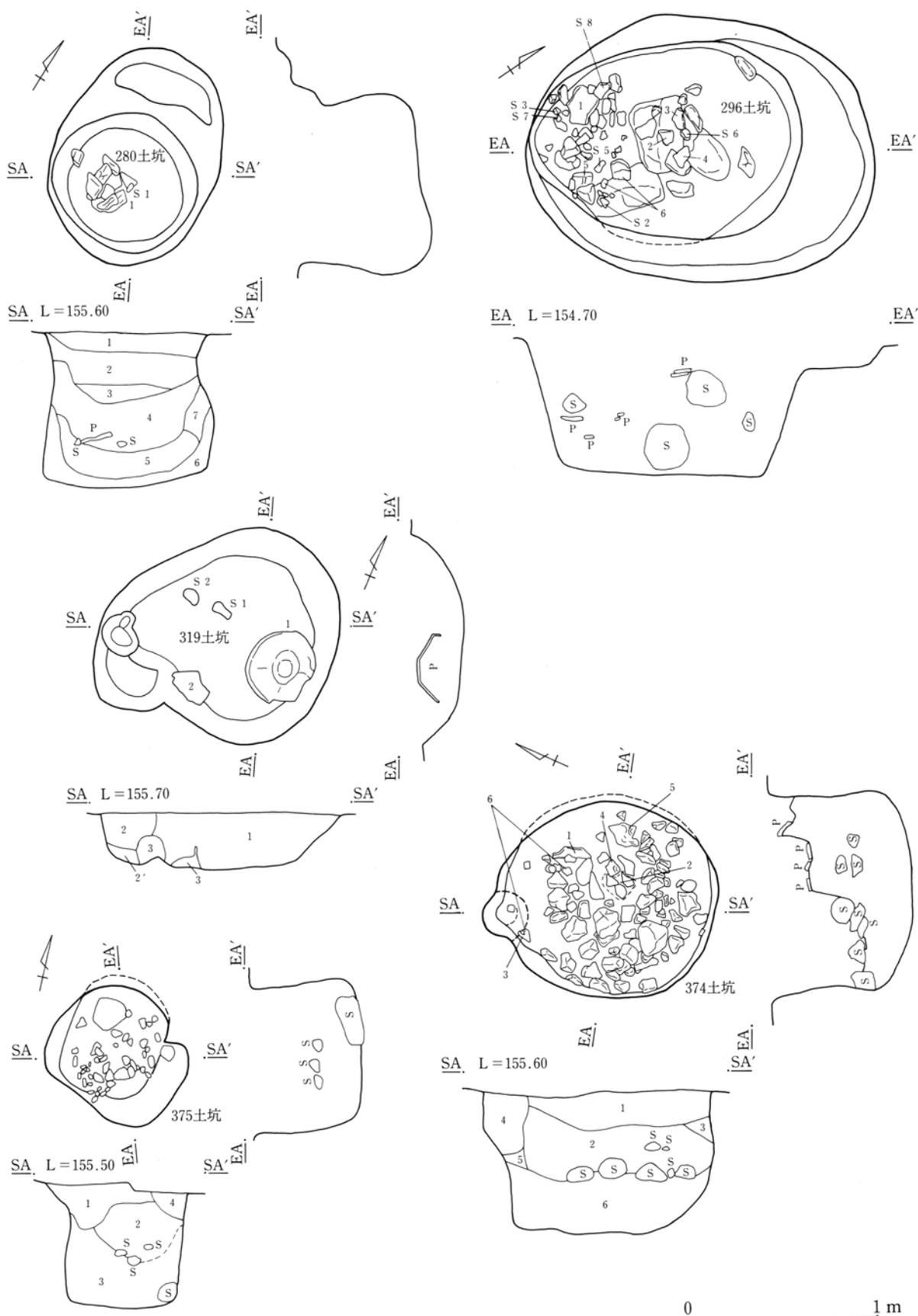
第61図 445・446号土坑

1. 縄文時代



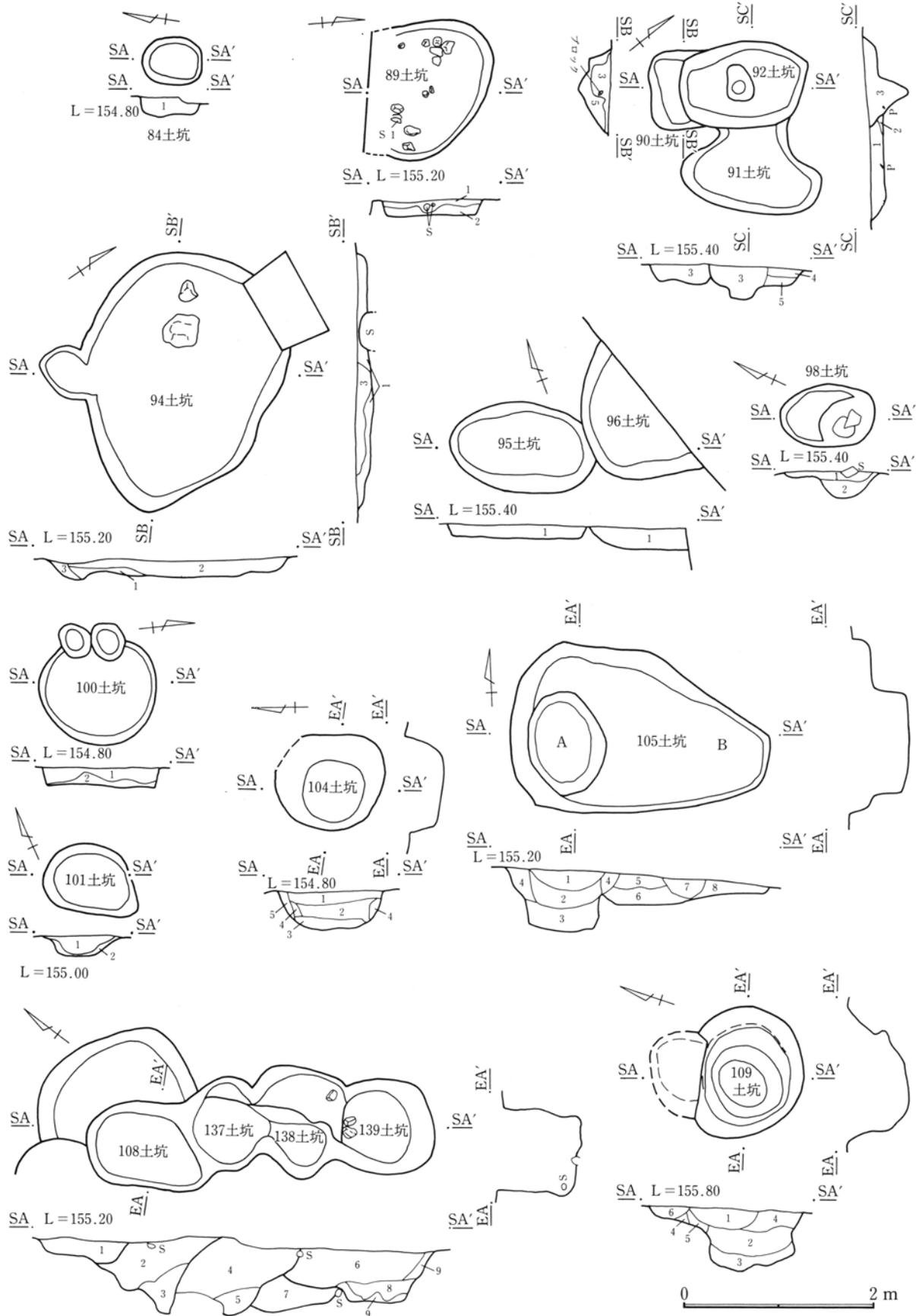
第62図 103・106・161・162・175・355号土坑

II 検出された遺構と遺物



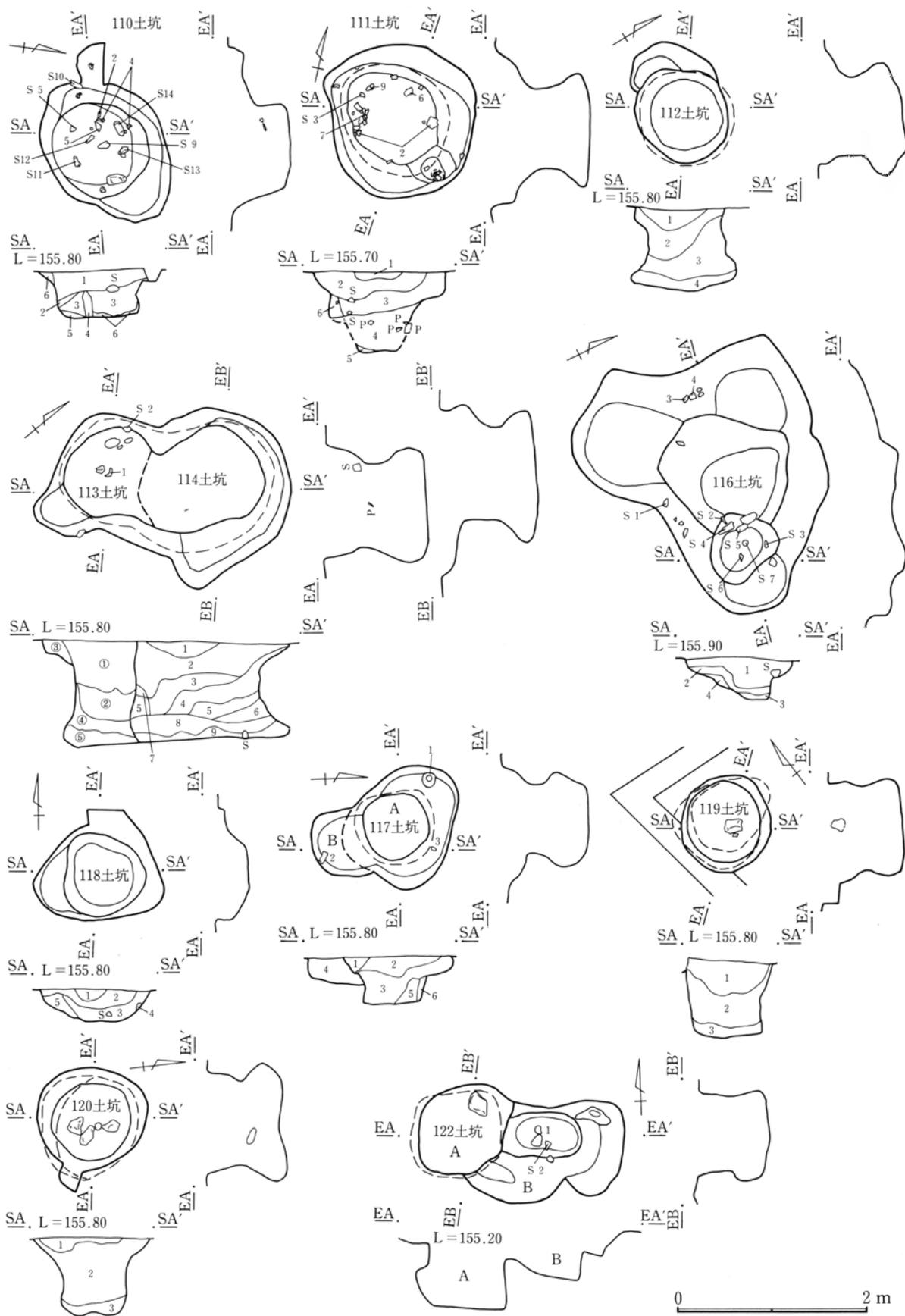
第63図 280・296・319・374・375号土坑

1. 縄文時代

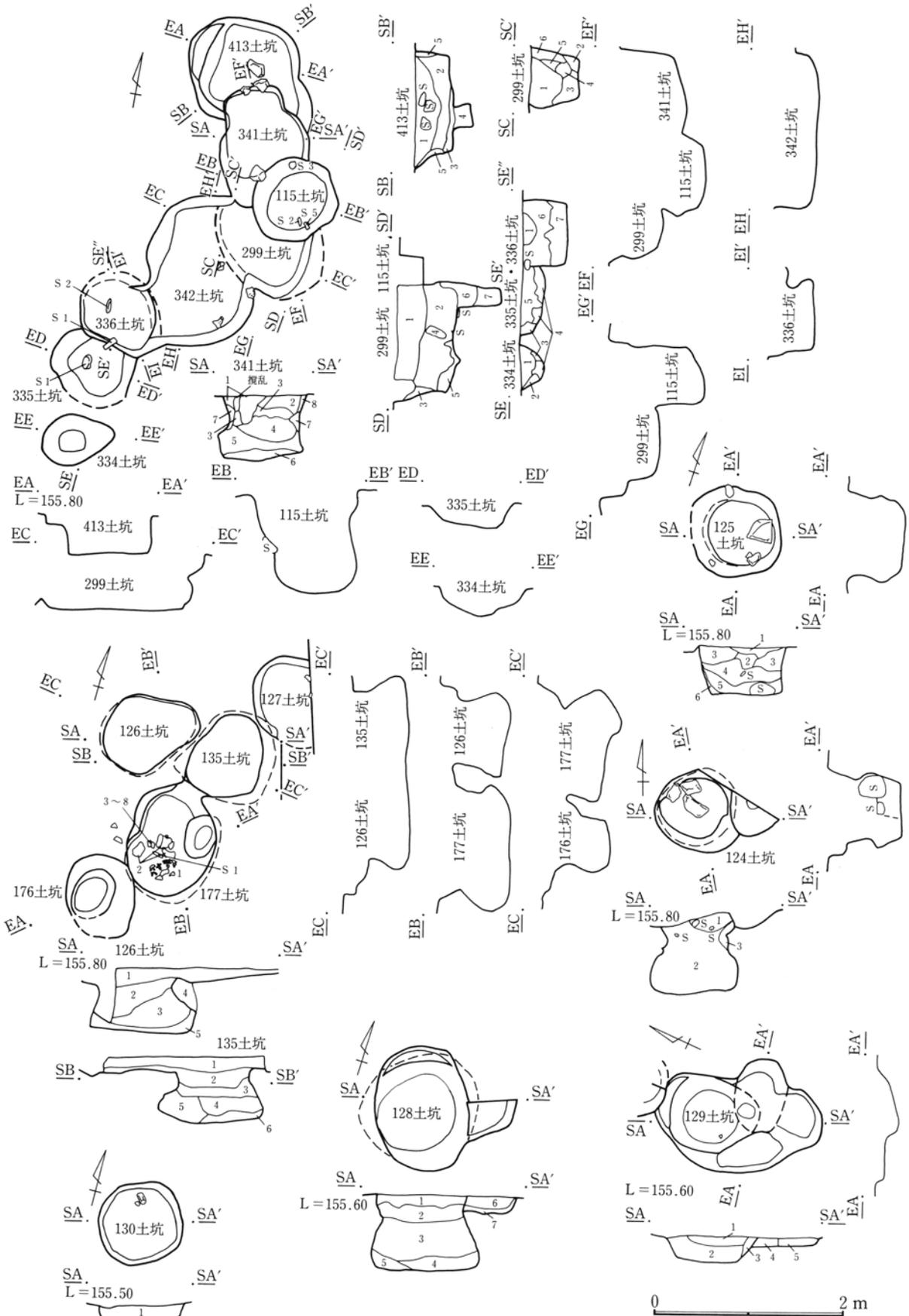


第64図 84・89~92・94~96・98・100・101・104・105・108・109・137~139土坑

II 検出された遺構と遺物

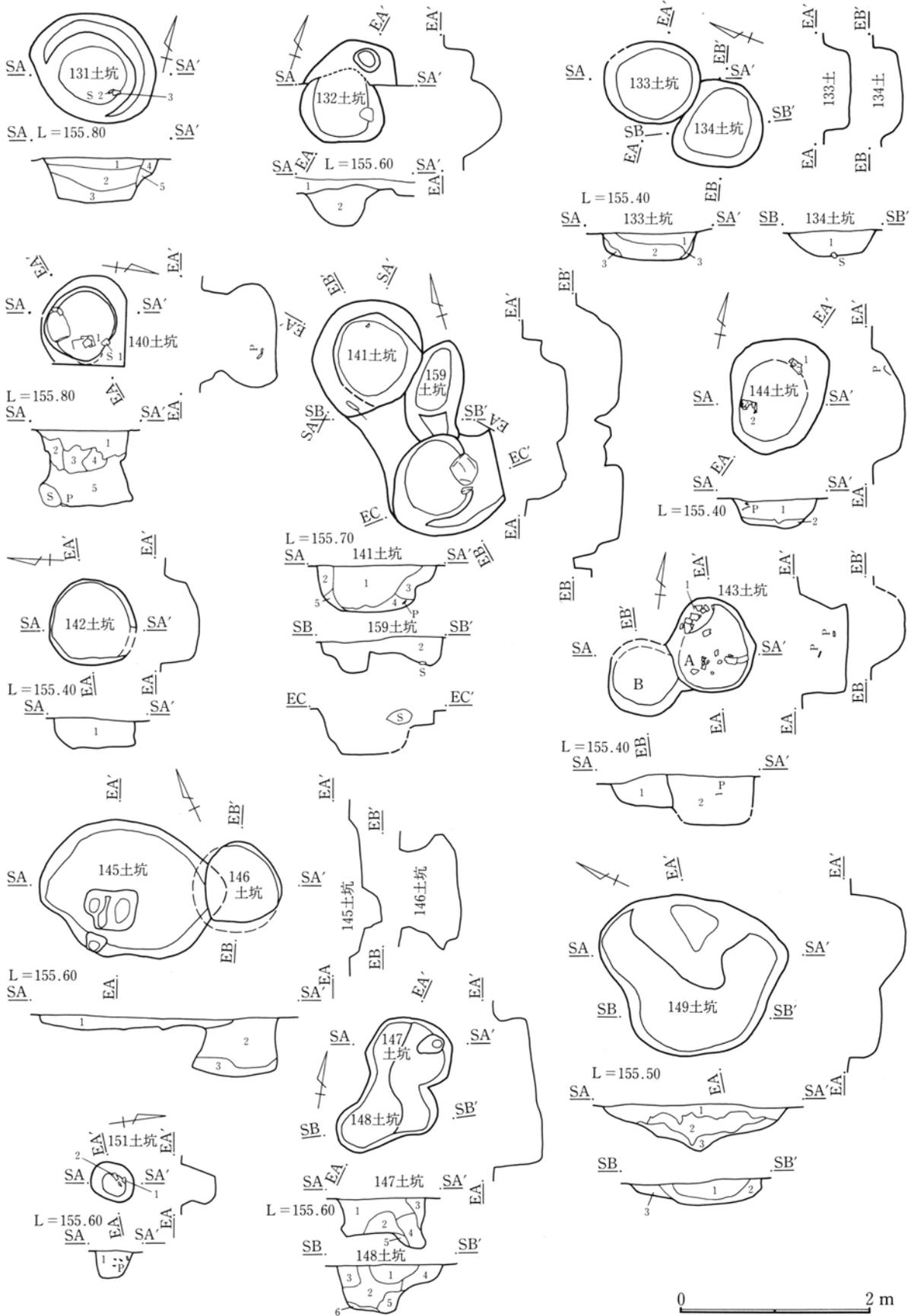


第65図 110~114・116~120・122号土坑



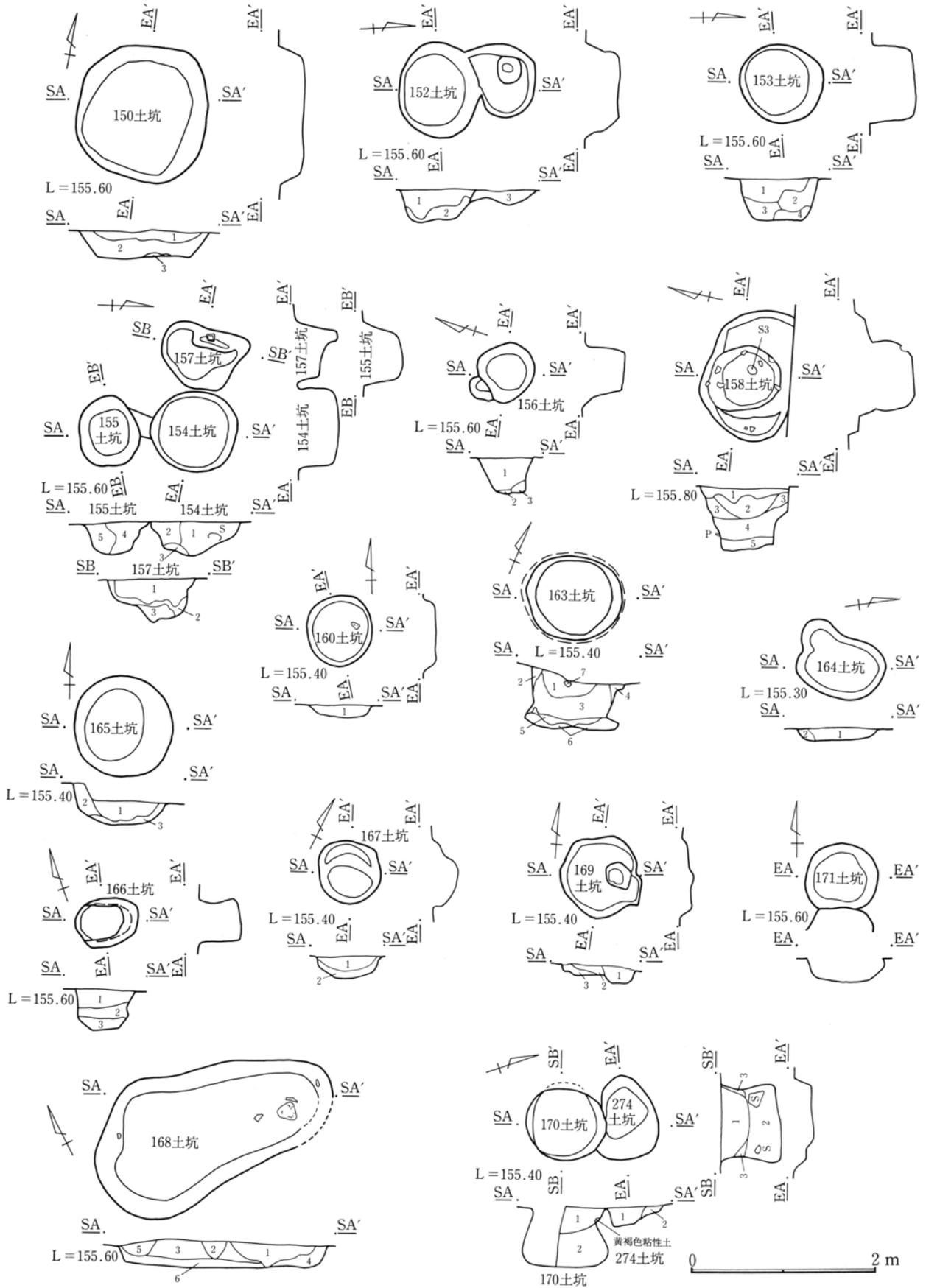
第66図 115・124~130・135・176・177・299・334~336・341・342・413号土坑

II 検出された遺構と遺物



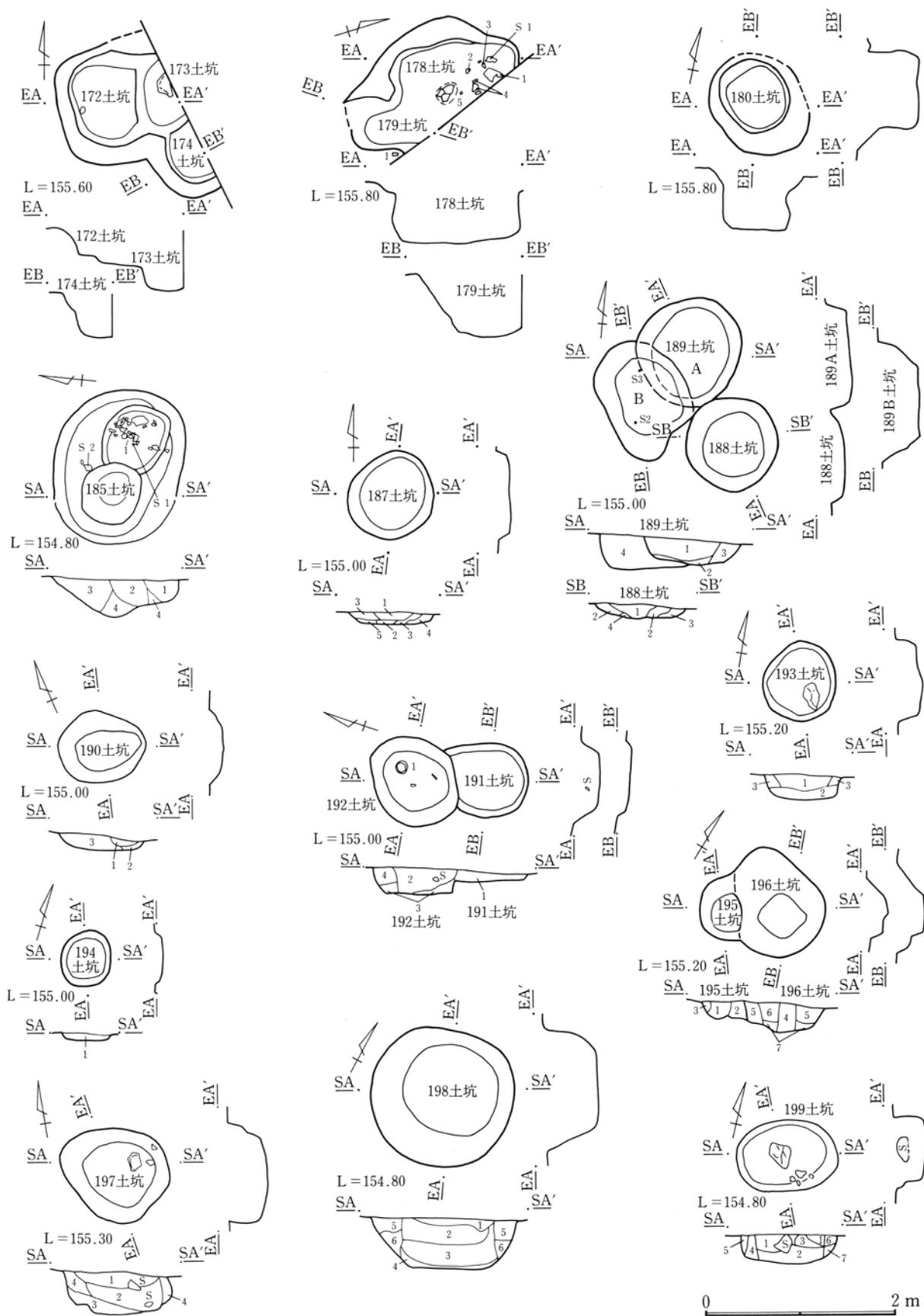
第67図 131~134・140~149・151・159号土坑

1. 縄文時代



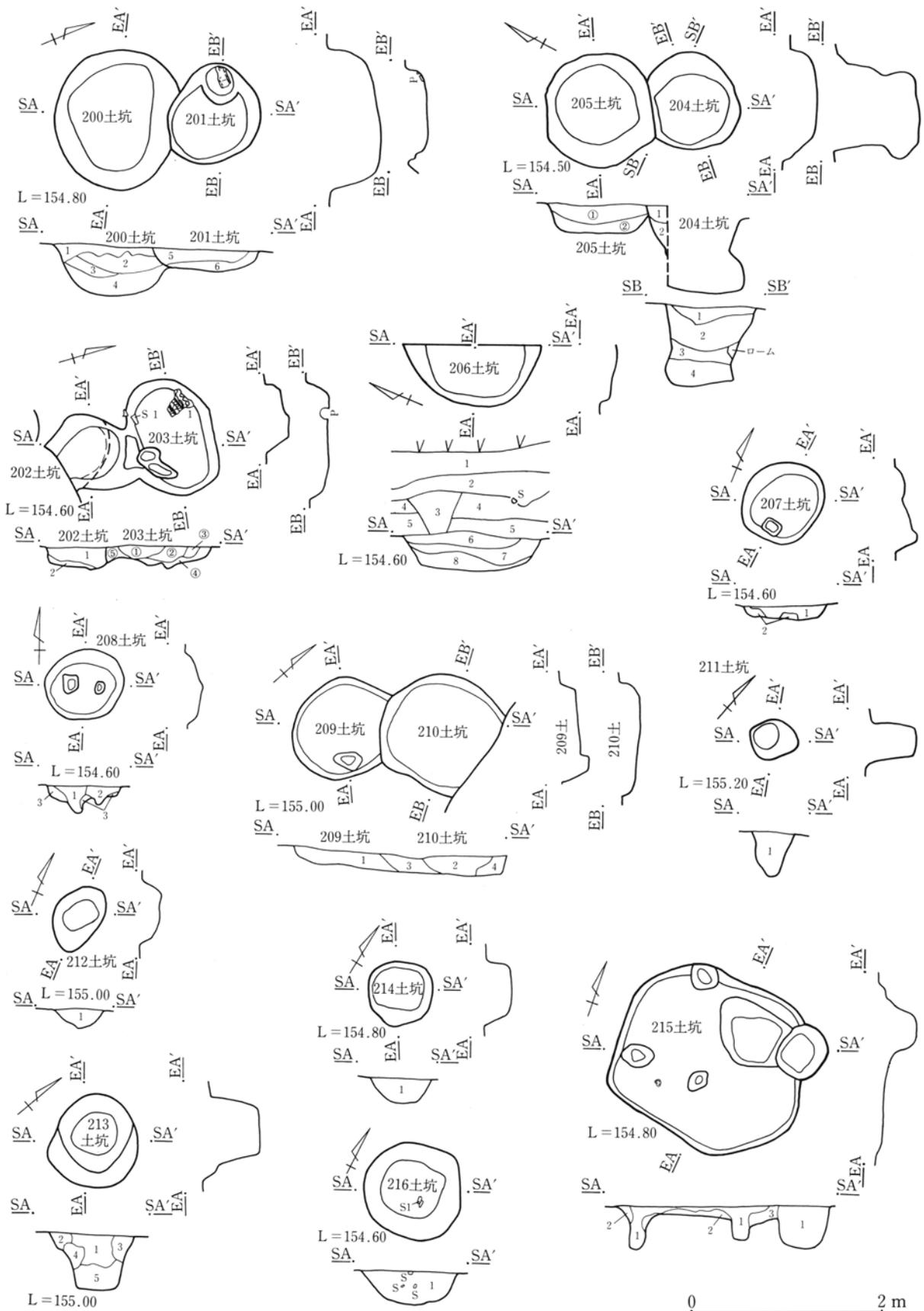
第68図 150・152~158・160・163~171・274号土坑

II 検出された遺構と遺物



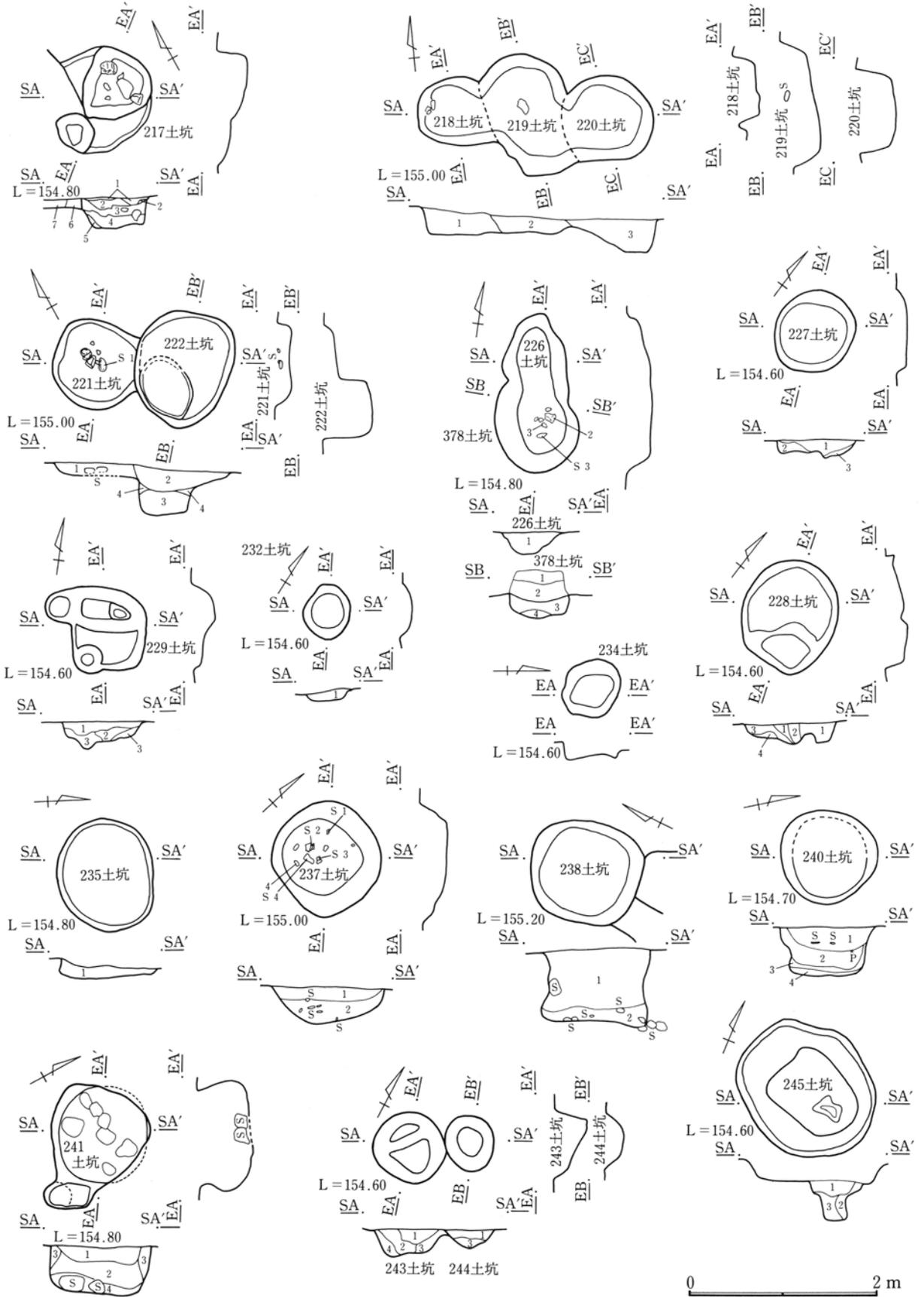
第69図 172~174・178~180・185・187~189号土坑

1. 縄文時代



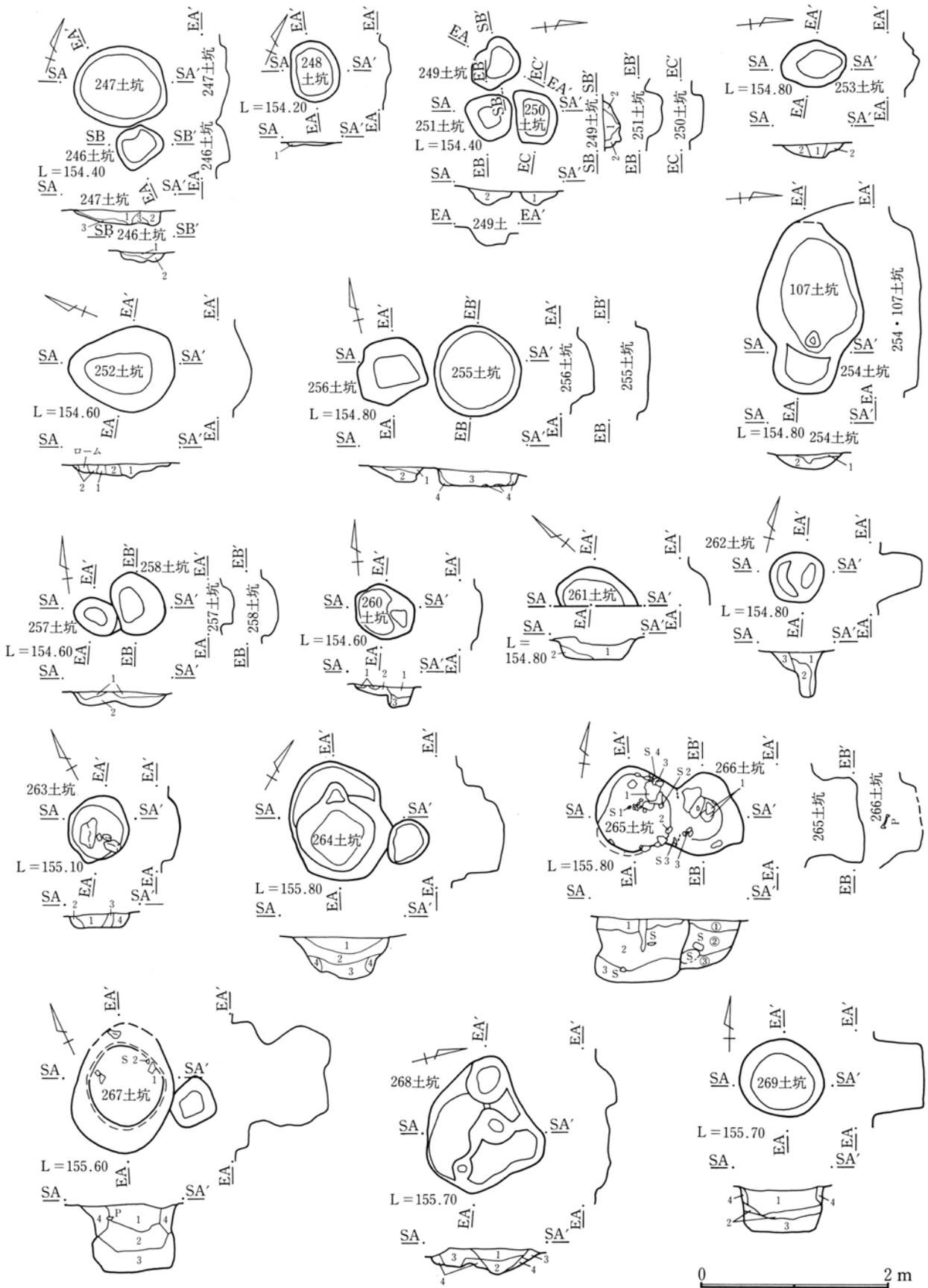
第70図 200~216号土坑

II 検出された遺構と遺物



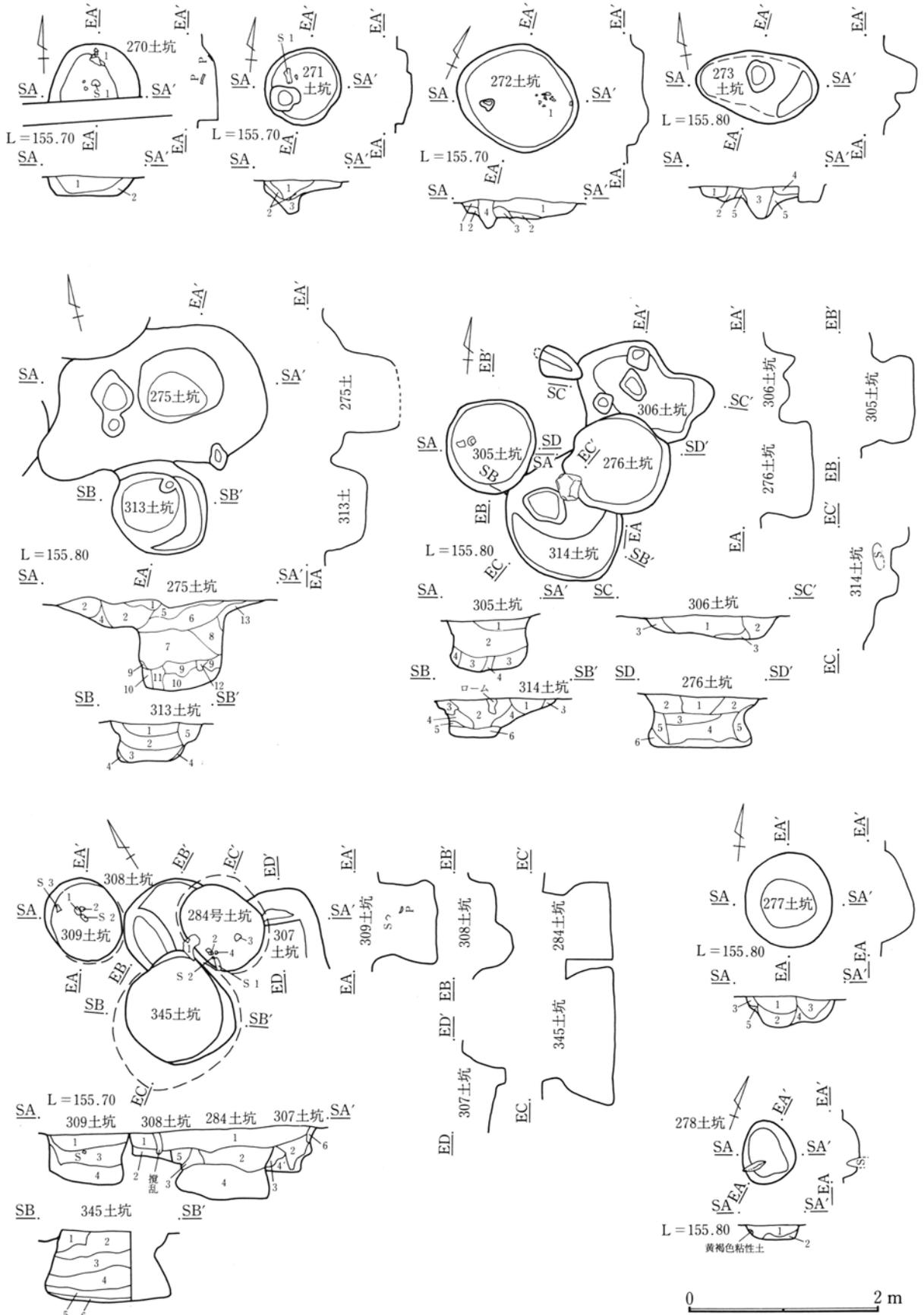
第71図 217~222・226~229・232・234・235・237・238・240・241・243~245・378号土坑

1. 縄文時代



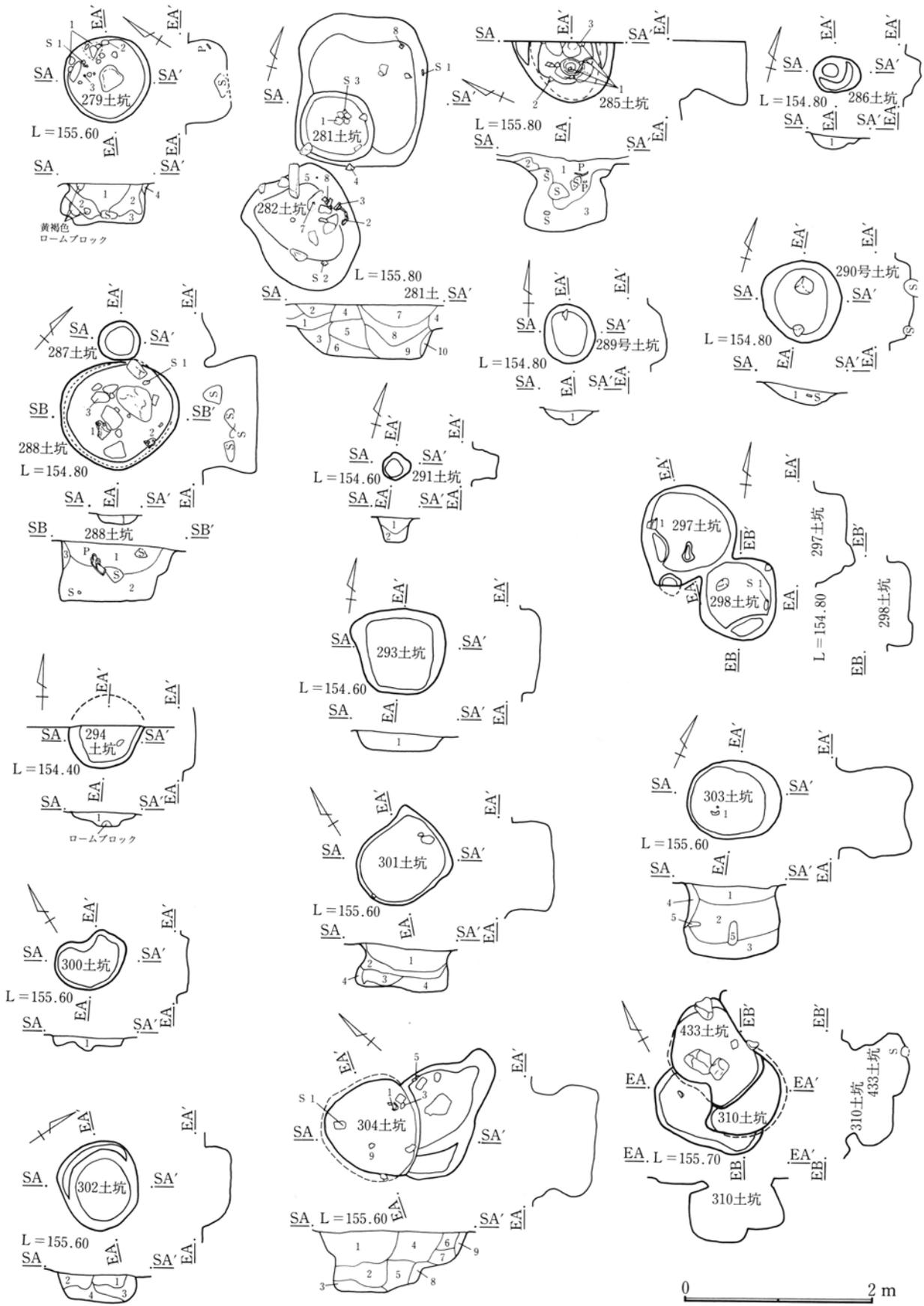
第72図 107・246~258・260~269号土坑

II 検出された遺構と遺物



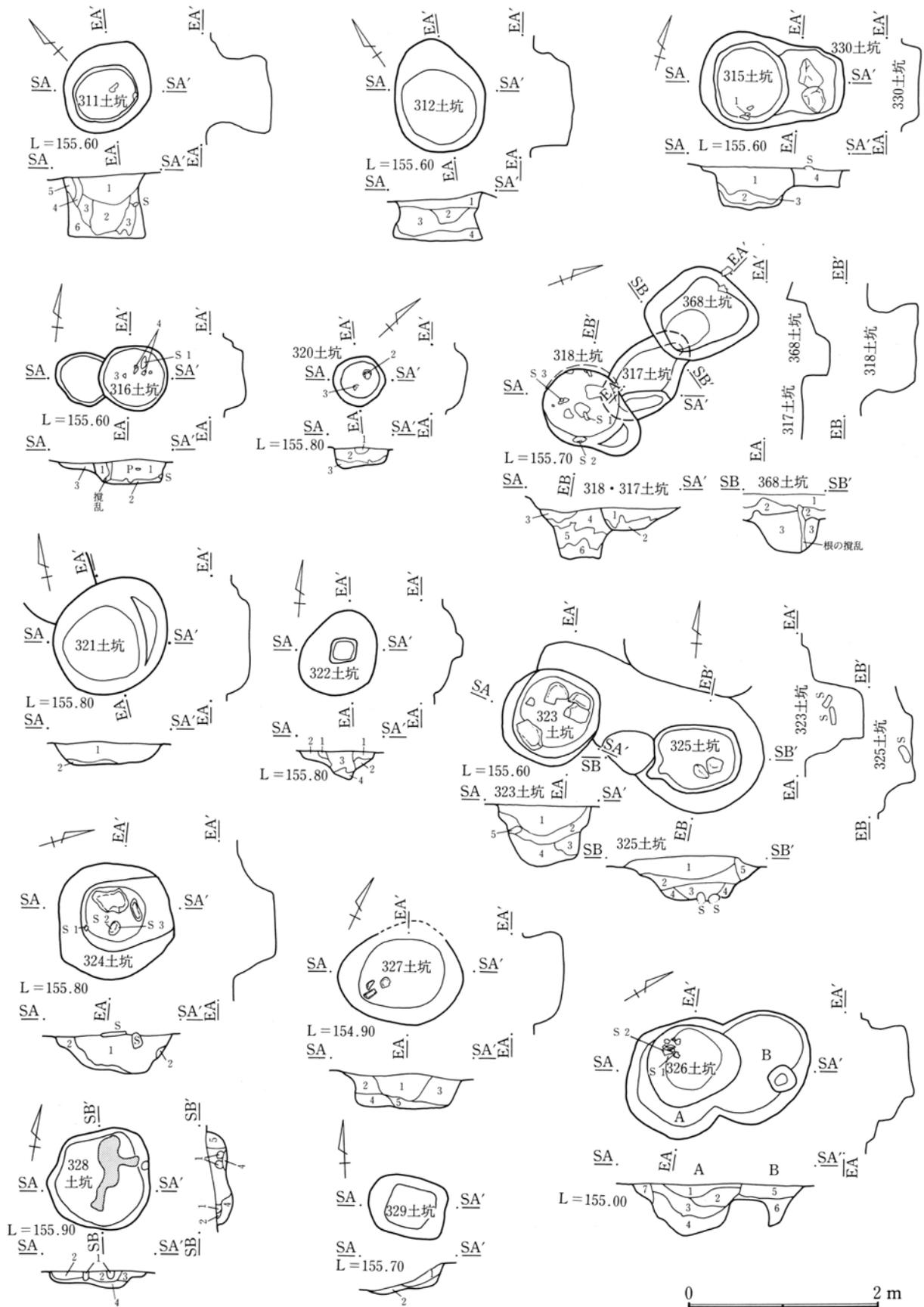
第73図 270~273・275~278・284・305~309・313・314・345号土坑

1. 縄文時代



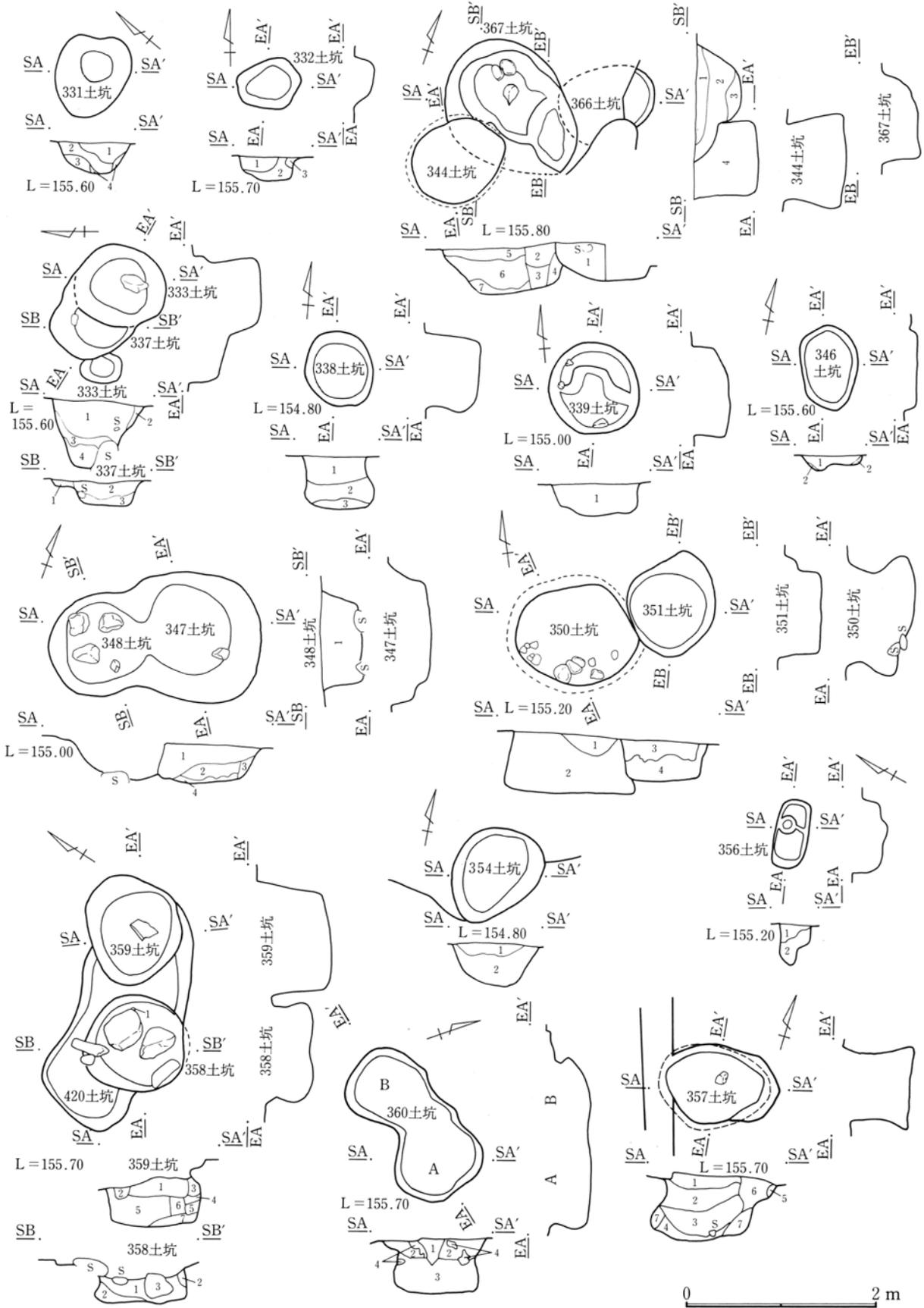
第74図 279・281・282・285~291・293・294・297・298・300~304・310・433号土坑

II 検出された遺構と遺物



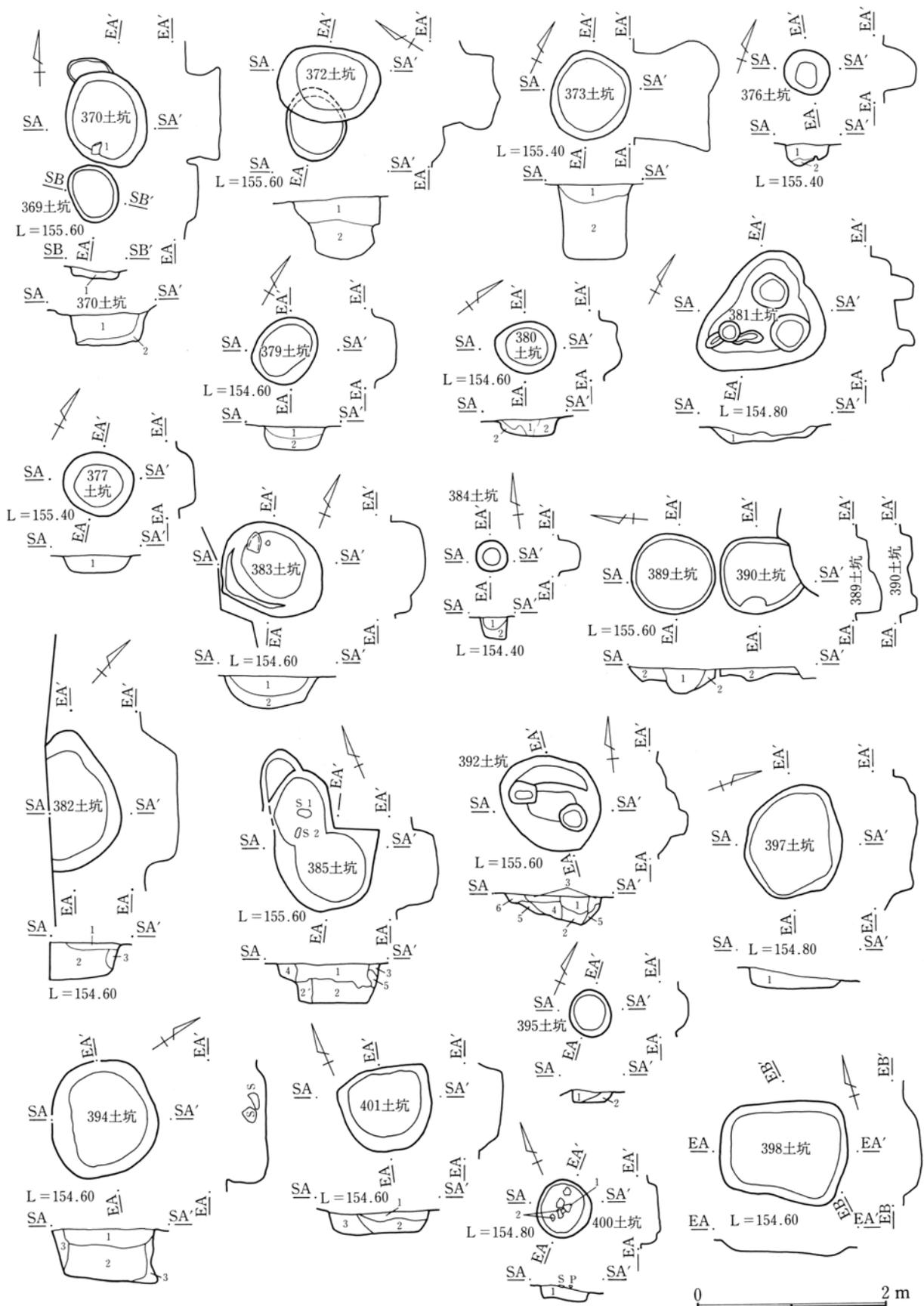
第75図 311・312・315～318・320～330・368号土坑

1. 縄文時代



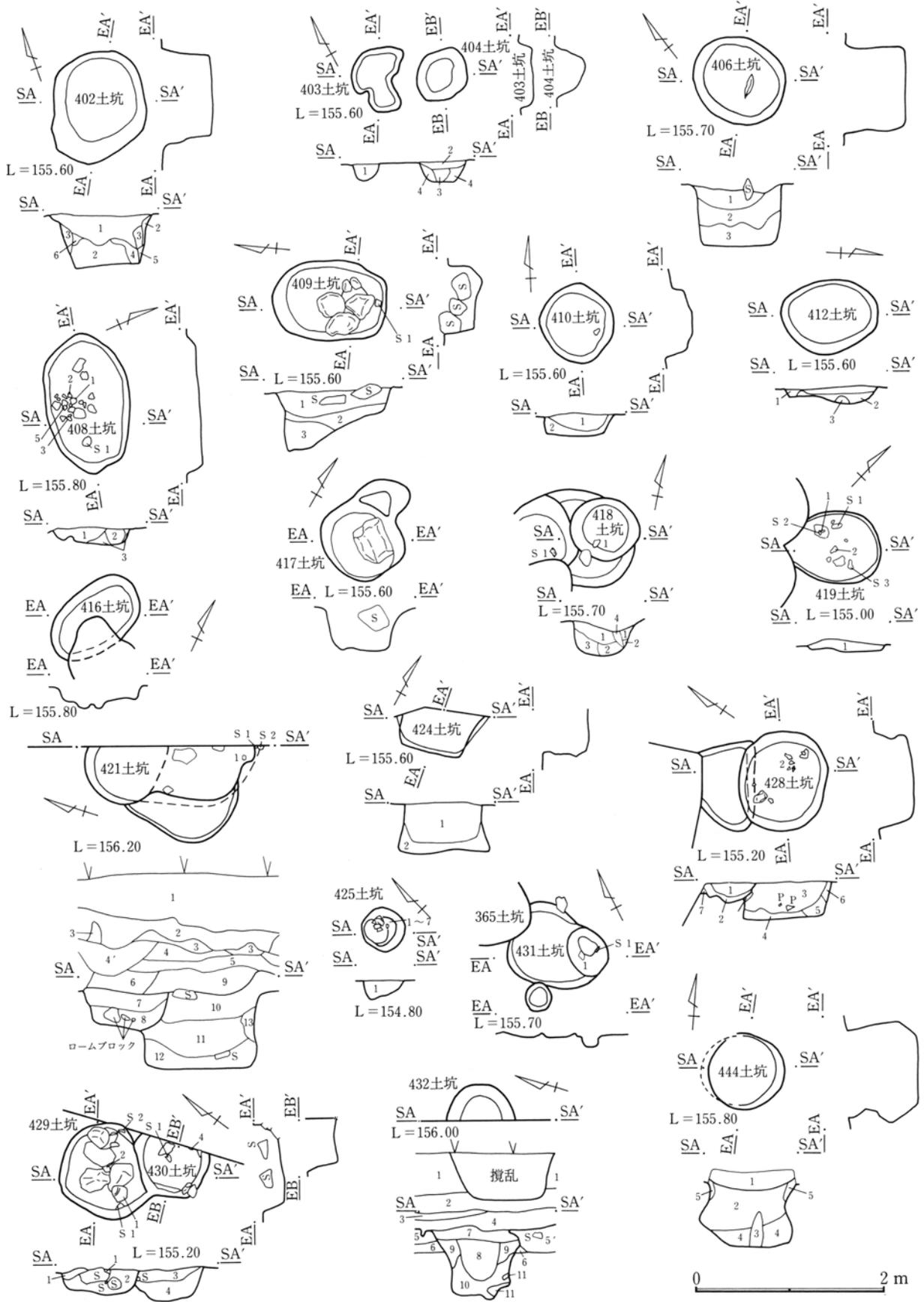
第76図 331~333・337~339・344・346~348・350・351・354・356~360・366・367・420号土坑

II 検出された遺構と遺物



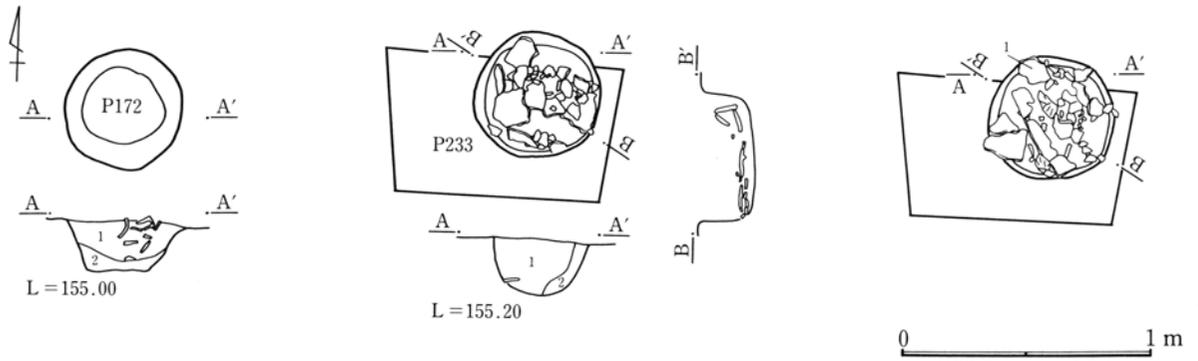
第77図 369・370・372・373・376・377・379~385・389・390・392・394・395・397・398・400・401号土坑

1. 縄文時代



第78図 402~404・406・408~410・412・416~419・421・424・425・428~432・444号土坑

II 検出された遺構と遺物



第79図 172・233号ピット



縄文前期土器集合写真

## 1. 縄文時代

### 縄文時代住居跡土層註

#### 90号住居跡 (第18図)

- 1 暗褐色土 黄褐色小粒子・白色小粒子を多く、炭化物粒子を少量含む。

#### 91号住居跡 (第19図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多く、茶褐色土ブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 全体にやや黄色味を帯びる。茶褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 暗黄褐色土 ハードロームブロック・茶褐色土ブロックを多量に含む。
- 3' 暗黄褐色土 茶色味が強い。茶褐色土粒子を少量含む。

#### 炉跡

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を20%含む。

#### 92号住居跡 (第20図)

- 1 暗褐色土 均一な砂質土。ローム粒を均一に含む。(102号土坑埋没土)
- 2 暗褐色土 均一な砂質土。にぶい黄褐色土をブロック状に含む。
- 3 暗褐色土・黄褐色土の斑状土 軽石粒を全体に均一に含む。
- 4 暗褐色土 均一な砂質土。白色小粒子を僅かに含む。

#### 93号住居跡 (第21図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子(岩片)を多量、黄褐色小粒子を少量含む。地山より若干暗い。

#### 炉跡

- 1 暗褐色土 黄褐色小粒子をやや多く、白色小粒子(岩片)を多く、焼土粒子を微量含む。炭化物片は殆ど含まない。石は、いづれも若干焼けており、僅かに赤変する。

#### 94号住居跡 (第22図)

- 1 黒色土 白色小粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 白色小粒子を含まない。黄褐色小粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子(As-C)を僅かに含む。黄褐色小粒子を微量含む。
- 4 茶褐色土 ローム漸移層に近い。黄褐色小粒子・白色小粒子を微量含む。しまり弱い。

#### ピット1・2

- 1 黒色土 白色小粒子を少量含む。

#### ピット3

- 1 黒色土 白色小粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 白色小粒子を含まない。黄褐色小粒子を微量含む。

#### 95号住居跡 (第23図)

- 1 暗褐色土(耕作土) 礫、As-C、As-Bを含む。やや砂質。
- 2 暗褐色土 As-Cを多量に含む。
- 3 黒色土 As-Cを多量に含む。
- 4 黒褐色土 As-Cを殆ど含まない。黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。(中期中心遺物包含層)
- 5 暗褐色土 4より明るい。白色小粒子を少量、黄褐色小粒子を多量、礫、土器片を含む。
- 6 暗褐色土 5よりやや暗い。小土器片を含む。
- 7 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、総社砂層ブロックを少量、土器片、礫を含む。
- 8 茶褐色土 7より明るい。白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を多量、総社砂層ブロックをやや多く含む。
- 9 暗黄褐色土 黒色土ブロック・白色小粒子を少量、黄褐色小粒子を多く、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。
- 10 暗褐色土 黄褐色小粒子・総社砂層ブロックを少量、白色小粒子を多量に含む。
- 11 暗褐色土 5・6よりやや茶色味強く、7より暗い。白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子をやや多く、礫、土器片を含む。

#### 96号住居跡 (第24図)

#### ピット1~6

- 1 暗褐色土 ほぼ均一の砂質土。ローム粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 1より一段明るい。ローム粒を僅かに含む。

#### 土坑1・2 ピット8~13・15・16

- 1 暗褐色砂質土 軽石(φ2mm以下)を僅かに含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム層土に黒色土が混じり、くすんだ色の土。
- 3 暗褐色砂質土 1にローム層土がブロック状に混じる。
- 4 茶褐色土 砂質土。

#### 1号炉跡

- 1 暗茶褐色土 全体に黄色味を帯びる。焼土ブロック・粒子をやや多く、白色小粒子を多く含む。しまり弱い。
- 2 茶褐色土 全体に黄色味を帯びる。焼土粒子を僅かに含む。

#### 2号炉跡

- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 赤茶褐色土 全体にやや黄色味を帯びる。焼土ブロック及び粒子・白色小粒子(岩片)をやや多く、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗黄褐色土 焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、焼土粒子を微量含む。
- 5 暗黄褐色土 岩片を少量含む。焼土粒子を含まない。しまり弱い。

#### 98号住居跡 (第26図)

#### ピット1~11・13・15

- 1 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。
- 1' 暗褐色土 1に黄褐色土ブロック溶混を少量含む。全体にやや黄色味を帯びる。

#### ピット14

- 1 暗褐色土 均一にぶい黄褐色土をブロック状に含む。

#### 99号住居跡 (第27図)

#### ピット7

- 1 暗褐色土 均一にぶい黄褐色土をブロック状に含む。

#### ピット8

- 1 暗褐色土 均一な砂質土。
- 2 暗褐色土 均一にぶい黄褐色土をブロック状に含む。

#### ピット9

- 1 暗褐色土 均一にぶい黄褐色土をブロック状に含む。

#### ピット10

- 1 暗褐色土 均一にぶい黄褐色土をブロック状に含む。

#### 100号住居跡 (第28図)

#### ピット1

- 1 暗褐色土 均一にぶい黄褐色土をブロック状に含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム層土に黒色土が混じり、くすんだ色の土。

#### ピット2

- 1 暗褐色土 均一な砂質土。

#### ピット3

- 1 暗褐色土 均一な砂質土。

#### ピット4

- 1 にぶい黄褐色土 ローム層土に黒色土が混じり、くすんだ色の土。

#### ピット5

- 1 暗褐色土 均一にぶい黄褐色土をブロック状に含む。

#### ピット6

- 1 暗褐色土 均一にぶい黄褐色土をブロック状に含む。

#### 101号住居跡 (第29図)

#### ピット5

- 1 暗褐色土 均一にぶい黄褐色土をブロック状に含む。

## II 検出された遺構と遺物

### 102号住居跡 (第30図)

#### 101号土坑

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム漸移層ブロック溶混を含む。1より明るい。

#### ピット1・5・6・9・10

- 1 暗褐色土 均一な砂質土。
- 2 暗褐色土 均一なぶい黄褐色土をブロック状に含む。

#### ピット2

- 1 暗褐色土 ローム漸移層ブロックを多量、白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。

#### ピット3・4・8

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・ローム漸移層ブロック溶混を少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい。

#### ピット7・11・16

- 1 暗褐色土 均一な砂質土。
- 2 暗褐色土 均一な砂質土。にぶい黄褐色土をブロック状に含む。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム層土に黒色土が混じり、くすんだ色の土。

### 103号住居跡 (第31図)

#### ピット3～8

- 1 にぶい黄褐色土 ローム層土に黒色土が混じりくすんだ色の土。
- 2 にぶい黄褐色土 1よりややローム層が多い。

#### 炉跡

- 1 暗茶褐色土 焼土粒子・焼土ブロックをやや多く、炭化物粒子を少量、白色小粒子・黄褐色小粒子を僅かに含む。しまり弱い。

### 104号住居跡 (第32図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を多く含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 1より明るい。黄褐色小粒子・白色小粒子は1よりやや少ない。炭化物粒子はほぼ同じ。しまり良い。
- 3 暗茶褐色土 白色小粒子・炭化物粒子を少量、黄褐色小粒子を僅かに含む。
- 4 黒褐色土 炭化物粒子を多く、焼土粒子を少量含む。

#### 1号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒子を多く、黄褐色粒子を僅かに、ハードロームブロックを極僅かに含む。
- 2 茶褐色土 ハードロームブロック・白色小粒子を少量含む。

#### ピット2

- 1 黒褐色土 白色粒子を多く含む。しまり良い。
- 2 茶褐色土 ローム粒、黄褐色粒子を少量含む。
- 3 茶褐色土 ハードロームブロックが多い。
- 4 茶褐色土 2に似るが、ローム粒は2より少ない。

#### ピット3

- 1 暗褐色土 白色小粒子を少量、黄褐色小粒子を僅かに、ロームブロックを含む。
- 2 褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 明黄褐色土 地山ローム層。

#### ピット4

- 1 暗茶褐色土 黄褐色小粒子を多く含む。しまり弱く、粘性有り。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色小粒子・白色小粒子を多く含む。

#### 炉跡

- 1 黒褐色土 黄褐色小粒子・炭化物粒子・総社砂層ブロックをやや多く、白色小粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 1よりやや黒い。炭化物粒子を多く、焼土粒子を少量含む。

### 105号住居跡 (第33図)

- 1 暗褐色土 茶褐色土(漸移層)ブロック・炭化物粒子を多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を極多量含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 1より明るい。茶褐色土ブロックを殆ど含まない。白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く含む。
- 3 暗黄褐色土 総社砂層ブロックを含む。しまり良い。
- 4 黒色土 黄褐色小岩片を少量含む。しまり悪い。
- 5 黒褐色土 1より茶褐色土ブロック少なく、白色小粒子・黄褐色小粒子を多く含む。しまりは1より悪い。
- 6 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く、焼土ブロック・粒子を少量含む。

#### 土坑1

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く、焼土ブロック・粒子を少量含む。

#### ピット1

- 1 暗褐色土 黄褐色小粒子を少量、白色小粒子を多量、茶褐色土ブロックをやや多く含む。

#### ピット2

- 1 暗褐色土 ピット1とほぼ同じだが、ロームブロックをやや多く含む。

#### ピット3

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。

#### ピット4・5

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。2よりやや黒味が強く、しまりは若干弱い。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい。総社砂層粒子・白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を少量含む。ピット3と同じ。
- 3 暗褐色土

#### ピット6・16

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を殆ど含まず、単一的。
- 2 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を多量、総社砂層ブロック・粒子を少量含む。

#### ピット7・8

- 1 暗褐色土 炭化物粒子をやや多く、黄褐色小粒子・総社砂層粒子・白色小粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 全体にやや黄色味を帯びる。黄褐色小粒子・総社砂層ブロック溶混を多量、白色小粒子をやや多く含む。

#### ピット9・10

- 1 暗褐色土 ピット7とほぼ同じ。総社砂層小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 ピット7とほぼ同じ。黄褐色粒子(φ 5mm程)・白色粒子(φ 5mm程)を少量含む。

#### ピット11・17

- 1 暗褐色土 黄褐色小粒子・白色小粒子を微量、総社砂層粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 全体にロームブロック溶混を多く、炭化物粒子・白色小粒子を少量含む。黄色味を帯びる。

#### ピット12

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多く、炭化物粒子・白色小粒子を少量含む。しまり良い。

#### ピット13

- 1 黒褐色土 白色小粒子を少量含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 黄褐色小粒子をやや多く含む。しまり良い。

#### ピット14

- 1 暗褐色土 炭化物粒子を微量含む。単一的。
- 2 暗褐色土 1よりやや黄色味帯びる。黄褐色小粒子をやや多く、ロームブロック溶混・炭化物粒子を少量含む。

1. 縄文時代

105号住居跡

炉跡

- 1 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を多量に含む。焼土粒子を殆ど含まない。しまり良い。
- 2 褐色土 白色小粒子を極少量、灰褐色ロームブロック、焼土粒、炭化物粒を含む。細かい砂質土。

106号住居跡 (第34図)

- I 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を極多量、ローム小ブロック・炭化物粒子を少量含む。
- II 黒褐色土 黄褐色小粒子を多量、白色小粒子を多く含む。Iより明るい。
- III 暗褐色土 Iより明るい。ローム小ブロックを少量、白色小粒子・黄褐色小粒子を多量に含む。
- IV 暗褐色土 ロームブロック・白色小粒子を多量に含む。
- V 暗褐色土 IIIよりやや明るい。黄褐色小粒子、白色小粒子はIIIより少ない。
- 1 黒色土 白色小粒子・黄褐色小粒子多量含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量、茶褐色土ブロックをやや多く含む。

土坑2・ピット1・2・3・4

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物・焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量、ロームブロック(φ5mm)を含む。
- 3 明褐色土 やや赤味がかかったローム土。(地山)
- 4 褐色土 2にロームブロックが斑状に混じった土。
- 5 茶褐色土 白色粒子を僅かに含む。キメの細かい砂質土。

107号住居跡 (第34図)

- 1 黒色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を極多量、炭化物粒子を多量、ロームブロックを僅かに含む。
- 2 黒褐色土 1より明るく、白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を多く、ロームブロック・粒子は1より多く含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多く、焼土粒子を僅かに、茶褐色土ブロック(漸移層)をやや多く含む。
- 4 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多く、ロームブロックを少量含む。3よりやや明るい。
- 5 暗褐色土 4より明るい。全体にやや黄色味を帯びる。ロームブロック・粒子を多く含む。黄褐色小粒子・白色小粒子・炭化物粒子は4より少ない。
- 6 明褐色土 ロームブロック・粒子を多量、白色小粒子・炭化物粒子を少量含む。黄褐色小粒子を殆ど含まない。
- I 黒色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物片を多量に含む。I・IIより黒い。
- II 黒色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物片を多量に含む。Iより明るく、1より黒い。

ピット1

- 1 暗褐色土 黄灰色ハードロームブロックを少量含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 1よりハードロームブロックが多い。

ピット2

- 1 明褐色土 黄灰色ハードロームブロックが多い。しまり良い。
- 2 明褐色土 1よりやや暗く、ロームブロックを少量含む。
- 3 明褐色土 ロームブロックを殆ど含まない。
- 4 暗褐色土 白色粒子・ハードロームブロックを少量含む。

ピット3

- 1 明褐色土 黄灰色ハードロームブロックが多い。しまり良い。
- 2 明褐色土 1よりやや暗く、ロームブロックを少量含む。
- 3 明褐色土 ロームブロックを殆ど含まない。
- 4 暗褐色土 白色粒子・ハードロームブロックを少量含む。

108号住居跡 (第35図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・土器片・石器を多量に含む。茶褐色土ブロックを含まない。
- 2 暗褐色土 茶褐色土ブロック溶混を多く、白色小粒子・茶褐色小粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 2よりやや明るい。茶褐色土ブロック溶混・白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を多く、焼土粒子を少量含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 3より暗い。茶褐色土ブロック溶混・白色小粒子・黄褐色小粒子は3より少ない。
- 5 暗褐色土 1に似るが、やや明るい。

土坑1

- 1 暗褐色土 白色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム土をブロック状に含む。白色小粒子を少量含む。

ピット1

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色YP軽石粒子を全体に多く含む。(柱痕部分)
- 2 褐色土 暗褐色土と黄褐色土ブロックの斑状混合土。

ピット2

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色YP軽石粒子を全体に多く含む。(柱痕部分)
- 2 褐色土 暗褐色土と黄褐色土ブロックの斑状混合土。

炉跡

- 1 暗黄褐色土 炭化物粒子を少量、暗褐色土ブロックをやや多く、白色小粒子を少量含む。全体にやや赤味を帯びる。
- 2 暗黄褐色土 白色小粒子をやや多く、ロームブロックを含む。全体にやや赤味を帯びる。
- 3 暗褐色土 炭化物粒子を少量含む。
- 4 褐色土(炉の掘り方) 炭化物・白色小粒子を少量、焼土粒子を極少量、ローム土をブロック状に含む。

109号住居跡 (第36図)

- 1 暗褐色土 黄褐色小粒子・茶褐色土ブロック(漸移層)を多く含む。2より黒味が強い。
- 2 暗褐色土 茶褐色土ブロックを極多量、炭化物粒子・白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 茶褐色土ブロックを少量含む。他は2とほぼ同じ。しまり悪い。
- 4 黒色土 茶褐色土ブロックを少量含む。
- 5 黒色土 茶褐色土ブロックを含まない。炭化物粒子・黄褐色小粒子を多く、白色小粒子を極多量含む。
- 6 明褐色土 2より明るい。他は2とほぼ同じ。
- 7 明褐色土 総社砂層ブロックを多量含む。しまり非常に良い。

ピット1

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック溶混を含む。やや黄色味を帯びる。他はほぼ1と同じ。
- 3 黒褐色土 1とほぼ同じだが、1よりやや黒味が強い。焼土粒子を含まない。

ピット2

- 1 黒褐色土 しまり悪い。単一的。
- 2 黒褐色土 白色小粒子を微量、総社砂層ブロック・粒子を僅かに、炭化物粒子を少量含む。

ピット3・4

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多く、炭化物粒子・焼土粒子を少量、小礫を若干含む。
- 2 黒褐色土 1とほぼ同じだが、総社砂層ブロック(φ1cm)を含む。

## II 検出された遺構と遺物

### 109号住居跡

#### ピット5

- 1 黒色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量、炭化物粒子・焼土粒子を微量含む。

#### ピット6・土坑1

- 1 暗褐色土 茶褐色土ブロックを多く、白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色小粒子・白色小粒子を多く、総社砂層粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 2よりやや黒い。しまり良い。

#### 炉跡

- 1 黒色土 白色小粒子を多量、As-YP・炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。
- 2 暗赤褐色土 焼けており、やや赤味を帯びる。白色小粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 1とほぼ同じだが、茶褐色土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 茶褐色土ブロック・炭化物粒子をやや多く、白色小粒子を多く含む。
- 5 暗褐色土 4より暗い。茶褐色土ブロック・白色小粒子を多く、炭化物粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 4に近いが、4よりさらに明るい。炭化物粒は4より少ない。
- 7 暗褐色土 焼土粒子を多く、褐色土ロームブロックを含む。

### 110号住居跡 (第37図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を極多量、As-YP ( $\phi$  1cm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 2より暗く、1より明るい。白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、総社砂層ブロックを多く含む。
- 4 明褐色土 総社砂層ブロックを極多量、白色小粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多量含む。1よりやや明るい。

### 111号住居跡 (第38図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、焼土粒子・炭化物粒子・総社砂層小ブロック ( $\phi$  5mm~1cm) 及び粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 全体にローム溶混、白色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。黄褐色小粒子・焼土粒子を殆ど含まない。やや黄色味を帯びる。
- 3 黒褐色土 白色小粒子を多量、炭化物粒子を多く、焼土粒子・黄褐色小粒子を少量含む。(北側土坑の埋没土の一部か?)
- 4 黒褐色土 1よりやや明るい。白色小粒子を多量、炭化物粒子・黄褐色小粒子をやや多く、焼土粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 地山の総社砂層ブロック溶混を多く含む。白色小粒子・黄褐色小粒子は殆ど含まない。

#### ピット1

- 1 茶褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。

#### ピット2

- 1 暗褐色土 白色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・炭化物を少量含む。
- 3 茶褐色土 白色小粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く、黒褐色土ブロックを含む。

#### ピット3

- 1 茶褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。

#### ピット4

- 1 茶褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 茶褐色土 1よりやや明るい。

#### ピット5・6

- 1 暗褐色土 白色小粒子を少量含む。

#### ピット7

- 1 暗褐色土 白色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 におい黄褐色土を少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム土を斑状に含む。

#### 炉跡

- 1 茶褐色土 砂質土。白色小粒子・黄褐色小粒子を少量、総社砂層ブロック、焼土ブロックを含む。

### 112号住居跡 (第39図)

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多量、ローム粒子を少し含む。しまり良い。粘性少し有り。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含むが、ローム粒子は少ない。しまり悪い。粘性有り。
- 3 黒褐色土 2とほぼ同じ。2よりロームブロックを多く含む。しまり悪い。粘性有り。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを少量、ローム粒子を含む。しまりやや良い。粘性有り。
- 5 褐色土 ロームブロックを少し、ローム粒子を多く含む。粒子細かい。しまりやや良い。粘性少ない。
- 6 褐色土 5よりロームブロックが多く、粒子が細かい。ローム粒子は少ない。
- 7 褐色土 ロームとの混土。粒子が細かい。しまりやや良い。粘性少ない。
- 8 褐色土 7に似る。しまり悪い。(攪乱)
- 9 黒褐色土 ロームブロックを少量、細かいローム粒子を少し含む。しまり良い。
- 10 黒褐色土 9とほぼ同じ。9よりロームブロックは少ない。しまり良い。
- 11 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子・細かい白色粒子を多く含む。しまり良い。
- 12 黒褐色土 11に似るが、ロームブロックは多い。しまり良い。
- 13 黒褐色土 12に似る。12より白色粒子が少ない。しまり良い。
- 14 黒褐色土 ロームブロックを含むが、あまりはつきりしない。ローム粒子・白色粒子を多く含む。
- 15 黒褐色土 ロームブロック ( $\phi$  3~4cm大) を含む。しまりやや良い。

#### 土坑1

- 1 黒色土 白色小粒子、黄褐色のやや大きな粒子を含む。
- 2 褐色土 ローム土をブロック状に含む。
- 3 褐色土 ローム土層。

#### ピット1~17

- 1 暗褐色土 黄褐色ブロックに白色小粒子を含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを多く斑状に含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子を含む。ロームブロックを含まない。

#### ピット18

- 1 暗褐色土 白色小粒子を含む黄褐色ブロックを50%含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子を含む黄褐色ブロックを30%含む。

### 113号住居跡 (第40図)

- 1 褐色土 ロームブロックが多い。粒子細かく、粘性少ない。
- 2 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を少量含む。しまり良い。粘性少ない。
- 3 褐色土 1よりロームブロックは少ない。(床面か?)
- 4 黒褐色土 柱穴。下層にロームブロックを多く、ローム粒子を少量含む。しまりやや良い。粘性少ない。
- 5 黒褐色土 黄褐色ロームブロック少量、ローム粒子多く含む。
- 6 黒褐色土 5より総社砂層ブロックを多く含む。ローム粒子は5と同じくらい含む。
- 7 黒褐色土 5に近い。ローム粒子が5より細かい。
- 8 黒褐色土 6よりロームブロックを多く含む。
- 9 黒褐色土 8よりロームブロックを多く含む。

## 1. 縄文時代

### 113号住居跡

ピット1・2

- 1 黒色土 白色小粒子を少量、炭化物を僅かに含む。
- 2 黒色土 白色小粒子を少量含む。

### 114号住居跡 (第41図)

- 1 暗褐色土 焼土粒子を非常に多く、白色小粒子・炭化物を多く含む。一部に焼けた部分がある。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・炭化物を多く含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子を2よりやや少なく、焼土粒を少量、一部にロームブロックを含む。
- 4 1～3よりやや明るい暗褐色土 白色小粒子を少量、焼土粒を極少量、ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を多く含む。
- 6 暗褐色土 白色小粒子を多く、炭化物を少量含む。

### 1号炉跡

- 1 茶褐色土 白色小粒子をやや多く、焼土粒子を少量含む。

### 2号炉跡

- 1 暗赤黄褐色土 やや焼けた黄褐色粘性土ブロックを少量、同粒子を多く含む。しまり良い。
- 2 暗赤黄褐色土 若干焼けた粘性土粒子は少ない。
- 3 黒褐色土 黄褐色粘性土小粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 黄褐色粘性土小粒子を少量、粘性土粒子を多く含む。

### 115・117号住居跡 (第42図)

#### 115号住居跡

- 1 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色のやや大きい粒子を全体に多く含む。
- 2 暗褐色土 におい黄褐色のローム土がブロック状に混じる。

#### 117号住居跡

- 1 黄褐色土 砕石などを含む。(埋め土)
- 2 暗褐色土 粒子の粗い砂質土。炭化物粒、As-C 軽石を15%含む。
- 3 暗褐色土 2より粒子の細かい砂質土。As-C 軽石を30%含む。
- 4 黒色土 As-C 軽石を35%含む。部分的に軽石の固まっている所有り。
- 5 黒色土 As-C 軽石を含まない。白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多く含む。
- 7 茶褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。明褐色ローム土を斑状に全体に含む。
- 8 暗褐色土 白色小粒子を僅かに、焼土粒を含む。やや粘りのある砂質土。
- 9 茶褐色土 白色極小粒子・ローム粒を僅かに含む。
- 10 茶褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 11 茶褐色土 10よりやや暗い。白色小粒子・黄褐色小粒子を極少量含む。
- 12 茶褐色土 10と同じくらいの色調。白色小粒子・黄褐色小粒子を極少量含む。
- 13 暗褐色土 8より暗い。白色小粒子を少量含む。黄褐色ローム粒(φ 3mm以下)を少量含む。

### 235号土坑

- 1 黒褐色土 白色小粒子・焼土粒子をやや多く含む。全体に均質。

### 437号土坑

- 1 黒褐色土 白色小粒子が全体に均一に多く、焼土粒、炭化物粒を含む。全体に均質な堆積土。

### 115号住土坑1・ピット1～5

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 灰黄褐色ローム土(地山)

### 116号住居跡 (第43図)

- 1 黒色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子・土器片を多く含む。
- 2 黒褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・焼土粒子・炭化物粒子を少量、As-YP を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子・焼土粒子・炭化物粒子を少量、黄褐色小粒子を微量含む。
- 4 暗褐色土 黒色土ブロックを多く、白色小粒子を少量含む。
- 5 明褐色土 3とほぼ同じだが、黄褐色に風化した安山岩(φ 5cm)を含む。
- 6 黒褐色土 1に近いが、1よりやや暗い。

### 118号住居跡 (第44図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、ロームブロックを含む。
- 2 におい黄褐色土 ハードロームブロックを主体とする層。
- 3 暗褐色土 1よりやや赤味がかかる。白色小粒子・黄褐色小粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 3にローム土をやや多く含む。

### 土坑1

- 1 におい黄褐色土 ハードロームブロックを主体とする層。
- 2 暗褐色土 1よりやや赤味がかかる。白色小粒子・黄褐色小粒子を多く含む。

### ピット1～10

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多く含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを多く含む。

### 119号住居跡 (第45図)

- 1 褐色土 微粒子。ロームブロックを含む。しまり良い。
- 2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子・白色小粒子を多く含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 2よりロームブロックを多く、ローム粒子・白色小粒子を少ない。しまり良い。
- 4 黒褐色土 上層にローム粒子・白色小粒子、下層にはっきりしないロームブロックの混土。しまり良い。
- 5 暗褐色土 3に近い。全体に均一にローム粒子・白色小粒子を少量含む。しまり良い。
- 6 黒褐色土 はっきりしない。ロームブロックとの混土。ローム粒子・白色小粒子を多く含む。しまり良い。
- 7 黒褐色土 全体に均一にロームブロック及び粒子・白色小粒子を多く含む。しまり良い。
- 8 褐色土 ロームブロック・白色小粒子を多く、ローム粒子・オレンジのローム粒子を少し含む。しまり良い。

### ピット1～13

- 1 暗褐色土 白色小粒子を含む。黄褐色ローム土がブロック状に混じる。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を含む。ロームブロックを含まない。やや粘りのある砂質土。

### 炉跡

- 1 におい黄褐色土 暗褐色土が斑状に混じる。白色小粒子を多く含む。

### 120・122号住居跡 (第46図)

- 1 暗褐色土(耕作土) As-Bを含む。やや砂質。
- 2 暗褐色土 As-Cを多量含む。(平安遺構の埋没土)
- 2' 暗褐色土 2とほぼ同じ。ややAs-Cの量が少ない。
- 3 黒色土 As-Cを殆ど含まない。白色小粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 3' 黒褐色土 3に近いがやや茶色味が強く、やや明るい。
- 3'' 黒褐色土 3とほぼ同じ。3より若干暗い。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロック・粒子を多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を微量、角礫を含む。茶色味が強く、明るい。
- 4' 暗褐色土 4とほぼ同じ。若干明るい。

## II 検出された遺構と遺物

### 120・122号住居跡

- 5 黒色土 暗褐色土ブロックを少量、白色小粒子を多量、黄褐色小粒子多く、炭化物粒子をやや多く含む。
- 6 黒褐色土 暗褐色土・白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量、炭化物粒子をやや多く含む。4・5より明るい。
- 7 黒色土 茶褐色粒子を多量、白色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く、石器を含む。
- 8 暗褐色土 白色小粒子・黄灰色砂質土ブロックを多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 9 黒褐色土 黄褐色小粒子を多く、白色小粒子を多量、焼土粒子を少量含む。
- 10 黒褐色土 黄褐色小粒子を少量、白色小粒子を多量含む。
- 11 黒色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く含む。
- 12 黒褐色土 11とほぼ同じ。若干明るい。
- 13 黒褐色土 茶褐色土ブロックを少量、土器・石器を多量に含む。他はほぼ3と同じ。
- 14 黒色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を少量含む。
- 15 黒褐色土 大形の茶褐色土ブロック・白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。
- 16 黒褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色小粒子を少量、白色小粒子を多く含む。
- 16' 黒褐色土 16よりやや暗い。白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、茶褐色土ブロックを少量含む。
- 17 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量、白色小粒子を少量、黄褐色小粒子を微量含む。しまり良い。
- 17' 暗褐色土 17よりやや暗い。白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 18 暗褐色土 黄褐色粘性土を多量、白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を少量含む。
- 18' 暗黄褐色粘性土 暗黄褐色土を少量含む。地山よりやや暗い。
- 19 暗褐色土 茶褐色土ブロックを極多量、白色小粒子をやや多く含む。(地山)
- 20 暗褐色土 白色小粒子を多量含む。(地山)
- 21 黄褐色粘性土 地山。
- ① 黒色土 焼土粒子・白色小粒子を多量、焼土ブロックを含む。やや焼けている。
- ② 淡赤褐色土 焼土粒子を極多量、焼土ブロックを多く、白色小粒子・炭化物粒子を多量含む。よく焼けている。
- ③ 淡赤褐色土 焼土粒子を多量、白色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。やや焼けている。
- ④ 黒褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色小粒子を少量、白色小粒子を多く含む。

### 120号住居跡

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 灰白色硬質ブロック・白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を少量含む。1より明るい。
- 3 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を多く含む。
- 4 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 灰白色硬質ブロック・茶褐色土ブロックを多く、白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 6 黒色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。

### 120号住居跡

#### 土坑1

- 1 黒褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。

#### 土坑2

- 1 黒褐色土 黄褐色粘性ローム粒子・白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子を多量、土器片を含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色粘性ロームブロック・粒子を多く、黄褐色小粒子を少量、総社砂層ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性ロームブロック・粒子を極多量含む。

#### 土坑3

- 1 黒色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子・総社砂層ブロックを少量含む。

#### 土坑4

- 1 黒色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子・総社砂層ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・焼土粒子を少量、ローム粒子をやや多く含む。明るく、赤味を帯びる。

#### ピット1

- 1 黒褐色土 黄褐色小粒子・総社砂層ブロックを少量、黒褐色土ブロックを含む。

#### ピット2

- 1 黒褐色土 白色小粒子・炭化物粒子・総社砂層ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロック・総社砂層ブロックを多く、黄褐色小粒子を少量含む。

#### ピット3

- 1 黒色土 黄褐色小粒子を少量、炭化物片を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘性土を多量に含む。

### 122号住居跡

- ピット1
- 1 黒褐色土 白色小粒子を多く、炭化物粒子を微量、総社砂層ブロックを多量に含む。

### 121号住居跡 (第47図)

- 1 暗褐色土 (耕作土) As-Bを含む。やや砂質。
- 2 黒色土 As-Cを多量に含む。
- 2' 暗褐色土 As-Cを多量に含む。(平安遺構の埋没土)
- 3 黒色土 As-Cを殆ど含まない。白色小粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 3' 黒褐色土 3に近いが3よりもやや茶色味が強く、やや明るい。
- 4 暗褐色土 茶褐色土ブロック・黄褐色小粒子・白色小粒子を少量、焼土粒子を僅かに含む。
- 5 暗褐色土 総社砂層ブロック・粒子を多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を微量、角礫を含む。4より茶色味が強く、明るい。
- 5' 暗褐色土 5とほぼ同じ。若干明るい。
- 6 暗褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色土ブロックを極多量含む。5より明るい。
- 7 暗褐色土 黄褐色小粒子を多量、白色小粒子を少量、黄灰色土・黄褐色粘性土ブロックを多く含む。5'よりやや黄色味が強い。
- 8 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・焼土粒子を少量、炭化物粒子を多く、土器片を含む。
- 9 暗黄褐色土 黄褐色粘性土を多量、炭化物粒子を少量含む。
- 10 黒褐色土 黄褐色粘性土ブロック・As-Cを少量、角礫を含む。(平安遺構の埋没土)

### 123号住居跡 (第48図)

- 1 暗褐色土 礫を極多量含む(埋め土)。
- 2 暗褐色土 As-C、As-Bを含む(耕作土)。耕作によりAs-Cを多量に含む。
- 3 黒色土 As-Cを多量に含む。

# 1. 縄文時代

## 123号住居跡

- 4 黒褐色土 As-Cを殆ど含まない。黄褐色小粒子・炭化物粒子をやや多く、白色小粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 白色小粒子・炭化物粒子を少量、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 6 暗褐色土 5より明るい。白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 白色小粒子・炭化物片及び粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、焼土粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 総社砂層小ブロック・白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 総社砂層ブロック・粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。2より明るい。
- 10 暗褐色土 茶褐色土小ブロック・炭化物粒子を少量、白色小粒子をやや多く、茶褐色小粒子を多く、土器片を含む。
- 11 暗褐色土 10よりやや明るい。φ 2cm程の礫、白色小粒子をやや多く、茶褐色小粒子を多く、炭化物粗粒子を含む。
- 12 暗褐色土 11よりやや明るい。茶褐色土溶混を多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 13 黒褐色土 白色小粒子を少量、茶褐色土溶混を含む。
- 14 明褐色土 総社砂層小ブロック・茶褐色土ブロックを多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 15 明褐色土 白色小粒子・炭化物片をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 16 明褐色土 大形の総社砂層ブロック、白色小粒子を少量含む。

## 124号住居跡 (第49図)

- 1 暗黄褐色土 ロームブロックを少量、暗褐色土を多く含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック・粒子を少量含む。1よりしまり弱い。
- 3 暗褐色土 2よりやや黄色味を帯びる。ローム小ブロック及び粒子を2よりやや多く含む。
- 4 黄褐色ローム層 暗褐色土溶混を含む。やや暗い。

## 125号住居跡 (第50図)

- 1 黒褐色土 茶褐色土ブロック・炭化物粒子を少量、白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く含む。しまり弱い。
- 2 黒褐色土 茶褐色土ブロックを1よりやや多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、焼土粒子を少量含む。全体に1よりやや明るい。
- 3 暗褐色土 茶褐色土ブロックを多量、白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロック・白色小粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。しまり非常に良い。
- 5 黒色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を微量含む。しまり悪い。
- 6 暗褐色土 茶褐色土ブロックを極多量含む。
- 7 黒色土 5よりやや明るい。白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。

## ピット1・2

- 1 暗褐色土 炭化物片を多く、焼土粒子少量、白色小粒子多量、総社砂層小ブロック・粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 1より明るい。総社砂層小ブロックを多く、黄褐色小粒子を微量含む。白色小粒子を殆ど含まない。

## ピット3

- 1 暗褐色土 炭化物片を多く、焼土粒子を少量、白色小粒子を多量、総社砂層小ブロック・粒子をやや多く含む。
- 1' 暗褐色土 1よりやや明るく、1よりややしまり悪い。
- 2 暗褐色土 1より明るい。総社砂層小ブロックを多く、黄褐色小粒子を微量含む。白色小粒子を殆ど含まない。
- 3 暗黄褐色土 暗褐色土を少量含む。

## ピット4

- 1 暗褐色土 白色小粒子を微量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量、焼土粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く含む。

## ピット5・6

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、炭化物片を多く、黄褐色小粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックをやや多く、白色小粒子を多く含む。

## ピット7

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・茶褐色土ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、総社砂層溶混を含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 総社砂層溶混を多量、黄褐色小粒子を多く含む。黄色味を帯びる。
- 4 黄褐色土 暗褐色土溶混を若干含む。
- 5 黄褐色土 しまり悪い。(根の攪乱)

## 126号住居跡 (第51図)

- 1 黒褐色土 茶褐色土ブロック・白色小粒子を少量、茶褐色土小粒子を微量含む。しまり悪い。
- 2 暗褐色土 茶褐色土ブロックを多量、白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量含む。しまり悪い。
- 2' 暗褐色土 2に近いが、2よりしまり悪い。
- 3 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。しまり良い。

## ピット1

- 1 暗褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子・黄灰褐色土小ブロックを少量含む。

## 127号住居跡 (第52図)

- 1 黒褐色土 黄褐色小粒子をやや多く、白色小粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土 1より明るい。黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 2より明るい。黄褐色小粒子をやや多く、総社砂層小ブロック・粒子を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 総社砂層小ブロック・粒子を多量含む。

## 320号土坑

- 1 茶褐色土 白色粒子を少量含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 白色粒子を少量含む。1より暗い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。

## 128号住居跡 (第53図)

- 1 明褐色土 総社砂層ブロック・白色小粒子を多く、小礫を多量に含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックをやや多く、白色小粒子・小礫を多く含む。
- 3 暗褐色土 2より暗い。
- 4 暗褐色土 総社砂層・小礫をやや多く、黒褐色土を少量含む。3より暗い。
- 5 総社砂層 暗褐色土を少量含む。

## 炉跡

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロック・小礫混じりの白色小粒子を多く含む。
- 2 明褐色土 やや砂質。総社砂層を多量含む。小礫が混じる。

## 土坑1

- 1 暗褐色土 黄褐色土をやや多く、総社砂層小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土・総社砂層小ブロック・白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 暗黄褐色土 暗褐色土ブロックを多く、黄褐色小粒子を微量含む。

## 土坑2

- 1 暗褐色土 小礫を多量、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 2 暗黄褐色土 暗褐色土を少量、黄褐色土を多量に含む混合土。

## II 検出された遺構と遺物

### 129号住居跡 (第54図)

- 1 黄褐色土 砂礫をやや多く含む。
- 2 暗黄褐色土 砂礫を多量に含む。
- 3 暗黄褐色土 2より黒味がやや強い。

### 130号住居跡 (第55図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 1・3より明るい。総社砂層小ブロック・粒子を多く、白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 総社砂層ブロック、黄褐色小粒子・白色小粒子をやや多く含む。
- 4 黒褐色土 総社砂層粗粒子・黄褐色小粒子を多く、白色小粒子をやや多く含む。
- 5 黒褐色土 総社砂層粗粒子をやや多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 3よりやや黄色味を帯びる。総社砂層粗粒子を多く含む。
- 7 暗黄褐色土 総社砂層に暗褐色土が若干混じる。

### 131号住居跡 (第56図)

- 1 黒褐色土・黄褐色土 白色・黄色粒を少し含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色土を少し、白色粒をやや多く含む。
- 3 黒褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色小粒子を少量、白色小粒子を多量に含む。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く、黄褐色小粒子・白色小粒子を多量に含む。

#### ピット 1

- 1 暗褐色土 総社砂層土粒をやや多く、白色小粒子を少量含む。

#### ピット 2

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。

#### ピット 3・4

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロック溶混を多く、白色小粒子を少量含む。

#### ピット 5

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・総社砂層ブロックを少量含む。ピット 2よりやや明るい。

#### ピット 6

- 1 明褐色土 白色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。軽石 ( $\phi$  2cm) を含む。ピット 1よりやや明るい。

### 132号住居跡 (第57図)

- I 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。
- II 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。
- 1 暗褐色土 総社砂層を多く、黄褐色小粒子・白色小粒子を多量に含む。

### 縄文時代土坑土層註

#### 87号土坑 (第59図)

- 1 黒褐色土 ほぼ均一の砂質土。
- 2 暗褐色土 ほぼ均一の砂質土。軽石粒が僅かに混じる。
- 3 暗褐色土 2にローム漸移層が30%混じる。
- 4 におい黄褐色土 ローム漸移層土。3が10%混じる。
- 5 暗褐色土 ローム土を混入し、As-C ( $\phi$  1~2mm) と橙色の鉱物粒を僅かに含む。
- 6 暗褐色土 5より細かく、As-Cを含まない。白い鉱物粒 ( $\phi$  1mm以下) を含む。

#### 88号土坑 (第59図)

- 1 暗褐色土 均一な砂質土。石に伴う掘り込みの土。
- 2 茶褐色土 ローム土が混じる砂質土。焼土粒子を僅かに含む。

#### 99号土坑 (第59図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・黄褐色ローム漸移層ブロックを少量含む。

#### 102号土坑 (第59図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多く、焼土粒子を少量含む。黄褐色ローム土が少量混じる。

#### 181号土坑 (第60図)

- 1 黒褐色土 ロームブロック、黄色土・As-C ( $\phi$  1~2mm大) を含む。しまり良く、粘性有り。

#### 121号土坑 (第60図)

- 1 漆黒色土 炭化物粒子を多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を極多量含む。

#### 182号土坑 (第60図)

- 1 黒褐色土 ローム粒子・As-C ( $\phi$  1~2mm大) を少量、褐色ロームブロック ( $\phi$  2~5mm大) を含む。しまり良く、粘性有り。

#### 445・446号土坑 (第61図)

- 1 褐色土 軽石 ( $\phi$  2mm以下) を10%含む。
- 2 褐色土 1よりやや軽石の混入が少ない。
- 3 褐色土 1と同質。ややしまり弱い。

#### 103号土坑 (第62図)

- 1 暗褐色土 茶褐色土ブロック・黄褐色小粒子を多く、白色小粒子を多量、炭化物をやや多く含む。しまり良い。
- 2 黒褐色土 1より暗い。茶褐色土ブロックを殆ど含まず、炭化物を多く含む。他は1とほぼ同じ。
- 3 明褐色土 2より明るい。ロームブロックを少量含む。他は1とほぼ同じ。
- 4 暗褐色土 3より暗く、白色小粒子・黄褐色小粒子は少ない。

#### 106号土坑 (第62図)

- 1 黒色土 黄褐色の軽石が混じる。しまりの弱い土。
- 2 暗褐色土とにおい黄褐色土が斑状に混じった土 軽石 ( $\phi$  5mm~3cm以下)、礫を含む。
- 3 褐色土 軽石 ( $\phi$  5mm~3cm)、礫を含み硬くしまった土。
- 4 褐色土 均質な砂質土。

#### 175号土坑 (第62図)

- 1 黒褐色土 総社砂層ブロック及び粒子・白色小粒子を少量、炭化物粒子・焼土粒子をやや多く、黄褐色小粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 茶褐色土ブロックを多量、白色小粒子・黄白色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子を多量、炭化物粒子・総社砂層小ブロックを多く、焼土粒子・黄白色小粒子を少量含む。2よりやや明るい。
- 4 暗褐色土 3より暗く、白色小粒子は3よりかなり少ない。炭化物粒子をやや多く、焼土粒子・黄白色小粒子を少量、黄白色粘性土ブロックを多く、安山岩の小礫を含む。
- 5 総社砂層ブロック
- 6 黄褐色粘性土 二次堆積土

1. 縄文時代

280号土坑 (第63図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄白色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 黒色土 白色小粒子・黄白色小粒子を多量、炭化物粒子・小礫を少量含む。
- 3 黒色土 総社砂層を多く含む。他は2と同じ。
- 4 黒色土 焼土粒子を少量、白色小粒子・炭化物を多量、小礫を含む。
- 5 黒色土 4よりやや明るい。黄褐色粘性土を若干含む。
- 6 暗黄褐色土 黄褐色粘性土に暗褐色土が混じる。しまり弱く、粘性有り。
- 7 暗褐色土 やや赤味を帯びる。黄褐色小粒子を多く、白色小粒子を少量含む。

319号土坑 (第63図)

- 1 暗褐色土 黄褐色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや暗い。
- 2' 暗褐色土 2よりやや暗い。ロームを少量含む。
- 3 茶褐色土 ロームが混じる。

374号土坑 (第63図)

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色小粒子を多量、白色小粒子を極多量、炭化物片を多く、焼土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 1より暗い。白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子・礫を多く、炭化物片・粒子を多量、焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 総社砂層・白色小粒子を少量、黄褐色小粒子を多量に含む。1より暗く、2より明るい。
- 4 暗褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子・総社砂層小ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色粘性土を多量に含む。
- 6 暗黄褐色土 黄褐色粘性土ブロックをやや多く、炭化物粒子を少量含む。しまり弱い。

375号土坑 (第63図)

- 1 明褐色土 黄褐色小粒子・白色小粒子・炭化物粒子を少量含む。総社砂層に粗粒子を僅かに含む。
- 2 茶褐色土 黄褐色粗粒子を僅かに、炭化物粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 茶褐色土を多量に含む。
- 4 明褐色土 総社砂層ブロックを含む。(焼けた小円礫が詰められている。)

84号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 軽石(φ 2mm以下)を10%含む暗褐色土と軽石を含まない茶褐色砂質土がブロック状に混じる。

89号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 白色小粒子を少量、ローム漸移層ブロックを多く含む。

90・91・92号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 白色小粒子を少量、ローム漸移層ブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色ブロックを含まない。しまっていて、やや粘り有り。
- 4 暗褐色土 均一な砂質土。黄褐色ブロックを含まない。
- 5 褐色土 におい黄褐色の地山に3が混じった土。

94号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ブロックを含まない。しまっていて、やや粘り有り。
- 3 暗褐色土・砂質土 混じりのないしまりの弱い土。

95号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。

96号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。

98号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色ロームブロックをやや多く含む。

100号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム漸移層ブロックを多く含む。

101号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム漸移層ブロックを多く含む。

104号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 1より暗い。白色・黄褐色小粒子を多く含む。
- 3 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 4 暗褐色土 2よりやや明るい。ロームブロックを含む。
- 5 暗黄褐色土 黄褐色小粒子・白色小粒子は殆ど含まない。比較的単一的。

105号土坑 (第64図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり弱い。
- 2 黒褐色土 ロームブロック・白色小粒子・黄褐色粒子をやや多く、炭化物片(φ 1~2cm)を含む。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロックを多量、炭化物粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 2よりやや明るく、ロームブロックが少ない。しまりも弱い。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック・白色小粒子・黄褐色小粒子を多量に含む。
- 6 暗黄褐色土 5より黄色味が強い。ロームブロックを極めて多量、白色小粒子・黄褐色小粒子を多く含む。
- 7 暗褐色土 5よりやや暗く、ロームブロックは少ない。
- 8 暗褐色土 ロームブロック・黄褐色小粒子を殆ど含まない。白色小粒子を少量含む。

108・137・138・139号土坑 (第64図)

- 1 におい黄褐色土 地山ローム土に暗褐色土混じり、ややくすんだ色の土。ローム粒、炭化物を僅か含む。
- 2 黄褐色土 地山ローム土をベースに小礫を僅かに含んだ土。炭化物を僅かに含む。
- 3 明黄褐色土 地山ローム土がややくすんだ色の土。
- 4 におい黄褐色土 白色粒子、黄褐色粒子、小礫を含む。
- 5 褐色土 ローム粒(φ 3mm)と炭化物(φ 1cm以下)を含む。
- 6 におい黄褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を僅かに含み、炭化物(φ 5mm)を含む。
- 7 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・礫(φ 5mm以下)を多く含む。
- 8 暗褐色土 明褐色ロームがブロック状に混じる。炭化物を含む。
- 9 明褐色土 地山土に暗褐色土が僅かに混じった土。

109号土坑 (第64図)

- 1 黒色土 明褐色土ブロック・黄褐色小粒子を多く、白色小粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 明褐色土ブロックを殆ど含まず、白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多く含む。しまり良い。
- 3 明褐色土 やや黄色味を帯びる。ロームブロック・粒子を多く含む。白色小粒子・黄褐色小粒子を殆ど含まない。しまり良い。
- 4 暗褐色土 明褐色土ブロック極めて多量、黄褐色小粒子多く、白色小粒子を少量、炭化物粒子をやや多く含む。
- 5 暗褐色土 2より明るい。他はほぼ2と同じ。
- 6 黒褐色土 1よりやや明るく、しまりやや弱い。明褐色土ブロックも1より少ない。

## II 検出された遺構と遺物

### 110号土坑 (第65図)

- 1 暗褐色土 白色粒子を多く、橙色粒子を少し、茶褐色土ブロックを僅かに含む。
- 2 暗褐色土 ローム状の明褐色土が多く、黄灰色 As-C を極少量含む。やや粘質。
- 3 暗褐色土 1 に似るがやや暗い。炭化物を少量、白色粒子・黄褐色粒子を含む。
- 4 暗褐色土 2 に似るが、さらにローム状の土を多く含む。
- 5 茶褐色土 ローム状の土を多く、炭化物を極少量含む。
- 6 暗褐色土 1 に似るが、やや明るい。

### 111号土坑 (第65図)

- 1 黒褐色土 白色粒子を少量、黄褐色粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 茶褐色土ブロックを混入し、炭化物を少量含む。
- 3 茶褐色土 茶褐色土ブロックを少量混入し、白色粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 白色粒子を多く、炭化物・総社砂層ブロックを少量含む。しまり良い。
- 5 暗褐色土 4 より柔らかく、白色粒子が少ない。
- 6 茶褐色土 3 より白色粒子は多く、ロームブロック ( $\phi$  5 mm) を僅かに含む。

### 112号土坑 (第65図)

- 1 暗褐色土 2 より暗い。白色小粒子・黄褐色小粒子・ローム小ブロックを少量、炭化物粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 1 より明るく、炭化物粒子は1より少ない。ローム小ブロック・粒子を多く含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 2 より明るい。大形ロームブロック ( $\phi$  3~5 cm)・ローム粒子を多量、炭化物粒子・黄褐色小粒子・白色小粒子を少量含む。しまり良い。
- 4 暗褐色土 3 よりやや暗い。炭化物粒子をやや多く、黄褐色小粒子・白色小粒子を極僅かに含む。しまり弱い。

### 113・114号土坑 (第65図)

- 1 黒色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量、炭化物粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多く、ロームブロック・粒子を僅かに、焼土粒子を少量含む。しまり良い。
- 3 黒褐色土 炭化物片及び粒子・白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック及び粒子・炭化物粒子を多量に含む。しまり良い。
- 5 暗茶褐色土 ロームブロック・粒子を少量、炭化物片をやや多く、茶褐色土ブロックを多量に含む。
- 6 暗褐色土 茶褐色土ブロックを5よりやや少なく含む。
- 7 暗褐色土 2 に近いが、2よりやや明るい。
- 8 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色粒子を少量含む。
- 9 褐色土 赤味がかかるロームブロックを多量に含む。
- ① 暗褐色土 2 よりやや茶色味が強い。白色小粒子・黄褐色小粒子は2より少なく、ロームブロック・焼土粒子を少量含む。しまり良い。
- ② 暗茶褐色土 ロームブロックをやや多く、炭化物粒子を多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。しまりは①より弱い。
- ③ 暗茶褐色土 ①より明るい。ロームブロックを少量含む。しまり弱い。
- ④ 暗褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
- ⑤ 暗褐色土 ④よりやや暗く、やや粘りがある。

### 116号土坑 (第65図)

- 1 黒褐色土 白色粒子・黄褐色粒子を少量、ロームブロック ( $\phi$  1 cm) を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 1 より明るく、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 ローム状で粘質。
- 4 黄灰色土 茶褐色土を含み、白色粒子を僅かに含む。

### 117号土坑 (第65図)

- 1 黒色土 白色粒、褐色粒を含む。
- 2 暗褐色土 白色粒、褐色粒を含む。
- 3 暗褐色土 2 よりやや多くの白色粒、褐色粒を含む。
- 4 褐色土 ローム層土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 3 に総社砂層ブロックを含む。
- 6 黄白色土 暗褐色土を含む。しまりのある砂質土。

### 118号土坑 (第65図)

- 1 黒色土 白色粒、褐色粒を含む。
- 2 暗褐色土 白色粒、褐色粒を含む。
- 3 暗褐色土 やや多くの白色粒、褐色粒を含み、総社砂層ブロックを含む。
- 4 黄白色土 暗褐色土を含む。しまりのある砂質土。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム層土ブロックを含む。

### 119号土坑 (第65図)

- 1 暗褐色土 やや多くの白色粒、褐色粒を含む。
- 2 暗褐色土 3 に総社砂層ブロックを含む。
- 3 褐色土 白色粒を含む。混じりのない砂質土。

### 120号土坑 (第65図)

- 1 黒褐色土 ローム粒子をやや多く、白色小粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを多量に、白色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 茶褐色土を多く、白色小粒子を少量含む。

### 115・299号土坑 (第66図)

- 1 黒褐色土 白色粒子を少量、黄褐色粒子・炭化物を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック、炭化物粒を極僅かに含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く含む。
- 4 黄白色土 総社砂層ブロック。
- 5 黄褐色土 ローム状の土で柔らかく粘質。
- 6 茶褐色土 やや粘質で柔らかい黄褐色土ブロックを少し含む。
- 7 暗褐色土 白色粒子を僅かに含む。黄褐色土のローム状ブロックが僅かに混入する。

### 299号土坑 (第66図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多く、黄褐色ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗黄褐色粘性土 暗褐色土ブロックを多く含む。
- 3 明褐色土 黄褐色粘性土を極多量、総社砂層ブロック、土器片を含む。
- 4 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。黄褐色粘性土溶混を多く、白色小粒子を微量含む。
- 5 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量、黒色土ブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 ほぼ1と同じ。1より白色小粒子が若干少なく、全体に暗い。

### 334・335・336号土坑 (第66図)

- 1 淡黒褐色土 白色小粒子、総社砂層ブロックを少量含む。
- 2 淡黒褐色土 総社砂層ブロックを含む。
- 3 黄褐色土 淡黒褐色土を含む。
- 4 淡黒褐色土 黄褐色粘性土を含む。
- 5 黒褐色土 白色小粒子をやや多く含む。
- 6 黒褐色土 黄褐色粘性土を少量含む。
- 7 黄褐色土 暗褐色土を少量含む。

# 1. 縄文時代

## 341号土坑 (第66図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、黄褐色ロームブロック・粒子を少量、炭化物粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい。黄褐色小粒子を多く、白色小粒子・黄褐色粘性土・総社砂層ローム粒子及び小ブロック・炭化物粒子を少量含む。
- 3 明褐色土 黄褐色粘性土を極多量、総社砂層ブロック・黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 4 暗黄褐色土 総社砂層ブロック・炭化物粒子を少量含む。
- 5 暗黄褐色土 黄褐色粘性土を多量、暗褐色土・炭化物片及び粒子を少量含む。4よりやや暗い。
- 6 黒褐色土 黄褐色粘性土を少量含む。
- 7 明褐色土 総社砂層ブロックを極多量含む。
- 8 明褐色土 7より暗く、2より明るい。総社砂層ブロック・粒子を多く含む。

## 413号土坑 (第66図)

- 1 明褐色土 総社砂層ブロック・炭化物粒子を多量、白色小粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 2 明褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色粘性土粒子を多量、炭化物片・粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 黒色土・黄褐色粘性土を多く含む。
- 4 暗黄褐色土 暗褐色土を含み、炭化物粒子を少量含む。
- 5 明褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。

## 124号土坑 (第66図)

- 1 暗褐色土 白色粒子・黄褐色粒子を僅かに含む。しまり良くない。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック(φ 5mm~20mm)、白色粒子・黄褐色粒子を多く含む。
- 3 茶褐色土 黄褐色ローム土を多く、総社砂層ブロックを少量含む。しまり良い。

## 125号土坑 (第66図)

- 1 黒褐色土 ロームブロック溶混を少量、黄褐色小粒子・白色小粒子をやや多く含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック溶混を殆ど含まない。小礫を少量含む。他は1とほぼ同じ。
- 3 明褐色土 ロームブロック溶混を極多量、白色小粒子を多量、小礫・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 2よりやや茶色味が強い。白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量、礫(φ 5cm)を含む。
- 5 暗褐色土 4より黒味が強い。白色小粒子・黄褐色小粒子を少量、礫、土器片を含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色粘性土ロームブロックを多く含む。

## 126号土坑 (第66図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を全体に多く、ローム土を斑状に含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子を少量含む。
- 4 灰褐色土 砂質土。しまりのある土(地山)
- 5 褐色土 砂質土。白色粒を僅かに含む。

## 135号土坑 (第66図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子、ロームブロック(φ 1cm以下)を多く含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子、ロームブロック、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子、ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を少量含む。やや細かい砂質土。
- 5 暗褐色土 白色小粒子を少量含む。細かい砂質土。
- 6 褐色土 砂質土。

## 128号土坑 (第66図)

- 1 明褐色土 全体にやや黄色味を帯びる。白色小粒子を多量、黄褐色粒子・総社砂層ブロックをやや多く、炭化物粒子を少量含む。やや砂質。
- 2 明褐色土 1より明るい。総社砂層ブロック・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多量に含む。白色小粒子は1より少ない。
- 3 明褐色土 全体に2より茶色味(赤味)が強い。ロームブロック・粒子を多く含む。黄褐色小粒子、炭化物粒子はほぼ同じ。白色小粒子は2よりやや少ない。
- 4 明褐色土 大形黄褐色ロームブロック(φ 5cm)を多く含む。白色小粒子、黄褐色小粒子、炭化物粒子は3より少ない。
- 5 暗褐色土 全体で一番黒味が強い。大形黄褐色ロームブロックを多く含む。
- 6 明褐色土 1より明るい。白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を多く含む。
- 7 明褐色土 総社砂層ブロックを多く含む。他は6とほぼ同じ。

## 129号土坑 (第66図)

- 1 明褐色土 全体にやや黄色味を帯びる。白色小粒子を多量、黄褐色粒子・総社砂層ブロックをやや多く、炭化物粒子を少量含む。やや砂質。
- 2 明褐色土 1より明るい。総社砂層ブロック・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多量に含む。白色小粒子は1より少ない。
- 3 暗褐色土 1・4よりややしまり弱い。ロームブロックは含まない。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量、白色小粒子を多量に含む。
- 5 明褐色土 総社砂層ブロック・白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。

## 130号土坑 (第66図)

- 1 暗褐色土 黄褐色ロームブロック、総社砂層ブロック・白色小粒子・小礫を多量に含む。しまり良い。

## 131号土坑 (第67図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒を多く、総社砂層ブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色粘性土ブロックを少量、炭化物粒を多く含む。
- 4 暗褐色土 白色小粒子を多量、総社砂層をやや多く含む。
- 5 暗黄灰褐色土 総社砂層を多く含む。

## 132号土坑 (第67図)

- 1 暗褐色土 白色・黄褐色粒子(φ 3mm以下)・総社砂層ブロックを多く含む。132号土坑に対しての表土。
- 2 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子、炭化物を全体に多く含む。132号土坑の本体の層。

## 133号土坑 (第67図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を多く含む。均一な砂質土。
- 2 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を1よりやや少なく含む。
- 3 暗褐色土 暗褐色土に総社砂層が混じった土。

## 134号土坑 (第67図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を多く含む。133号土坑の1に似る。

## 140号土坑 (第67図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 ローム土を斑状に多く含む。
- 4 暗褐色土 白色小粒子極少量、総社砂層ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 総社砂層ブロックを10%含む、炭化物を少量含む。

## II 検出された遺構と遺物

### 141・159号土坑 (第67図)

- 1 暗褐色土 全体に粒子の細かい砂質土。白色小粒子を少量、黄褐色小粒子・炭化物を極少量含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層を含み、全体に白っぽい白色小粒子、黄褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 2と同様にやや白っぽい。
- 4 暗褐色土 橙黄褐色土ブロックが斑状に混じる。
- 5 灰褐色土 総社砂層を主体とする。

### 142号土坑 (第67図)

- 1 黒褐色土 白色粒子を多く、黄褐色粒子を少量含む。しまり良い。

### 143号土坑 (第67図)

- 1 暗褐色土 白色粒子を少量、黄褐色粒子を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 白色粒子を多く、ロームブロック ( $\phi$  5mm) を僅かに含む。しまり良い。

### 144号土坑 (第67図)

- 1 黒褐色土 白色粒子を非常に多く、炭化物粒と黄褐色粒子を僅かに含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 礫 ( $\phi$  1cm以下) を少量、炭化物を僅かに含む。

### 145・146号土坑 (第67図)

- 1 茶褐色土 白色粒子を少量、総社砂層ブロックを含む。
- 2 茶褐色土 総社砂層ブロックが全面に混入する。
- 3 茶褐色土 総社砂層ブロックが殆どなく、黄褐色土を混入する。

### 147号土坑 (第67図)

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 2 茶褐色土 白色粒子を少量、黄褐色土ブロックを僅かに含む。
- 3 黄褐色土 汚れたローム土。白色粒子を少量含む。
- 4 茶褐色土 黄褐色土が斑状に含む。白色粒子を僅かに含む。
- 5 黄褐色土 3よりはやや細かい。白色粒子を少量含む。

### 148号土坑 (第67図)

- 1 茶褐色土 総社砂層ブロックを少し含む。黄褐色土が斑状に混入する。
- 2 暗褐色土 黄褐色 As-C を僅かに、白色粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 ローム状で白色粒子を極僅かに含む。
- 4 茶褐色土 総社砂層ブロック・白色粒子を僅かに含む。
- 5 暗褐色土 白色粒子を多く、黄褐色 As-C を僅かに含む。ザラつく。
- 6 暗黄褐色土 3に類似するが、暗褐色土を含みやや暗い。

### 149号土坑 (第67図)

- 1 茶褐色土 白色小粒子を少量、黄褐色 As-C を僅かに含む。明褐色土が斑状に混入する。しまり弱い。
- 2 茶褐色土 1よりやや暗い。黄褐色 As-C が1より多い。
- 3 黄褐色土 ローム土を多く、白色粒子を僅かに含む。

### 151号土坑 (第67図)

- 1 黒褐色土 白色粒子を多く、黄褐色粒子を少量含む。しまり良い。

### 150号土坑 (第68図)

- 1 明褐色土 黄褐色 As-C と白色粒子を少量、黄褐色土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 黄褐色 As-C を少量含む。ローム状。
- 3 黄褐色土 2より明るく、内容物は少ない。2よりきれいなローム状。

### 152号土坑 (第68図)

- 1 明褐色土 白色粒子を多く、黄褐色粒子を少量含む。黄褐色土を斑状に少量含む。
- 2 茶褐色土 ローム土、白色粒子少量を含む。
- 3 暗黄褐色土 暗褐色土ブロック・白色粒子を少量、黄褐色土を多量に含む。

### 153号土坑 (第68図)

- 1 明褐色土 白色粒子を多く、黄褐色粒子・黄褐色土を斑状に少量含む。
- 2 明褐色土 1より暗く、白色粒子・黄褐色粒子を少量含む。
- 3 茶褐色土 白色粒子を少なく、黄褐色土を少量混入する。
- 4 茶褐色土 3より黄褐色土多く、ロームブロックを少量含む。

### 154・155号土坑 (第68図)

- 1 茶褐色土 灰色砂質土ブロック、白色粒子を少量含む。しまり良い。
- 2 茶褐色土 白色粒子が1より多く、ブロックは少ない。
- 3 茶褐色土 総社砂層ブロックを多く含む。
- 4 茶褐色土 白色粒子を多く、黄褐色土を斑状に含む。しまり良い。
- 5 暗褐色土 白色粒子を多く、黄褐色土を殆ど含まない。しまり良い。

### 157号土坑 (第68図)

- 1 茶褐色土 総社砂層ブロック、小礫 ( $\phi$  1~2mm) を少量含む。しまり良い。
- 2 茶褐色土 ローム土を多く、黄褐色粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 ローム土を多量、総社砂層ブロックを多く含む。

### 156号土坑 (第68図)

- 1 暗褐色土 白色粒子を多く、茶褐色土を斑状に含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 1に似るが、白色粒子を殆ど含まない。

### 158号土坑 (第68図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 褐色土 黄褐色・淡黄褐色のロームブロック、小粒子 ( $\phi$  3mm) を多く含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 炭化物、白色小粒子、黄褐色小粒子を僅かに含む。
- 5 黒褐色土 やや粘りのある砂質土。黄褐色粒子を僅かに含む。

### 160号土坑 (第68図)

- 1 褐色土 白色小粒子、黄褐色粒子、ロームブロック ( $\phi$  2cm以下) を多く含む。

### 163号土坑 (第68図)

- 1 黒褐色土 白色粒子を多く、橙色粒子・炭化物粒を少量含む。しまり良い。
- 2 茶褐色土 白色粒子を僅かに含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 1よりやや明るい。白色小粒子を少量、黄褐色 As-C・炭化物を僅かに含む。
- 4 地山
- 5 茶褐色土 3と6が混じり合う。
- 6 黄褐色土 ローム土に暗褐色土を少量含む。地山?
- 7 茶褐色土 内容は1と同じ。

### 164号土坑 (第68図)

- 1 暗褐色土 白色粒子を少量含む。茶褐色土が斑状に混入する。
- 2 茶褐色土 白色粒子を僅かに含む。地山?

### 165号土坑 (第68図)

- 1 黒褐色土 白色粒子を多く、橙色粒子・炭化物粒を僅かに含む。しまり良い。
- 2 茶褐色土 白色粒子と橙色粒子を僅かに含む。
- 3 茶褐色土 1と黄褐色ローム土が混じる。

### 166号土坑 (第68図)

- 1 茶褐色土 明褐色土が斑状に混入し、総社砂層ブロックが少量含む。
- 2 茶褐色土 1より暗く、やや粘質。
- 3 暗褐色土 白色粒子を少量含む。しまり良い。

### 167号土坑 (第68図)

- 1 茶褐色土 白色粒子を少量、明褐色土を斑状に含む。
- 2 茶褐色土 1に似るが、白色粒子が1より少ない。

## 1. 縄文時代

### 168号土坑 (第68図)

- 1 暗褐色土 白色粒子を少量、明褐色土ブロック・炭化物を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 1に似るが、明褐色土ブロックがやや多い。
- 3 茶褐色土 明褐色土ブロックが多く、白色粒子を僅かに含む。
- 4 茶褐色土 3に似るが、やや細かい。炭化物を僅かに含む。
- 5 茶褐色土 3に似るが、明褐色土の割合が多い。
- 6 茶褐色土 3より明るく、白色粒子は少ない。

### 169号土坑 (第68図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色粒子を多く、炭化物粒子を少量、茶褐色土ブロックを含む。しまり良い。
- 2 黒褐色土 1よりやや明るい。総社砂層ブロックを少量含む。混入物は1とほぼ同じ。
- 3 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。

### 170号土坑 (第68図)

- 1 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量、焼土粒子を微量、炭化物粒子・白色小粒子を少量、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 2 茶褐色土 黄褐色粘性土ブロックを極多量、黄褐色小粒子を少量、礫を含む。

### 274号土坑 (第68図)

- 1 黒褐色土 黒色土ブロックを多く、ロームブロック・黄褐色小粒子・白色小粒子を多量、炭化物粒子をやや多く含む。しまり良い。
- 2 明褐色土 やや灰色がかかる。白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり良い。

### 185号土坑 (第69図)

- 1 黒色土 白色小粒子を多く、焼土粒子を微量、総社砂層粒子・小ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 茶褐色土ブロックを多く、白色小粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 茶褐色土ブロックを多量、総社砂層ブロック・白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 4 明褐色土 総社砂層ブロックを多量、白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり良い。

### 187号土坑 (第69図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・茶褐色土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色粗粒子を少量、茶褐色土ブロックを多く含む。
- 5 黄褐色土 暗褐色土を若干含む。

### 188号土坑 (第69図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、茶褐色土小ブロックを多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい。黄褐色小粒子を多く、白色小粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 2より明るい。黄褐色小粒子・白色小粒子を僅かに含む。
- 4 暗黄褐色土 白色小粒子を僅かに、黄褐色ローム小ブロックを少量含む。

### 189号土坑 (第69図)

- 1 黒褐色土 ロームブロック・粒子をやや多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を極多量含む。
- 2 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。ロームブロックを多く含む。
- 3 明褐色土 やや黄色味を帯びる。白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色ロームブロックを多く含む。

### 190号土坑 (第69図)

- 1 黒色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。しまり良い。
- 2 黒褐色土 茶褐色土ブロックを多く、黄褐色粗粒子を少量含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。しまり良い。

### 191・192号土坑 (第69図)

- 1 明褐色土 黄褐色ロームブロックを多量、白色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 1より暗い。ロームブロックを多く、白色小粒子・炭化物粒子を多量、焼土粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック・粒子を多量、炭化物粒子を多く、白色小粒子を少量含む。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロックを多量、白色小粒子を少量含む。

### 193号土坑 (第69図)

- 1 黒褐色土 炭化物粒子・白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量、漸移層(茶褐色土ブロック)を多く含む。
- 2 黒褐色土 1よりやや黒い。茶褐色土ブロック・炭化物粒子をやや多く、白色小粒子を少量含む。
- 3 暗黄褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量、礫を含む。

### 194号土坑 (第69図)

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック・粒子を多く、炭化物片・黄褐色小粒子・白色小粒子を少量含む。

### 195・196号土坑 (第69図)

- 1 暗褐色土 小礫・ローム粒子を多く含む。しまり悪い。
- 2 暗褐色土 1より明るい。ロームブロック及び粒子・小礫を多く含む。しまり良い。
- 3 暗黄褐色土 小礫を含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 ロームブロック、炭化物片・粒子を多く、白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 5 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。茶褐色ブロック・粒子を多量、炭化物粒子を多く、焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒子を多量、小礫を多く含む。ロームブロックは含まない。4より明るい。
- 7 暗褐色土 5・6より明るい。ロームブロック・粒子を多く含む。

### 197号土坑 (第69図)

- 1 暗黄褐色土 小礫を多く、炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。しまり悪い。
- 2 暗褐色土 礫・ローム小ブロック及び粒子を多く、炭化物粒子をやや多く含む。
- 3 暗黄褐色土 小礫を少量含む。他はほぼ単一的。
- 4 暗黄褐色土 3より明るい。小礫を多く含む。ほぼソフトロームに近い。

### 198号土坑 (第69図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、焼土粒子・炭化物粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック及び粒子・白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、焼土粒子をやや多く含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色小粒子を多く、白色小粒子を多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを少量、炭化物粒子・黄褐色小粒子を僅かに含む。
- 5 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 6 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く、焼土粒子・炭化物粒子を少量、茶褐色土ブロックを多く含む。他は5とほぼ同じ。

## II 検出された遺構と遺物

### 199号土坑 (第69図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を多く含む。しまり良い。
- 2 黒褐色土 茶褐色土ブロック・炭化物粒子を多く、黄褐色粒子を少量含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 1に近いが、茶褐色土ブロックをやや多く含む。しまり良い。
- 5 明褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 4に近いが、4よりやや暗い。炭化物片(φ 2~3 mm)を含む。

### 200・201号土坑 (第70図)

- 1 暗褐色土 黄褐色小粒子を少量、焼土粒子を僅かに含む。
- 2 明褐色土 黄褐色粒子を多く、炭化物粒子・白色小粒子を少量含む。
- 3 明褐色土 黄褐色粒子を多量、白色小粒子を少量含む。
- 4 明褐色土 ロームブロック・炭化物片を少量、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 5 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、焼土粒子・茶褐色土ブロック溶混を少量含む。1より黒い。
- 6 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く、茶褐色土ブロックを多く含む。5より明るい。

### 202・203号土坑 (第70図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く、白色小粒子を少量含む。
- ① 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を多量、総社砂層ブロック(φ 1~3 cm)を少量含む。
- ② 黒褐色土 ①よりやや黒味が強い。白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く、総社砂層ブロック(φ 1cm以下)・粒子を少量含む。
- ③ 暗褐色土 ②より明るい。白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・ローム粒子を少量含む。
- ④ 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。
- ⑤ 暗褐色土 ほぼ③と同じだが、黄褐色小粒子は若干多い。

### 204・205号土坑 (第70図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子・焼土粒子・総社砂層ブロック(φ 1~3 cm)を少量含む。
- 2 暗褐色土 1に近いが1より明るく、総社砂層ブロック(φ 1cm前後)・粒子を多量に含む。
- ① 暗褐色土 総社砂層ブロック(φ 1~3 cm)・粒子を多量、白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を多く、焼土粒子を少量含む。
- ② 黒褐色土 ①より黒味が強い。ローム粒子・炭化物粒子を多量、ローム小ブロック(φ 1cm以下)・黄褐色小粒子を少量、白色小粒子を多く含む。

### 206号土坑 (第70図)

- 1 暗褐色土 As-B軽石を含む。耕作土。
- 2 黒色土 As-Cを多量に含む。
- 3 黒色土 黄褐色ブロックを少量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を多量、白色小粒子をやや多く含む。
- 4 暗褐色土 茶褐色土ブロック・白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、土器片を含む。
- 5 黒色土 黄褐色小粒子・白色小粒子を極多量、炭化物粒子・土器片を多く含む。
- 6 黒色土 5より若干明るい。他は5とほぼ同じ。
- 7 暗褐色土 6より黄色味強く、やや黄褐色小粒子を多く含む。
- 8 明褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子・総社砂層を多量、小礫(φ 5mm)をやや多く含む。

### 207号土坑 (第70図)

- 1 明褐色土 総社砂層ブロック及び粒子・黄褐色小粒子を少量、白色小粒子を多量に含む。
- 2 明褐色土 総社砂層ブロックを極多量含む。

### 208号土坑 (第70図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。2よりやや暗い。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい。他は1とほぼ同じ。
- 3 明褐色土 総社砂層ブロック・白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量含む。

### 209・210号土坑 (第70図)

- 1 明褐色土 全体に黄色味を帯びる。ロームブロック・漸移層ブロックを多量、白色小粒子・黄褐色粒子をやや多く含む。
- 2 黒褐色土 白色小粒子・ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 1より暗い。白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子・ローム粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 白色小粒子をやや多く、ローム小ブロック溶混を多く含む。

### 211号土坑 (第70図)

- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子・白色粒子(φ 1mm以下)を少量含む。

### 212号土坑 (第70図)

- 1 黒褐色土 ロームブロック・粒子を少量含む。

### 213号土坑 (第70図)

- 1 暗褐色土 ローム漸移層ブロックを多く含み、ローム粒子は少ない。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 1に似る。1よりローム漸移層ブロックが多い。
- 4 暗褐色土 1・3よりローム漸移層ブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 ローム漸移層と暗褐色土との混土。下層ほど粒子は細かい。

### 214号土坑 (第70図)

- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム漸移層ブロック・ローム粒子を多く含む。

### 215号土坑 (第70図)

- 1 暗褐色土 ローム漸移層ブロック・ローム粒子を多く含む。
- 2 黄褐色土 ロームの地山。白色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 1よりローム漸移層ブロックが多い。

### 216号土坑 (第70図)

- 1 暗黄褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物を多く、小礫(φ 2cm以下)、ロームブロックを含む。

### 217号土坑 (第71図)

- 1 黒褐色土 黄褐色ロームブロックを多く、ローム粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色ロームブロックを多く、ローム粒子(1より細かい)少量、白色粒子を含む。
- 3 黒褐色土 2よりロームブロックは少ない。ローム粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを含むが、はっきりしない。
- 5 黒褐色土 4とほぼ同じ。4よりロームブロックを多く含む。
- 6 黒褐色土 ロームと黒褐色土との混土。ローム粒子を少し含む。しまり悪く、粘性少し有り。
- 7 黒褐色土 6とほぼ同じ。6よりローム粒子を多く含む。しまり良く、粘性有り。

### 218・219・220号土坑 (第71図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く、焼土粒子・炭化物を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや暗い。1より白色粒子をやや多く、炭化物を多く含む。
- 3 暗褐色土 1より大粒の白色・黄褐色粒子を含む。光沢のある黒褐色土ブロックを多く含む。

## 221・222号土坑 (第71図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を少量、焼土粒・炭化物を極少量含む。
- 3 茶褐色土 やや大粒の白色・黄褐色粒子を含む。光沢のある暗褐色土ブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土 しまりのあるローム土。

## 226号土坑 (第71図)

- 1 黒褐色土 ロームブロック・オレンジの粒子を少量、ローム漸移層ブロック・ローム粒子・白色粒子多く含む。

## 378号土坑 (第71図)

- 1 黒色土 茶褐色土ブロック・白色小粒子を少量含む。黄褐色粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 茶褐色土ブロック・白色小粒子を多量、茶褐色小粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 2より黒味強い。白色小粒子・茶褐色土ブロックを多く、黄褐色小粒子・炭化物粒をやや多く含む。
- 4 暗褐色土 3より明るい。茶褐色土ブロック・黄褐色土ロームブロックを多く含む。

## 227号土坑 (第71図)

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く、黄褐色・オレンジのローム粒子を少量、白色小粒子を多く含む。しまり良く、粘性少し有り。
- 2 褐色土 黒褐色土とロームとの混土。ロームブロック・ローム粒子を多く、白色小粒子を少し含む。ロームブロックがはっきりしない。
- 3 褐色土 黒褐色土とロームとの混土。ロームブロックがはっきりしない。

## 228号土坑 (第71図)

- 1 黒褐色土 ロームブロック・白色小粒子を多く、黄褐色・オレンジのローム粒子を多く含む。しまり良い。
- 2 黒褐色土 1よりやや暗く、しまり弱い。
- 3 黒褐色土 1に似る。1よりロームブロックが少ない。
- 4 褐色土 ロームブロックを多量に含む。

## 229号土坑 (第71図)

- 1 黒褐色土 ロームブロックを極少量、ローム粒子・白色小粒子を多く含む。しまり良い。
- 2 黒褐色土 1に似るが、1よりロームブロックが多く、ローム粒子は少ない。しまり良い。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多く、上層にローム粒子を極少量含む。しまり良い。

## 232号土坑 (第71図)

- 1 黒褐色土 上層に黒褐色土ブロック(粒子細かいφ5~15mm大)を多く含む。下層はローム土との混土。しまり良く、粘性少し有り。

## 235号土坑 (第71図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子多く、焼土粒子やや多い。全体に均質。

## 237号土坑 (第71図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子、黄褐色小粒子、炭化物粒、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子、焼土粒、炭化物粒、ローム粒を含む。

## 238号土坑 (第71図)

- 1 明黄褐色土 ロームの再堆層。黄褐色のやや大きな粒子、小礫を含む。
- 2 暗黄褐色土 1よりくすんだ色。礫(φ4cm以下)と黄褐色のやや大きな粒子を含む。

## 240号土坑 (第71図)

- 1 暗褐色土 白色・黄褐色小粒子と炭化物を全体に多く、焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土 白色・黄褐色小粒子、炭化物を少量含む。
- 3 茶褐色土 ローム土が斑状に混じる。
- 4 にぶい黄褐色土 やや大きなローム粒を含む。

## 241号土坑 (第71図)

- 1 茶褐色土 白色小粒子を全体に均一に含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物、ロームブロック、やや粘りのある黒色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 白色小粒子を少量含む。
- 4 茶褐色土 白色小粒子を少量、大形礫を多く含む。

## 243・244号土坑 (第71図)

- 1 暗褐色土 ローム粒子を均等に多く、ロームブロックを下層に多く含む。しまりあまり良くない。粘性少し有り。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を均等に少し、白色小粒子を少量含む。殆どロームブロックの混じりは無い。しまり良い。
- 3 褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・白色小粒子を均等に少し含む。しまり良い。
- 4 暗褐色土 2にロームブロックが少し混じったもの。土質も2に近い。

## 245号土坑 (第71図)

- 1 黒褐色土 ロームブロックを少し、ローム粒子・白色小粒子を極少し含む。微細粒子質土。
- 2 褐灰色土 ローム再堆積土。
- 3 褐色土 ローム層(オレンジに近い色)と1との混土。しまりやや良い。微細粒子質土。

## 246号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。微細粒子質土。しまりやや良い。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。微細粒子質土。しまり良い。

## 247号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 上層にローム粒子・白色小粒子、下層にロームブロックを多く含む。しまりやや良い。
- 2 黒褐色土 1に近いが、1よりロームブロックがやや多い。しまり良い。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量、炭化物粒子を少量含む。

## 248号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。

## 249号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・白色小粒子を少し含む。しまり良い。
- 2 褐色土 殆どローム土の混土とブロック。しまりやや悪い。

## 250・251号土坑 (第72図)

- 1 暗褐色土 ロームブロックを均一に多く含む。上層により多くのローム粒子・白色小粒子を含む。しまり良い。
- 2 褐色土 1にさらに多くのブロックが混じった土。1よりしまり良くない。

## 252号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 下層により多くのロームブロックを含む。均一にローム粒子・白色小粒子を多く含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを極少量、ローム粒子・白色小粒子を均等に少し含む。しまりやや良い。

## 253号土坑 (第72図)

- 1 暗褐色土 ロームブロック溶混、ローム粒子・白色小粒子を含む。
- 2 褐色土 1よりロームブロックが多く、ローム粒子・白色小粒子を少し含む。

## 254号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 上層にローム粒子を少し、下層にロームブロックを少し含む。
- 2 褐色土 下層ほどロームブロックが多く、上層にローム粒子・白色小粒子を少し含む。

## II 検出された遺構と遺物

### 255・256号土坑 (第72図)

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・白色小粒子を少し含む。
- 2 褐色土 ローム層との混土。ロームブロックを少し、黒色土ブロックを極少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒子・白色小粒子を均一に多く含む。下層にロームブロックを少し含む。しまり良い。
- 4 褐色土 ロームブロック・粒子を多く含む。しまりやや良い。

### 257・258号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・白色小粒子を少し含む。しまり良い。
- 2 褐色土 ロームブロック溶混を均一に多く、ローム粒子・白色小粒子を極少量含む。しまりやや良い。

### 260号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 ロームブロック粒子、白色小粒子を全体に均一に含む。しまり良い。
- 2 褐色土 ロームブロックを少し含む。
- 3 黒褐色土 1よりロームブロックを多く、ローム粒子を極少量含む。しまりやや良い。

### 261号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 暗褐色ロームブロックを全体に均一に含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックは1より少ないが、ローム粒子(オレンジ色)を多く含む。

### 262号土坑 (第72図)

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く、上層に白色小粒子を少し含む。
- 2 黒褐色土 1よりロームブロックは少ない。
- 3 褐色土 上層は黒褐色土(1と同じ)、下層ほどロームが多い。

### 263号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 小さなロームブロックを多く、ほんの少し白色小粒子を含む。
- 2 褐色土 1よりロームブロックが多い。
- 3 褐色土 1よりロームブロックが多く、ローム粒子を少し含む。
- 4 褐色土 3に近い。3よりロームブロックが少なく、白色小粒子を少し含む。

### 264号土坑 (第72図)

- 1 暗褐色土 茶褐色土ブロックを多量、炭化物粒子を多く、白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子をやや多く、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロック・黄褐色小粒子を多く、白色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗黄褐色土 暗褐色土を含み、ほぼ黄褐色粘性土。白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。

### 265・266号土坑 (第72図)

- 1 暗褐色土 茶褐色土ブロックを多量、炭化物粒子を多く、白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子をやや多く、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を多量、焼土粒子を少量含む。しまり良い。
- 3 暗黄褐色土 暗褐色土に黄褐色粘性土が混じる。しまり弱い。
- ① 明褐色土 1に類似するが、1より明るい。
- ② 明褐色土 2より明るい。白色小粒子・黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。
- ③ 明褐色土 3より明るい。白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。

### 267号土坑 (第72図)

- 1 黒褐色土 炭化物粒子・白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 白色小粒子を多く、炭化物粒子を多量、総社砂層粒子を少量含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性土を多量、炭化物粒子を少量含む。白色小粒子・黄褐色小粒子は殆ど含まない。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロック、茶褐色土ブロックを多く含む。他は1とほぼ同じ。

### 268号土坑 (第72図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量、炭化物粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層粒子・白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を多量に含む。
- 3 黒褐色土 白色小粒子・総社砂層小ブロックをやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 4 暗黄褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。

### 269号土坑 (第72図)

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロック・粒子を極多量、黄褐色小粒子をやや多く、白色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック及び粒子・黄褐色小粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 3 黒色土 総社砂層ブロック・暗褐色土ブロックを若干含む。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロック・粒子を極多量含む。1より黄色味を帯びる。

### 270号土坑 (第73図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 1より明るい。総社砂層ブロックを多く含む。白色小粒子、黄褐色小粒子を1より少なく含む。

### 271号土坑 (第73図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・総社砂層粒子を多量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック溶混を多く、炭化物粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 暗黄褐色土 総社砂層ブロックを極多量、暗褐色土が混じる。しまり良い。

### 272号土坑 (第73図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を少量、黒色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 1より明るい。総社砂層ブロックを多く、白色小粒子を少量含む。
- 3 暗黄褐色土 総社砂層ブロックを多量、白色小粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 4 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を少量含む。1より黒味が強い。

### 273号土坑 (第73図)

- 1 黒褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を少量、ローム粒子をやや多く含む。
- 2 黒褐色土 全体に黄色味を帯びる。ロームブロック・粒子を多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 1よりやや明るい。ローム粒子を多量、ロームブロック溶混を多く、炭化物粒子をやや多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 4 明褐色土 やや黄色味を帯びる。ローム粒子・ロームブロック溶混・黄褐色小粒子を少量含む。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック溶混を極多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。

## 1. 縄文時代

### 275号土坑 (第73図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子多量、ローム小ブロック・炭化物粒子少量、ローム粒子・黄褐色小粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 2とほぼ同じだが、若干明るい。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多量、黄褐色粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 2よりやや明るい。白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 6 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く、白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多量、総社砂層ブロックを少量含む。
- 7 茶褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量、総社砂層ブロック・粒子を多く含む。
- 8 黄褐色土 ほぼ黄褐色粘性土再堆積土。茶褐色土若干含む。
- 9 黄褐色粘性土
- 10 黒色粘性土 白色軽石を含む。
- 11 黒褐色土 黒色土に黄褐色粘性土が混じる。
- 12 明褐色土 7に近いが、7より明るい。
- 13 暗褐色土 やや灰色がかかる。総社砂層ブロック・粒子やや多く、白色小粒子少量、黄褐色小粒子微量含む。

### 313号土坑 (第73図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量、明褐色土ブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや暗い。白色小粒子を多く、炭化物粒子・黄褐色小粒子をやや多く、総社砂層小ブロック・粒子を少量、炭化物片(φ 5mm)を含む。
- 3 暗褐色土 2より暗い。総社砂層ブロック及び粒子・黄褐色小粒子をやや多く、黄褐色粘性土ブロック・粒子を多く、炭化物粒子を多量、焼土粒子を微量、炭化物片(φ 1cm)を含む。
- 4 黄褐色粘性土 暗褐色土ブロック、総社砂層粒子を少量含む。
- 5 明褐色土 総社砂層ブロックを多量、礫(φ 2cm)を含む。

### 276号土坑 (第73図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、総社砂層小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 茶褐色土ブロック・白色小粒子を多量、ロームブロックを少量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 大形ロームブロック・茶褐色土ブロック殆ど含まず、ローム小ブロック及び粒子・炭化物(φ 5mm)を少量含む。白色・黄褐色小粒子は2より少ない。
- 4 明褐色土 ロームブロック・黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック・黄褐色土ブロックを多く、炭化物片をやや多く、土器片を含む。2～4より暗い。
- 6 黄褐色粘性土 地山より若干暗い。砂質ロームブロックを少量含む。

### 305号土坑 (第73図)

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロックをやや多く、白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量、土器片を含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを少量、白色小粒子を微量含む。やや粘性有り。
- 4 暗黄褐色粘性土 暗褐色土を多く含む。しまり悪い。

### 306号土坑 (第73図)

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く、白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。

### 314号土坑 (第73図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子・総社砂層ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、総社砂層ブロック・黄褐色粘性土ブロックを多く含む。
- 3 明褐色土 総社砂層ブロックを多量含む。しまり良い。
- 4 明褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色粘性土を多く、白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 5 総社砂層 暗褐色土・黄褐色粘性土を若干含む。
- 6 暗黄褐色粘性土 暗褐色土を若干、灰褐色土ブロックを少量含む。しまり弱い。

### 277号土坑 (第73図)

- 1 黒色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を多く含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色粘性ロームを多く、黄褐色小粒子を多量、白色小粒子を少量、炭化物粒子をやや多く含む。
- 3 黒褐色土 1とほぼ同じだが、やや赤味が強い。
- 4 暗茶褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く含む。

### 278号土坑 (第73図)

- 1 黒色土 茶褐色土ブロック・炭化物粒子を少量、白色小粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量に含む。

### 284・308・309号土坑 (第73図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を極多量、炭化物片・粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、焼土粒子を微量、土器片を含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子を多量、炭化物片・粒子を多く、黄褐色小粒子・総社砂層小ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 全体に2より明るい。黄褐色粘性土ブロックを多く、総社砂層ブロック少量含む。
- 4 暗黄褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色ロームブロックを少量、炭化物粒子を微量含む。粘性有り。
- 4' 暗黄褐色土 4よりやや明るく、地山の黄褐色粘性土に近い。暗褐色土を少量含む。粘性有り。
- 5 黒褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色粗粒子・総社砂層粗粒子・炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。

### 345号土坑 (第73図)

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロックを少量、白色小粒子・炭化物粒子をやや多く、黄褐色小粒子を多く含む。
- 2 暗黄褐色土 総社砂層ブロックをやや多く、黄褐色粘性土を極多量、暗褐色土・黄褐色小粒子を少量含む。粘性有り。
- 3 暗褐色土 1に近い。総社砂層ブロックをやや多く、黒色土・黄褐色小粒子・焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 4 暗黄褐色土 2に近いが、2よりさらに黄色味が強い。総社砂層を少量含む。粘性有り。
- 5 黒褐色土 黄褐色粘性土ブロック・炭化物粒子を多く含む。
- 6 暗黄褐色土 黒褐色土が若干混じる。地山よりやや暗い。

### 279号土坑 (第74図)

- 1 黒色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く、炭化物片を多く含む。
- 2 黒褐色土 茶褐色土ブロック・黄褐色粘性土ブロック・白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子をやや多く含む。
- 3 黄褐色粘性土 暗褐色土を若干含む。地山よりしまり弱い。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロックを含む。

## II 検出された遺構と遺物

### 281号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 やや明るい。白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・総社砂層ブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 茶褐色土ブロックを多く、白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 3 明褐色土 全体に赤味強い。白色小粒子やや多く、黄褐色小粒子・焼土粒子少量、炭化物粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 2よりやや暗い。他は2とほぼ同じ。
- 5 明褐色土 大形総社砂層ブロック(φ 5cm)を含み、白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。
- 6 明褐色土 5より明るい。総社砂層ブロックを多量、炭化物片をやや多く、黄褐色小粒子を少量、土器片を含む。
- 7 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色粒子を多く、炭化物片をやや多く、焼土粒子を少量、土器片を含む。
- 8 黒褐色土 7よりやや暗い。白色小粒子・炭化物粒子・土器片を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 9 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 10 暗黄褐色土 地山の黄褐色粘性土よりやや暗い。

### 285号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 炭化物と黄褐色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 1に似るが、総社砂層ブロックを含む。

### 286号土坑 (第74図)

- 1 褐色土 白色小粒子を少量、黄褐色ローム粒・炭化物を10%含む。

### 287号土坑 (第74図)

- 1 褐色土 白色小粒子を少量、黄褐色ローム粒・炭化物を10%含む。

### 288号土坑 (第74図)

- 1 褐色土 白色小粒子を少量、黄褐色ローム粒・炭化物を10%含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム粒を少量、炭化物を多く含む。
- 3 にぶい褐色土 白色小粒子を僅かに、炭化物粒子を微量含む。

### 289号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を少量、炭化物粒・焼土粒を極少量含む。

### 290号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を少量、炭化物粒・焼土粒を極少量含む。

### 291号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を少量、炭化物粒・焼土粒を極少量含む。
- 2 褐色土 ローム土に黒色土が斑状に混じる。

### 293号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を全体に含み、総社砂層ブロックを5%含む。

### 294号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を少量、炭化物粒・焼土粒を極少量含む。

### 300号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を少量含む。

### 301号土坑 (第74図)

- 1 黒色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を多く、焼土粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色粘性土を多く含む。他は①とほぼ同じ。
- 3 黒褐色土 白色小粒子・炭化物をやや多く、黄褐色小粒子・総社砂層ブロックを少量、土器片を含む。
- 4 暗黄褐色土 暗褐色土を多く、炭化物片・白色小粒子を少量、黄褐色小粒子を微量含む。粘性有り。

### 302号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子・黄褐色ロームブロック粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 1に近いが、やや明るい。
- 3 暗黄褐色粘性土 暗褐色土を少量、総社砂層ブロックを多く含む。
- 4 黄褐色粘性土 総社砂層ブロックを少量含む。地山の黄褐色粘性土より暗い。

### 303号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 炭化物片・黄褐色小粒子を多く、白色小粒子を多量、焼土粒子・総社砂層ブロック・粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい。炭化物片を多く、総社砂層ブロック及び粒子・黄褐色小粒子・焼土粒子を少量、白色小粒子をやや多く含む。
- 3 黄褐色粘性土 暗褐色土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロック溶混及び粒子・炭化物粒子・白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 5 ほぼ黄褐色粘性土ブロック 暗褐色土を含む。

### 304号土坑 (第74図)

- 1 暗褐色土 黄褐色粘性土・白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を多量、焼土粒子を多く含む。
- 2 黒褐色土 炭化物片(φ 1cm)、白色小粒子・黄褐色粘性土を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロック・総社砂層ブロックを多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を微量含む。
- 4 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色粘性土ブロックをやや多く、黄褐色小粒子を少量、炭化物粒子を多く含む。
- 6 黒褐色土 4に比べ、黄褐色小粒子が少ない。総社砂層ブロックを僅かに含む。
- 7 暗褐色土 全体にやや黄色味を帯びる。白色小粒子・炭化物粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 黄褐色粘性土溶混を多く、白色小粒子・黄褐色小粒子・総社砂層粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・総社砂層ブロック及び粒子を少量、炭化物粒子・焼土粒子を微量含む。

### 311号土坑 (第75図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色粒子・焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 総社砂層を多く含み、白色小粒子が若干少ない。他はほぼ1と同じ。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量、白色小粒子をやや多く、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 4 明褐色土 黄褐色粘性土ブロック・総社砂層ブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。
- 6 黄褐色粘性土 総社砂層ブロックを少量含む。

### 312号土坑 (第75図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・総社砂層ブロックを少量、炭化物粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム溶混・白色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 明褐色土 総社砂層ブロックを多く、白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。
- 4 黄褐色粘性土 総社砂層ブロックを少量含む。

## 1. 縄文時代

### 315・330号土坑 (第75図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子・茶褐色土ブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 1より明るく、黄色味を帯びる。白色小粒子を少量、焼土粒子・炭化物粒子を微量、黄褐色粘性土を多く含む。しまり弱い。
- 3 暗黄褐色粘性土 暗褐色土が若干混じる。
- 4 暗褐色土 1よりやや明るい。茶褐色土ブロック・総社砂層・白色小粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。炭化物粒子は1よりかなり少ない。

### 316号土坑 (第75図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、焼土粒子を少量、炭化物粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 総社砂層溶混、白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。

### 317・318号土坑 (第75図)

- 1 黒褐色土 白色粒・黄色粒を少し含む。
- 2 黄褐色土 暗褐色土を含み、総社砂層ブロックを少し含む。
- 3 暗褐色土 白色粒・総社砂層ブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 黒褐色土を少し含む。
- 5 黒褐色土 暗褐色土を含み、白色粒・黄色粒を少し含む。
- 6 暗黄褐色土 総社砂層ブロック・粒子を多く含む。粘性有り。

### 368号土坑 (第75図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を微量、焼土粒子・炭化物粒子を少量、総社砂層ブロック・黄褐色粘性土ブロックを僅かに含む。
- 2 明褐色土 総社砂層・黄褐色粘性土を多量、白色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。
- 3 黄褐色粘性土 しまり弱い。

### 320号土坑 (第75図)

- 1 茶褐色土 白色粒子を少量含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 白色粒子を少量含む。1より暗い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。

### 321号土坑 (第75図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く含む。

### 322号土坑 (第75図)

- 1 褐色土 白色小粒子をやや多く含む。
- 2 褐色土 総社砂層ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを少量含む。

### 323号土坑 (第75図)

- 1 暗褐色土 茶褐色土ブロック・炭化物粒子をやや多く、白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色粘性土ブロック粒子・白色小粒子・黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 3 明褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量、総社砂層ブロックを少量含む。
- 4 暗黄褐色土 黄褐色粘性土を多量、暗褐色土を少量、炭化物粒子を微量含む。粘性有り。
- 5 黄褐色粘性土ブロック

### 325号土坑 (第75図)

- 1 暗褐色土 茶褐色土ブロックを多量、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい。炭化物粒子をやや多く、茶褐色土ブロック・黄褐色粘性土を少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子・総社砂層ブロック及び粒子を少量含む。
- 4 暗黄褐色土 黄褐色粘性土に暗褐色土が若干混じる。黄褐色

小粒子を少量含む。しまり弱く、粘性有り。

- 5 明褐色土 白色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く、茶褐色土ブロックを多く含む。

### 324号土坑 (第75図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を多く、焼土粒子を微量、総社砂層ブロック・黄褐色粘性土ブロックを僅かに含む。
- 2 明褐色土 総社砂層・黄褐色粘性土を多量、白色小粒子・黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子をやや多く含む。

### 326号土坑 (第75図)

- 1 にぶい黄褐色土 白色小粒子・黄褐色粒子を少量含む。全体に粒子が粗くザラつく。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色粒子をやや多く、炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。
- 3 茶褐色土 ロームブロックを約20%含む。白色小粒子・黄褐色粒子をやや多く、炭化物を含む。
- 4 茶褐色土 小粒のロームブロックを20%含む。白色小粒子・黄褐色粒子をやや多く、炭化物を含む。
- 5 茶褐色土 細かい砂質土。
- 6 暗褐色土 細かい砂質土。炭化物を僅かに含む。ややしまり弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 1に類似するが、やや黄色味がある。粘性有り。

### 327号土坑 (第75図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色粒子を全体に含み、炭化物を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム土の再堆積。白色小粒子、黄褐色粒子を含む。
- 3 茶褐色土 白色小粒子を少量、ロームブロックを30%含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色のやや大きな粒子。
- 5 黄褐色土 ローム土がブロック状に混じり合った土。

### 328号土坑 (第75図)

- 1 赤褐色土 硬く焼けた焼土を主とする。
- 2 暗褐色土 焼土を多く含む。赤味を帯びる。
- 3 暗褐色土 焼土を少量含む。やや赤味を帯びる。
- 4 暗黄褐色土 焼土を少量含む。赤味を若干帯びる。
- 5 黒褐色土 焼土粒子を微量、白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く含む。

### 329号土坑 (第75図)

- 1 黒褐色土 茶褐色土ブロック・総社砂層ブロック・黄褐色小粒子を少量、白色小粒子を多量、礫を含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土と総社砂層の混合土

### 331号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・総社砂層ブロックを多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまり良い
- 2 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、黄褐色粘性土ブロックを少量、炭化物粒子をやや多く含む。しまり良い。
- 3 暗褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量含む。1・2よりさらにしまり良い。
- 4 暗褐色土 黄褐色粘性土を極多量含む。しまり弱い。

### 332号土坑 (第76図)

- 1 黒色土 白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を多く、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量、白色小粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 総社砂層ブロック及び粒子・白色小粒子を多く、黄褐色小粒子を少量含む。

## II 検出された遺構と遺物

### 333号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロックを少量含む。
- 2 暗黄褐色土 総社砂層を主体とし、暗褐色土を少量含む。
- 3 暗黄褐色粘性土 暗褐色土を多量に含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色粘性土を含む。

### 337号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性土を極多量、総社砂層ブロックを少量含む。

### 338号土坑 (第76図)

- 1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子を少量、白色粒子を多く含む。しまり良い。
- 2 茶褐色土 ローム漸移層にローム粒子を多く、ロームブロックを少し含む。
- 3 茶褐色土 ローム漸移層にロームブロックを少量含む。

### 339号土坑 (第76図)

- 1 にぶい黄褐色土 白色小粒子を少量、小礫 ( $\phi$  2cm以下) を含む。しまり良い。

### 344・367号土坑 (第76図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を多量、炭化物片をやや多く含む。
- 2 黒褐色土 1よりやや明るい。白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、黄白色ローム粒子・ブロック溶混を少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量に含む。
- 4 暗黄褐色土 総社砂層ブロックと黄褐色粘性土ブロックの間に暗褐色土が若干入る。

### 366・367号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・茶褐色土ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色粒子・炭化物片を少量、黄褐色粘性土を多量に含む。
- 4 暗褐色土 1よりやや明るい。黄褐色小粒子・白色小粒子をやや多く、炭化物粒子を微量含む。しまり良い。
- 5 暗褐色土 1に近いが、1より僅かに暗い。
- 6 暗褐色土 黄褐色小粒子を多量、白色小粒子を多く、炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 7 暗黄褐色土 総社砂層ブロックと黄褐色粘性土ブロックの間に暗褐色土が若干入る。

### 346号土坑 (第76図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・総社砂層ブロックを少量、炭化物粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロック・粒子を多量に含む。

### 347号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色粒子多く、ロームブロック ( $\phi$  1cm以下)・焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 2 黒色土 白色小粒子・黄褐色粒子を多く含む。
- 3 暗黄褐色土 ロームを多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。

### 348号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi$  1~3cm) を多く、白色粒子、黄褐色粒子、焼土粒、炭化物を全体に含む。

### 350・351号土坑 (第76図)

- 1 にぶい黄褐色土 白色小粒子・黄褐色ローム粒を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 1よりやや暗い。As-YP粒・炭化物をやや多く含む。しまり有り。
- 3 にぶい黄褐色土 As-YPを多量に含む。
- 4 にぶい黄褐色土 1に近いが、1よりやや明るい。粘性有り。

### 354号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色粒子・As-YP粒を少量含む。

### 356号土坑 (第76図)

- 1 にぶい黄褐色土 黄褐色ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色粒子を極少量含む。

### 357号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 黒褐色土ブロック・炭化物粒子を少量、白色小粒子を多量、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい。白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子・総社砂層ブロック・黄褐色粘性土ブロックをやや多く含む。
- 3 暗褐色土 2より暗い。総社砂層ブロック ( $\phi$  10cm)、礫、白色小粒子・炭化物粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 4 暗黄褐色粘性土 暗褐色土多く、炭化物粒子をやや多く含む
- 5 暗褐色土 総社砂層粒子・ブロックを多く含む。
- 6 明褐色土 総社砂層ブロックを少量、黄褐色粘性土・黄褐色小粒子をやや多く、白色小粒子・炭化物粒子を多く含む。
- 7 黄褐色粘性土 暗褐色土・炭化物粒子を少量含む。

### 358号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 炭化物粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く、白色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘性土を多量、炭化物粒子をやや多く、焼土粒子を微量含む。1より明るい。

### 359号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロック・黄褐色小粒子・白色小粒子を少量、炭化物粒子をやや多く、焼土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 1より黒味が強い。1より白色小粒子は少ない。
- 3 黄褐色粘性土 暗褐色土を少量、炭化物粒子を微量含む。
- 4 暗黄褐色土 3より暗い。炭化物粒子を少量含む。
- 5 暗黄褐色土 4より明るい。炭化物粒子を微量含む。
- 6 暗黄褐色土 4よりやや暗い。炭化物粒子を少量含む。
- 7 黒褐色土 黄褐色粘性土を多く含む。炭化物粒子をやや多く、焼土粒子を微量含む。

### 360号土坑 (第76図)

- 1 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。黄褐色粘性土ブロックを少量、白色小粒子をやや多く、焼土粒子を微量含む。
- 2 明褐色土 黄褐色粘性土を多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性土・総社砂層小ブロック少量、黄褐色粗粒子・炭化物粒子をやや多く、小土器片を含む
- 4 黄褐色粘性土ブロック

### 369号土坑 (第77図)

- 1 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。

### 370号土坑 (第77図)

- 1 明褐色土 総社砂層ブロック及び粒子・黄褐色小粒子を少量、白色小粒子を微量、黄褐色粘性土小ブロック・粒子をやや多く含む。
- 2 明褐色土 黄褐色粘性土を極多量含む。

### 372号土坑 (第77図)

- 1 暗灰褐色土 やや黄色味を帯びる。全体にやや砂質。小礫 (約  $\phi$  5mm) を多く、白色小粒子を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 総社砂層小ブロックを少量含む。地山より暗い。粘性有り。

### 373号土坑 (第77図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子をやや多く、礫 ( $\phi$  1cm) を少量含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロックを多量、炭化物粒子・黄褐色粒子をやや多く含む。

## 376号土坑 (第77図)

- 1 黒色土 白色小粒子・炭化物粒子を多量、黄褐色土粒子を多く含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色土を多量に含む。

## 377号土坑 (第77図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子・小礫 (φ 5mm) を多量に含む。しまり良い。

## 379号土坑 (第77図)

- 1 暗褐色土 総社砂層小ブロックを僅かに、白色小粒子を少量、黄褐色小粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土 総社砂層ブロック・白色小粒子・炭化物粒子を少量含む。1より暗い。

## 380号土坑 (第77図)

- 1 黒褐色土 黒褐色土を少量含む。しまり悪い。
- 2 茶褐色土 黒褐色土を含み、黄褐色小粒子を少量含む。しまり弱い。

## 381号土坑 (第77図)

- 1 茶褐色土 黄褐色ロームブロックを多量に含む。

## 382号土坑 (第77図)

- 1 黒褐色土 茶褐色土ブロック・白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色ローム粒子を少量、白色小粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 3 黒褐色土 炭化物粒子を多量、焼土粒子を少量含む。

## 383号土坑 (第77図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、焼土粒子・ローム小ブロック及び粒子・黄褐色小粒子を少量、炭化物粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 1より茶色味が強い。ローム小ブロックをやや多く、白色小粒子を少量含む。

## 384号土坑 (第77図)

- 1 黒色土 白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子をやや多く、焼土粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色ロームブロックを少量、白色小粒子を微量含む。

## 385号土坑 (第77図)

- 1 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロック・総社砂層ブロックをやや多く、白色小粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 黄褐色粘性土ブロック、小土器片を含む。地山より暗い。粘性有り。
- 2' 暗黄褐色土 2よりやや暗い。他は2とほぼ同じ。
- 3 暗褐色土 総社砂層ブロックを含まない。黄褐色小粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 総社砂層ブロックを多く含む。
- 5 黄白色砂質土 総社砂層に暗褐色土溶混を若干含む。

## 389・390号土坑 (第77図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子・黄褐色小粒子を多量、炭化物粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。

## 392号土坑 (第77図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を少量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を多量に含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色小粒子をやや多く、炭化物粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量、炭化物粒子を少量、黄褐色小粒子を多く含む。
- 5 暗褐色土 総社砂層ブロックを極多量、炭化物粒子を微量含む。
- 6 暗褐色土 3とほぼ同じだが、若干明るい。

## 394号土坑 (第77図)

- 1 黒褐色土 白色粒を多量、黄色粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 1より色調は淡い。白色粒を多量、黄色粒・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 2より黄色味を帯びる。白色粒を少量含む。

## 395号土坑 (第77図)

- 1 黒色土 白色粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 白色粒を少量含む。

## 397号土坑 (第77図)

- 1 黄褐色土 砂礫を少し含む。

## 400号土坑 (第77図)

- 1 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。黄褐色ロームを多く、小礫を含む。

## 401号土坑 (第77図)

- 1 暗褐色土 硬質の黒色土ブロックを少量、As-YPを僅かに含む。
- 2 暗褐色土 硬質の黒色土ブロックを多く、黄褐色土・白色小粒子を多量、As-YPをやや多く含む。
- 3 明褐色土 黄褐色ロームブロック・白色小粒子を多量、As-YPを多く含む。

## 402号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 炭化物粒子・白色小粒子を多量、総社砂層ブロック・黄褐色土ブロックを少量、土器片を含む。
- 2 暗黄褐色土 総社砂層ブロック・炭化物粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 炭化物粒子・総社砂層粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 3よりやや暗い。他は3とほぼ同じ。
- 5 黄褐色土 暗褐色土を若干含む。
- 6 黄褐色土ブロック 暗褐色土を少量含む。

## 403・404号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・総社砂層を少量、炭化物粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色小粒子・白色小粒子を多量、炭化物を含む。
- 3 黒褐色土 炭化物粒子・総社砂層ブロックを少量、白色小粒子をやや多く、黄褐色粘性土を多量に含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを極多量、総社砂層ブロック・灰紫色粘性土ブロックを少量、白色小粒子をやや多く含む。

## 406号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 大形黄褐色粘性土ブロックを多く、白色小粒子・焼土粒子を少量、黄褐色小粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや暗い。黄褐色小粒子を多量、総社砂層ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量、総社砂層小ブロックをやや多く含む。粘性有り。

## 408号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量、茶褐色土ブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 1より暗い。総社砂層小ブロック及び粒子・黄褐色小粒子をやや多く、黒色土を少量含む。
- 3 明褐色土 茶褐色土を多量、黄褐色小粒子を微量含む。

## 409号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子をやや多く、総社砂層ブロック・粒子を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 暗褐色土を少量含む。ほぼ黄褐色粘性土。
- 3 黄褐色土 総社砂層ブロックを少量含む。

## 410号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 炭化物粒子・白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロックを多量、総社砂層土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。

## II 検出された遺構と遺物

### 412号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を微量含む。
- 2 明褐色土 総社砂層を多量に含む。しまり良い。
- 3 暗黄灰褐色土 総社砂層を主体。暗褐色土を若干含む。

### 418号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 黄褐色粘性土を多く、炭化物粒子をやや多く、黄褐色小粒子・白色小粒子を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 炭化物粒子を微量、暗褐色土を少量含む。
- 3 黄褐色土 炭化物粒子を微量含む。
- 4 黄褐色土 しまり悪い。(根の攪乱)

### 419号土坑 (第78図)

- 1 明褐色土 黄褐色ロームブロックを多量、白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。

### 421号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 礫を極多量含む。(埋め土)
- 2 暗褐色土 As-C、As-Bを含む。(耕作土)
- 3 黒色土 As-Cを多量に含む。
- 4 黒褐色土 As-Cを殆ど含まない。黄褐色小粒子・炭化物粒子をやや多く、白色小粒子を少量含む。
- 4' 黒褐色土 4に近いが、4よりやや明るい。
- 5 暗褐色土 白色小粒子・炭化物粒子を少量、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 6 明褐色土 総社砂層小ブロック・茶褐色土ブロックを多く、白色小粒子・黄褐色小粒子を少量含む。
- 7 明褐色土 白色小粒子・炭化物片をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 8 明褐色土 大形総社砂層ブロック、白色小粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 5より若干明るい。茶褐色土ブロック溶混・炭化物粒子を少量、白色小粒子を微量、角礫、遺物を含む。
- 10 暗褐色土 9より明るい。大形円礫、茶褐色土ブロックを僅かに、白色小粒子・焼土粒子を微量、炭化物粒子を少量含む。
- 11 暗褐色土 10より暗い。炭化物片を少量、白色小粒子を微量含む。単一的。
- 12 暗褐色土 黄褐色土を多量、角礫を含む。しまり弱く、粘性有り。
- 13 暗褐色土 黄褐色土ブロックを極多量含む。

### 424号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 炭化物片及び粒子・白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・As-YPを少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム・炭化物粒子を多く、白色小粒子をやや多く、As-YPを少量含む。

### 425号土坑 (第78図)

- 1 黒褐色土 炭化物粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く、白色小粒子を多量に含む。

### 428号土坑 (第78図)

- 1 黒褐色土 茶褐色土ブロック・白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子・総社砂層ブロック・炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 総社砂層ブロックを多量、炭化物粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 1よりやや明るい。炭化物粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、焼土粒子をやや多く、総社砂層ブロックを少量、土器片を含む。
- 4 黄白褐色土 暗褐色土を少量含む。
- 5 明褐色土 As-YP・炭化物粒子・白色小粒子・黒褐色土を少量、黄白褐色土を多量に含む。
- 6 明褐色土 ロームブロックを多量に含み、その間を暗褐色土が埋まる。
- 7 黄褐色ローム 暗褐色土を少量含む。

### 429・430号土坑 (第78図)

- 1 明褐色土 黄褐色ローム大形ブロック、白色小粒子をやや多く、黄褐色小粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物粒子・白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を多く、黄褐色ローム小ブロック・焼土粒子を少量、礫を含む。3よりやや暗い。
- 3 明褐色土 黄褐色ローム小ブロックを多量、白色小粒子を多く、黄褐色小粒子・炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 小円礫を多量、炭化物粒子・白色小粒子を少量含む。

### 432号土坑 (第78図)

- 1 暗褐色土 (耕作土) As-Bを含む。やや砂質。
- 2 黒色土 As-Cを多量に含む。
- 3 黒色土 As-Cを殆ど含まない。白色小粒子を多く、黄褐色小粒子をやや多く含む。
- 4 暗褐色土 茶褐色土ブロック・黄褐色小粒子・白色小粒子を少量、焼土粒子を僅かに含む。
- 5 暗褐色土 総社砂層ブロック・粒子を多く、白色小粒子を少量、黄褐色小粒子を微量、角礫を含む。4より茶色味が強く、明るい。
- 5' 暗褐色土 5とほぼ同じ。若干明るい。
- 6 暗褐色土 総社砂層ブロック・黄褐色土ブロックを極多量含む。5より明るい。
- 7 暗褐色土 総社砂層ブロックをやや多く、白色小粒子を少量含む。
- 8 黒褐色土 7より暗い。黄褐色小粒子を多く、白色小粒子・焼土粒子を少量、炭化物粒子をやや多く含む。
- 9 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多量に含む。
- 10 暗黄褐色土 暗褐色土を若干含む。
- 11 黄褐色粘性土ブロック

### 444号土坑 (第78図)

- 1 黒褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子・炭化物粒子を少量、土器片を含む。
- 2 黒褐色土 白色小粒子を極多量、黄褐色小粒子を少量、炭化物粒子をやや多く含む。総社砂層粒子を極多量、同ブロック(φ1~3cm)を少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘性土を極多量含む。他の粒子等は殆ど含まない。
- 4 暗褐色土 総社砂層粒子・小ブロック(φ5mm~1cm)を少量含む。
- 5 明褐色土 総社砂層ブロックを少量含む。

### 172号ピット (第79図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色小粒子を少量含む。しまりはやや弱い。(深鉢形土器を割って詰めた状況が伺える)
- 2 暗黄褐色土 白色小粒子を少量含む。しまりは良い。

### 233号ピット (第79図)

- 1 暗褐色土 白色小粒子を多量、黄褐色粒子を少量、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 1よりもやや明るい。白色小粒子を少量含む。

## (2) 遺物

## a 土器

当遺跡から出土した土器は、縄文時代早期から後期に至る幅広いものであった。しかし、その主体を占めるのは中期のものであり、前期に属するものもかなり多くあった。中期のものはいわゆる中葉と言われる段階のものが多く、前期のものは後葉の諸磯期のものが多く、繊維を含む土器は少なかった。全体として見ると遺構出土のものよりグリッドのものが多く、磨滅が激しく細別が難しいものも多くあった。そこで以下のような大別を行った。

- 第Ⅰ群土器 早期（捺糸文土器、条痕文土器）
- 第Ⅱ群土器 前期繊維土器（関山式、黒浜式）
- 第Ⅲ群土器 前期後葉（諸磯式及び平行期）
- 第Ⅳ群土器 中期中葉
  - 阿玉台式系
  - 勝坂式系
  - 焼町タイプ
  - 三原田タイプ
  - 異系統（大木式系、新潟・北陸系）
- 第Ⅴ群土器 中期後葉（加曾利E式）
- 第Ⅵ群土器 後期・晩期

第Ⅰ群土器は捺糸文土器を主体とし、一部捺糸文土器に伴う無文土器も含めた。また、条痕文系土器は極めて点数が少ないので、ここに一括した。遺物全体の中で見ると第Ⅰ群土器の出土量は非常に少ない。遺跡北半よりすべてのものが出土した。

第Ⅱ群土器は前期の繊維土器を一括した。かなり多くの繊維を含むものとほとんど含まないものがあった。点数的には捺糸文土器よりもやや多い程度で前期の土器全体の中で見るとその割合は非常に少ない。

第Ⅲ群土器は前期後葉の諸磯式及びほぼその平行期の浮島式等を一括した。しかし、その多くは諸磯式に属するものと思われる。本遺跡では諸磯a式やb式期に属する住居跡や土坑が検出され、この時期

の多くの遺物が出土した。

第Ⅳ群土器は中期中葉の土器を一括した。本遺跡では主体をなす土器群である。その系統により阿玉台式、勝坂式、焼町タイプ、三原田タイプ、異系統（大木式、新潟・北陸系）に細分することは可能であると思われる。しかし、それぞれの系統の中でどの段階に来るのか、それぞれを横に並べて比較したらどうなのかというかなり難しい問題があり、あえてその細分については観察表には入れなかった。注目されるのは異系統の土器であり、口縁部に鶏頭冠の付く深鉢形土器や体部に縄文を施す浅鉢形土器がセットで出土した遺構もあるということである。また、地元の土で焼かれたと考えられるが、工具や文様は他地域の要素を持っているもの、他地域からの搬入品と考えた方がいいものなどもあることである。第Ⅳ群土器は次の第Ⅴ群土器に比べると非常にバラエティに富むのが特徴的である。

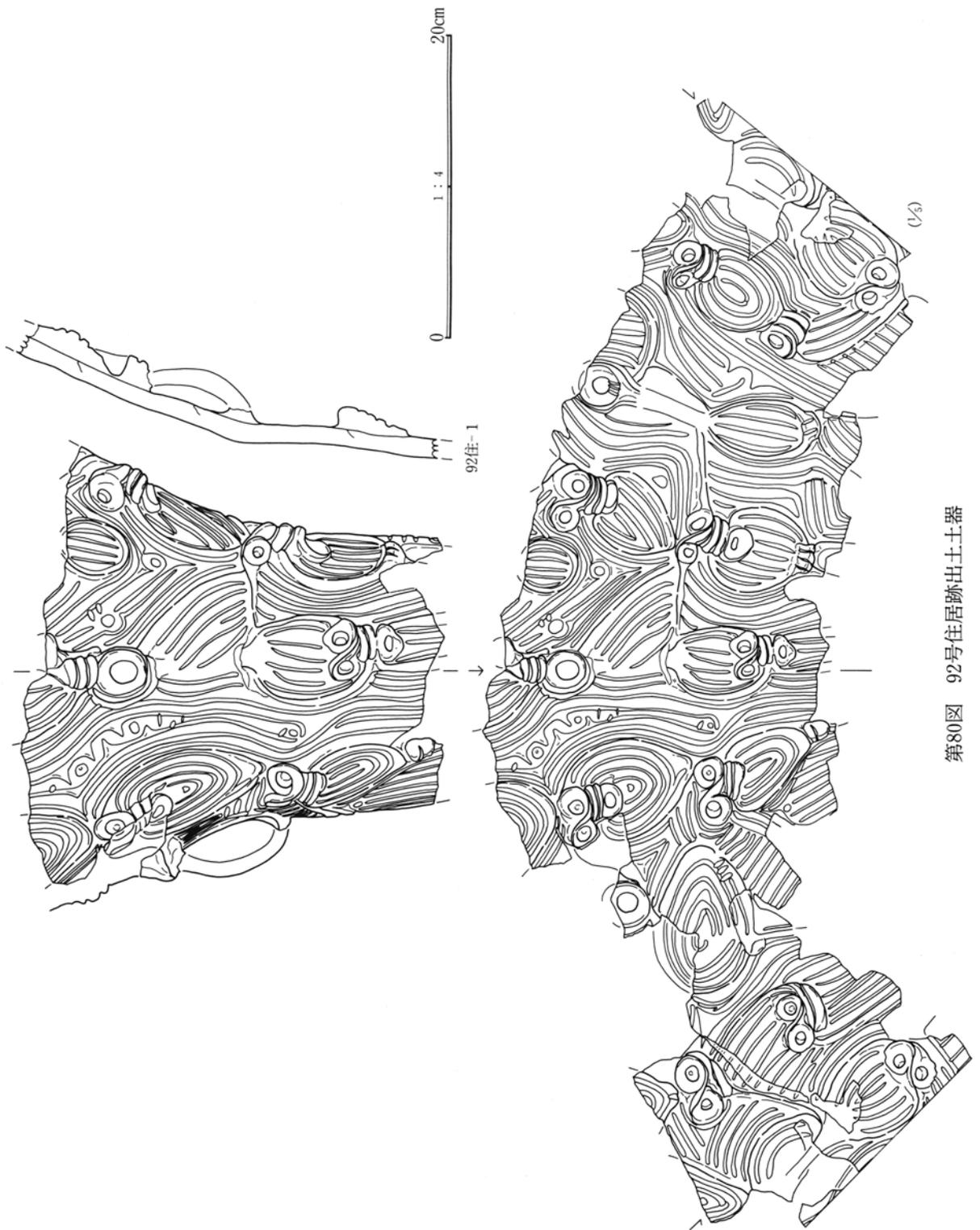
第Ⅴ群土器は中期後葉の加曾利E式土器を一括した。ただし、加曾利E式出現期の土器については三原田タイプの中に入れて考え第Ⅳ群に分類した。本遺跡の中では主要な土器群の一つであるが、前期後葉の第Ⅲ群土器ほどは多くはない。

第Ⅵ群土器は後期の称名寺式以降の土器を一括した。全体の中での割合は前期や中期の土器に比べればかなり少ない。

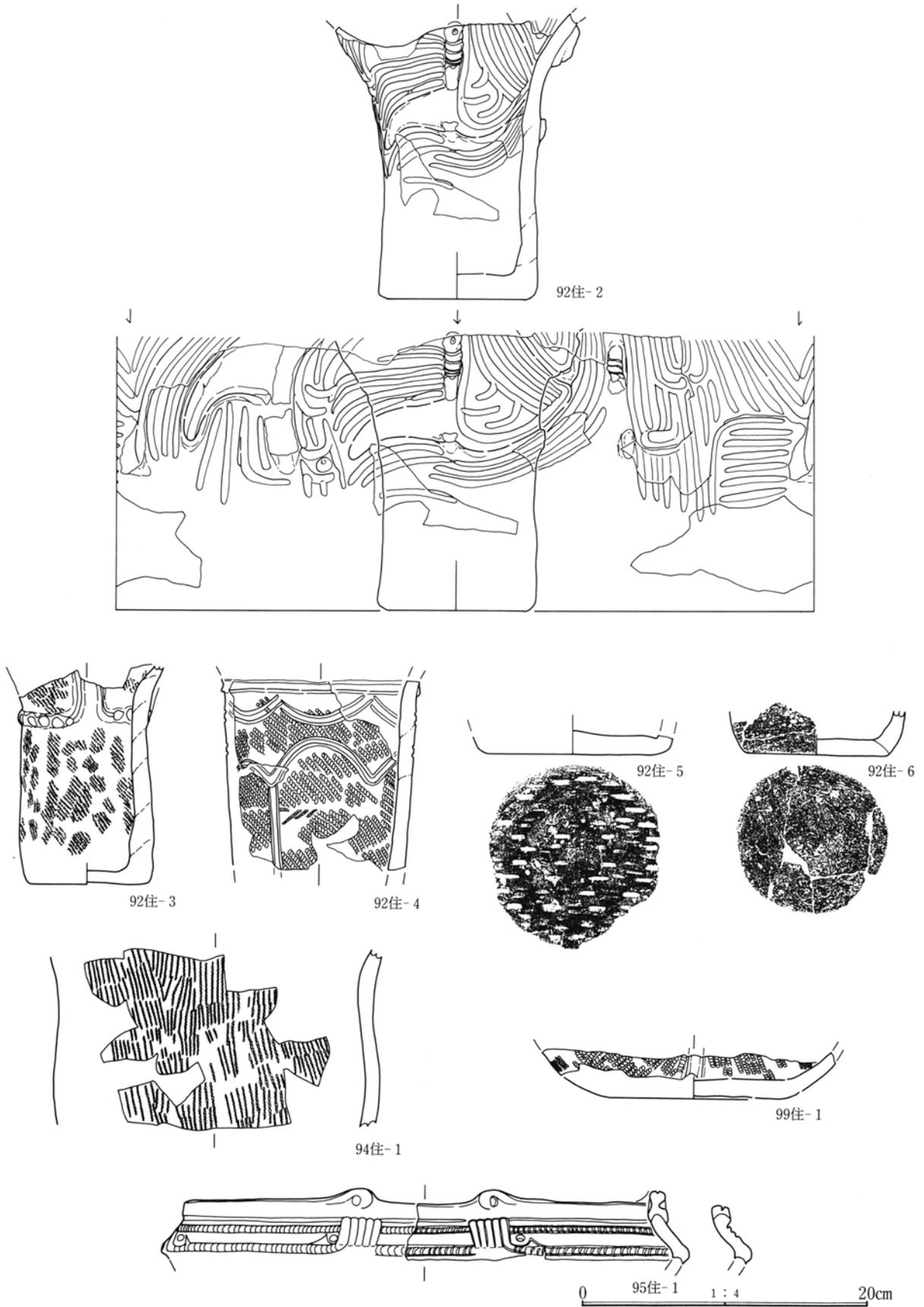
以上、本遺跡の土器について第Ⅰ群から第Ⅵ群に分類し、その出土量について概観してきた。全体としては中期中葉のものがほとんどで、次いで前期後葉の第Ⅲ群土器が多く、中期後葉の第Ⅴ群土器がその次で、後期の第Ⅵ群土器、前期の繊維土器第Ⅱ群土器、早期第Ⅰ群土器の順であった。

やはり集落の主体をなす段階のものが多く、遺構の少ない段階のものは包含層の遺物も少なかった。平面的に見ても遺構の多い所は包含層の遺物も多かった。

II 検出された遺構と遺物

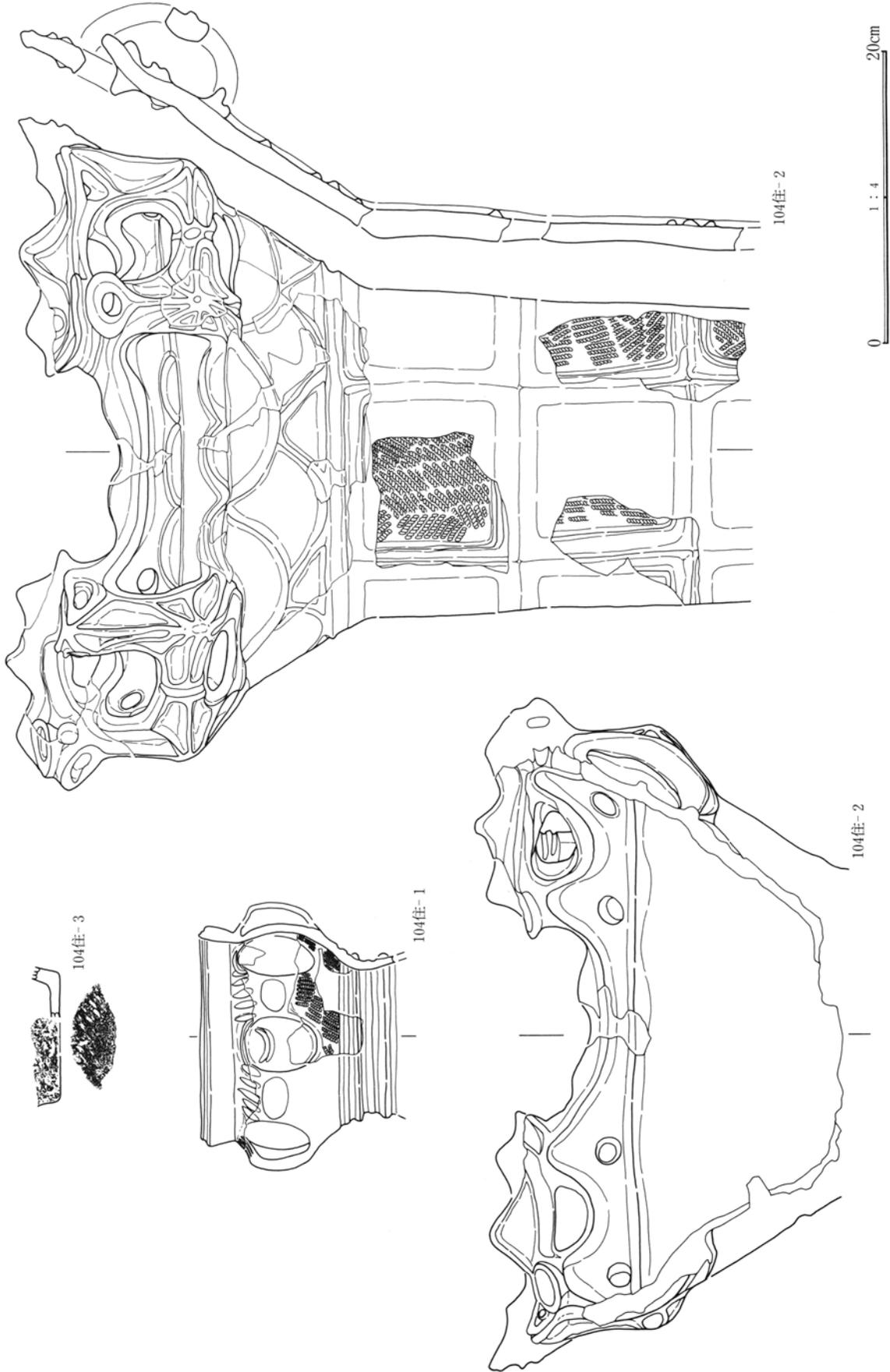


第80図 92号住居跡出土土器



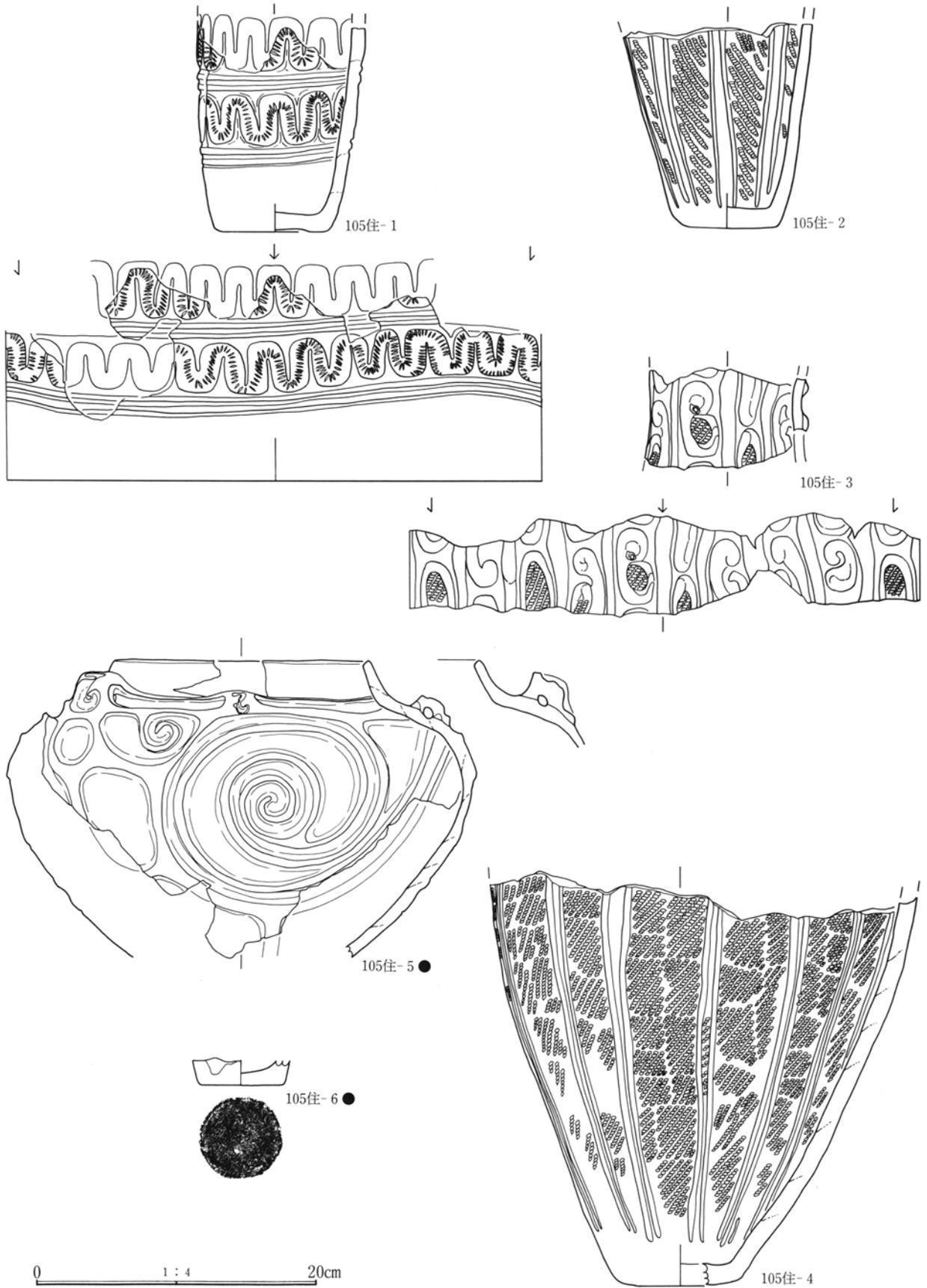
第81図 92・94・95・99号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物



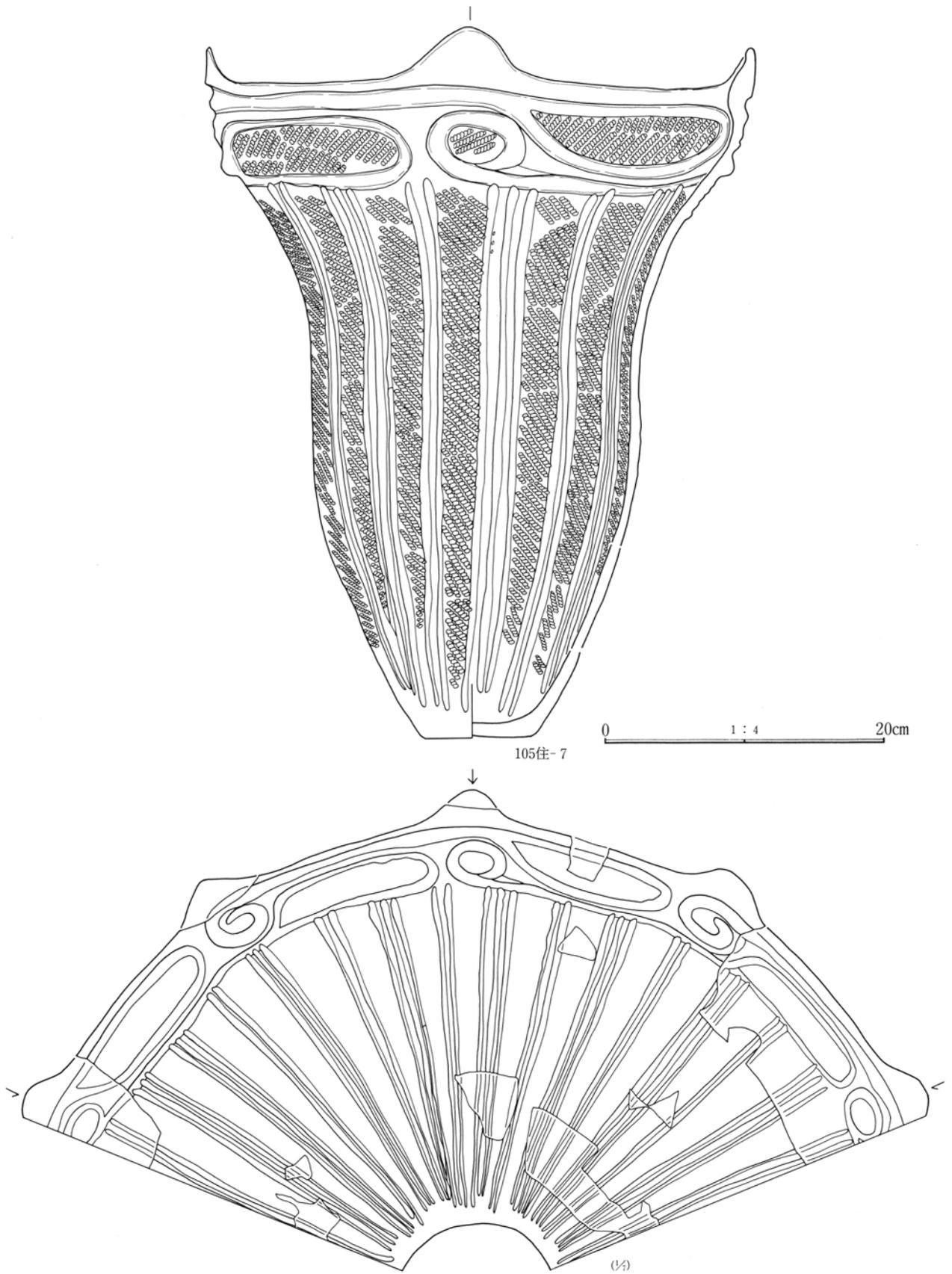
第82図 104号住居跡出土土器

1. 縄文時代



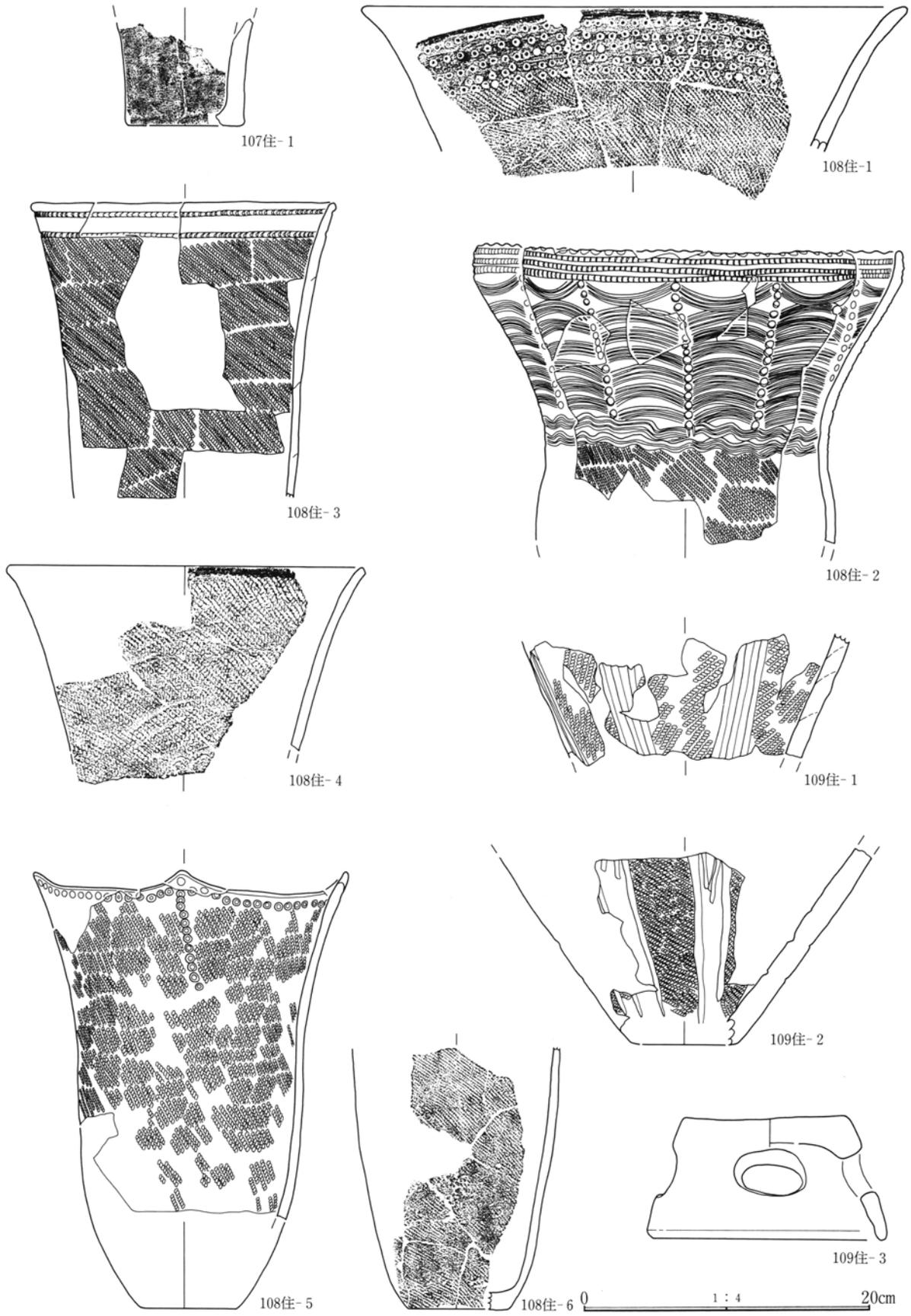
第83図 105号住居跡出土土器(1)

II 検出された遺構と遺物



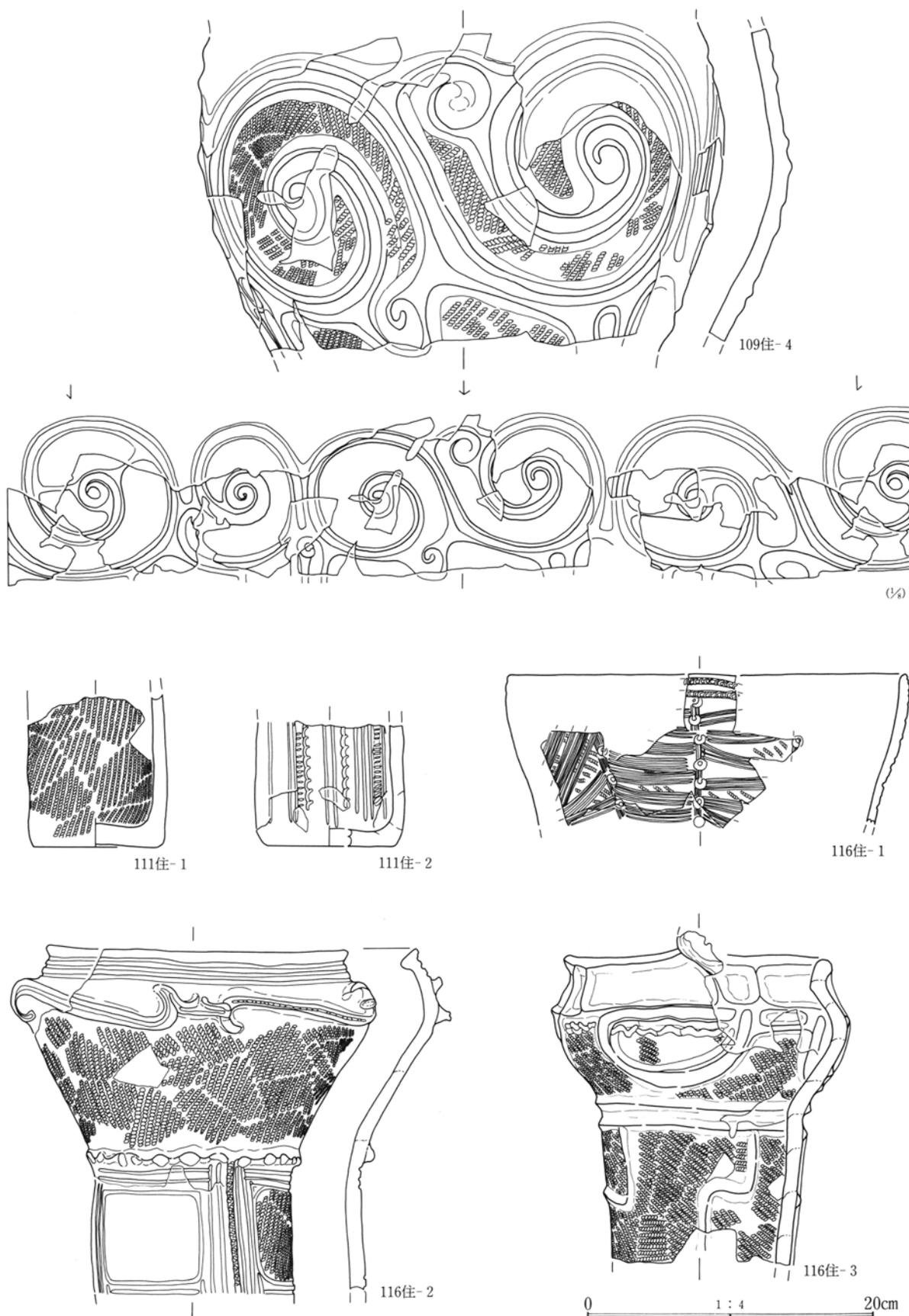
第84図 105号住居跡出土土器(2)

1. 縄文時代

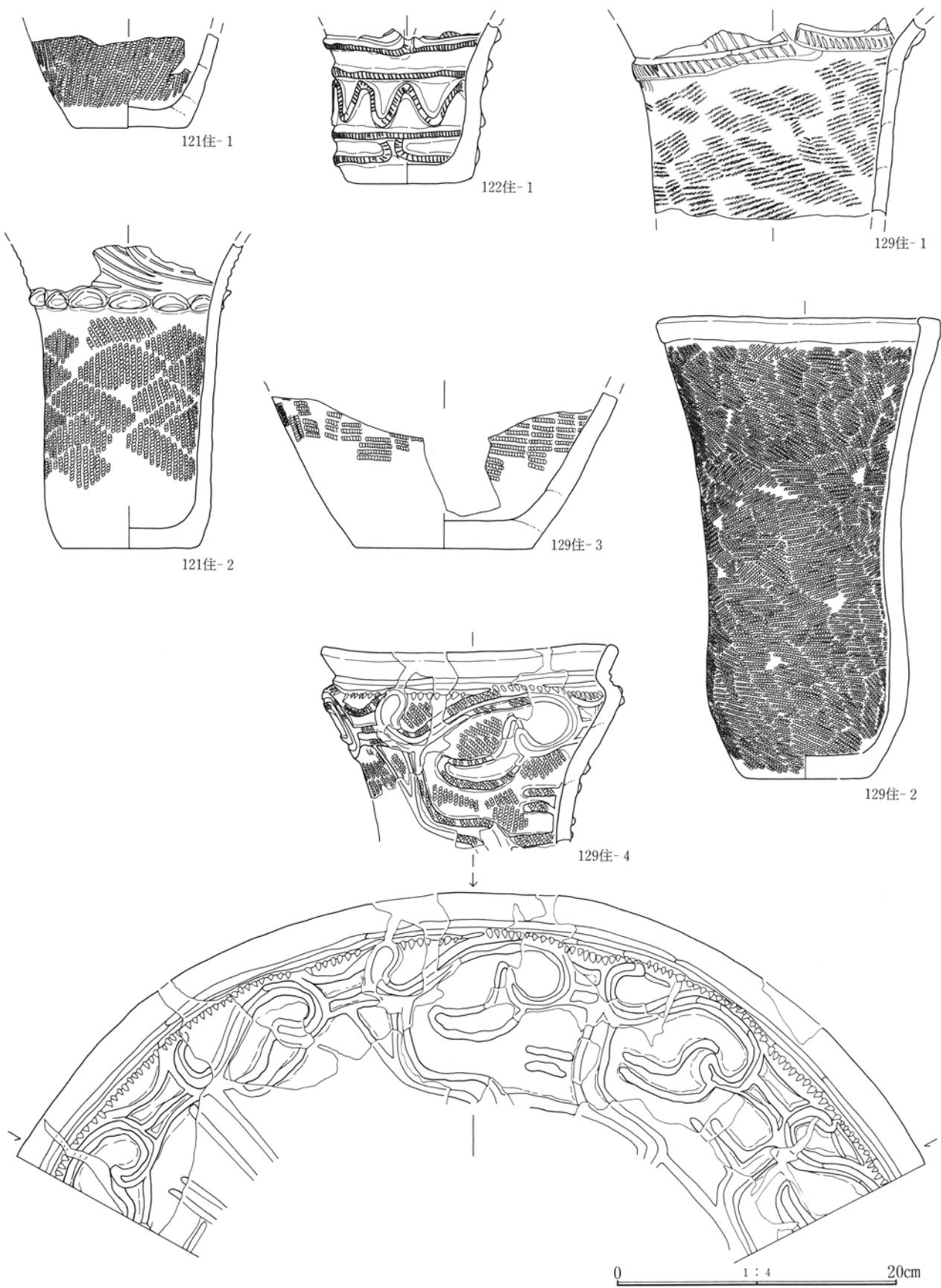


第85図 107・108・109号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物

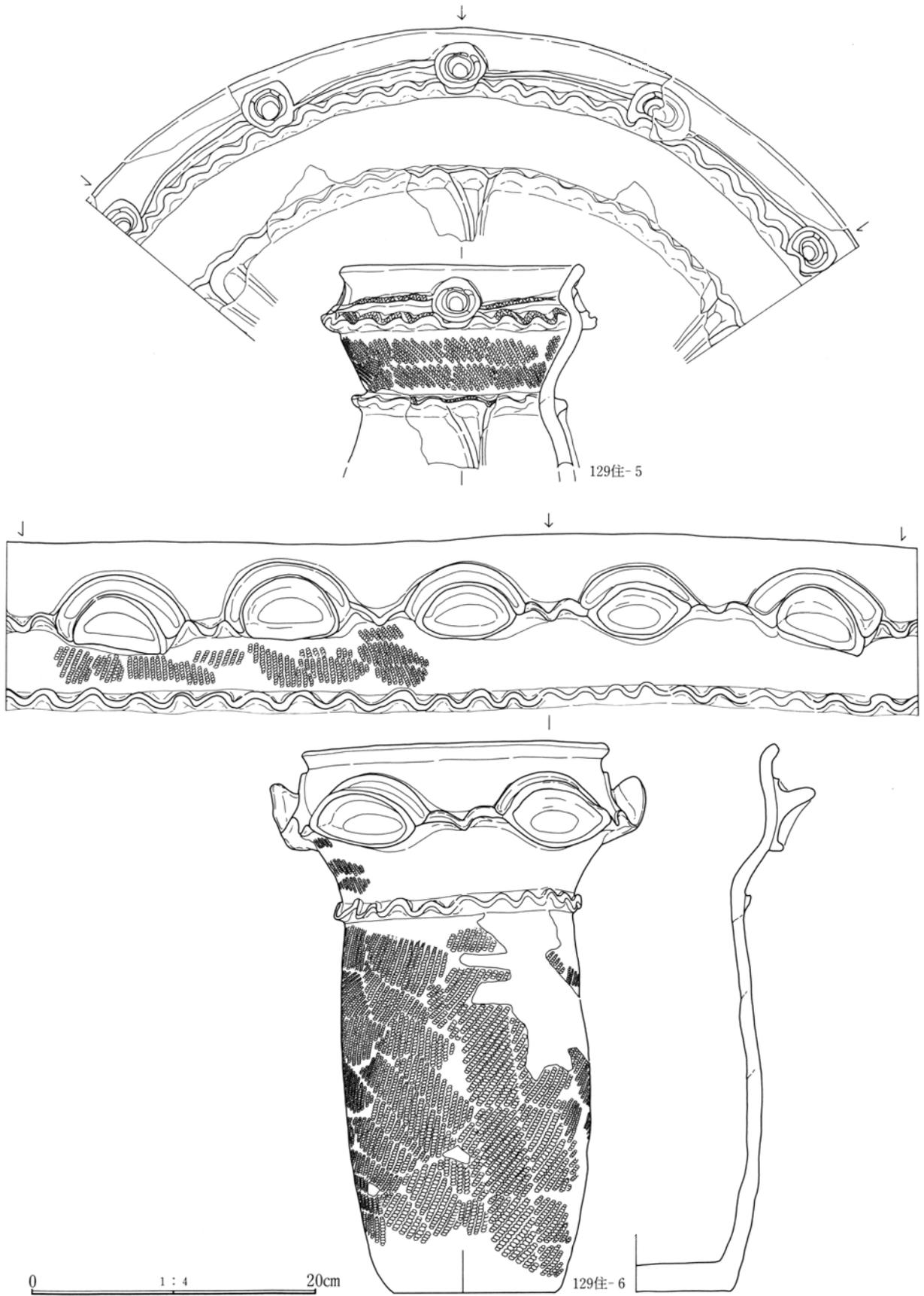


第86図 109・111・116号住居跡出土土器

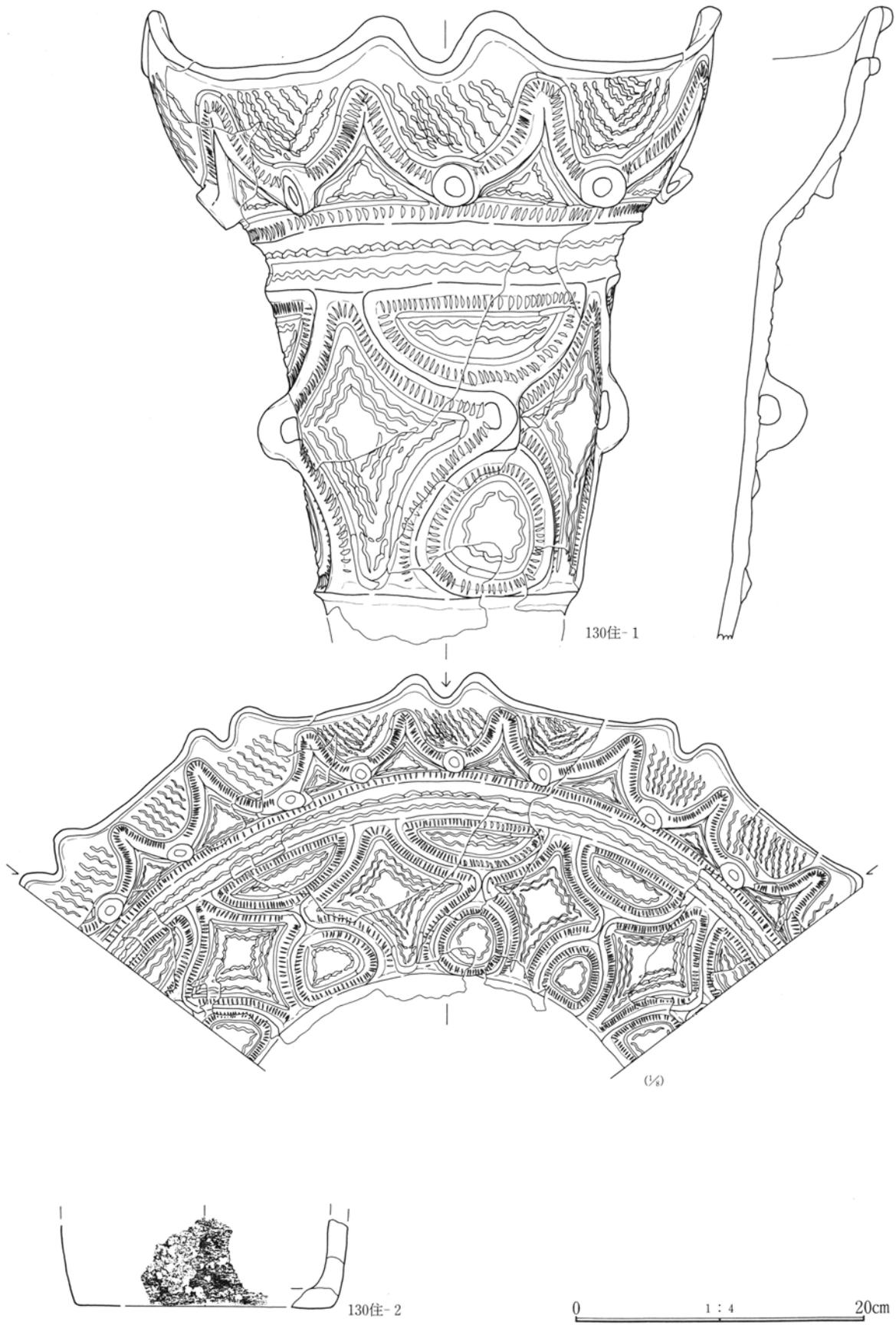


第87图 121·122·129号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物

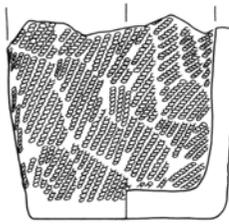


第88図 129号住居跡出土土器

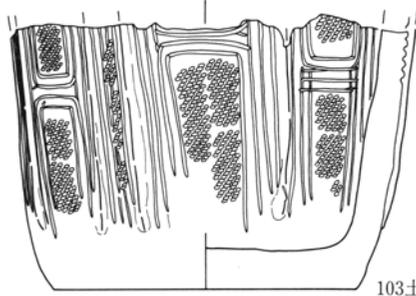


第89図 130号住居跡出土土器

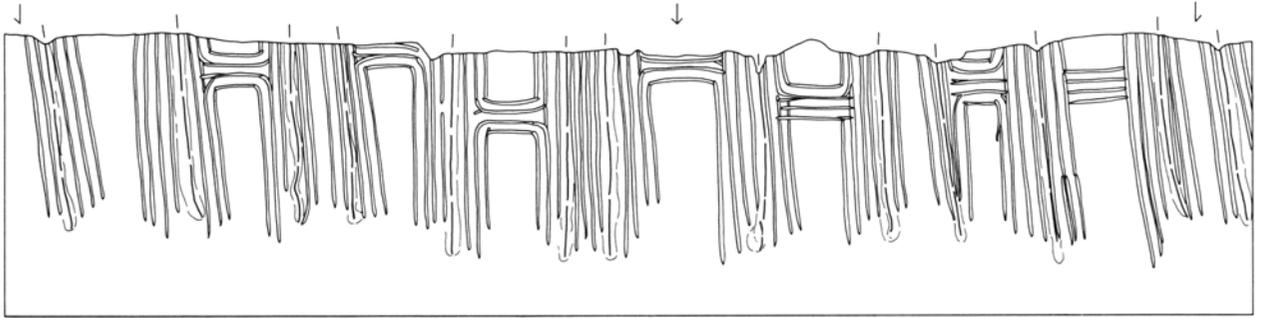
II 検出された遺構と遺物



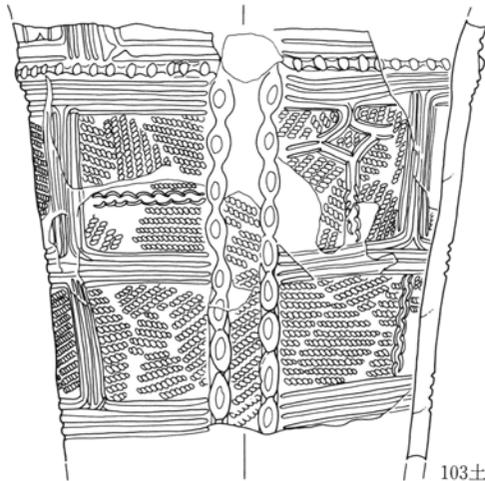
103土-1



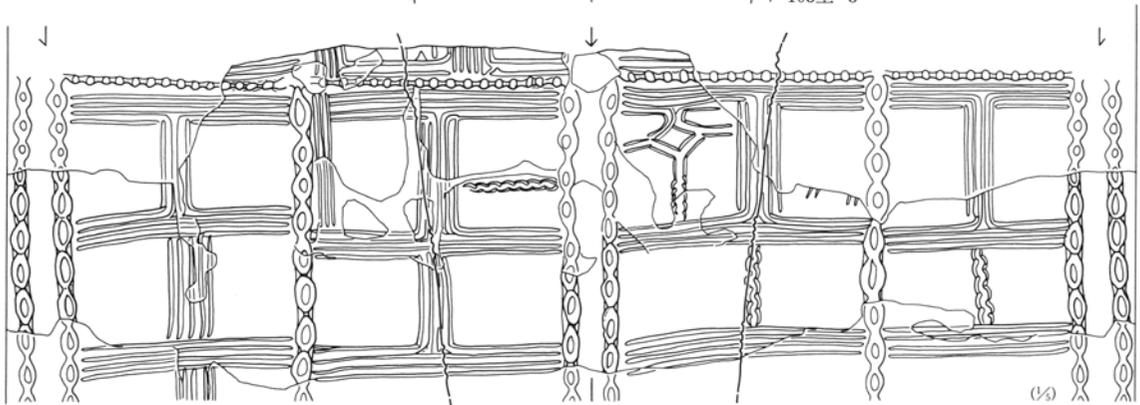
103土-2



(3)



103土-3

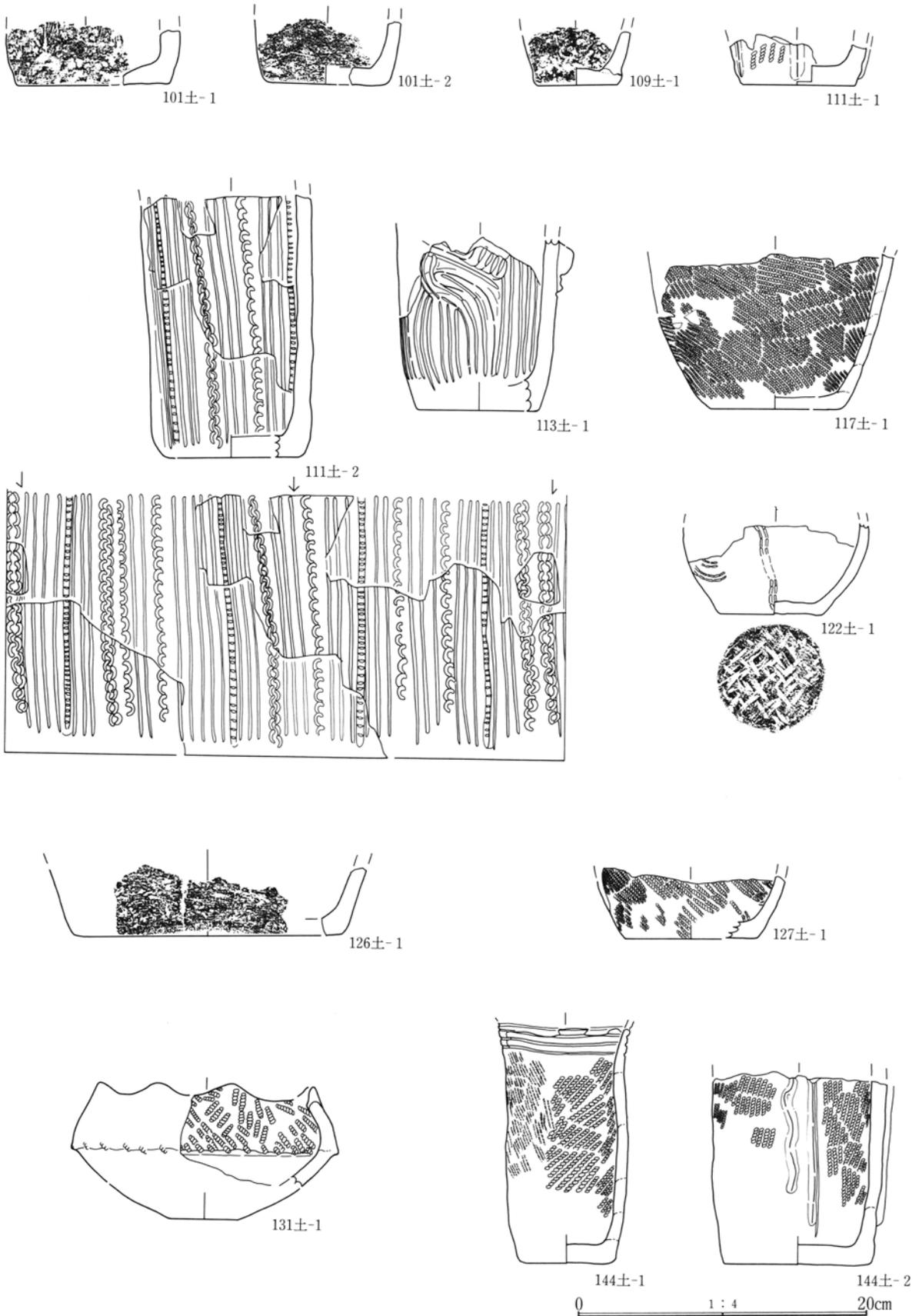


(3)

0 1 : 4 20cm

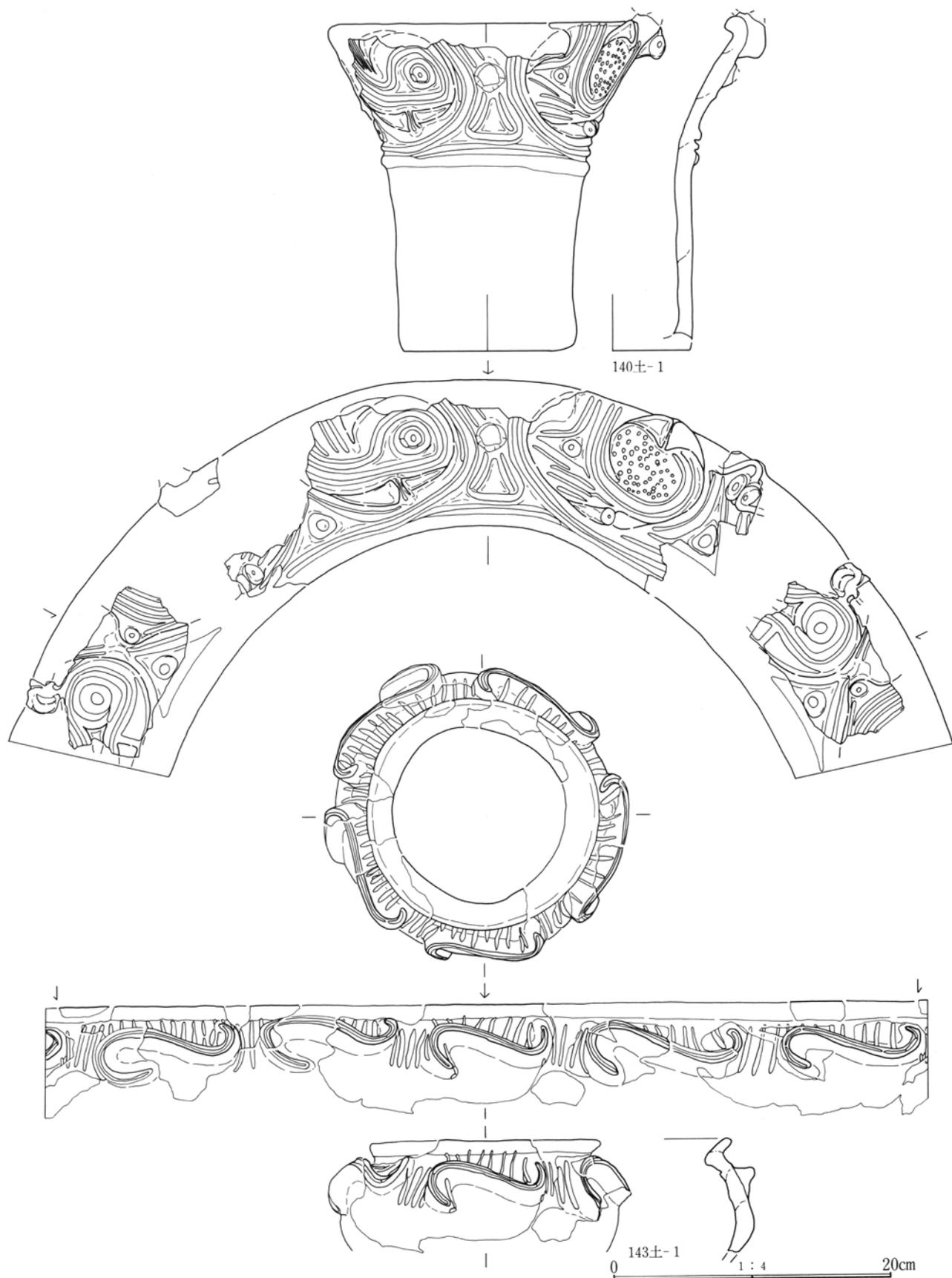
第90図 103号土坑出土土器

1. 縄文時代

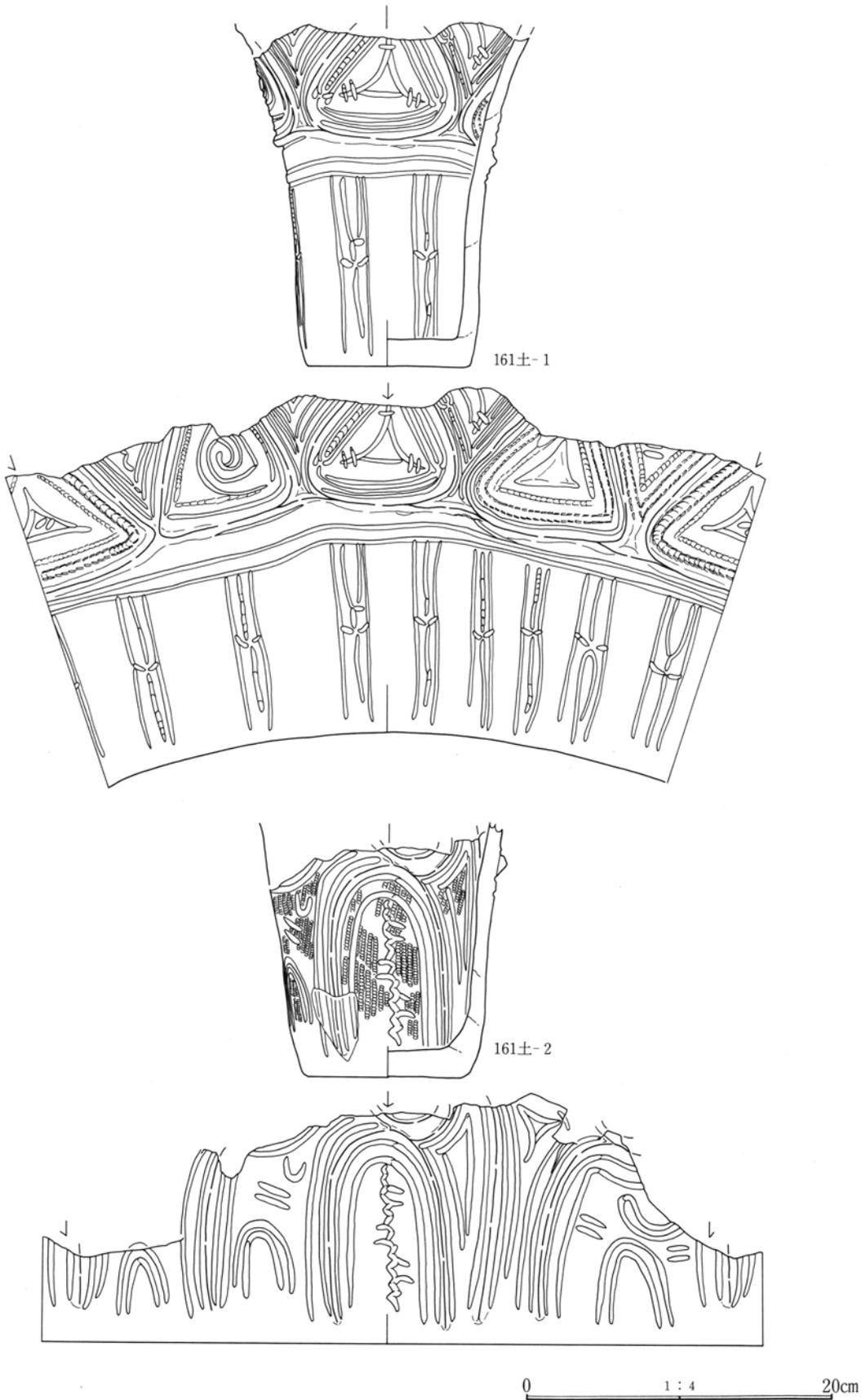


第91図 101・109・111・113・117・122・126・127・131・144号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物

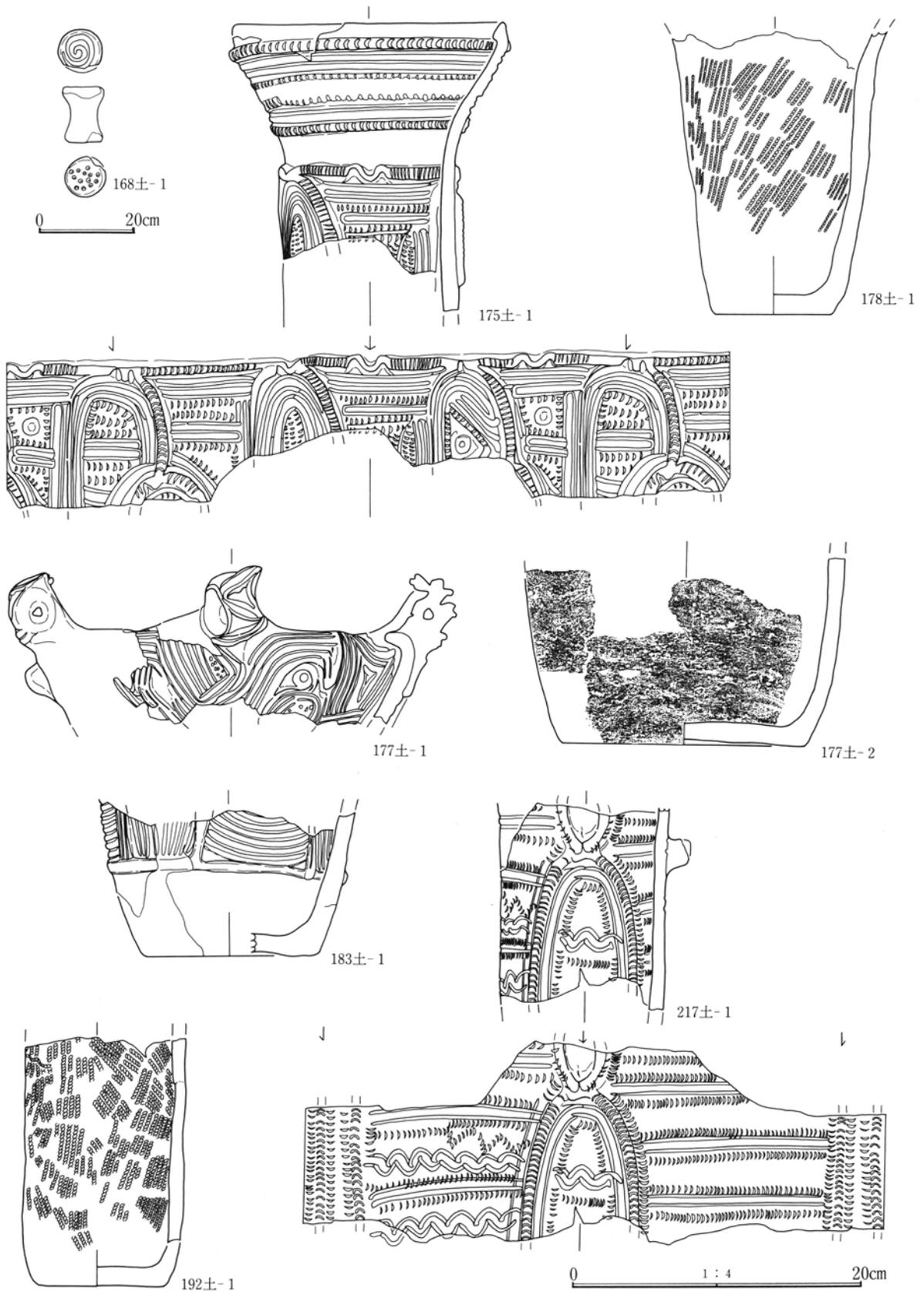


第92図 140・143号土坑出土土器

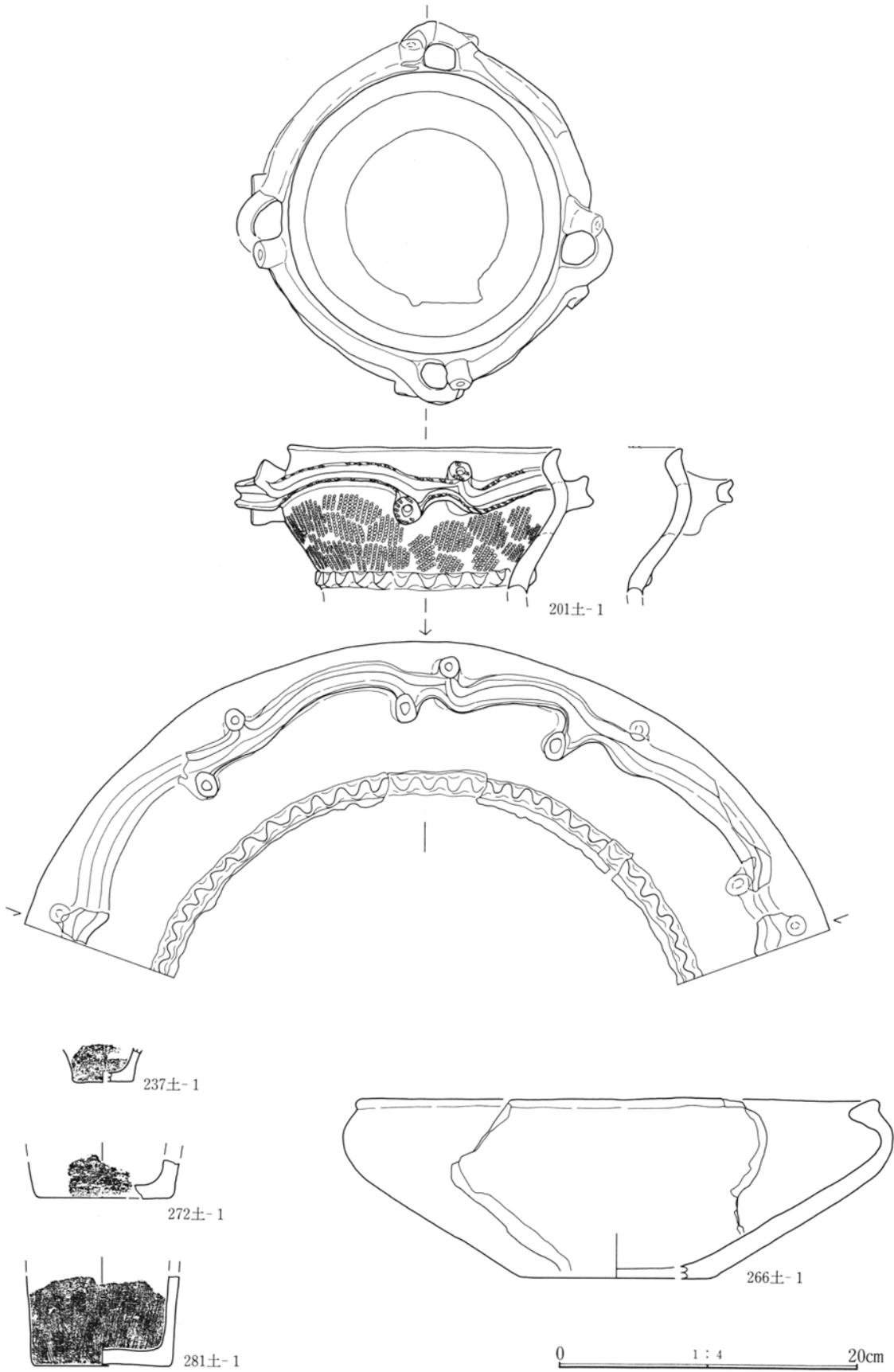


第93図 161号土坑出土土器

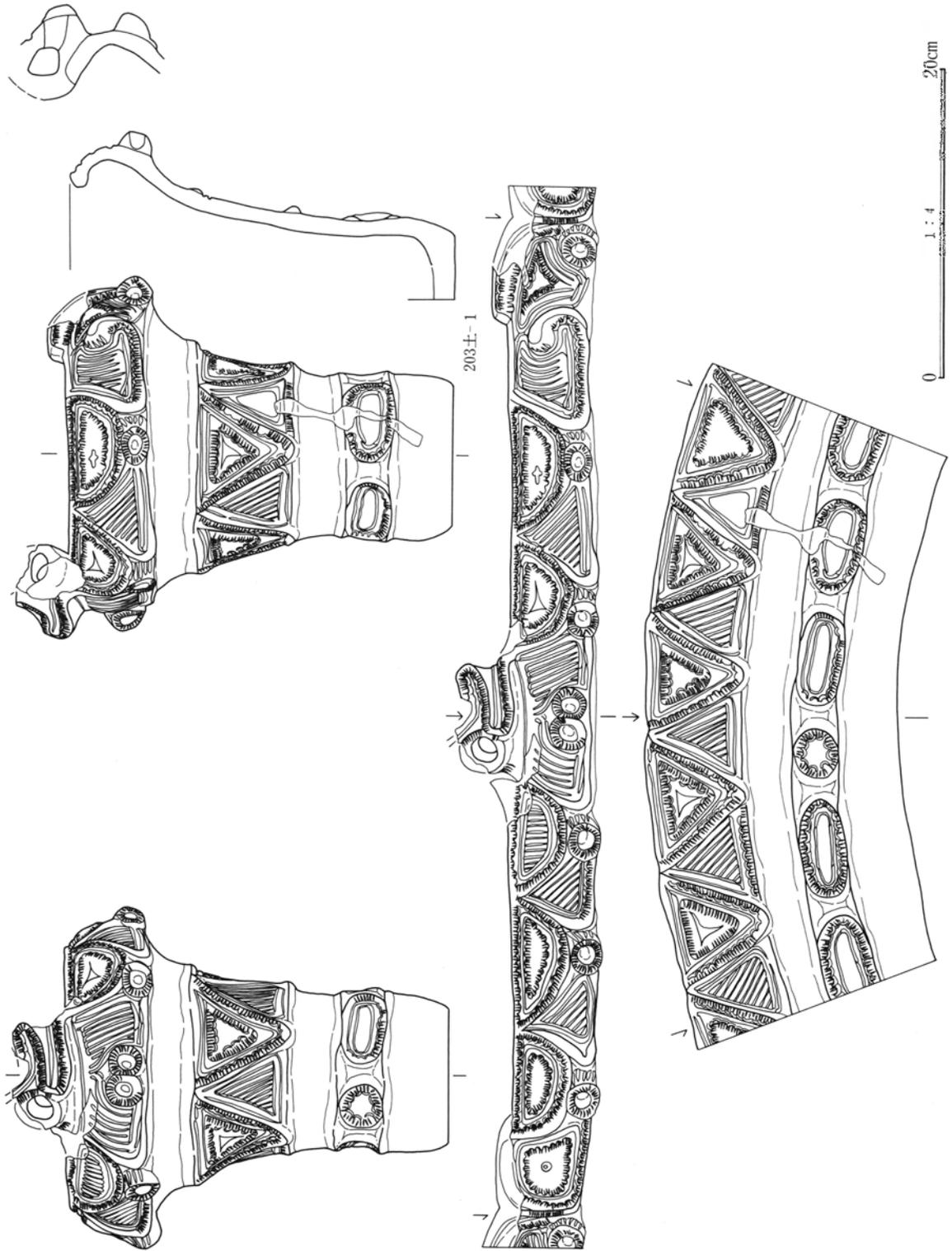
II 検出された遺構と遺物



第94図 168・175・177・178・183・192・217号土坑出土土器

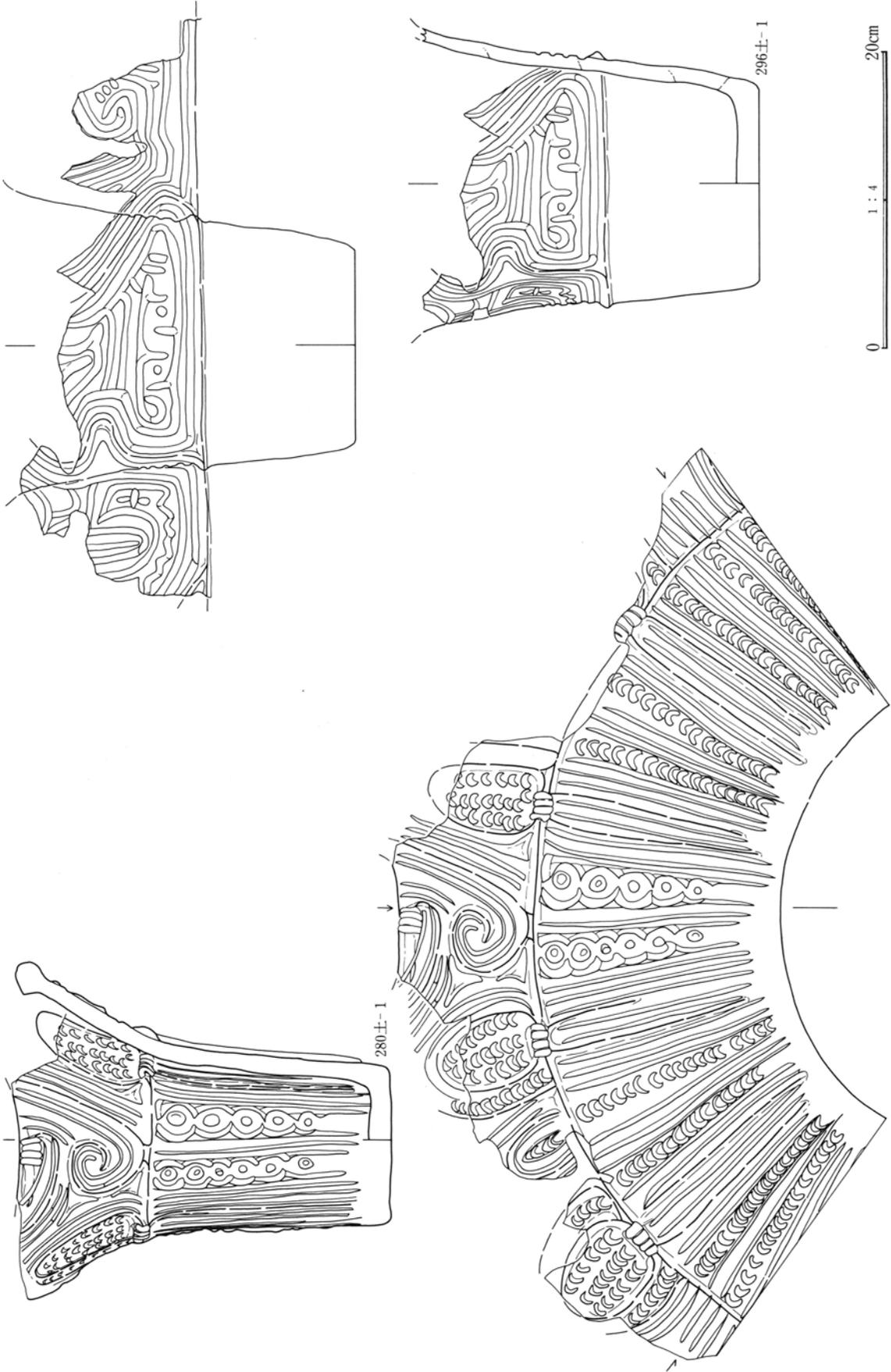


第95図 201・237・266・272・281号土坑出土土器



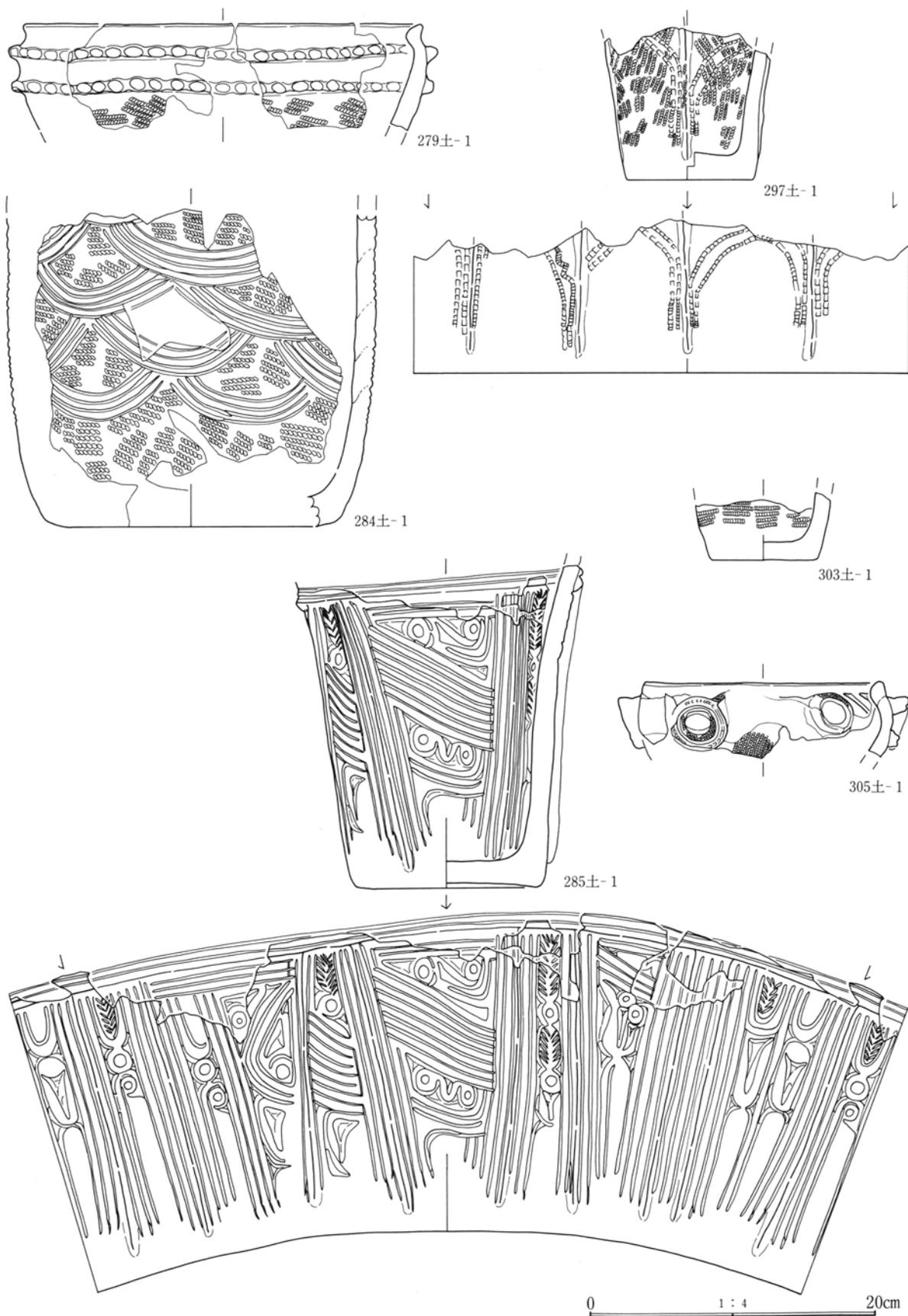
第96図 203号土坑出土土器

1. 縄文時代



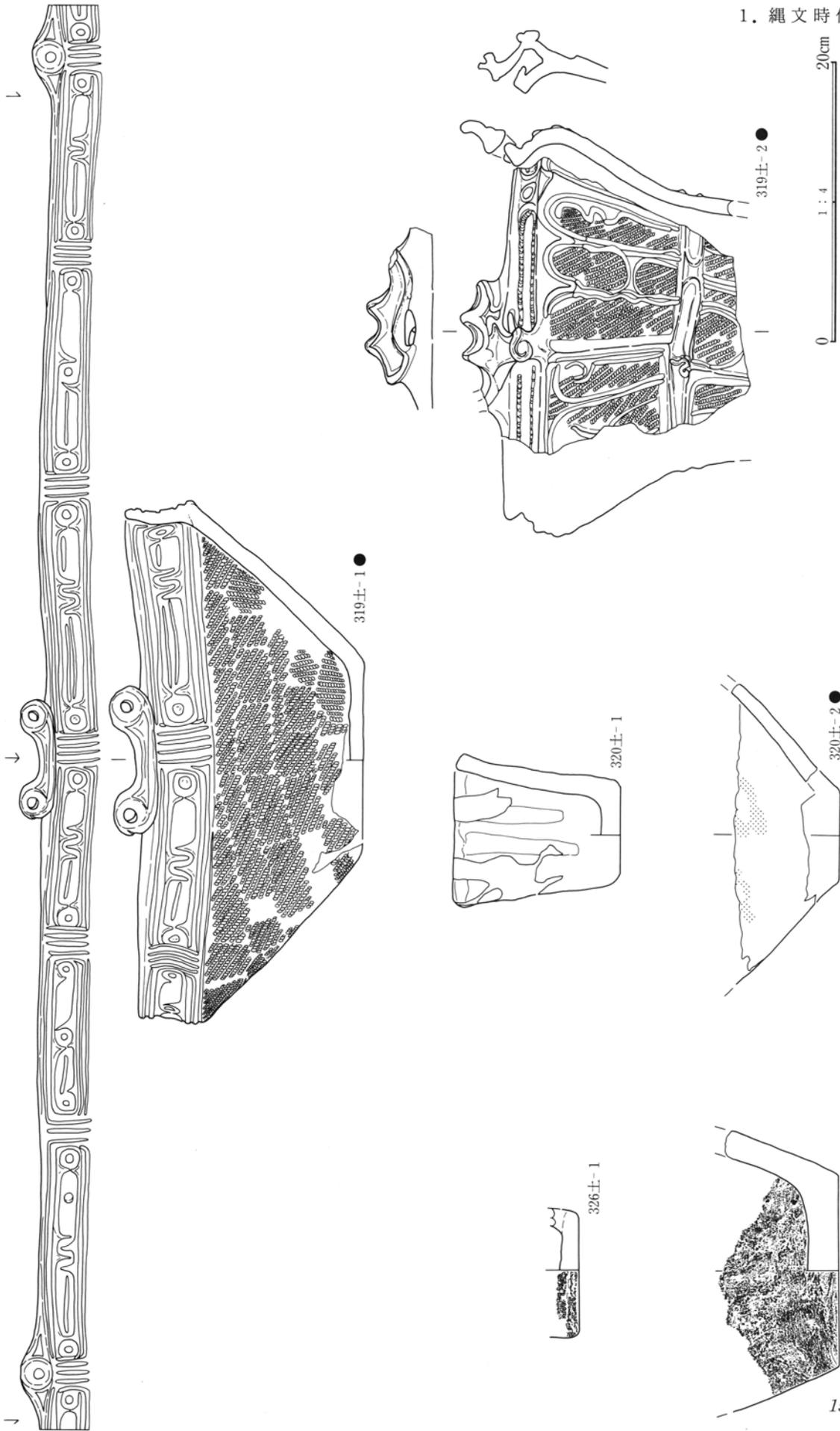
第97図 280・296号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物



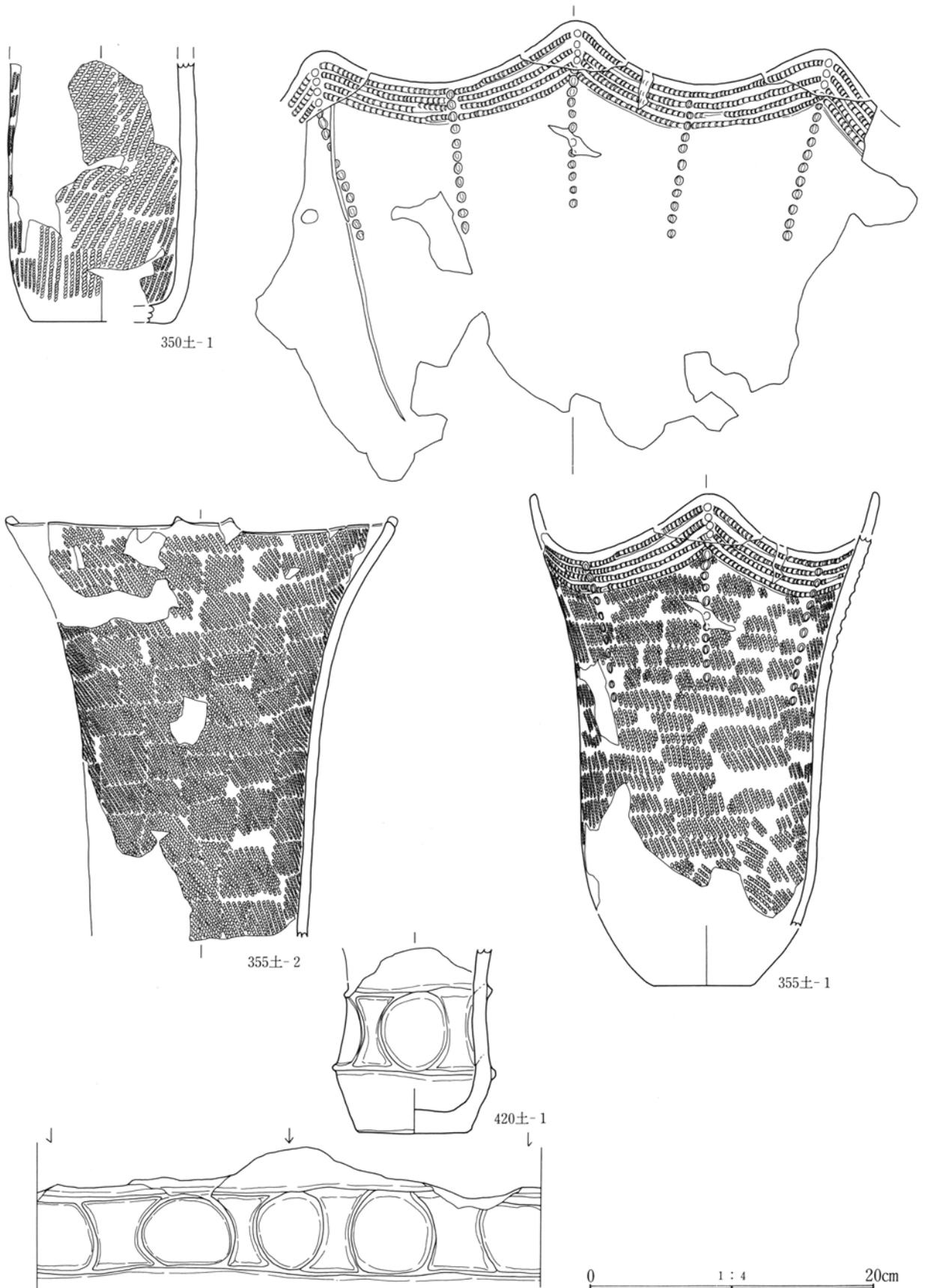
第98図 279・284・285・297・303・305号土坑出土土器

1. 縄文時代



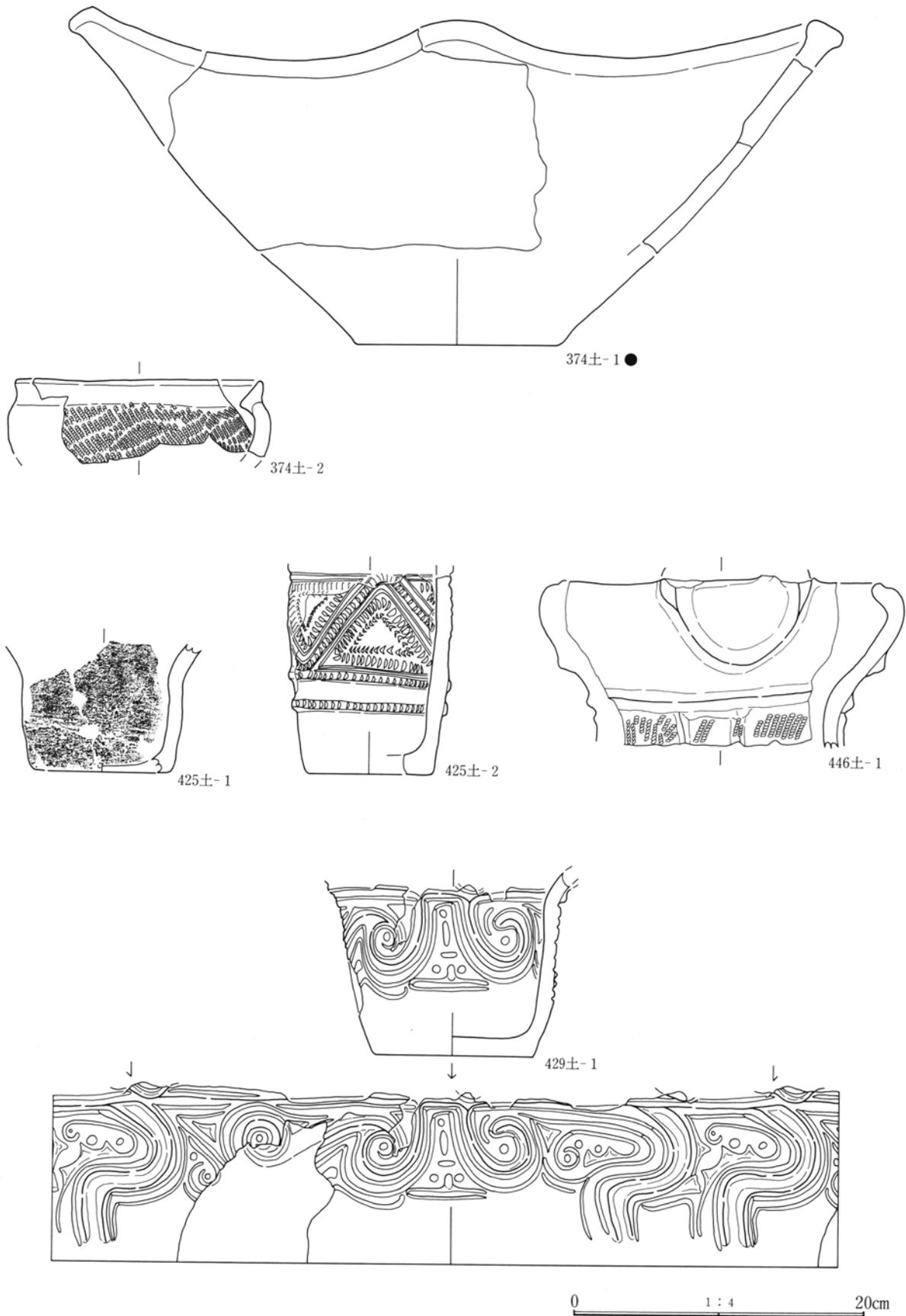
第99図 319・320・326・340号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物



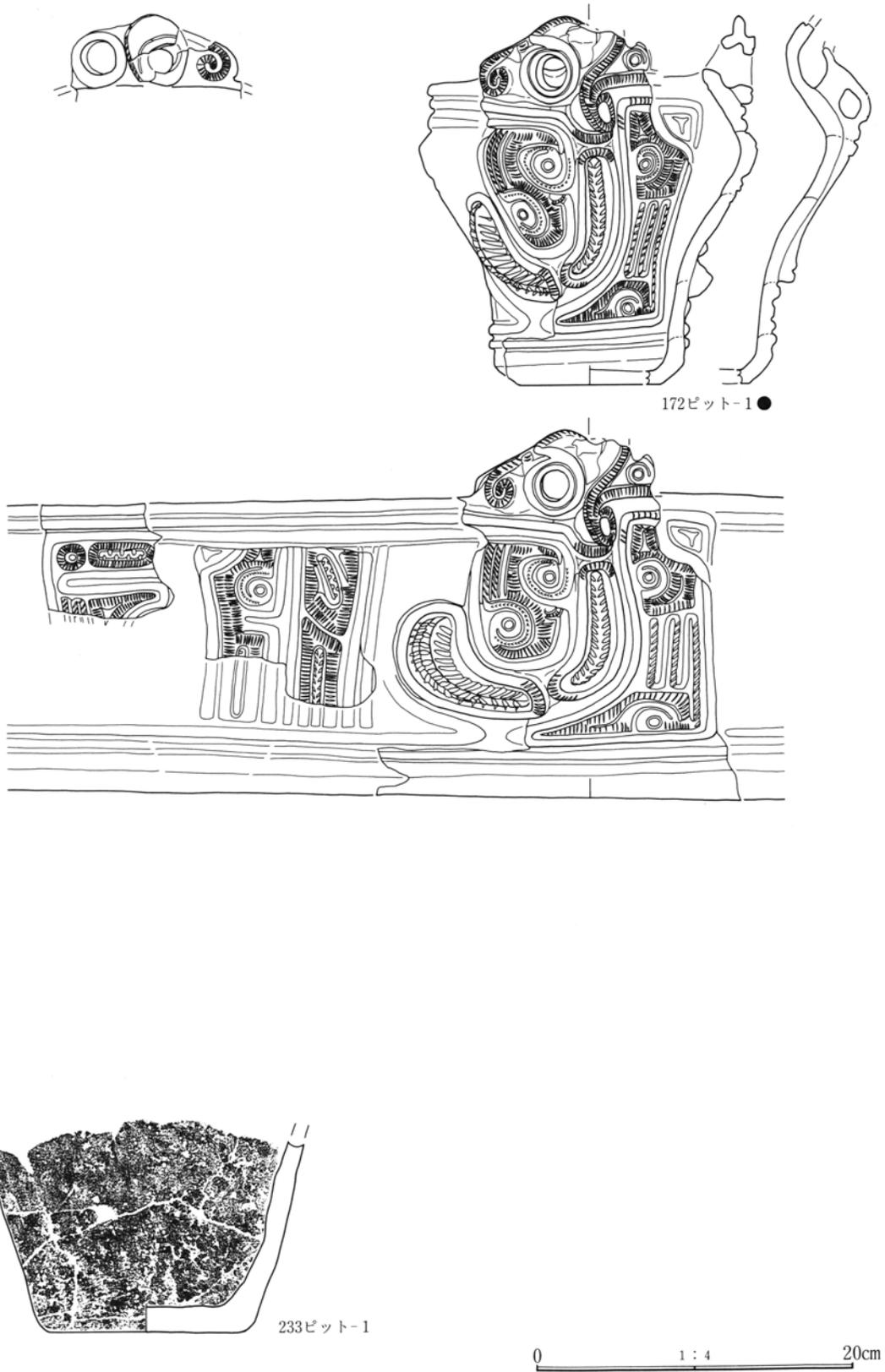
第100図 350・355・420号土坑出土土器

1. 繩文時代

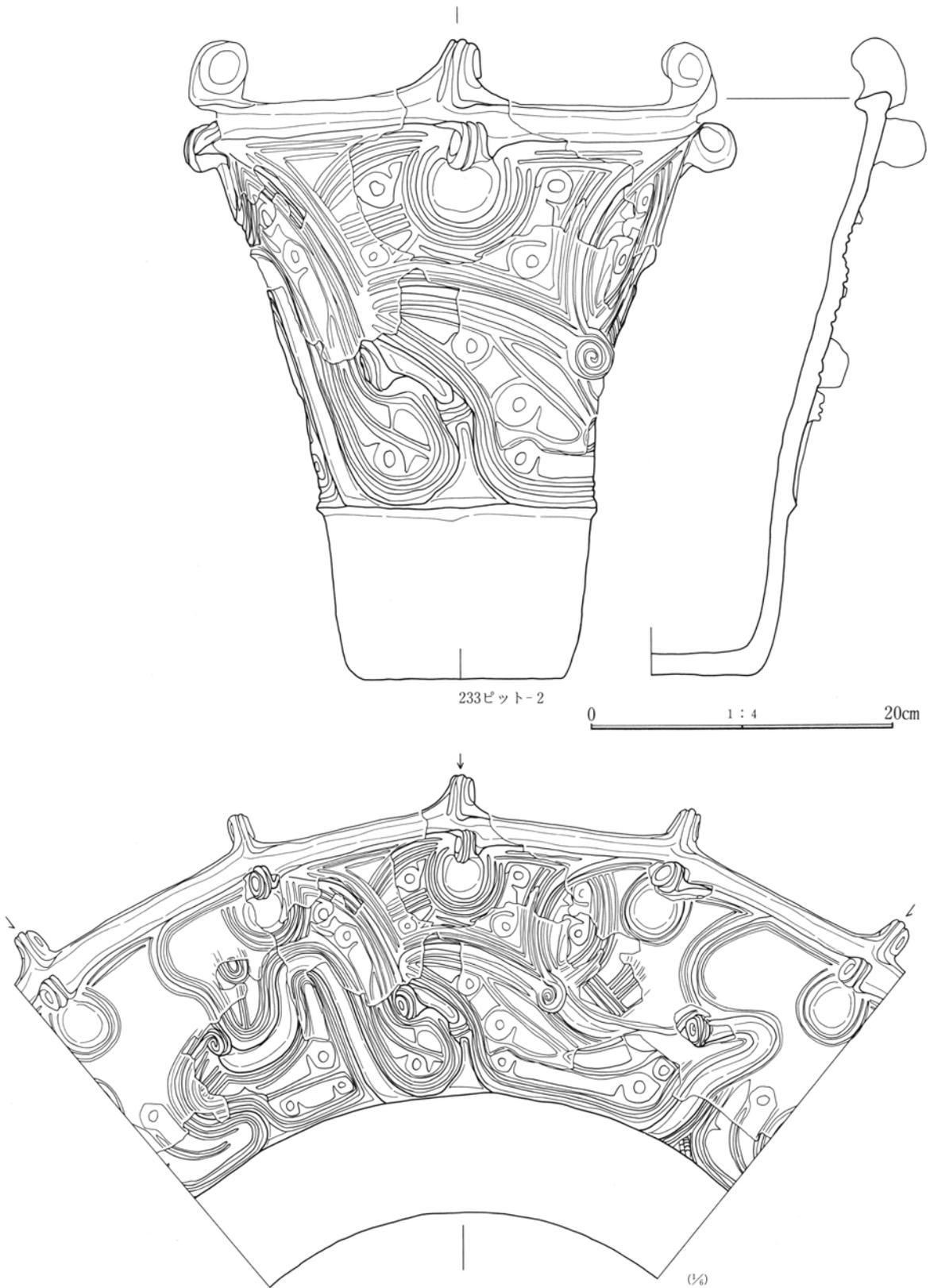


第101図 374・425・429・446号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物

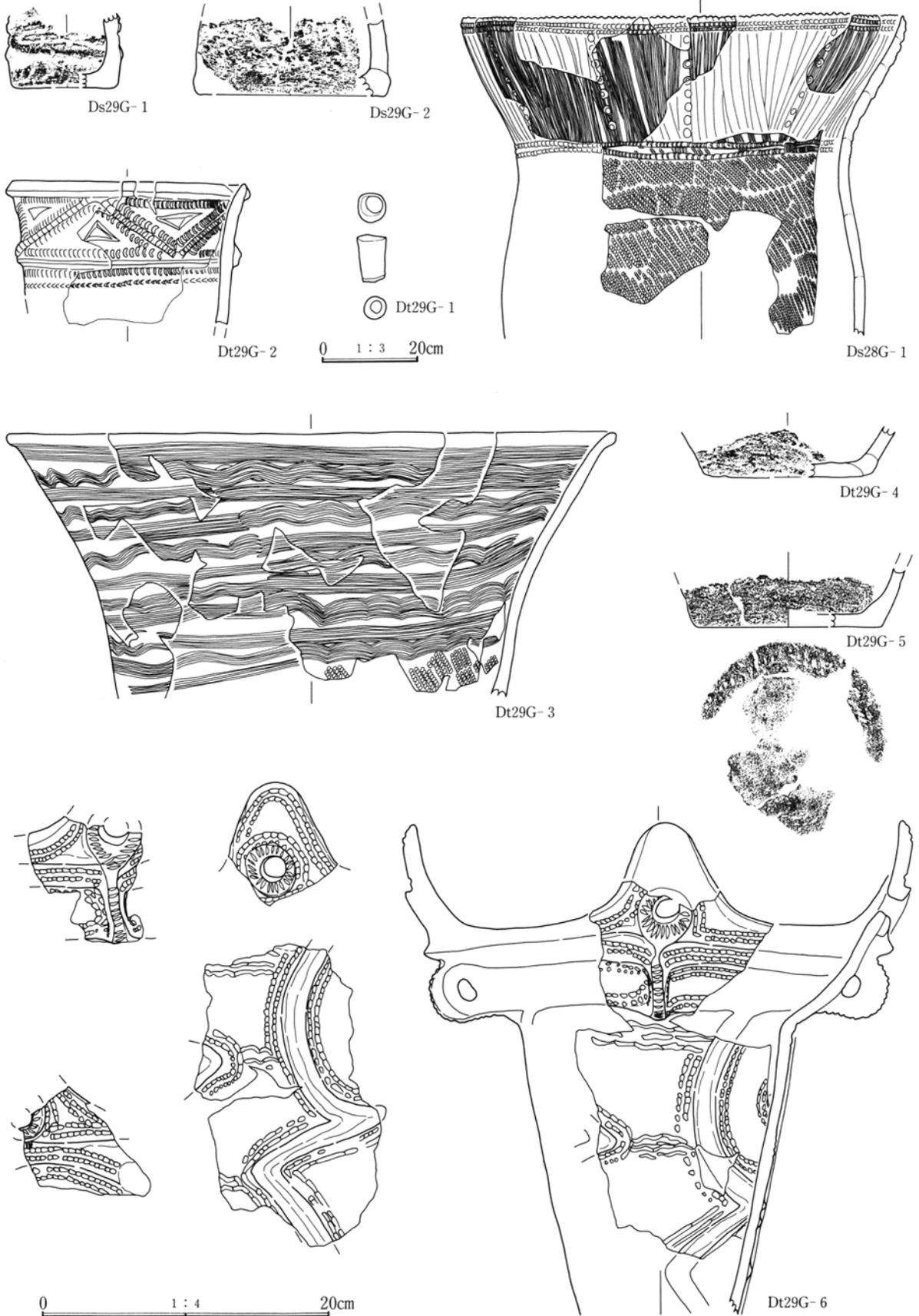


第102図 172・233号ピット出土土器

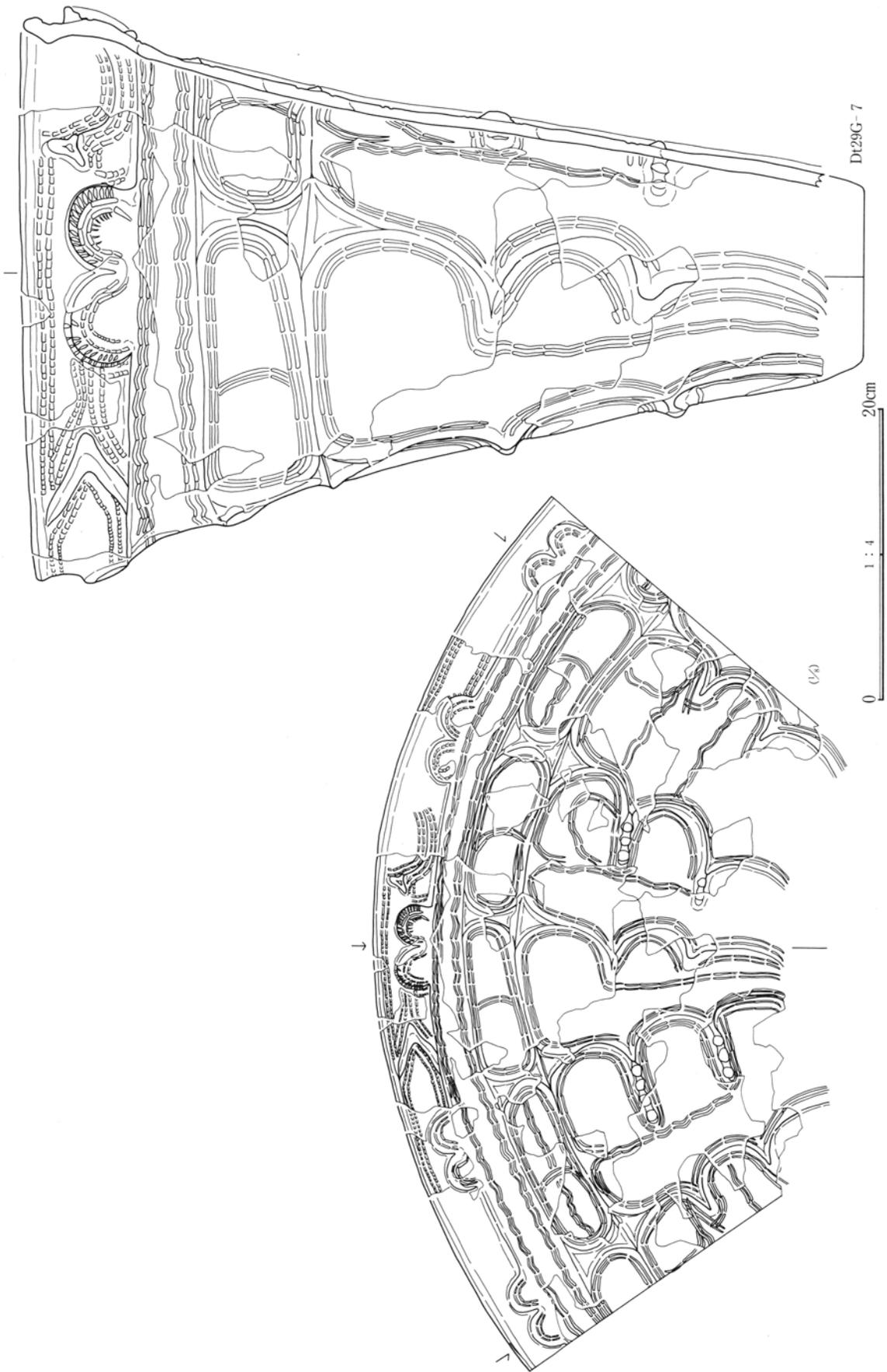


第103図 233号ピット出土土器

II 検出された遺構と遺物

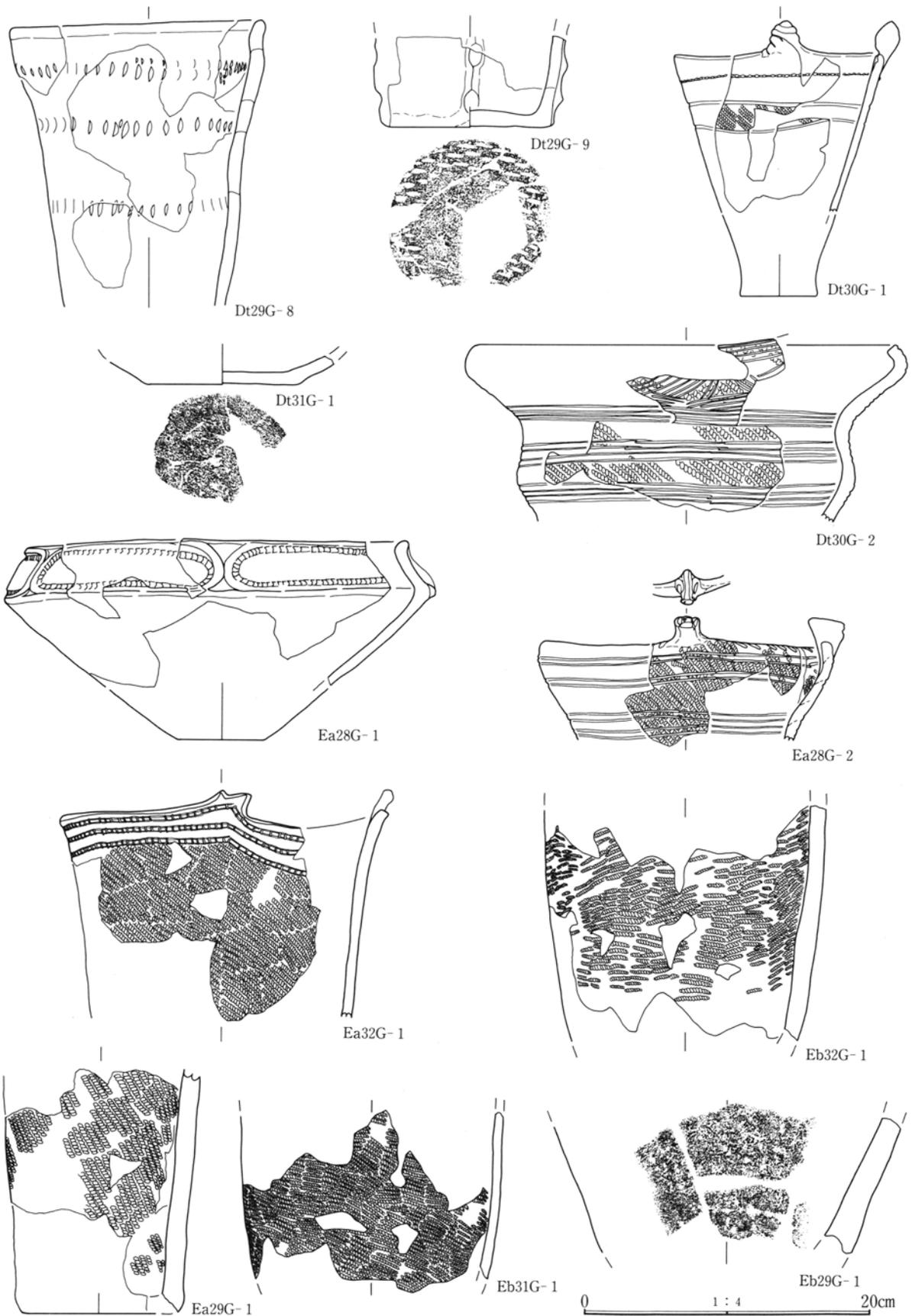


第104図 グリッド出土土器(1)



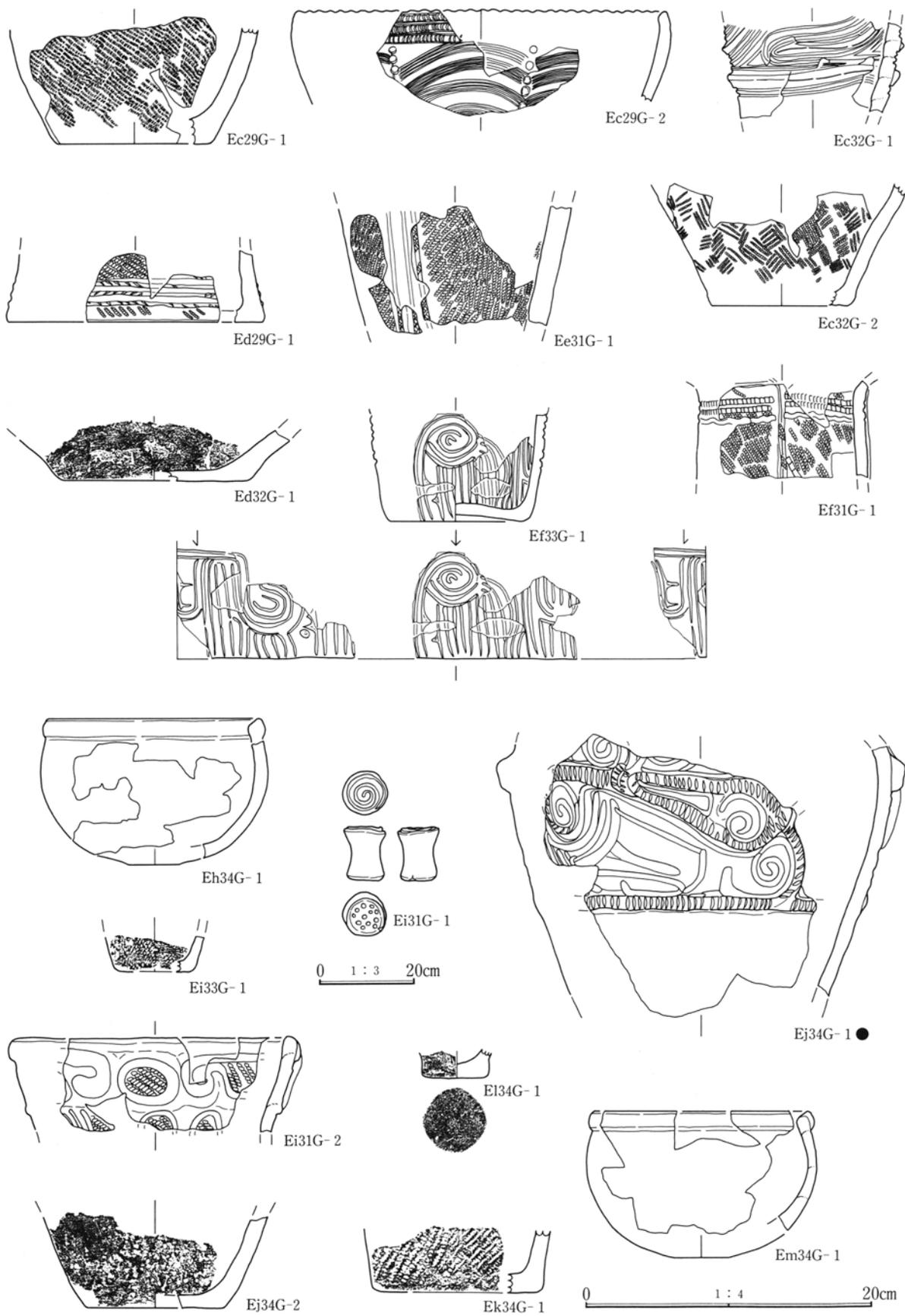
第105図 グリッド出土土器(2)

II 検出された遺構と遺物



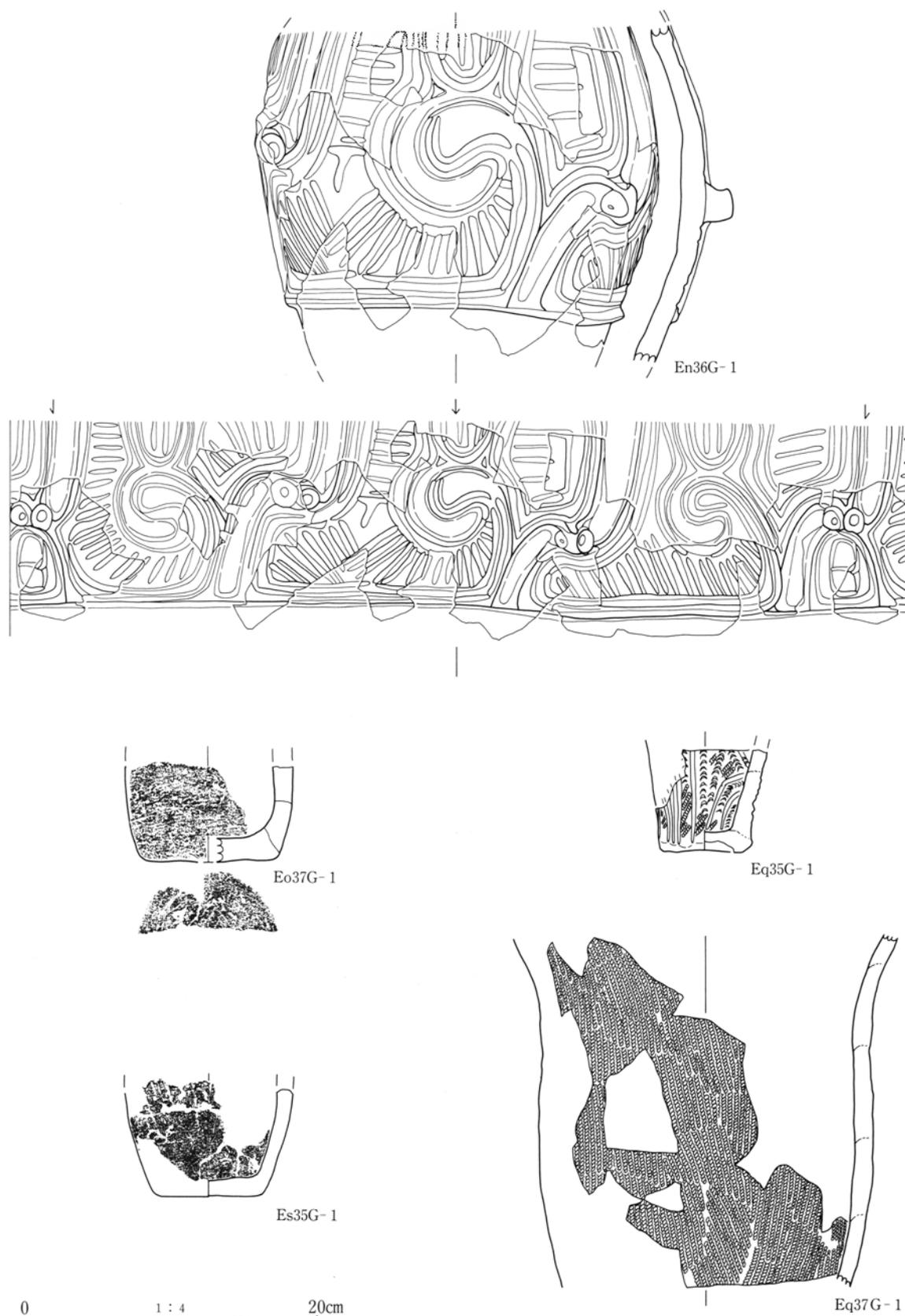
第106図 グリッド出土土器(3)

1. 縄文時代

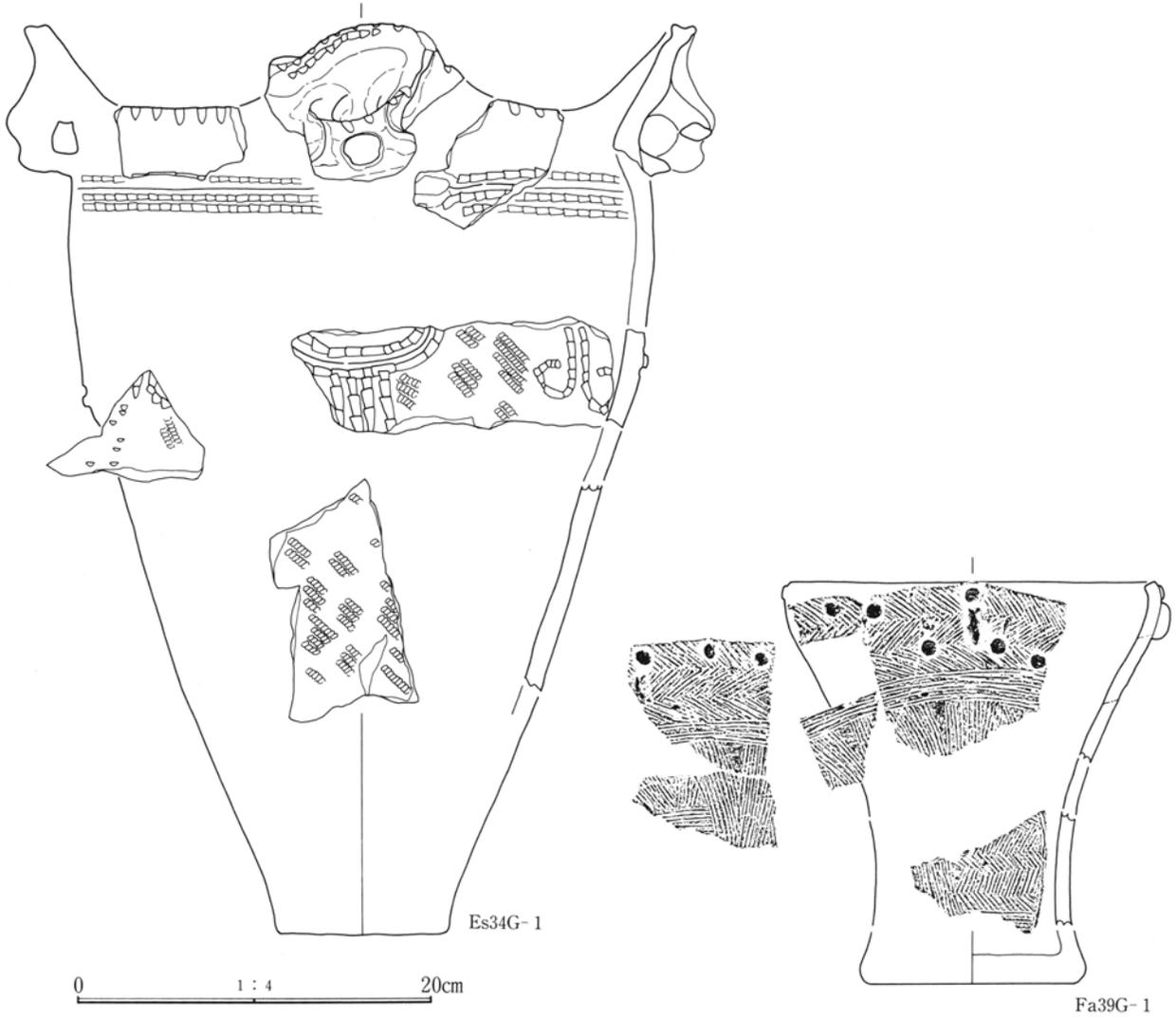


第107図 グリッド出土土器(4)

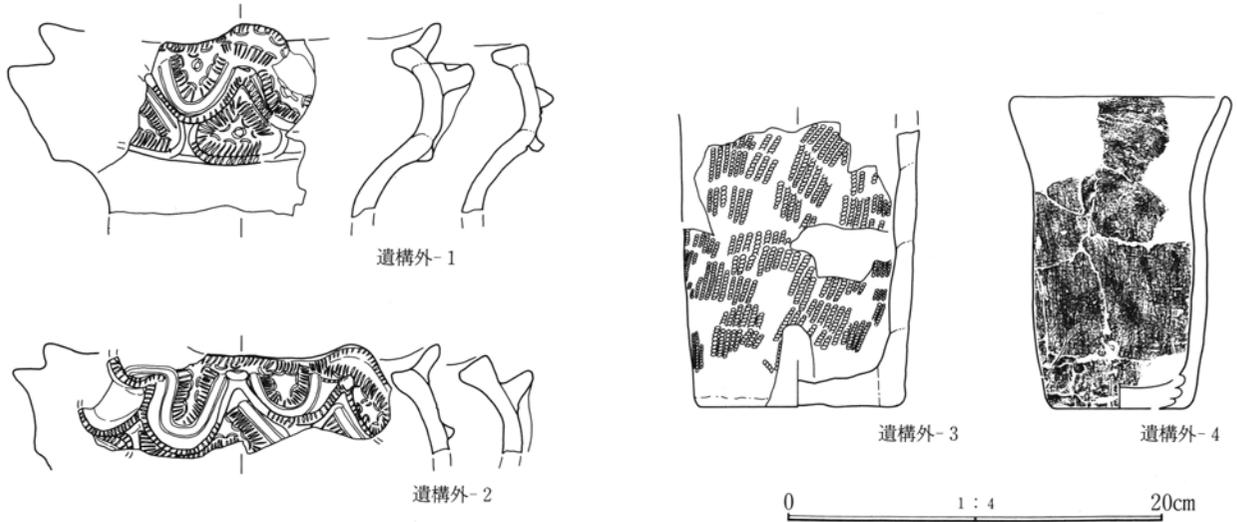
II 検出された遺構と遺物



第108図 グリッド出土土器(5)

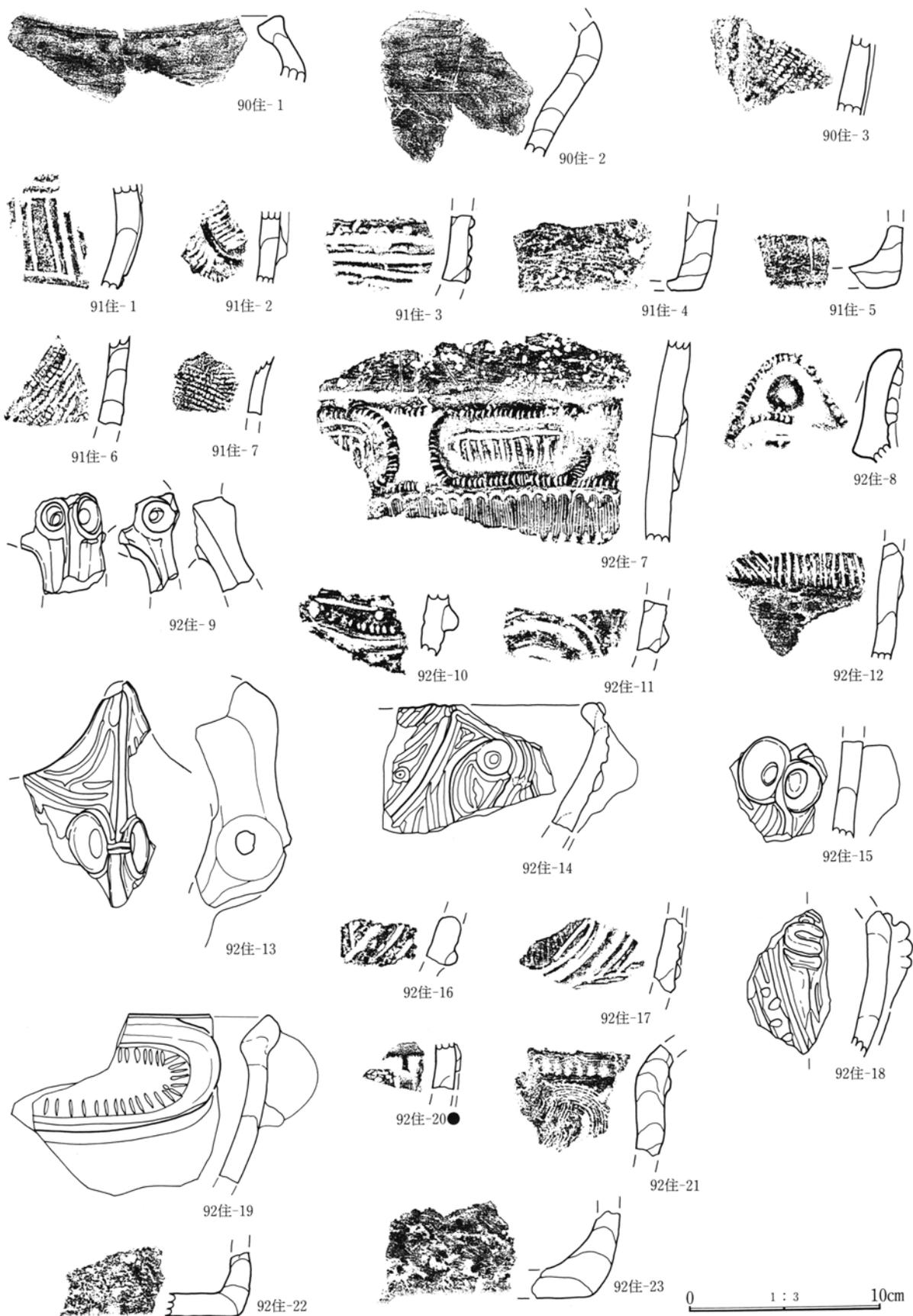


第109図 グリッド出土土器(6)



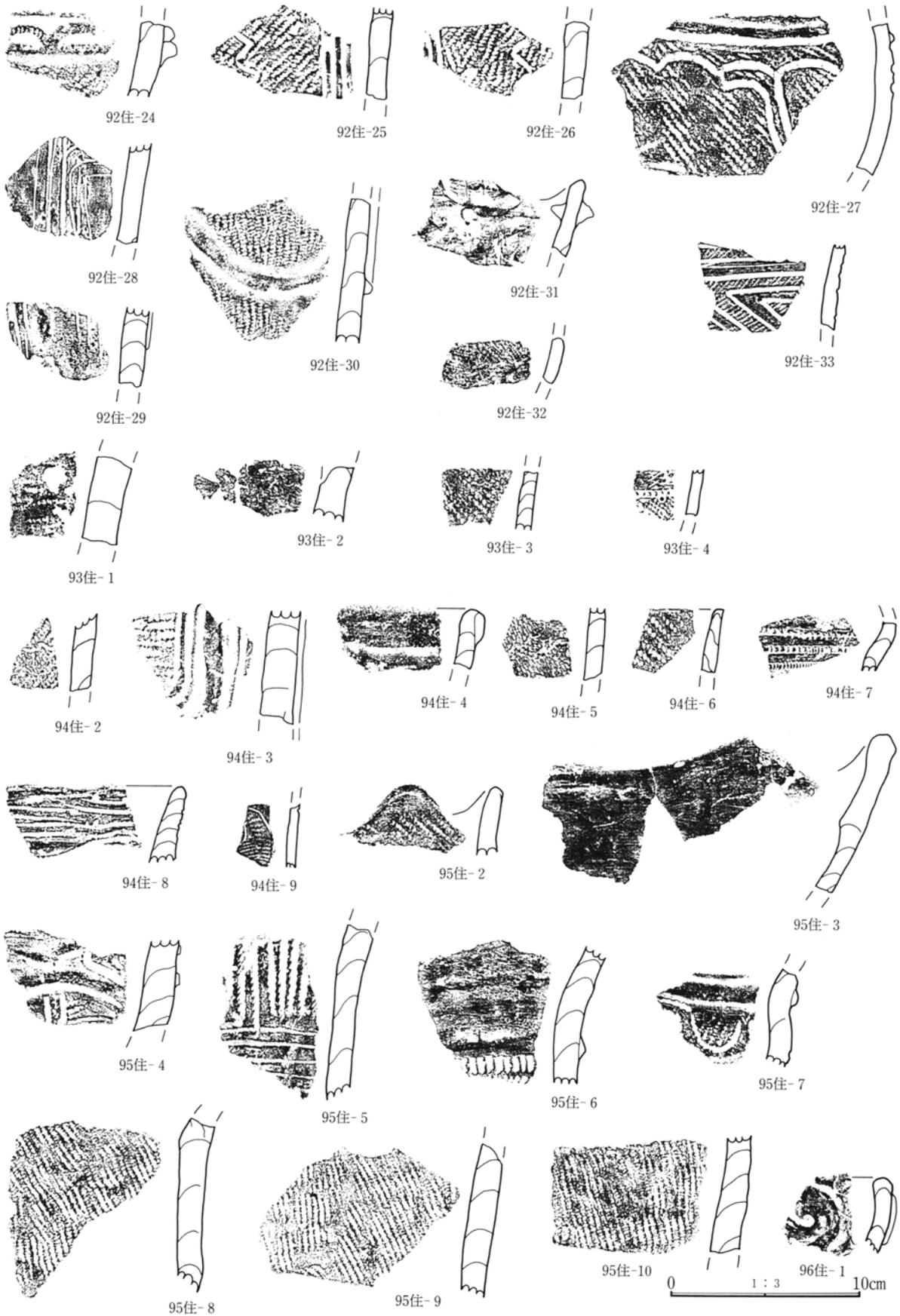
第110図 遺構外出土土器

II 検出された遺構と遺物



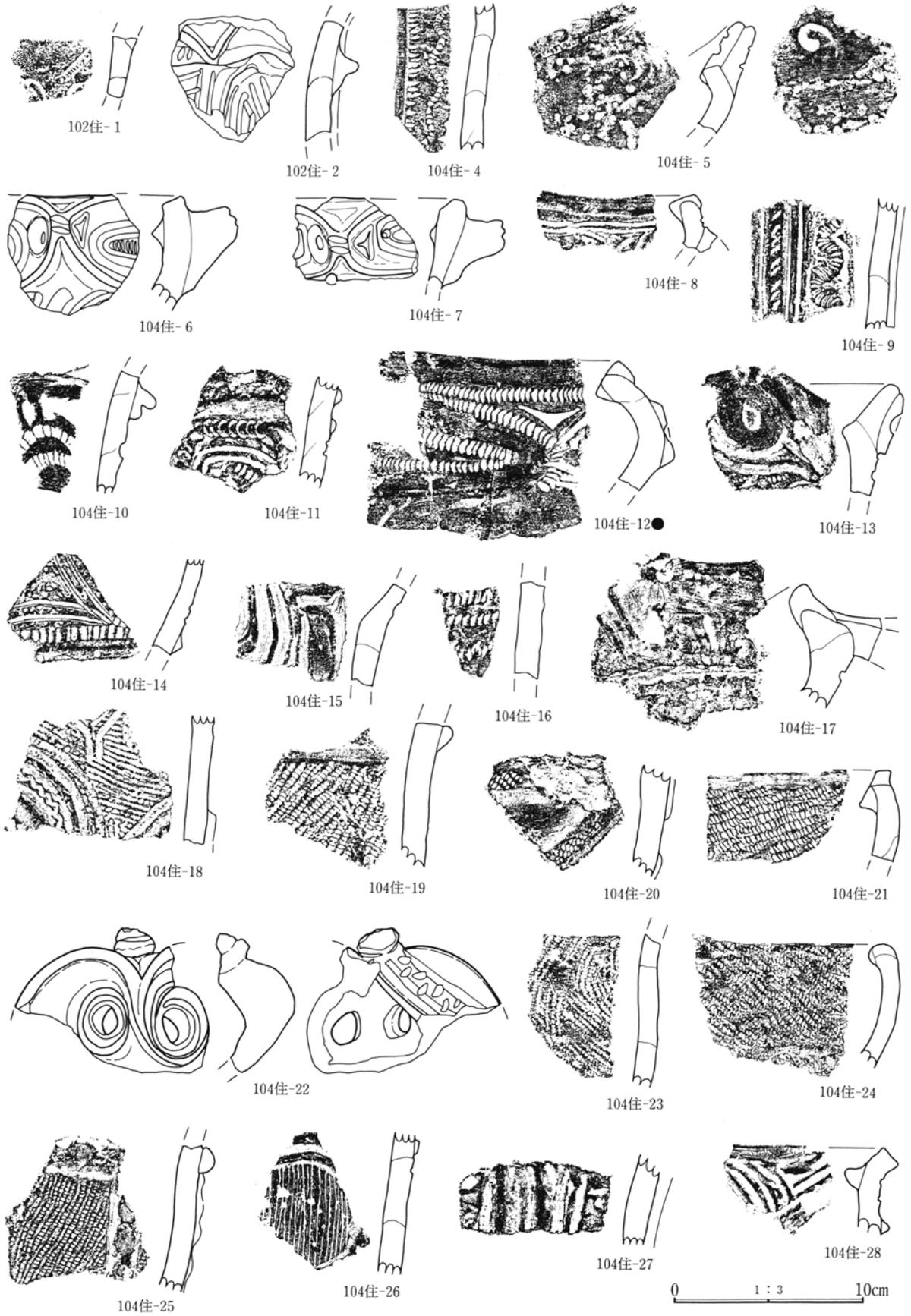
第111図 90・91・92号住居跡出土土器

1. 縄文時代



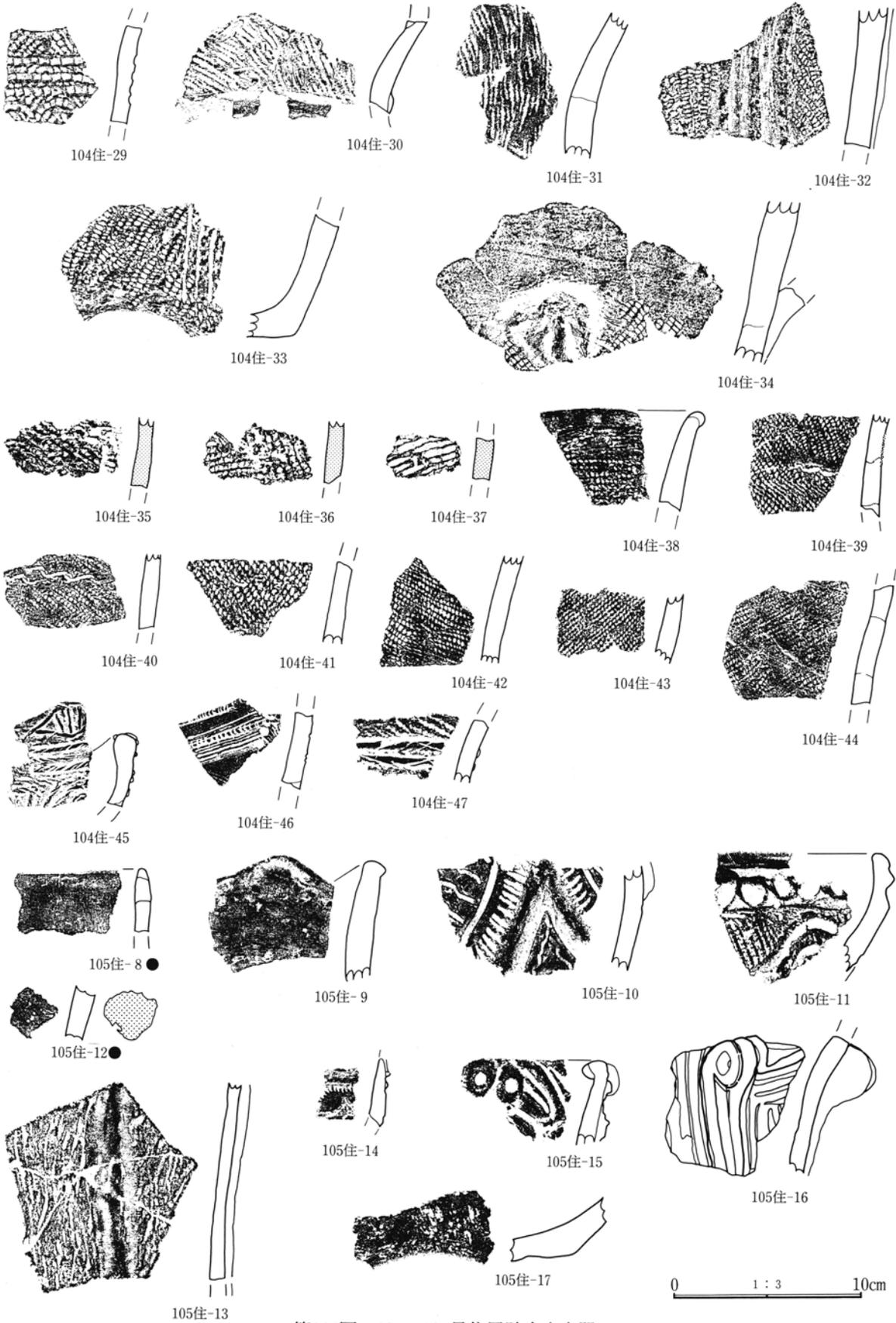
第112図 92・93・94・95・96号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物



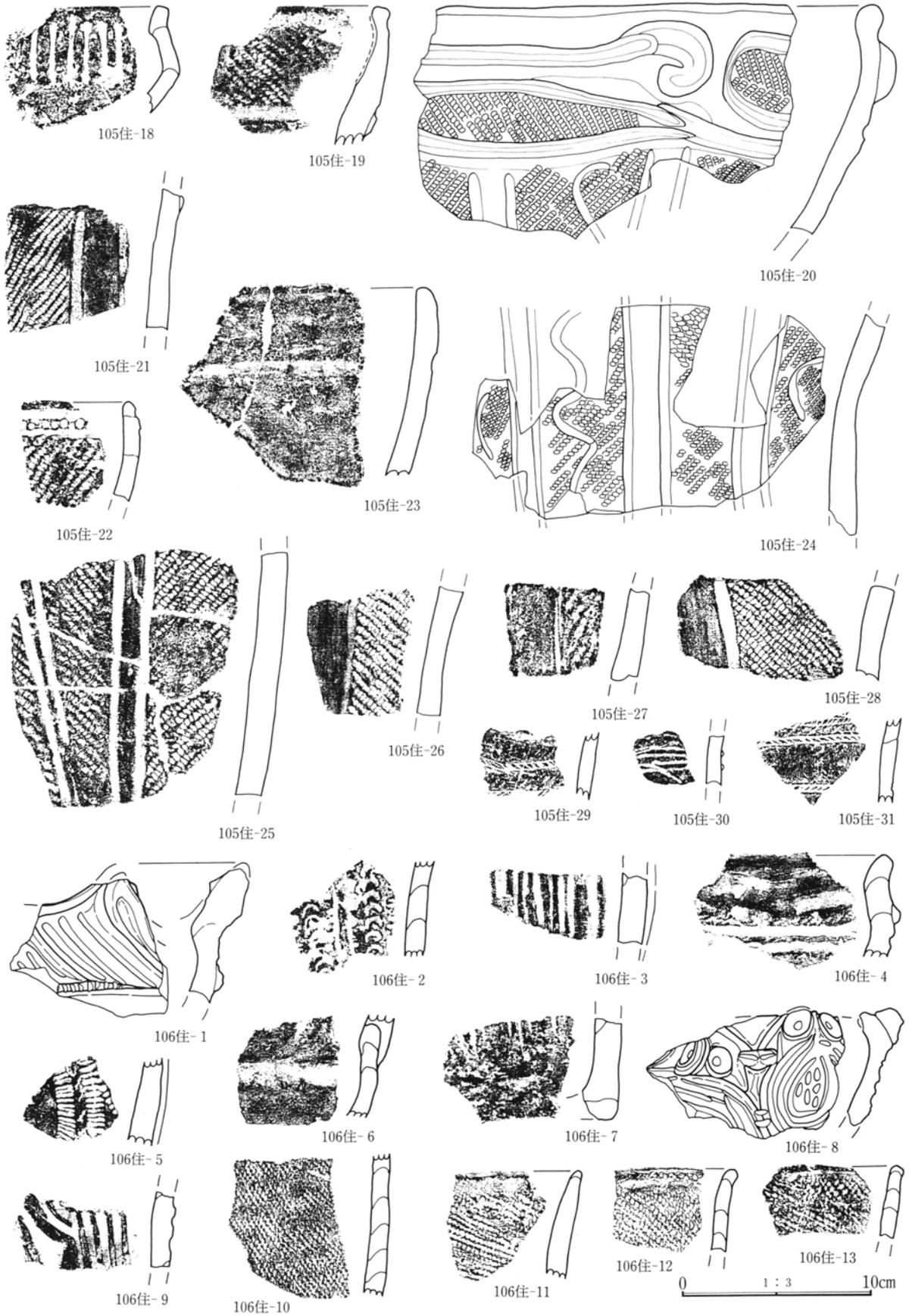
第113図 102・104号住居跡出土土器

1. 縄文時代



第114図 104・105号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物

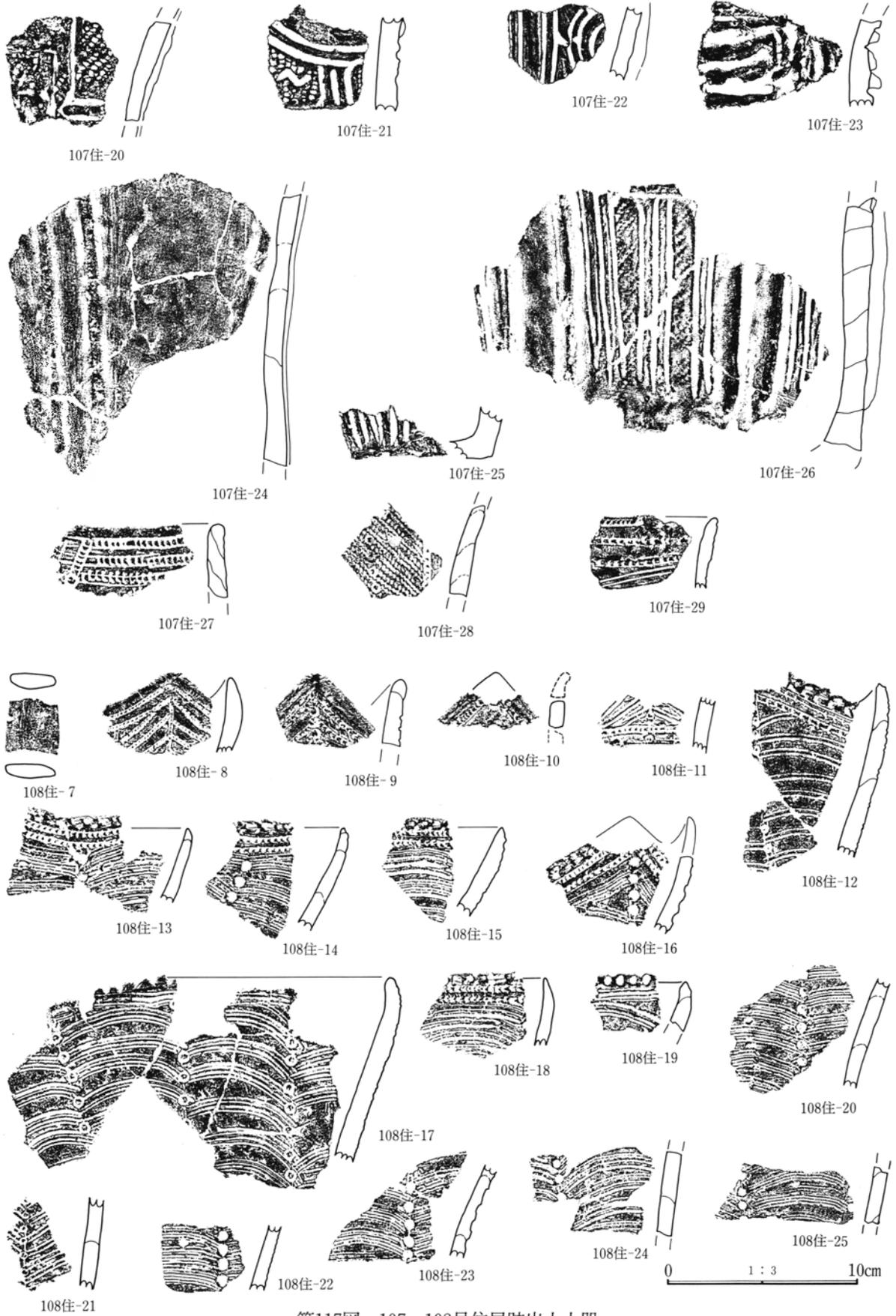


第115図 105・106号住居跡出土土器



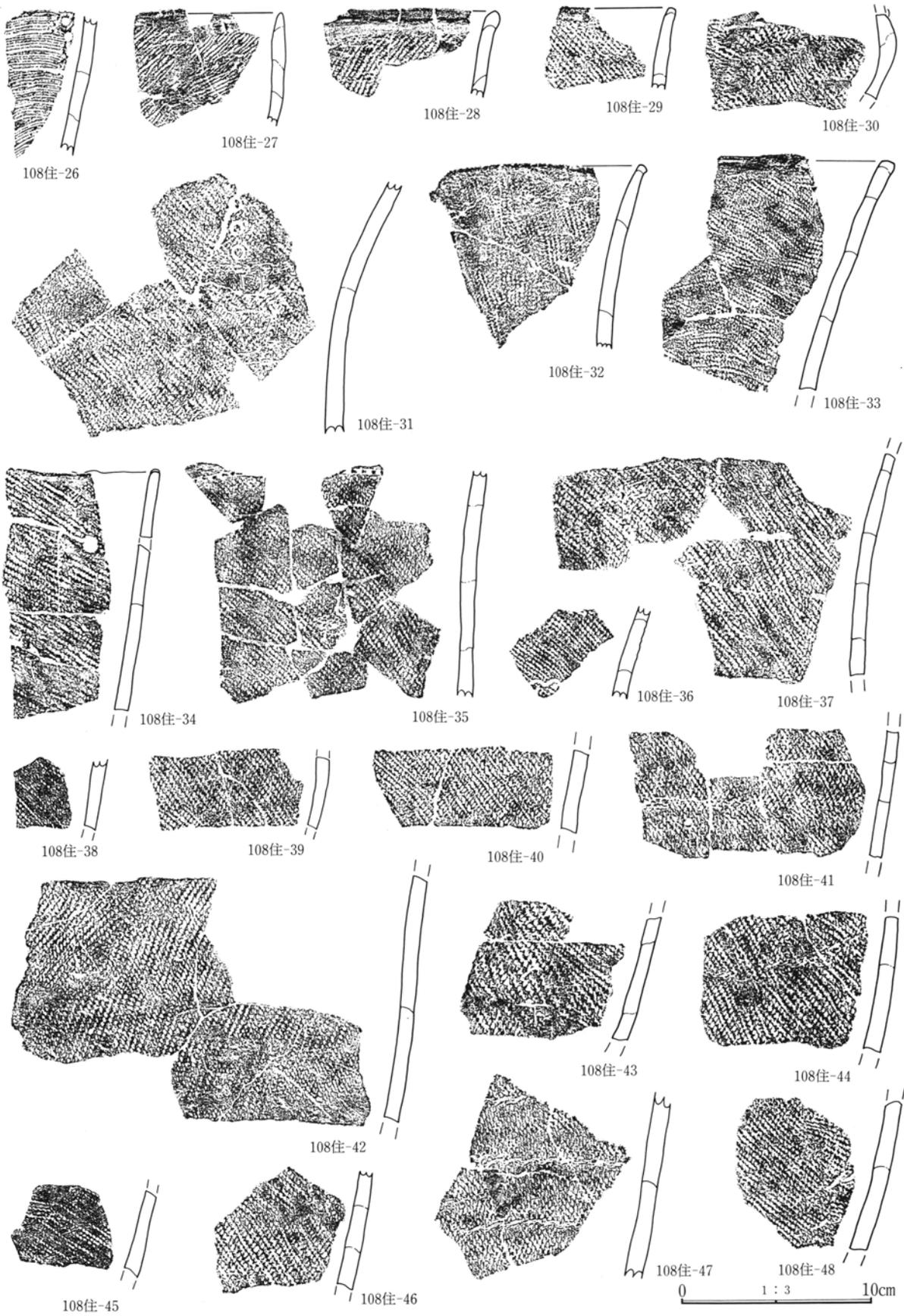
第116図 106・107号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物



第117図 107・108号住居跡出土土器

1. 縄文時代



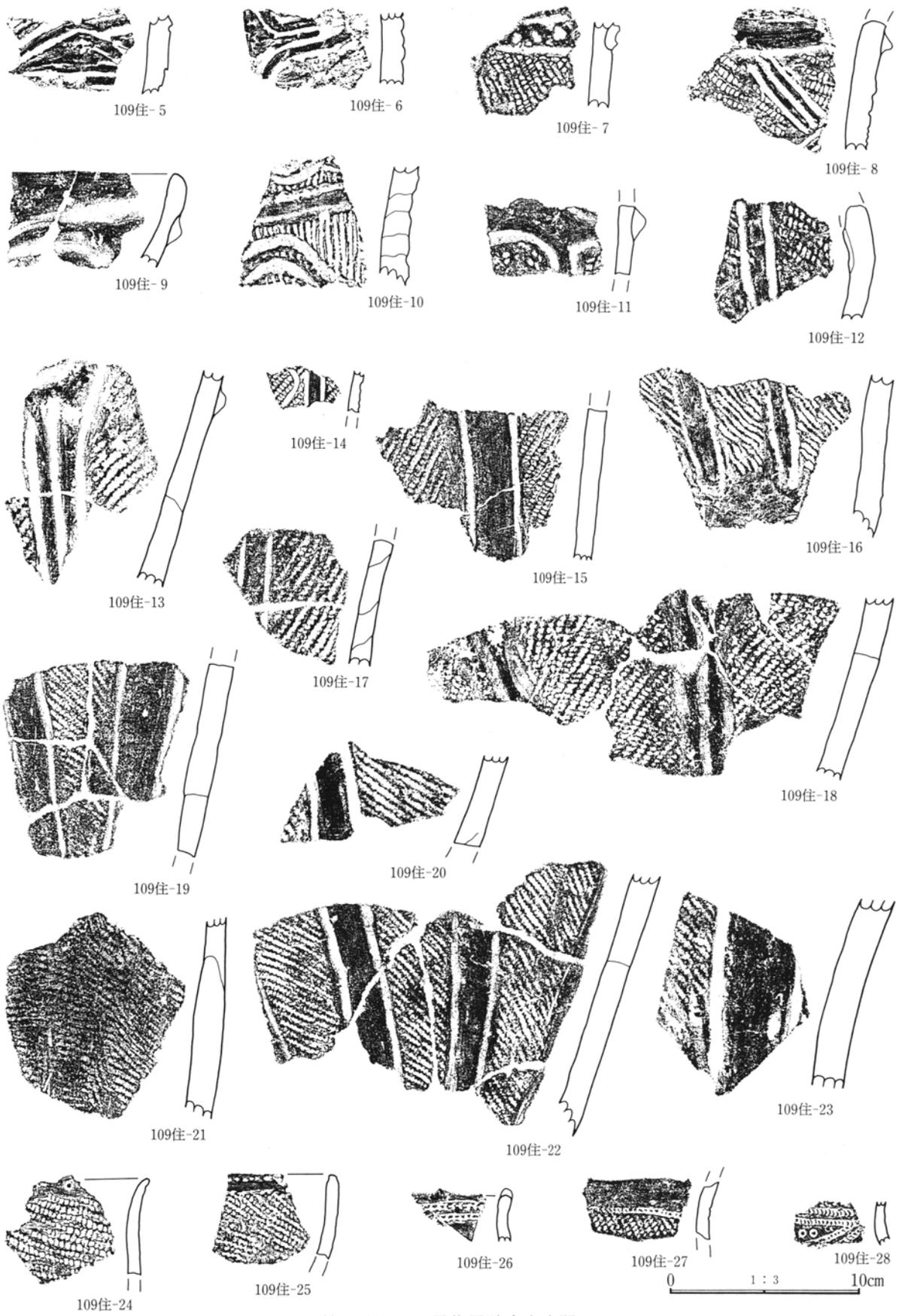
第118図 108号住居跡出土土器(1)

II 検出された遺構と遺物



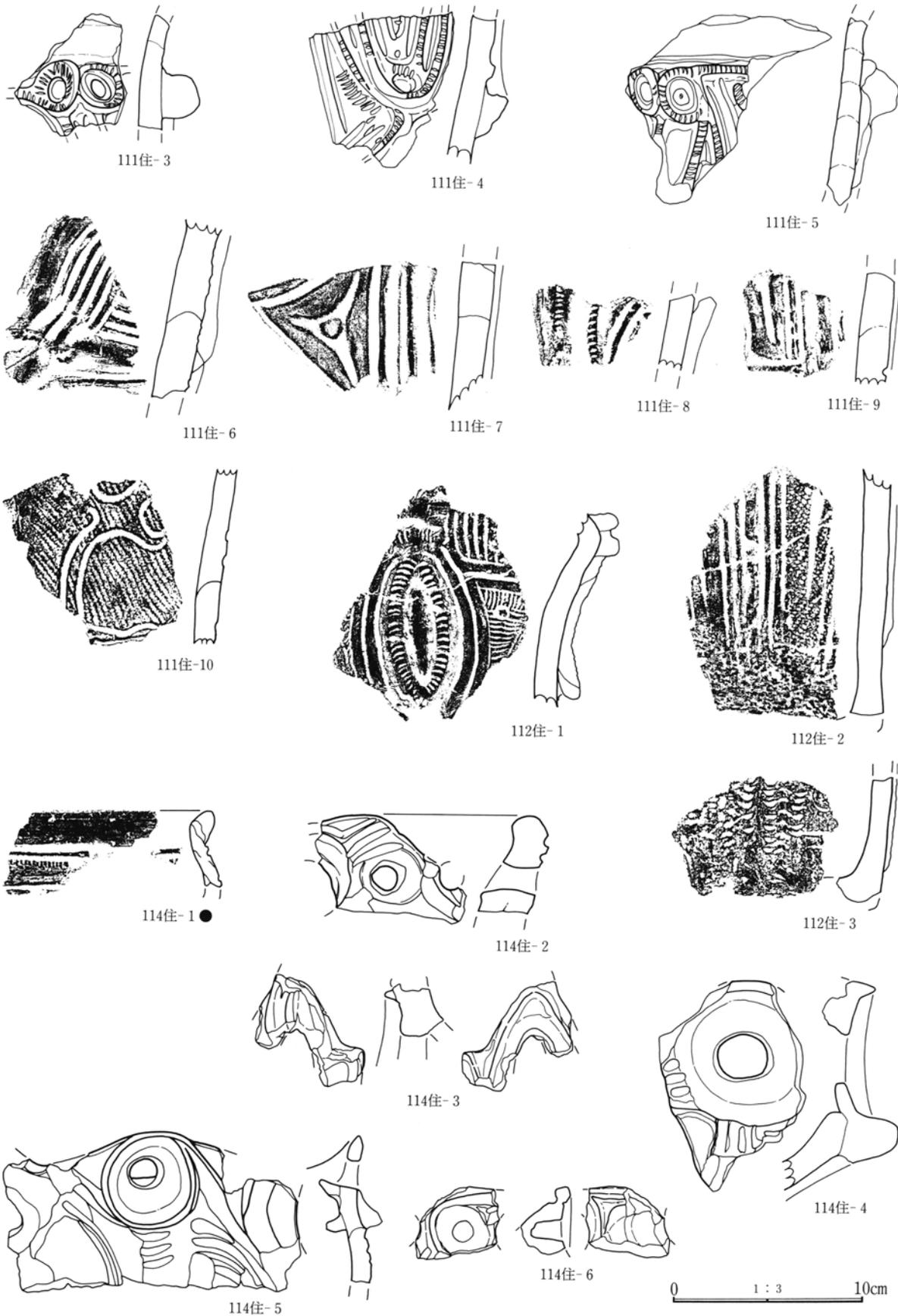
第119図 108号住居跡出土土器(2)

1. 縄文時代



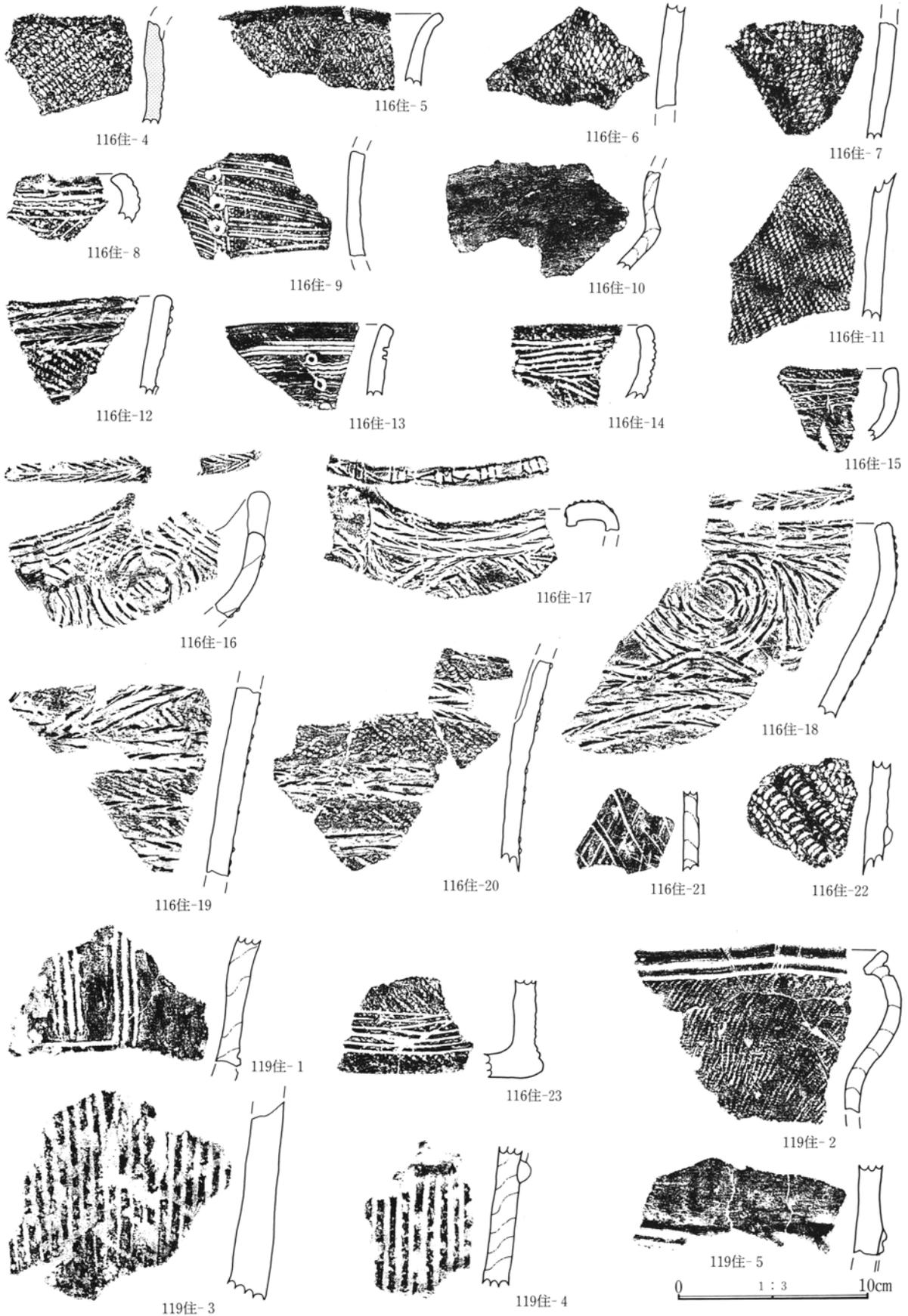
第120図 109号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物



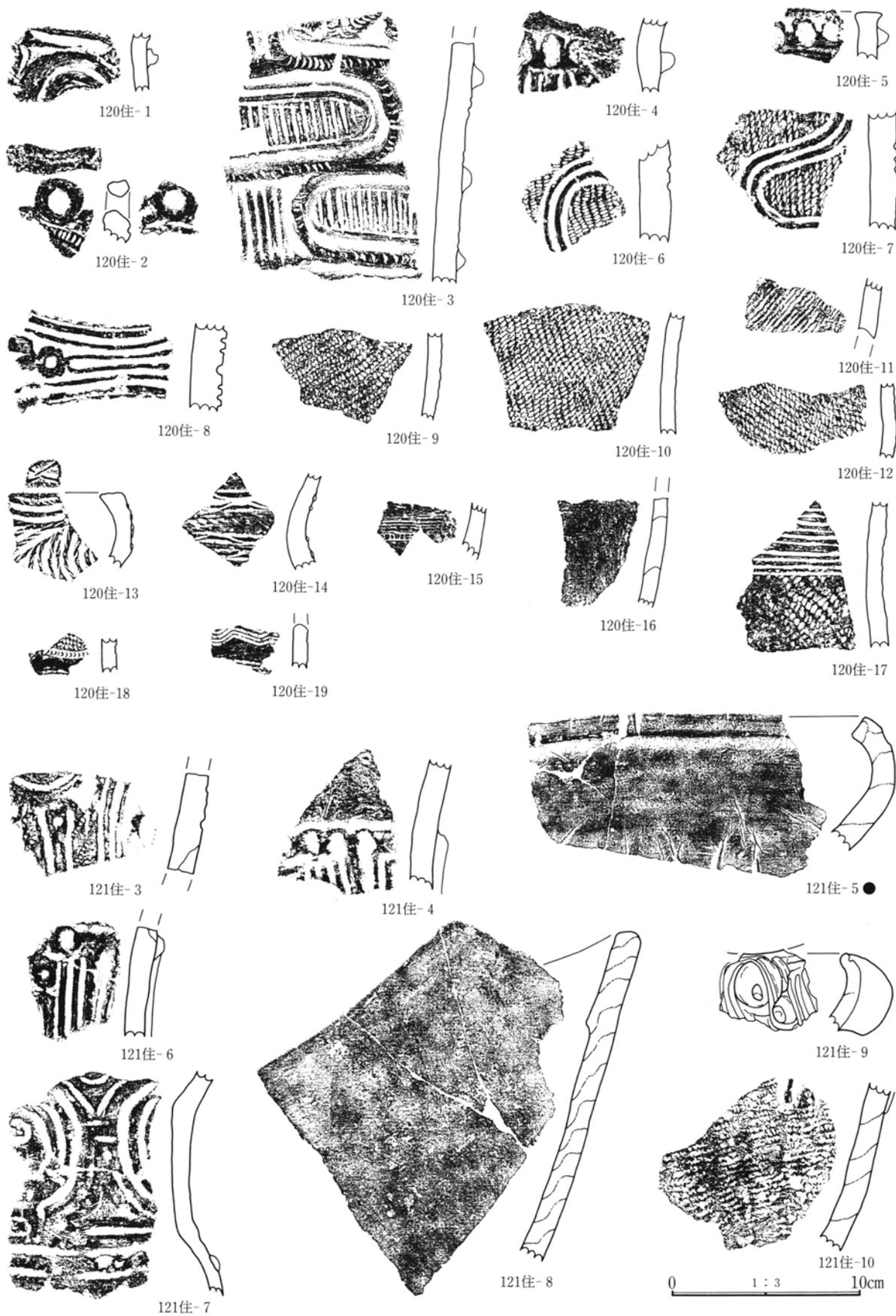
第121図 111・112・114号住居跡出土土器

1. 縄文時代



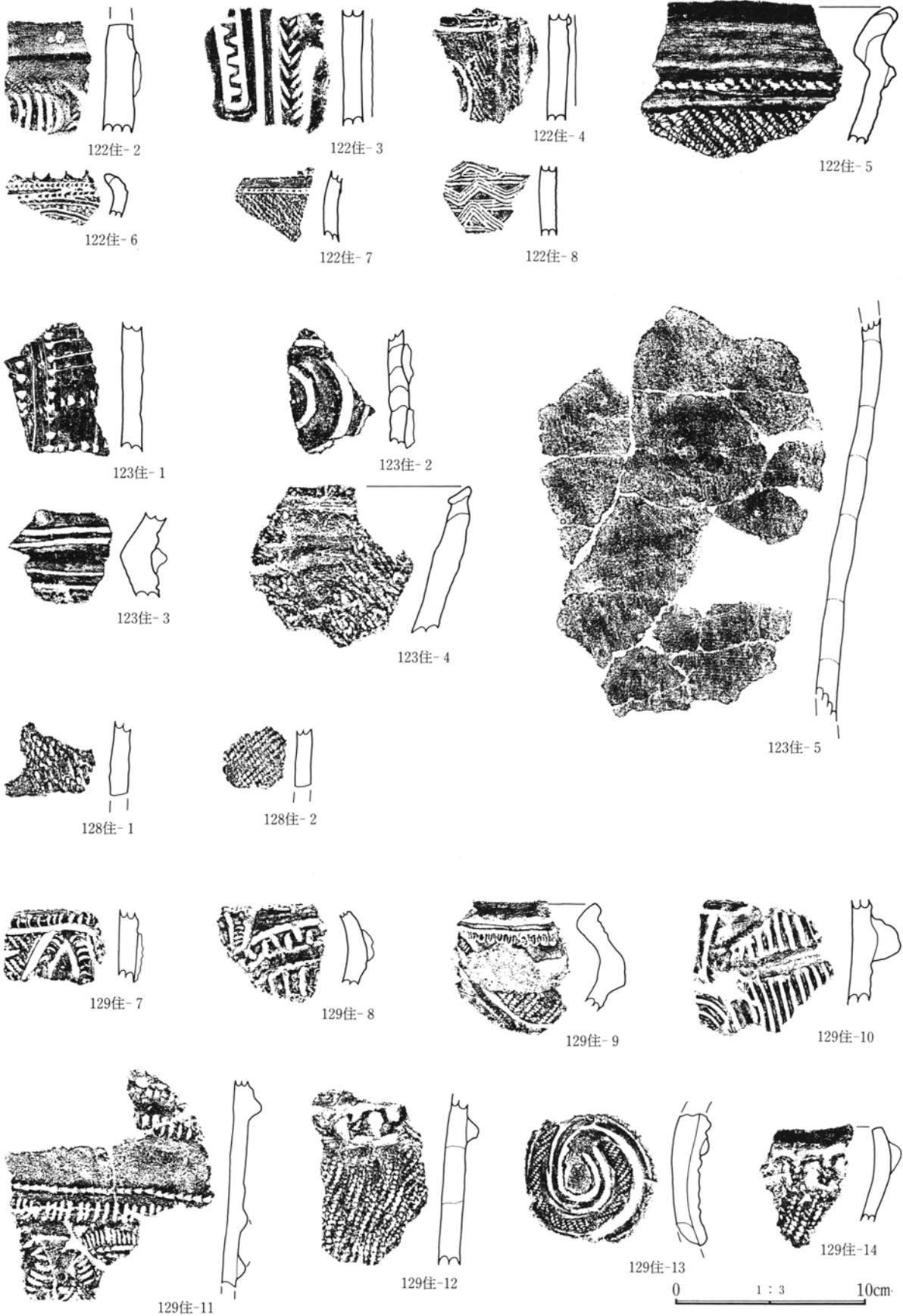
第122図 116・119号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物



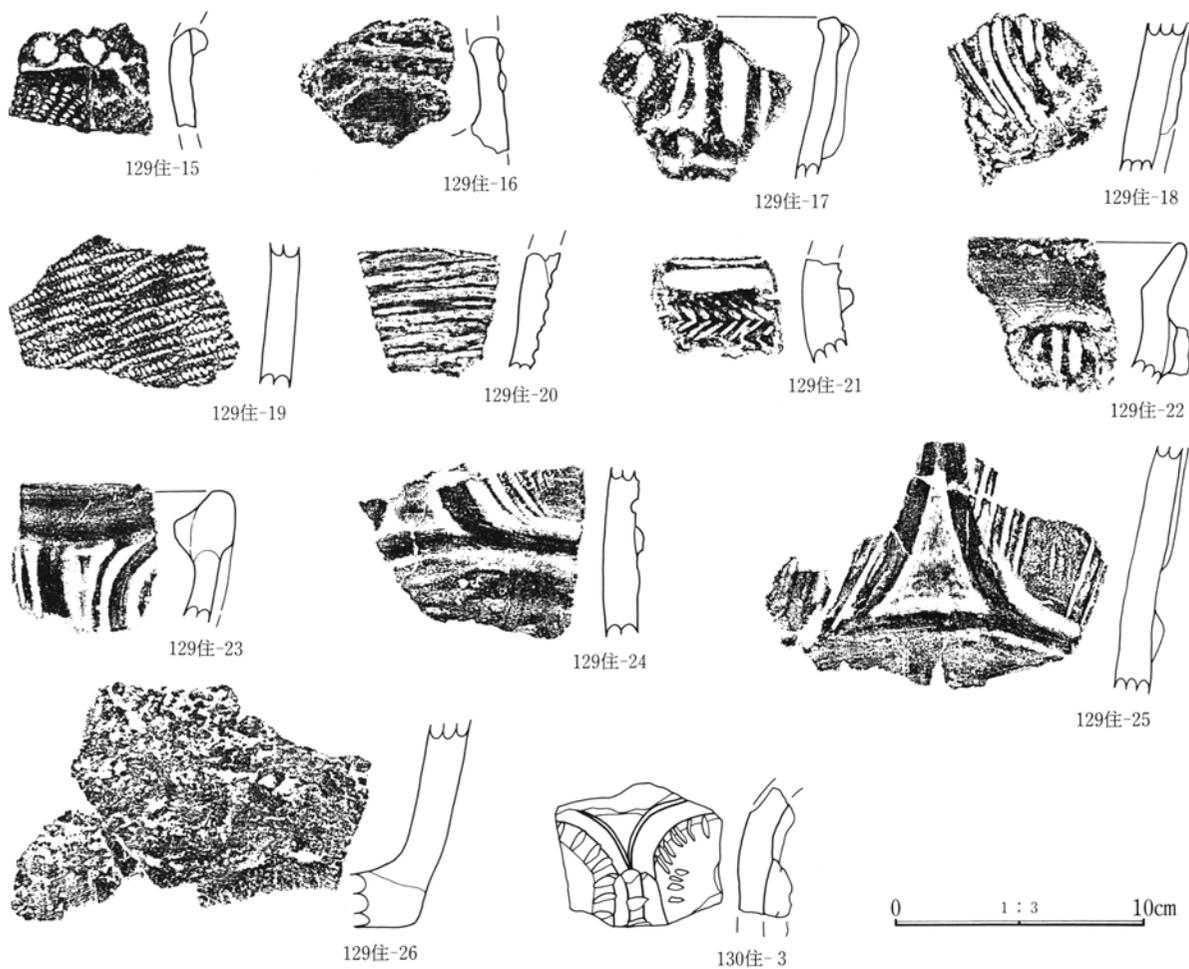
第123図 120・121号住居跡出土土器

1. 縄文時代



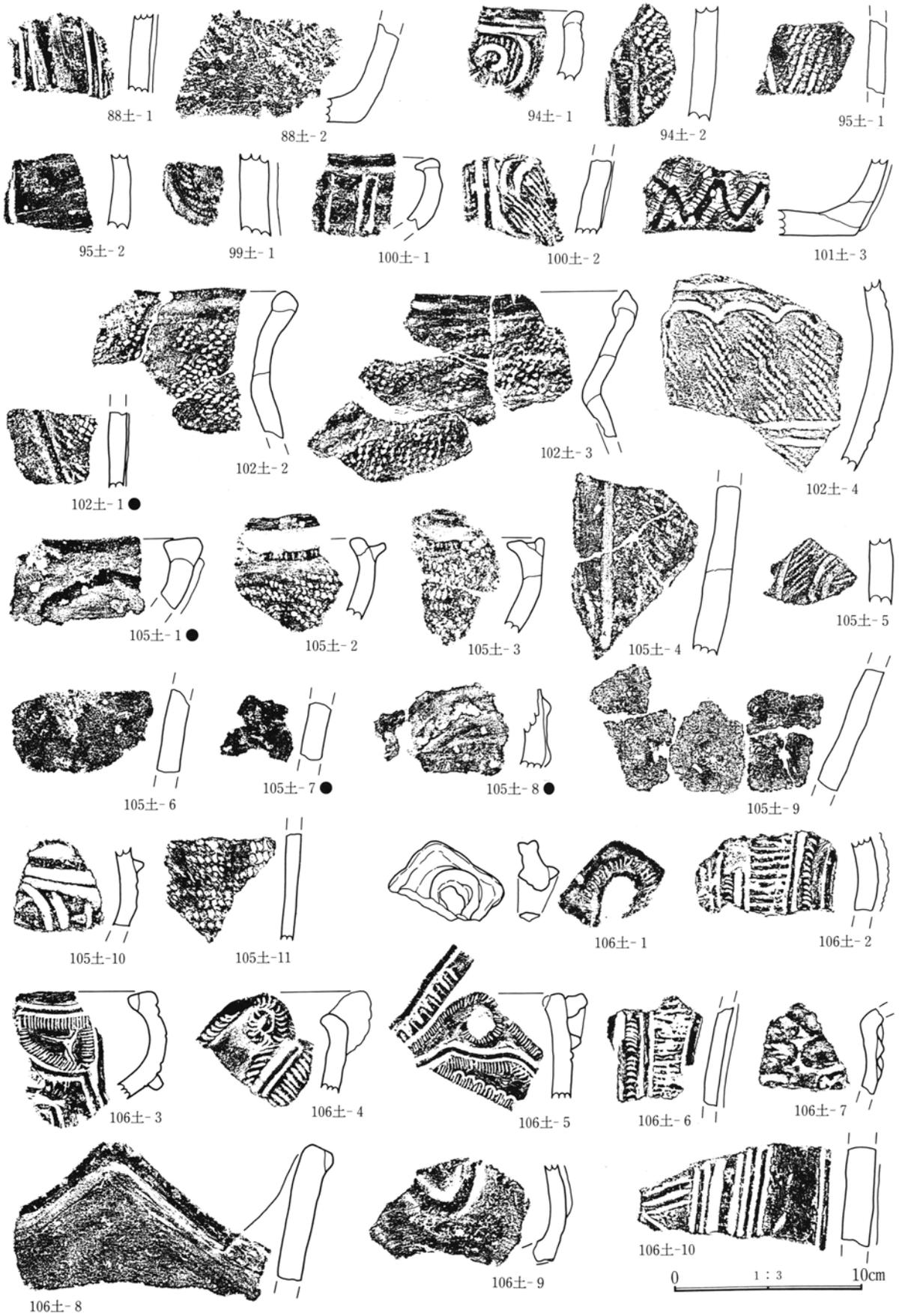
第124図 122・123・128・129号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物



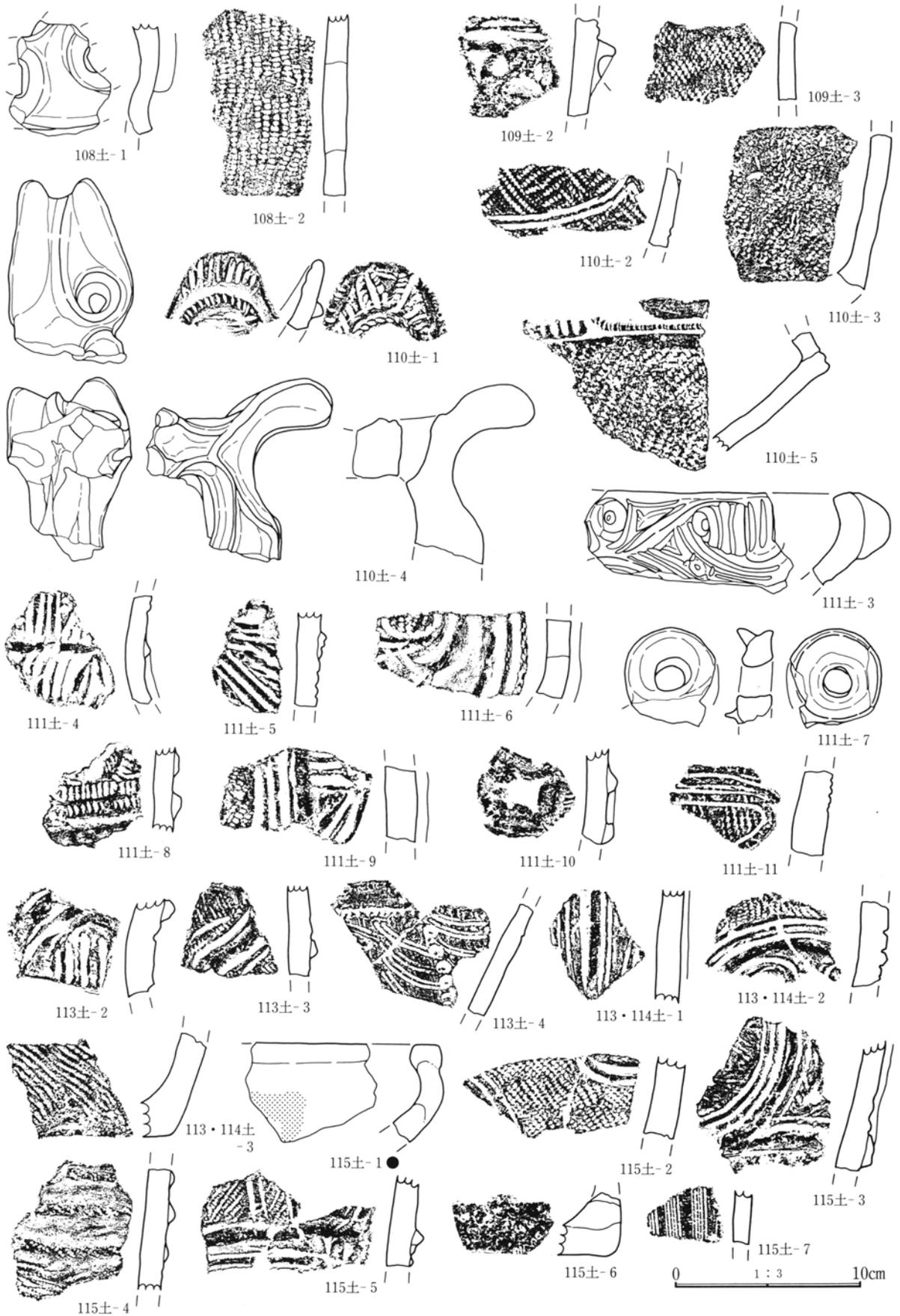
第125図 129・130号住居跡出土土器

1. 縄文時代

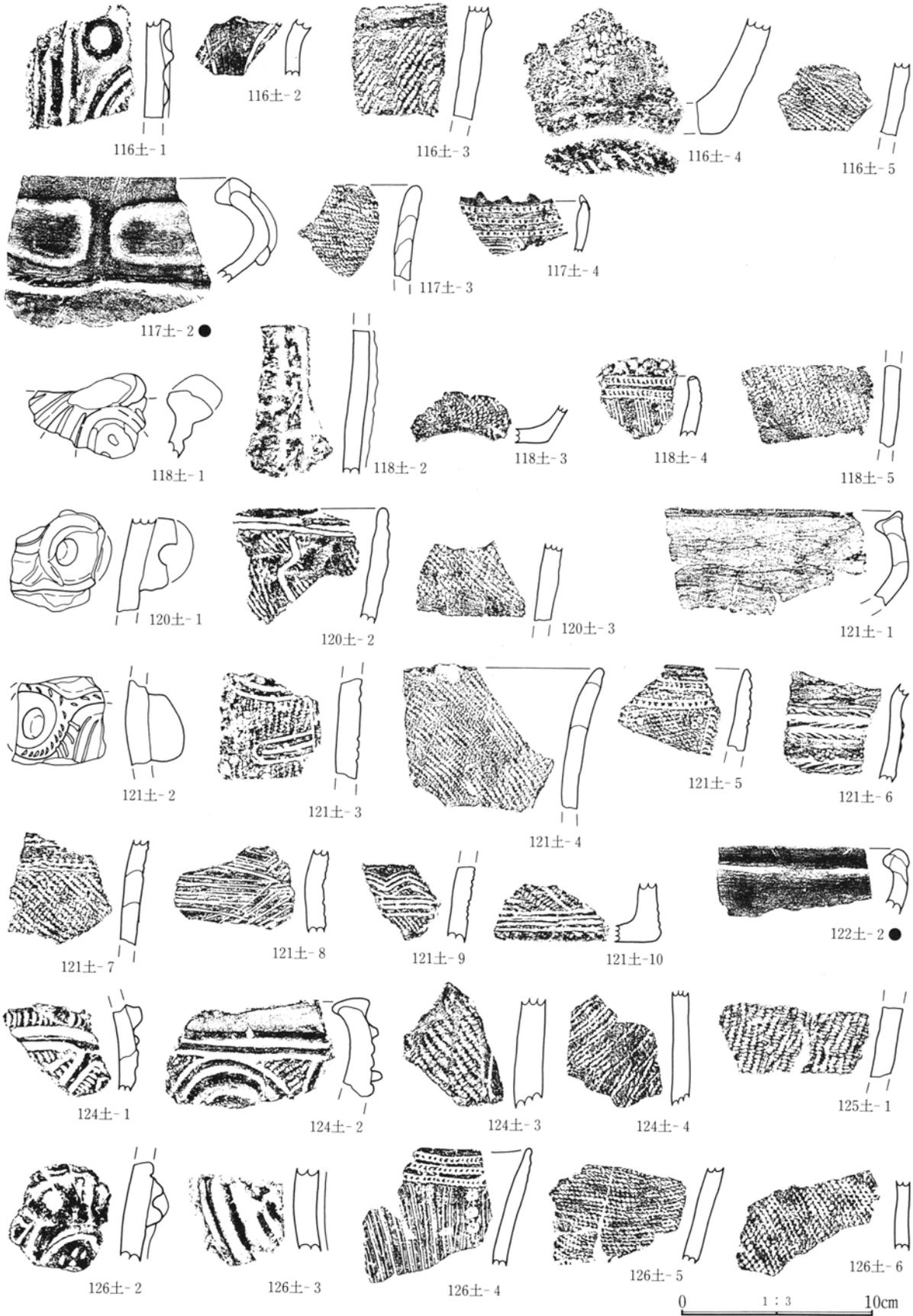


第126図 88・94・95・99~102・105・106号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物

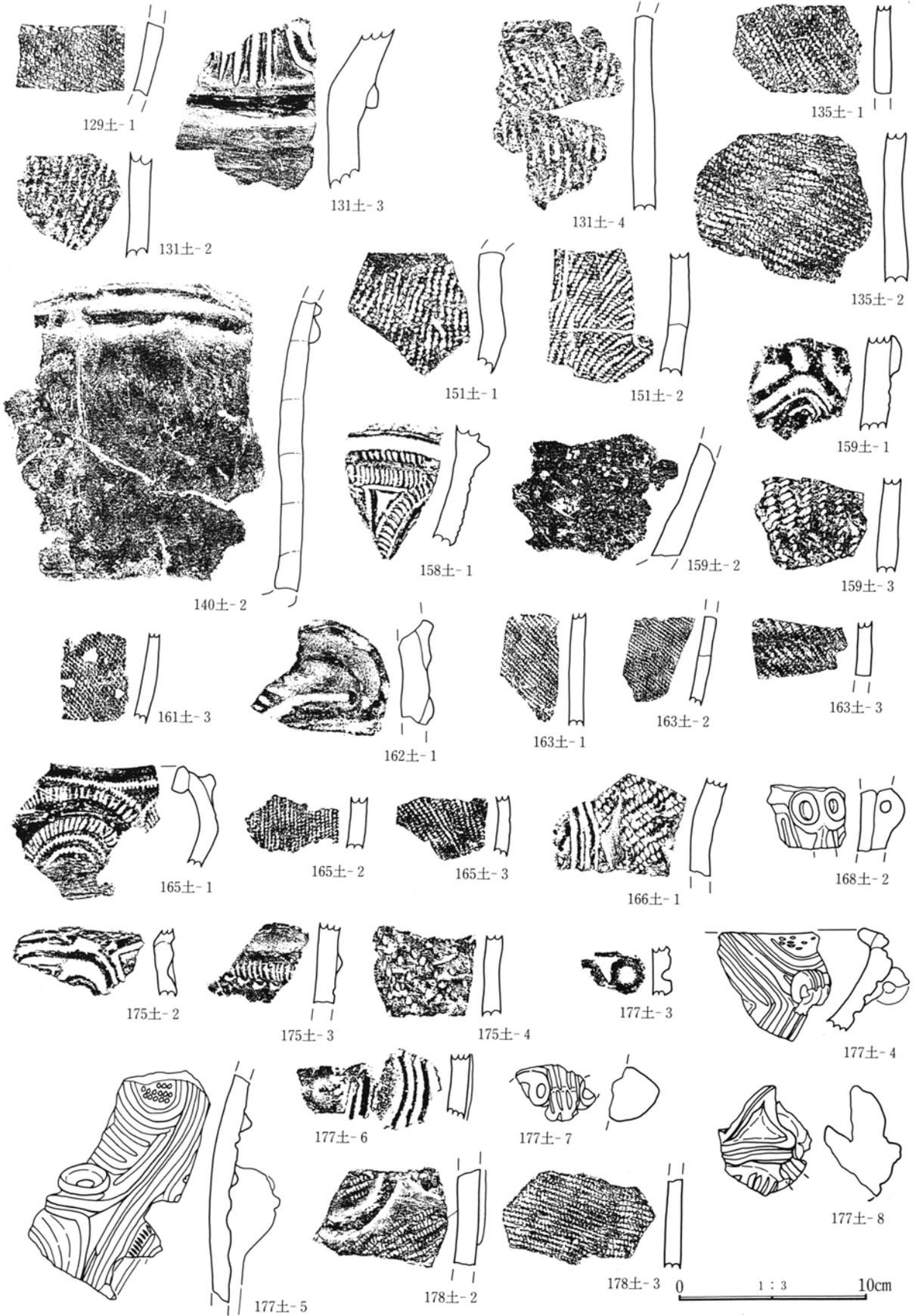


第127図 108~111・113~115号土坑出土土器



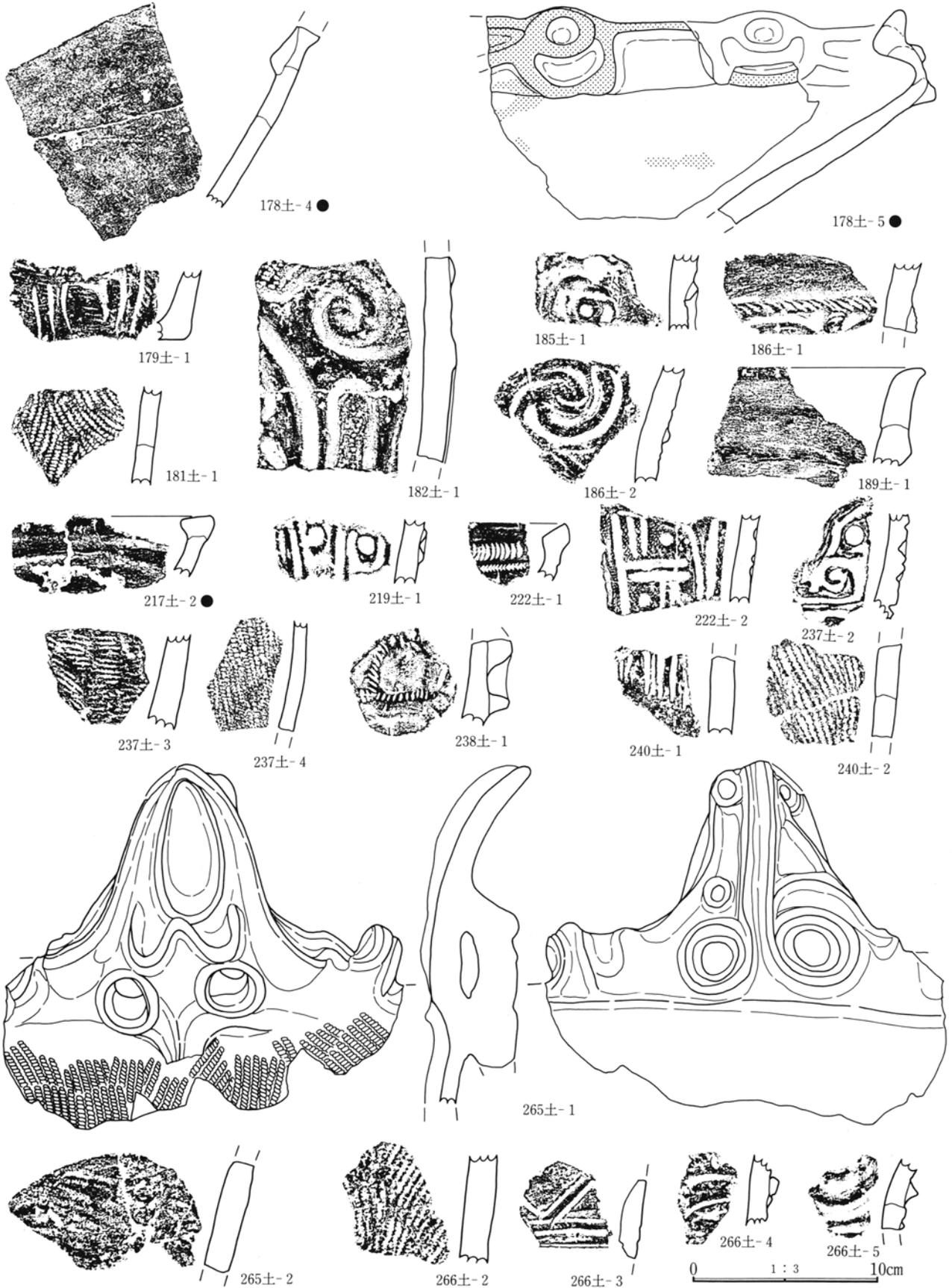
第128図 116~118・120~122・124~126号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物



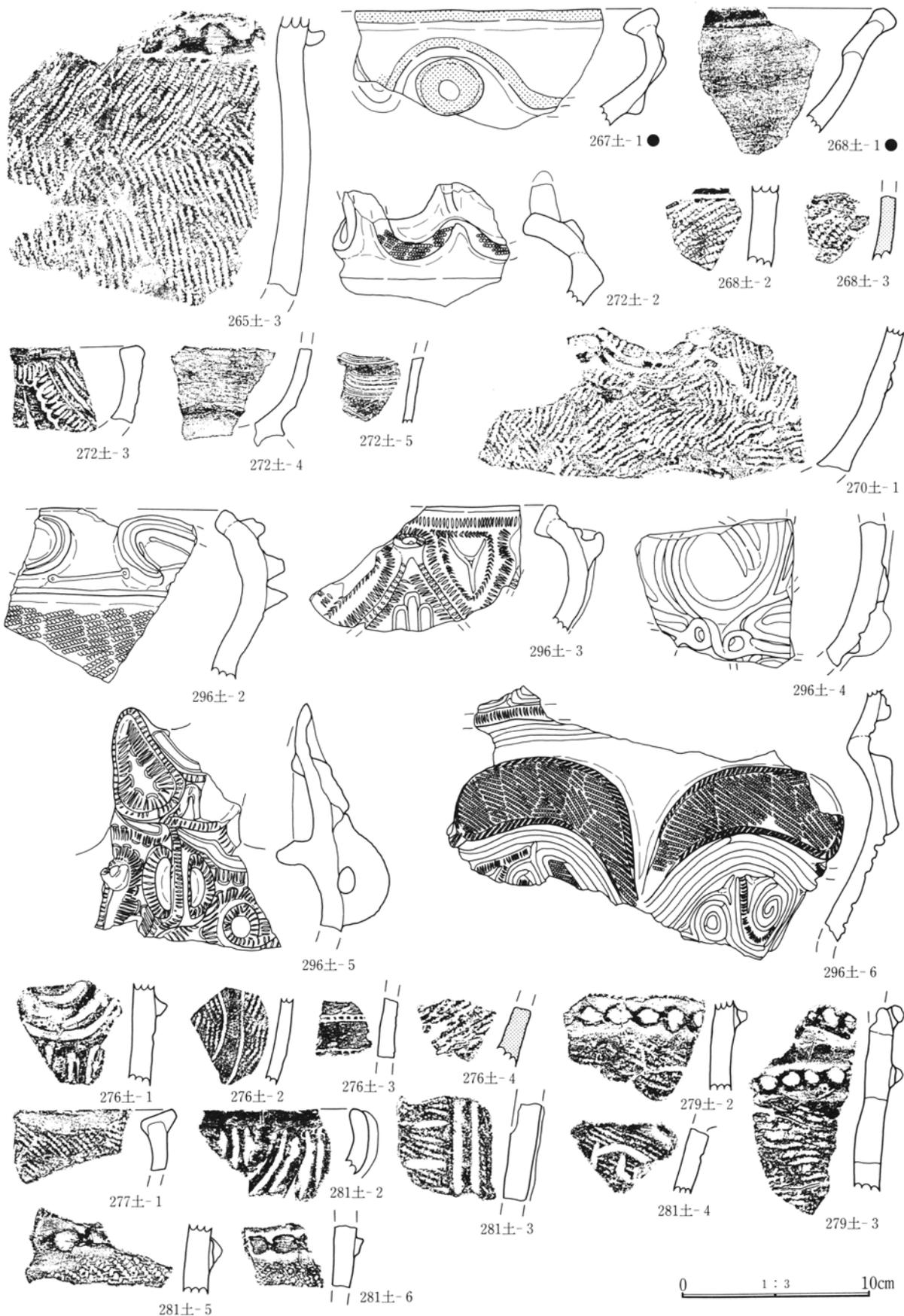
第129図 129・131・135・140・151・158・159・161~163・165・166・168・175・177・178号土坑出土土器

1. 繩文時代



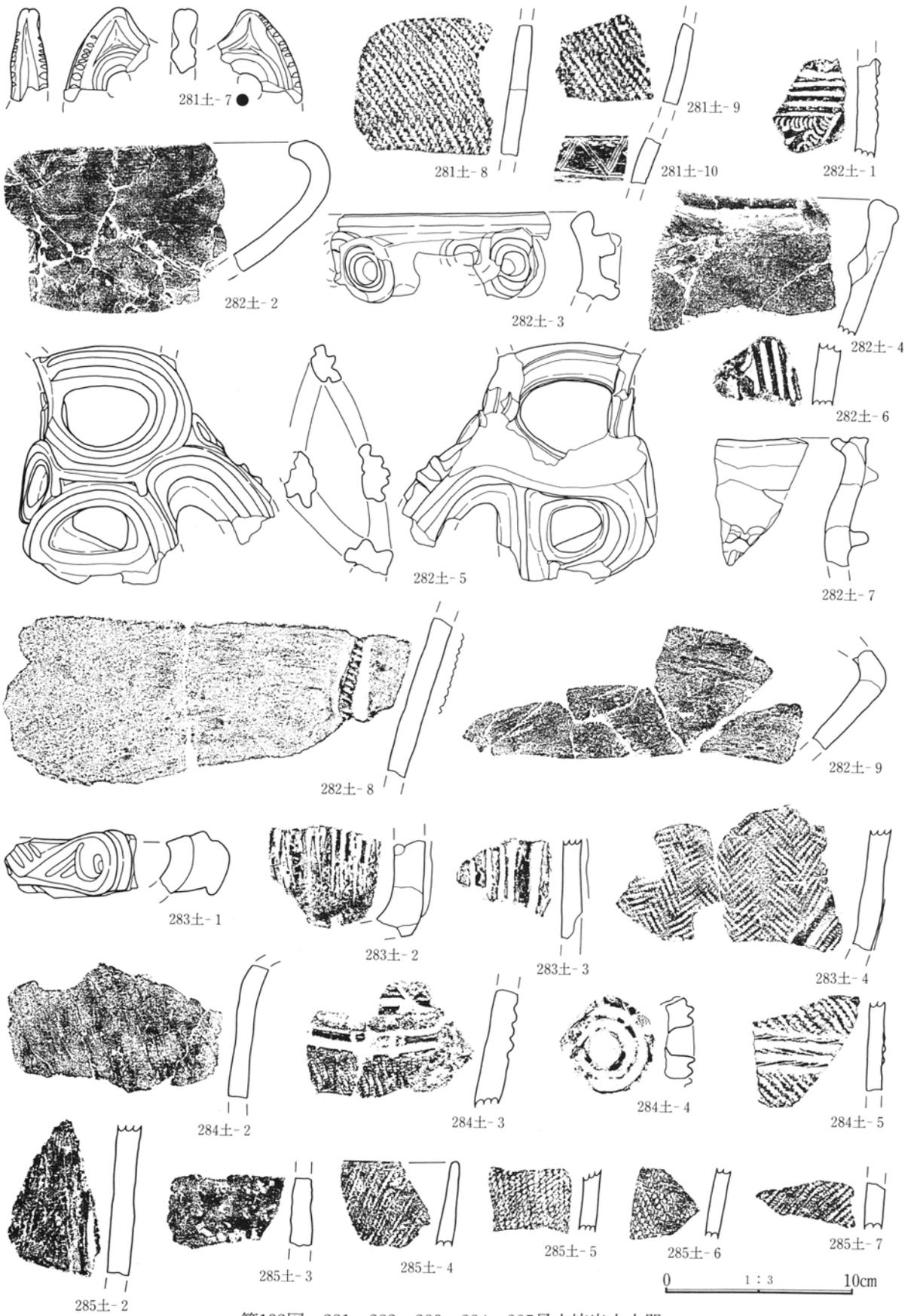
第130图 178·179·181·182·185·186·189·217·219·222·237·238·240·265·266号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物



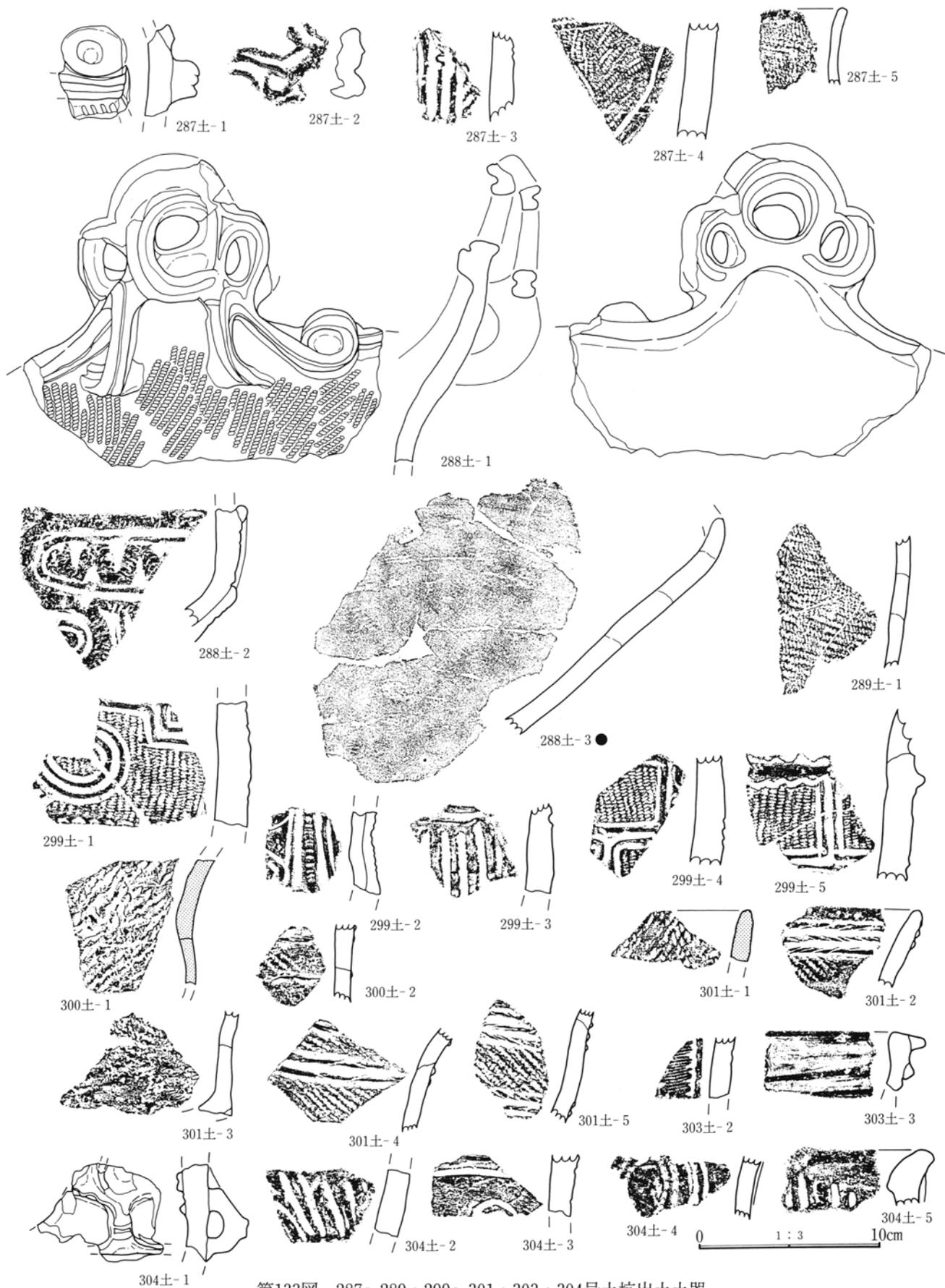
第131図 265・267・268・270・272・276・277・279・281・296号土坑出土土器

1. 縄文時代



第132図 281・282・283・284・285号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物



第133図 287~289・299~301・303・304号土坑出土土器